# 2016年度 点検評価改善報告書 [教育研究活動報告]



西南女学院大学 西南女学院大学短期大学部 大 学



# 看 護 学 科

氏名 伊藤直子 職名 教授	学位 学士(社会学)(佛教大学 1996年)
---------------	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護の介護保険の地域包括ケア

#### 研 宪 課 題

行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程 実習での教育方法を検討する。

地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

#### 担 当 授 業 科 目

公衆衛生看護学概論(前期)必修 16/22 コマ

疫学演習(後期)選択 15/15

健康危機管理論(後期)必修 8/8

公衆衛生看護管理演習(後期)選択 15/15

公衆衛生看護学実習(通年)選択

在宅看護学(前期) 1/15

看護総合演習(通年)15/15

看護総合実習(通年)

地域母子保健(前期)(助産別科)8/15

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】

「公衆衛生看護学概論」では、受講動機における関心が低い状況が続いている。授業では学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、関心を持ち、思考判断できるよう授業内容および教授方法の工夫を行っている。授業内容では、生活や保健行動に結びつけた事例を可能な限り活用し、理論の理解を進めた。毎時の授業コメントから学生の理解状況を判断し、次の授業で補足及び修正を図っている。

結果、公衆衛生看護への学習への関心が高まり、保健師課程選択への動機づけにもつながっている。

#### 授業科目名 【 疫学演習 】

「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。 疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予 習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。

授業展開について、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に 努めている。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。

#### 授業科目名【 健康危機管理論 】

「健康危機管論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。

教材については、災害が多い昨今では、学生も身近に遭遇することを意識できるよう、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げている。また、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントから昨今の日本における災害および感染症事例の関心が高く、受講開始は市民感覚としての意見から終了時点では看護師としての使命や責任についてのコメントが数多くみられ、学生自身も学修の意義や成果を実感している。

#### 授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

「公衆衛生看護学実習」は、2016年度保健師選択学生の実習として、2回目を迎えた。2015年度実習現場をつなぐ教員の教育力による違いが見られたため、今年度は十分な検討と連携を深め実習に臨んだ。結果、学生個々の学修状況の違いに即応した実習対応が可能となり、全員の学生が到達レベルに達成することができた。

また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験の自己採点状況から保健師選択学生の学修成果は評価できる。

#### 授業科目名【 看護総合演習 】【 看護総合実習 】

「看護総合演習」「看護総合実習」は4年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長	1977年4月~現在に至る
	(1996年4月~1997年3月)	
	訪問看護委員会委員長	
	(1997年4月~1998年3月)	
	介護支援専門員支援委員会委員長	
	(1997年4月~2004年3月)	
	認定看護管理者研修委員会委員	
	(2001年4月~2006年3月)	
	介護保険関連委員会委員長	
	(2004年4月~2006年3月)	
	第 46 回日本看護学会一看護管理一学	
	術集会抄録選考委員(2014年3月~	
	2014年9月)	
	消費税対応検討委員会委員長	
	(2015年11月~2016年7月)	
日本公衆衛生学会		1979年4月~現在に至る
日本地域看護学会		1999年4月~現在に至る
日本在宅ケア学会		2000年9月~現在に至る
日本保健医療社会学会		2002年4月~現在に至る
日本病院管理学会		2002年9月~現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003年8月~現在に至る
日本看護教育学会		2003年2月~現在に至る

日本健康教育学会	2005年6月~現在に至る
日本看護研究学会	2008年4月~現在に至る
日本看護科学学会	2008年4月~現在に至る
日本臨床救急医学会	2011年8月~現在に至る

2016年度	研	 究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 保健師学生の職業的ア イデンティティに対す る卒業生保健師のソー シャルサポートの効果	共著	2016 年 3 月予定	第47回日本看護学会 論文集(看護教育)	①保健師課程学生の職業的アイデンティティ形成への支援として、多領域での保健師経験を有する卒業生保健師をソーシャルサポート源として位置づけて交流会を開催した。交流会の前後での学生の職業的アイデンティティの変化を明らかにし、卒業生のソーシャルサポートが学生の職業的アイデンティティ形成に及ぼす効果を考察した。②布花原明子・鹿毛美香・佐藤優・伊藤直子・平島美也子・亟々美香 ③第47回日本看護学会論文集(看護教育)
(翻訳)				
(学会発表) 女子大学における保健 師課程学生のキャリア 形成と卒業生保健師の 支援	共同	2016年10月	第75回日本公衆衛生学会総会(大阪市)	①保健師課程を履修する女子大学生と卒業生保健師との交流会を実施し、学生のキャリア形成と卒業生保健師のキャリア支援の内容を明らかにする目的で実施した。結果、学生は保健師という職業を解釈し、関係職種との比較や将来の人生を描くことで、職業キャリアを模索していた。仲間として存在する卒業生保健師は、相談スキルを適用し、情報提供やキャリアモデルとして機能していると考えられる。②共同者名:亟々美香、布花原明子、鹿毛美香、佐藤優、伊藤直子③日本公衆衛生雑誌第63巻第10号(p597)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)				
(1) 共 同 研	究			
研 究 題 目 交付団体	<ul><li>研究者</li><li>交付決定額</li><li>○代表者()内は学外者</li><li>(単位:円)</li></ul>			
「汎用的技能」獲得のための学修支援体制構築 に関する取組 数育の質向上支 援経費	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 篠木賢一 橋本久美子 岸名英海 小川尚 伊藤直子 八尋春海 伊東幸雄			

外部資金	(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(c)
	(2)	個 人 码	开 究	
研 究 題	Ш	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称	Z.H. 1045 & 5-5-	任 期
(内 容)	役職名等	期間等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月~現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月~現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月~現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事	2013年7月~現在に至る
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計	委員	2005 年 4 月~現在に至る
画策定協議会		
粕屋町地域包括支援センター・地域密着	委員	2007 年 4 月~現在に至る
型介護サービス運営協議会		
北九州市高齢者支援と介護の質の向上	構成員	2012 年 4 月~現在に至る
推進会議調整会議		
北九州市高齢者支援と介護の質の向上	代表	2013 年 4 月~現在に至る
介護予防・高齢者活躍推進に関する会議		
北九州市健康づくり推進プランの推進	構成員	2014年2月~現在に至る
にかかる意見交換会		
北九州市認知症施策推進会議(北九州市	構成員	2013 年 4 月~現在に至る
オレンジ会議)		
全国保健師教育機関協議会	社員	2015年4月~現在に至る

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

学校法人西南女学院評議員2005 年 4 月 ~ 現在に至る西南女学院大学教務部長2013 年 4 月 ~ 現在に至る

- 教務委員会 委員長
- ・教務人間科学小委員会 委員
- 教職課程委員会 委員
- · 教員免許状更新講習会 委員
- ·大学点検評価改善会議 FD 部門 部門長
- ・教育の質保証プロジェクト会議 代表
- ・教学マネジメント検討会 構成員
- ・3 部門会議(教務部・学生部・入試部) 構成員
- · 教学 I R推進室 構成員

西南女学院大学認定看護師教育課程 教員会 2013年4月~現在に至る

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学  免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種 抗体

#### 研 宪 課 題

・ 北九州地方の若年成人女性を対象に出生年毎のジフテリア、百日咳、破傷風の血清疫学調査を行ない その抗体保有状況について分析し考察する。

# 担 当 授 業 科 目

感染と免疫(前期)(看護)

生活と環境(前期)(看護)

生活と環境(前期)(福祉)

生活と環境(前期)(栄養)

生物と生命科学(前期)(英語)

生物と生命科学(前期)(観光文化)

生物と生命科学(後期)(看護)

生物と生命科学(後期)(福祉)

微生物学(後期)(福祉)

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【感染と免疫:看護】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科のAP、CP、DPをパワーポイントおよび印刷物を用い詳細に説明した。
- 学習理解度を深めるために学生同士で意見交換をおこなう場を設けた。
- ・ 講義8回が終了した時点で、国家試験レベルのミニテストを実施した。今年度は講評のみならず正答を導くまでのプロセスを含めパワーポイントを使い詳しく解説した。
- ・ レポート課題については、評価項目と点数配分を明確に示すと同時に、評価が低いレポート、評価が高い レポートの例をだし記載方法を詳しく説明した。
- ・ レポート作成に複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的に するよう促した。

#### 授業科目名【生活と環境:看護・福祉・栄養】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科毎のAP、CP、DPをそれぞれパワーポイントおよび印刷物を用い詳細に説明した。
- ・ 国際会議での環境問題に関する指針など最新の情報・動向を講義のなかにとりいれた。
- ・ レポート課題については、グループディスカッションの後、レポート提出という二段階性をとっている。 今年度は、レポートの評価項目のみならずグループディスカッションの評価項目を明確に提示することで 学習準備を促した。
- ・ レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・データベース検索を 積極的にするよう促した。

#### 授業科目名【生物と生命科学:英語・観光文化】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科毎のAP、CP、DPをそれぞれパワーポイントおよび印刷物を用い詳細に説明した。
- ・ 本科目は理科系科目であるため、学生には興味関心をもってもらうことを一番とした。講義では身近な生活のなかで気づく「体のしくみと異常(疾患)」に焦点をあて、事象をだしながら講義を行なった。
- ・ 受講生が 1~4 年生ということから学年間に差がでないよう、わかりやすい言葉・表現を用い説明するよう心がけた。
- ・ 講義内容が理解できているかどうかを確認するため講義途中で学生に質問する、質問を受けるなどの機会 を作った。
- ・ レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的に するよう促した。

#### 授業科目名【生物と生命科学:看護】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科のAP、CP、DPをそれぞれパワーポイントおよび印刷物を用い詳細に説明した。
- ・ スタート地点で学生の学習状況に差が認められることから、講義内容は高校の生物基礎レベルから始め、 看護国家試験レベルまでを意識し講義内容を組み立てた。
- ・ 内容の理解に思考を必要とするものは、説明後に学生同士で意見交換させた。さらに、ミニテストをかして復習、それをレポートとして提出させ、正答を導くまで繰り返し自己努力するよう促した。
- ・ 今年度は、上記のミニテスト・レポートについて講評のみならず正答を導くまでのプロセスを含めパワーポイントを使い詳しく解説した。
- ・ レポート作成に複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的に するよう促した。

#### 授業科目名【生物と生命科学:福祉】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科のAP、CP、DPをそれぞれパワーポイントおよび印刷物を用い詳細に説明した。
- ・ 講義は高校の基礎レベルからはじめ、身近な生活のなかで気づく「体のしくみと異常(疾患)」に焦点をあて、事象をだしながら講義を行なった。
- ・ 講義内容が理解できているかどうかを確認するため講義途中で学生に質問をする、質問を受けるなどの機 会を作った。
- ・ レポート課題については、グループディスカッションの後、レポートを提出させた。今年度は、レポートの 評価項目のみならずグループディスカッションの評価項目を明確に提示し学習準備を促した。
- ・ レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的にするよう促した。

# 授業科目名【微生物学:福祉】

- ・ 例年、科目概要とカリキュラムの位置づけを1回目の講義で説明するが、今年度はそれに加え、学科のAP、 CP、DP をそれぞれパワーポイントおよび印刷物を使い詳細に説明した。
- ・ 受講生の多くは養護教諭を目指している。教職採用試験および学校現場に必要な講義内容を意識し内容を 組み立てた。法律改正など最新の情報を提供するよう心がけた。
- ・ 福祉学科1年生にとり、かなりハードルが高い科目である。今年は、講義の進め方を学生に選択させるなど工夫した。例えば、教科書とパワーポイントを使った講義説明、どちらを優先する方が理解しやすいかなど。
- ・ 講義中に質問をし、個人や全員の反応から理解度を把握した。理解度の悪い内容は、繰り返し説明した。
- ・ レポート作成に複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を活用し図書・文献検索を積極的に するよう促した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本細菌学会		1987年4月~現在に至る
日本感染症学会		1996 年 4 月~現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月~現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月~現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	<del></del>	 究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概    要
(著書) 1. 病原体・感染・免疫 改訂 3 版	共	2017. 3	南山堂	<ol> <li>医療系の学生および医療従事者を対象に、病原体、感染および免疫を学ぶ教科書・参考書として企画したものである。3版では最新の状況を反映させるべく内容、図表、法律などの更新、追加、修正などを行なった。</li> <li>監修者名 藤本秀士 共著者名 <u>目野郁子</u> 小島夫美子</li> <li>担当部分 第4章 感染症の予防と感染制 御対策・技術 (pp. 91-128) 総頁数 394p.</li> <li>番5 判</li> </ol>
(学術論文) 1. 北九州地方における 看護学生(1994~2011 年 入学)を対象とした百日 咳、ジフテリア、破傷風 の血清疫学調査.	共	2016. 7	感染症学雑誌 Vol. 90	① 1994~2011年に入学したS 大学の女子看護学生 1,540 人を対象に百日咳、ジフテ リア、破傷風の血清疫学調 査を実施した。 その結果、 ジフテリアと破傷風抗毒素 抗体陽性率はともに高く、 幾何平均抗体価(GMT)も発 症阻止レベルであった。一 方、百日咳抗毒素抗体陽性 率と GMT は低く看護学生に 百日咳感受性者が多いこと が示された。 ② 共同発表者名 山口優子, 諸熊一則, <u>目野郁子</u> , 岡田賢司, 宮崎千明,

2 0 1 6 年度	研 研	究 業	績	等	12	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は発表の年		行所、				概		要
								直田浩〒 . 473−4′		
(翻訳) なし (学会発表)										
なし							総数 (201 著書 学術記 報告記	1 倫文 1 小 0	2017. 3. (内訳 i (内訳 i (内訳 i	31日現在) 単 0 共 1) 単 0 共 1) 単 0 共 0) 単 0 共 0)

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(1)	共	同	研	究			
	研	究	題	目		交付	寸団体		研 究 : O代表者 ( ) 学外者		交付決策 (単位:	
なし												

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考	
なし												

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 (内	の名称 容)			役	職名	等			任期	間	期等	
<ul><li>・小郡市保育協会の保育 65名を対象に 「乳幼児の感染症とそ て」というテーマで講 なう。</li></ul>	の予防に	こつい						2016 年	≅8月6日			

・ 京築保育協会の保育士および看護	2016年10月29日
師 77 名を対象に	
「冬期感染症について」というテーマ	
で講演・研修を行なう。	

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

- ・ 研究紀要委員会委員 2016年4月1日~ 現在に至る
- ・ 倫理審査委員会委員 2016年4月1日~ 現在に至る
- ・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日~ 現在に至る
- ・情報システム管理運用委員会委員 2016年4月1日~ 現在に至る
- ・ 学科カリキュラム検討委員 2016年4月1日~ 現在に至る
- ・ 学科研究推進委員 2016年4月1日~ 現在に至る 学科内研修会・講演会を2回企画し開催する。
- ・ 保健福祉学部研究所研究企画アドバイザー 2003年4月1日~ 現在に至る
- ・ 公的研究費内部監査部門担当者 2017年2月~ 現在に至る
- ・ 学生の健康支援

保健福祉学部、人文学部、短期大学部(生活創造学科)および助産別科の各1年生を対象に、毎年学科毎に ワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない(予防接種手帳配布・抗体検査結果配布)、 予防接種が必要な学生に接種勧奨を行なう(2011年~現在に到る)。2016年5月~2016年12月,6回実施

- ・ 保健福祉学部福祉学科 2 年生を対象に実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。 2016 年 12 月 6 日,講義 1 回
- ・ 看護学科2年生を対象に模擬試験後の学習支援を行なう。 2016年5月~7月,講義7回
- ・ 看護学科4年生を対象に国家試験対策を行なう 2017年1月,講義3回

氏名 小田日出子 職名 教授	学位 修士(法律学)(九州国際大学 1998年)
----------------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学,基礎看護技術	下肢温熱刺激法
初年次教育	社会人基礎力育成,潜在的カリキュラム

#### 研 宪 課 題

安全・安楽な下肢温熱刺激法(足浴)を探求する準実験研究

看護技術教育に関する研究

初年次教育-大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

# 担 当 授 業 科 目

基礎学習ゼミⅠ (1年前期),基礎学習ゼミⅡ (1年後期)

看護技術論 (→早期看護実習のみ) (1年前期)

生活援助技術論(1年後期)

ヘルスアセスメント (1年後期)

診療関連技術論 (→「吸引」実技試験の実技試験監督及び評価) (2年前期)

看護過程論(2年前期)

基礎看護学実習 I (1 年後期),基礎看護学実習 II (2 年前期)

看護総合演習(4年前期・後期)

看護総合実習(4年前期)

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 】

基礎学習ゼミに係る教員間の共通認識,学修支援の方向性として,基礎学習ゼミⅠ・Ⅱのねらいは,以下 1 ~6 にある.

- 1. 主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)を強化・鍛錬
- 2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力)の育成・強化
- 3. グループ活動を通しての、学生自身の在り方や行動の振り返り
- 4. 他者と良い関係を築くうえで必要とされる行動変容への促し
- 5. 大学での学習・生活スタイルの確立
- 6. 問題解決を図る適切な手段・方法の発見と導き出しへの支援

#### ◆ 基礎学習ゼミ I (1年前期) について

- ・1 年次生 102 名(→後期, 休学者 1 名あり 101 名に減)を対象に、教員 10 名が学生 10~11 名をゼミナール形式で担当. アカデミックスキルの習得に向けた講義及び学生の主体性・主張力を強化・育成するためのグループ討議を基本に、授業を展開した.
- ・授業8回のうち4回を①蔵書検索,データベース及びインターネットによる文献検索方法,②論証型レポートの書き方・まとめ方,③課題学習のためのオリエンテーション,④身近なメディアと情報倫理に関する講義の時間とし、残り4回をグループ討議の時間とした.
- ・昨年度までと異なり、今年度より実習準備の関係から助産別科学生の参加・協力を得ることが困難となった. 基礎学習ゼミ担当者間で企画の見直しを行った結果、学生に提示するレポートテーマは、女子学生が興味・ 関心を持ちそうな今日的なテーマを5つ選定、そのうちの一つについて論証型レポートを作成することを課

題とすることを決定した.

- ・授業の2回目に、事前に準備した5つのレポートテーマを学生に提示し、ゼミグループ毎にそのうちの1つをグループのテーマとして選択させ、グループ活動を通して、課題への理解を深めるとともに、論証型レポート作成に至る過程を協同学習として学ばせた。さらに、学生個々に対しては、グループで選択したテーマについての論証型レポートを作成・提出することを最終課題とし、提出されたレポートについては、学生個人の学習成果物として、その評価対象とした。
- ・基礎学習ゼミ I の成績評価は、授業貢献度 (40%)、課題成果 (60%) による総合評価としたが、今年度、 秀 16 名、優 78 名、良 8 名、可 0 名、平均 86.3 点の結果であった.

# **◆基礎学習ゼミⅡ** (1年後期) について

- ・前期の学びを実践に活かす、また、社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力)の育成・強化を図る機会として、昨年同様、1年生によるディベート・マッチを企画・実施した. 但し、ディベート・マッチのテーマ、及び定義は教員側で準備し、第1回授業時に提示した.
- ・ゼミグループの学生を 5~6 名ずつ「肯定派」と「否定派」の 2 グループに分け、授業は、試合準備のためのグループ学習を中心に進めた。
- ・昨年度ドリームマッチで対戦した学生(2 年生)の協力により、第1回目の授業で、ディベートの実際をデモンストレーションすることができ、1年生に、よりリアルなディベート・マッチの流れと各パート(立論・質問・反論・総括)の要点を理解させることができた。DVDを使用した昨年度よりも効果的であった。
- ・ディベートに必要な基礎知識(ディベートとは、ディベートの4つの構成要素、試合の流れ、審判及び判定 基準など)は、①全体講義、及び②看護学科LMS(Kaname. net)を活用した反転授業により教授した.
- ・メリット・ディメリットの検討, 論拠を明示するための調べ学習, 立論・質問・反論の組み立て, メンバー間での役割決め, 総括の方向性の確認など, いずれの場面も学生は主体的に行動し, 調べ学習後の情報提供, 意見交換など, 殆どの学生がグループワークに積極的・意欲的に参加していた.
- ・授業8回のうち後半2回をディベート・マッチの時間とし、試合は、対戦相手を変えて2回行った。そうすることで、①第3者(審判)の評価をもとに試合内容を客観的に振り返る機会とする、②次の試合に向けて、論旨・論拠の修正・補強に努め、論理構成力を高める、などの効果をねらった。また、学生には、昨年同様、自身の試合をスマホでビデオ撮影するよう指示し、グループでの振り返りの際に利用した。授業最終日には、聴衆の全員を審判として、「肯定派」「否定派」各ベストグループによるドリームマッチを行った。モデルを示したことで、クラス全員が相互に学び合う機会となっていた。
- ・基礎学習ゼミⅡの成績評価は、授業参加度(16%)、記録物(ポートフォリオ:24%)、学修成果(観点別評価 60%)による総合評価とした. 今年度は、秀 16 名、優 66 名、良 18 名、可 1 名、平均 83.1 点の結果であった.

以上,基礎学習ゼミ I・IIともにアクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型授業を中心に進めてきたが,前期から後期へと,いきいきと楽しげにディベート・マッチに取り組む学生たちの様子からは,1年間の学修成果として,初年次教育としての当該科目のねらいは,概ね達成できたと考えている.

#### 授業科目名【 看護技術論 (→早期看護実習のみ担当)】

- ・入学後間もない1年生を対象に、看護の "Early exposure" として看護技術論に位置づけられた2日間の早期看護実習について、非常勤助手1名とともに、JCHO九州病院で実習する学生53名を担当・引率した.
- ・当該実習の目的は、実際の医療現場に身を置くことで、病院という療養の場の理解、"Shadowing"による看護師業務・役割の理解、病院が患者のためにあることの理解、及び看護学生としての自覚や学習意欲の向上を図ることにある。1 年生にとっては、初めての看護体験学習の場であり、例年、精神的緊張から体調不良を訴える学生も少なくない。科目責任者(梶原講師)による全体オリエンテーション後、施設別オリエンテーションでは学生が実習に肯定的なイメージを持てるよう、また、実習に対する興味・関心の強化に繋げられるよう、現場が具体的にイメージできるわかりやすい説明を心がけた。
- ・実習中、学生は1病棟に4~6名の配置となり、グループ行動をとる。実習前1週間、臨地実習を効果的に進めるためのチーム作りを兼ねて、学生の学習動機の高揚や主体的学習行動を促すために、実習グループでの課題学習に取り組ませ、メンバー間で討議する機会を設けた。事後の学習成果発表に向けても、担当した10グループについて、JCHO九州病院担当助手とともに、プレゼンにむけて、きめ細かな助言と指導を行った。後日設けた実習施設毎の成果発表の場では、3分間の持ち時間を効果的に使いながら、各実習配置病棟

の特徴や実習中の気づきについて、各グループが準備・作成したスライドを用いて要領よく発表できていた。但し、前期授業評価の自由記述の中に、「看護技術論」に位置づけた「早期看護実習」に関する記載は殆ど見られなかった。実習前に既習の看護技術(主にベッドメーキング、シーツ交換)の練習に積極的に取り組んだ様子は、多くの学生の記述から窺い知ることができたが、看護の"Early exposure"としての臨地での看護体験を、学生がどのように受け止めたかを推し量る記載はなく、「授業で学んだことが実際の現場で活用されている」様子や「看護をもっと学びたい」との思い、看護への「関心の深まり」など、学生の反応を具体的に捉えることはできなかった。

・今回、早期看護実習の意義や目的は達成できたのか、実際の臨床現場は学生の目にどう映ったのかを再度振り返り、今後の実習の在り方について考えてみたい。

#### 授業科目名【 看護過程論 】

- ・学生99名を対象に、講義・グループワークを組み合わせた授業を展開した。
- ・看護学科 LMS (kaname. net) を活用し、毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示、授業のイメージ化を図るとともに、講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら、学生の主体的学修を支援した.
- ・講義はグループワークの進度と連動させ、ワークの学習到達目標と照らして、適時、実施した、
- ・講義には視聴覚教材(パワーポイント, VTR等)を活用した. 講義資料をはじめ、使用する教材は全て事前に kaname. net に up し、授業中の資料配布は一切行わず、学生個々の責任で授業準備を整えるようにした.
- ・グループワークへの支援は、基礎看護学分野の教員 3 名と助手 3 名の計 6 名で行った。教員 1+助手 1 の 2 人体制で学生  $8\sim9$  名のグループを 4 グループずつ担当し、チューター役割を果たした。学習支援体制の充実を図るため、随時、教員間の情報交換を行い、指導の標準化に努めた。
- ・担当した 4 グループについては、意図的にグループ間でのディスカッションの機会を設け、意見交換を促した. グループ間で相互に刺激し合うことにより、学習へのモチベーションが高まり、最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループワークが展開できていた.
- ・グループワークの振り返りに観点別評価シートを用い、学生が自身の学習活動を客観視するとともに、目標 達成状況を確認できるようにした。ねらいは、シートの記載 →教員の助言 →助言を受けての修正を繰り返 すなかでの思考の深化にあったが、何度か繰り返すうちに惰性で取り組む学生もおり、期待したほどの成果 は得られなかった。次年度については、シート記載の時期と方法を見直す。
- ・グループ間での学習成果の共有を目的に、各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイで発表した。グループそれぞれに熱心かつ積極的に取り組み、根拠に基づく援助技術の実践がなされ、事後の質疑応答も活発であった。
- ・ 当該科目の達成度評価は, 筆記(50%), 個人学習/課題レポート(20%), グループワーク成果 (10%), 学習 貢献度(20%)による総合評価とした.

履修の結果,クラス平均は67.1点(最高87点,最低48点)と,昨年度よりも5.4ポイント低かった.評価 の内訳は、秀 0名、優 9名、良 30名、可 48名、不可 12名(うち 1名は休学による受験失格者)で、再試験該 当者 11 名に対しては, 筆記による再試験を実施, 結果は全員合格で, 学生 99 名中 98 名が当該科目の履修を修 了できた、休学者1名については、次年度再履修となる、この結果に対し、授業評価アンケートによる学生の 主観評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高める ことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学 ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野 について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を 身につけることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分なりの目標を達成した」 と肯定的意見が多かった. しかし、クラス全体の総合評価は昨年度を5.4ポイントも下回っており、主観評価 とは大きく乖離していることから、当該科目で「学生が達成すべき目標」を「十分達成できた」かについては、 疑問が残った.但し、授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が作られていた」「ロ頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機 会が作られていた」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」など,学生の主体的学修を促そう との教員側の意図は「概ね達成できた」ように思う. 学生の意欲関心という点においても、(kaname.net)の利 用者数が昨年度を大きく上回った点で評価できる.今後、授業準備のための予復習の内容、課題量、時間管理 等について,学生の意欲関心を維持・向上させられるような質・量の検討と改善が必要と考える.

看護師の思考の基盤となる「看護過程」の理解と「問題解決法」の修得にむけて、今後も、授業方法等、創 意工夫を図りながら、学生の主体的学修を支援していきたい.

#### 授業科目名【 生活援助技術論 】

- ・学生 102 名(→後期, 休学者 1 名あり 101 名に減)を対象に、昨年同様、生活援助技術のうちの「清潔」単元を担当、講義・演習合せて 10 コマ (20 時間) の授業を、講義、教員によるデモンストレーション、技術演習の一連の流れで実施した。
- ・看護の基本技術習得のための学生支援策として、授業中に行う教員デモンストレーションの他、自作看護技術手順書に基づく看護学科 LMS (Kaname. net) への教材 (DVD 等) 提示を積極的に進めた、学生にもその活用を奨励し、技術習得に向けた自主学修の強化を図った。
- ・授業後は、知識の整理と蓄積を目的にポートフォリオの作成を促した。また、一定期間を置いた後の「おさらいテスト」(1)~(5)を準備し、ケア技術のエビデンスとなる知識の定着を図った。
- ・「清潔」ケア技術の演習は、総じて使用物品の数量の多さ、演習の場と時間確保の難しさ、さらには演習前日からの大掛かりな準備の必要と当日演習後の片付けの大変さを伴う。加えて、1技術項目をクラス全員で演習すること自体が困難であるため、「清潔」単元で取り上げる4技術項目を、クラス全体での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と、2クラスに分かれて行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて企画・実施した。2クラスに分けれる技術項目(全身清拭/足浴)については、物品準備等に要する時間と関係者の負担軽減を図り、クラス全体の技術習得度を高めるために、間をおかずに演習できるよう、当該科目とヘルスアセスメントとを組み合わせた時間割上の工夫を行った。
- ・生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験には、試験監督者として参加した。所定の「技 術評価表」に則り、担当学生の技術到達度を評価した。評価後は全体調整会議に加わり、評価の妥当性・公 平性を担保した。実技試験合格者は87(71)/101(100)名、合格率86.1(71.0)%、不合格者14(29)名のうち再 試験合格者14(29)名、再試験不合格者0(0)名と、前年度と比較して、全体的に技術到達度は高かった(※() 内は前年度の人数)。

筆記試験については、担当した清潔単元の問題(全体の4割分を作成・出題した. 最終的に、筆記(60%)、実技(25%)、演習課題/ポートフォリオ及び学習貢献度(15%)で総合評価したが、最終評価のクラス平均(SD)は75.1±8.8(73.8±9.1)点(最高90点,最低34点)、成績の内訳は、秀1名、優35名、良39名、可21名及び不可6名(うち1名は休学に伴う受験失格者)であった。再試験該当となった5名については、筆記(100点満点)の再試験を実施、5名全員が合格し、学生101名中100名が当該科目の履修を修了した。なお、休学中の学生1名は、退学(2017.3.31付)の意向を示している。

#### 授業科目名【 ヘルスアセスメント 】

- 1. 1年次後期,学生104名(再履修者2名含む.途中,休学者1名あり103名に減)を対象に、スクリーニング技術(バイタルサイン測定技術)から消化器系(腹部)、呼吸・循環器系、感覚器・神経系、筋・骨格系(運動)のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術及びアセスメント技術の習得を目標に、授業は、講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで展開した.
- 2. 1 単位 30 時間(2 コマ 8 回) に納めるには、かなりボリュームのある内容であり、加えて、バイタルサイン 測定技術は実技試験を行うため、学生にとってはハードな科目と言える.
- 3. 独自に作成した技術手順書をもとに、教員によるデモンストレーションの他、看護学科LMS(Kaname. net)を積極的に活用し、看護技術習得のための学生の自主学習を支援した.
- 4. 従来,技術演習は基礎看護学分野の助手3名を中心に行ってきた. 昨年度より,4年次の「看護総合演習」とリンクさせ,10~11月の時期に限り,ゼミ担当学生6~7名に学修支援者として演習時の技術指導に参加してもらっている.1年生にとっては,関わる機会の少ない4年生に,先輩-後輩の関係性の中で直接指導を受けることにより,技術習得への関心意欲が高まり,演習への積極的な取り組みにつながっていた.一方,4年生にとっては,最終学年であることを自覚するとともに,他者に教えることを通して,自身の知識・技術の振り返りの機会となっていた.100名を超す学生に看護の基本技術を確実に習得させることは容易ではない.学生間の上下の関係性を活用することも,学修効果を上げる手立てとして有効と考える.
- 5. 実技試験によりスクリーニング技術 (バイタルサイン測定技術) の技術習熟度を確認した. 科目責任者として,当該実技試験の企画・準備・運営に当たった. 実技試験の結果は,受験者 103 名中本試合格者 74 名,不合格者 29 名で,合格者は全体の 76.7%と昨年度 76.5%をわずかに 0.2 ポイント上回り,約8割の学生

がバイタルサイン測定技術を習得できた.本試不合格者 29 名については、後日、同一課題による再試験を 実施、29 名中 27 名を合格、2 名(昨年度も 2 名)を不合格とした.不合格者 2 名については、臨地実習中の スクリーニングに不可欠のバイタルサイン測定技術を確実に習得するために、再度、科目責任者及び助手 2 名による個別指導・技術チェックを実施し、3 月の「基礎看護学実習 I」に備えた.

筆記試験のクラス平均は60点満点中39.8点(最高51点,最低25点)で、昨年度を4.4ポイント上回っていた.総合評価は、筆記(60%)、実技(25%)、レポート及び学習貢献度(15%)で行うが、総合評価のクラス平均は76.0点(最高90点,最低53点)、成績の内訳は、秀1名、優37名、良41名、可21名、不可3名であった. 再試験該当者3名については、近日、筆記(100点満点)による再試験を実施予定である. 現段階では、103名中100名の科目履修が修了している.

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学教育学会		1998年7月~現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月~現在に至る
九州看護理論研究会		1999 年 4月~現在に至る
日本看護診断学会		1999年 6月~現在に至る
日本看護技術学会		2007年12月~現在に至る
日本看護倫理学会		2009年 6月~現在に至る
日本がん看護学会		2009 年 12 月~現在に至る
日本看護管理学会		2012年10月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	. 研	究	業	績	等	K	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月	_		発表雑 学会等の	•		概		要
(著書) なし											
(学術論文) 1. ディベートを活用した初年次教育の試み一看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して一	共	2016 4	<b>丰</b> 4 月			日本看記 看護教育		習活実の志イ課た共井子鹿	ゼミⅡ」 用にし、ラーベ題 司美和花り のと、ラーの ラースでは 一年では 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の 一年の	でて、イカ化効では、一切での、イカルに、大力化のでは、一切では、一切では、一切で、大力で、大力では、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で、大力で	数では、 は、 は
2. 安全・安楽な下肢温熱 刺激法に関する検討 ークロスオーバース	共	2017 <sup>4</sup>	丰3月		南女学 7 VOI	:院大学 21	牟紀要	に	,安全	安楽0	6 名を対象 D観点から 3 刺激法(足温

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
タディによる準実験 研究-				浴,下腿温浴,下腿蒸しタオル)について,生理学的指標と主観的指標を用いて実験的に比較検討した結果,安全・安楽のいずれにおいても下腿温浴がより良いとの示唆を得た. ② 共同研究者:小田日出子,清村紀子,高橋甲枝,水原美地,塩田昇 ③ P.9-18
(翻訳) なし (学会発表) なし				

外部資金(科学研究費補助	加金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>(2)</u>
(1)	共 同 研	开 究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 ( ) 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
・社会人基礎力養成のための「意図的な	西南女学院大	〇上村 眞生	1,008,000
Hidden Curriculum(潜在的カリキュラム)	学保健福祉学	小田日出子	1, 000, 000
midden curriculum(番柱のカッキュノム) 」 構築に関する取組	部付属保健福	天本 理恵	
特条に対する収料	和	•	
	似子仰九別	塚本 美紀 篠木 賢一	
		橋本久美子 藤川 信幸	
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
		岸名 英海	
・「汎用的技能」獲得のための学修支援体制	西南女学院大	○上村 眞生	274, 800
構築に関する取組	学 (2016 年度教	小田目出子	
	育の質向上支	天本 理恵	
	援経費)	塚本 美紀	
		高橋 幸夫	
		篠木 賢一	
		橋本久美子	
		岸名 英海	
		小川 尚	
		伊藤 直子	
		八尋 春海	
		伊東 幸雄	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(2) 個 人 研 究												
	研	究	題	目		交	寸団体		交付決定額 (単位:円)		備	考
なし												

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称		任 期
(内 容)	役 職 名 等	期間等
<ul><li>・日本看護協会/福岡県看護協会</li></ul>	会員	2005 年 4 月~現在に至る
・西南女学院大学認定看護師教育課程	認定看護師教育課程検討委	2016年 4月 1日~現在に至る
	員	
• 門司掖済会病院看護部看護研究指導	講師	2016年 5月11日~現在に至る
① 第1回:研究計画書の作成		2016年 5月 11日
② 第2回:質問紙調査,質問紙の		2016年7月9日
作成		
③ 第3階: データ分析		2016年10月26日
④ 第4回:最終指導		2016年11月30日
⑤ 第5回:院内研究発表		2017年3月11日
· 独立行政法人地域医療機能推進機構	「ファシリテーションに関	2016年6月15日, 2016年7月13日
九州地区事務所主催:新任看護師長	する基礎知識」講師	
及び新任副看護師長研修		
・西南女学院大学認定看護管理者教育	「討議法」オリエンテーショ	2016年7月1日
課程ファーストレベル	ン講師(1 時間)	
	「討議法」講師(3時間)	2016年7月30日
	「看護専門職論-看護関連法	2016年8月19日
	規」講師(6時間)	
	「看護サービス提供論-問題	2016年9月23日
	解決法」講師(6時間)	T-12 (497)
• 北九州市国民健康保険運営協議会	委員	委嘱期間:2015年9月1日~2017年8
		月 31 日 (2 年間)
・北九州市国民健康保険運営協議会	副会長	2012年2月~現在に至る
① 平成 28 年度第 1 回北九州市国民		2016年8月17日
健康保険運営協議会		0017 /5: 0 日 0 日
② 平成 28 年度第 2 回北九州市国民		2017年2月8日
健康保険運営協議会 ・ 九州厚生年金看護専門学校同窓会	会長	2014年8月3日~2016年8月7日
· 九州序生平並有護导門子校同念云 (厚楓会)	云区	2014 中 6 万 3 日 ~ 2010 中 6 万 7 日
○子①型工厂		

#### 【大学委員会】

- 2016.4.1~2017.3.31 看護学科人事委員
  - ✓ 大学委員会のうち「人事委員会」に属し、看護学科人事委員として、前年度より持ち越しとなっている6件を含む2017年度教員採用人事13件について、看護学科(12件)と助産別科(1件)の公募/再公募、採用人事選考委員の選出、応募者の資格確認、書類審査・面接、推薦書の作成等に従事し、看護学科及び助産別科の体制整備に向けた適正な教員採用に係る業務に尽力した。結果として、看護学科7件及び助産別科1件を「採用案件」として処理したが、このうち2件については、2017年3月に内定者より内定辞退の申し入れ、及び「辞退届」の提出がなされたことから、急遽、非常勤講師の選定、臨床系非常勤助手・助教の補充など、看護学科の人員確保と体制整備に努力した。最終的に、看護学科後任人事未済分(7件)については、次年度への持ち越し案件として、次期人事委員に引き継いだ。
- 2016.4.1~現在に至る 学び場プロジェクト委員
- ✓ 今年度より,旧FD 研修企画委員会のメンバー(5人)が再結集し、上村准教授(福祉学科)を中心に、教・職・学3者合同による全学的な取り組みとして、「学びの拠点づくり」プロジェクトを立ち上げ、活動を開始した。
- ✓ 上記と同時進行の形で、教員集団として「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum (潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」を本学共同研究費の助成を受けてスタートさせた.
- ✓ 当初の計画では、今年度は①「意図的な Hidden Curriculum (潜在的カリキュラム)」、通称「要カリキュラム」構築に向けたプロジェクトチームの結成、②「要カリキュラム」構築のための予備調査として、プロジェクトチームに自主参加している学生 10 名(看護:5名、福祉:2名、栄養:1名、人文:2名)を対象に、本取り組みにおける「社会人基礎力」を明確にするための聴き取り調査の実施、③要カリキュラム実行のための環境整備を予定していた。現在、①と③は多少の時期の遅れはあるものの、ほぼ順調に進んでおり、「学び場」として確保した1号館11Aの改修工事も、什器撤去→アスベスト除去→内装及び備品配備の順に、2018年度開設に向けて段階的に進められている。
- ✓ 上記②に関連して、次年度に予定している「要カリキュラム構築のための実態調査」にむけて、1月以降、プロジェクトチームの学生を中心に質問紙の作成に取り組んできた。今後、教員間で本取り組みにおける「社会人基礎力」を明確にする手段・方法の検討を進めるとともに、本調査への大学倫理審査会の承認を得た後、次年度早々、2年生以上の全学生を対象に、本学における社会人基礎力養成の現状を把握するための調査を実施したいと考えている。

#### 【学科役割】

● 看護学科人事委員,2014 年度より継続して担当している看護学科初年次教育としての「基礎学習ゼミ」の 科目責任者,2年生アドバイザー責任者,認定看護師教育課程検討委員,及び助産別科入学試験関連等,学 科で与えられた役割を誠実に履行した.

氏名 浅野嘉延	職名	教授 学	学位 博士 (医	医学)(九州大学 1989 年)
---------	----	------	----------	------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、高齢者福祉学、疫学	看護学生教育、教育指導マニュアル、福祉用具開発、 先天性風疹症候群

#### 研 宪 課 題

医療現場での臨床医と看護系大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で本当に必要となる知識・技術を有効に教授する教育法の確立を目指している。これまで、実際の患者サンプルを用いた実践的な教材を作成し、5冊のテキストを出版してきた。今年度は、全国の看護教育機関に臨床医学の教育体制に関してアンケート調査を行い、その結果をもとに「看護教育指導マニュアル〜疾病学(内科疾患)」を作成した。この研究は平成27〜28年度科学研究費「挑戦的萌芽研究」の助成を受けている。

また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」を舞台に、現場のニーズに基づく福祉用具の開発を行っている。今年度は、車椅子用フットプレートカバーの商品化を行い、有薗製作所にて製造・販売を開始した。 さらに来年度は、先天性風疹症候群の現況の調査研究を行う予定であり、現在、準備を進めている。

#### 担当授業科目

疾病学各論 I (前期)(看護学科)

疾病学各論Ⅱ (前期) (看護学科)

看護のための臨床検査(前期)(看護学科)

医学総論(前期)(福祉学科)

総合人間学概論(前期)(保健福祉学部、人文学部)

保健統計学(後期)(看護学科)

疫学(後期)(看護学科)

疾病学特論(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【疾病学各論 I 】 【疾病学各論 II 】

自著の教科書「看護のための臨床病態学(改訂2版)」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。レントゲン写真などの教材はスライドで提示し、DVD 教材なども使用するなど多面的に解説を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。

#### 授業科目名【看護のための臨床検査】

疾病学各論 I & II と連携させて進行し、疾病の解説とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。 自著の教科書「看護のための臨床検査」を使用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、検査 データから患者の病態が把握できるように症例検討をした。

また、2コマを用いて演習を行った。心電図、検尿、肺機能、眼底などの検査を、学生自らが検査者や被験者になって検査の実際を体験させた。

#### 授業科目名【医学総論】

福祉学科の学生に、基礎医学(解剖生理)、臨床医学(主要疾患)、社会医学(公衆衛生)の非常に広範囲な 内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容を中心にポイントを絞って解説した。学生が興味を持てるよ うに臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問 題の解説も行った

#### 授業科目名【総合人間学概論】

感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成を共通のテーマとし、オムニバス形式の講義内容や演者の選択などをコーディネートした。

#### 授業科目名【保健統計学】【疫学】

1年生にとって馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計(改訂 2 版)」を使用して基礎から分かりやすく解説した。授業の最初の 15 分は前回の復習にあてて、繰り返し説明を行った。 DVD 教材なども使用した。計算問題は繰り返し解かせた。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。

#### 授業科目名【疾病学特論】

次年度から臨床現場で働くことになる4年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、 国家試験の対策となるようにポイントを示した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員(2006年9月~現在)	1983年6月~現在
	専門医部会九州支部委員(2006年4月~現在)	
日本血液学科	代議員(1998年4月~現在)	1985年6月~現在
	九州支部評議員(2011年4月~現在)	
日本癌学会		1986年6月~現在
日本看護科学学会		2008年12月~現在
日本看護学教育学会		2008年12月~現在
日本栄養改善学会		2016年4月~現在
アメリカ内科学会		1998年12月~現在

2 0 1 6 年度	. 研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書) <編集> 1. なるほどなっとく! 内科学	共著	2016年12月	南山堂	編集: 浅野嘉延 (全 609 ページ)
2. 看護のための臨床病態学(改訂3版)	共著	2017年1月	南山堂	編集: 浅野嘉延、吉山直樹 (全 815 ページ)
<分担執筆> 1. 内科診療の実際	単著	2016年12月	なるほどなっとく! 内科学 p1-23、南山 堂、2016	パラメディカルの学生を対象 とした教科書に内科診療一般 を解説
2. 血液疾患	単著	2016年12月	なるほどなっとく! 内科学 p471-506、南 山堂、2016	パラメディカルの学生を対象 とした教科書に主要な血液疾 患を解説
3. 血液	単著	2017年1月	看護のための臨床病 態学 (改訂3版) p485-527、南山堂、 2017	看護学生を対象とした教科書 に主要な血液疾患を解説
4. 救急医療	単著	2017年1月	看護のための臨床病 態学 (改訂3版) P771-779、南山堂、 2017	看護学生を対象とした教科書 に救急医療のポイントを解説
(学術論文) 1. 看護教育における内科学の教育指導マニュアル	単著	2017年	西南女学院大学紀要 21: 19·25	全国の看護教育機関を対象に した臨床医学の講義の調査結 果と教育指導マニュアルの作 成を紹介
(その他の出版物) 1. エキサイティングな 臨床現場 ~内科医と して一人歩きを始めた 頃~	単著	2016年	西南の杜 第 9 号: 132-138	学生、教職員に向けたエッセイ
2. 継承と改革	単著	2016年	広報 西南女学院 第 90号: 4	入試部長の報告
3. 看護教育指導マニュ アル 〜疾病学 (内科疾 患) 〜	単著	2016年	平成 27~28 年度科学 研究費「挑戦的萌芽研 究」の研究成果	看護教育を専門としていない 臨床医を対象とした疾病学の 指導マニュアル

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(産大連携の商品開発) レッグ・ガード		2016年	製造・販売:有薗製作 所	車椅子のフットプレートのカバ ーを商品化
(講演会など) 1. 緊急時の対応 〜モニ ター心電図と心肺蘇生 〜	発表者	2016年	大原病院勉強会 (2016.6. 行橋)	緊急時の対応法を紹介
<ol> <li>基調講演 ITP における診断と治療について</li> </ol>	発表者	2016年	第109回小倉血液コン ソーシアム (2016.11. 北九州)	ITPの診断と治療を紹介

外部資金(科学研究費補助	助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	·c)
(1)	共 同 研	开 究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	平成 28 年度西南女学院大学共同研究費	○清末達人、岩本テ ルヨ、浅野嘉延、山 根正夫、他	
北九州市における骨密度改善に対する栄養支援の効果	平成 28 年度西南女学院大学共同研究費	○近江雅代、手嶋英 津子、田川辰也、浅 野嘉延	

外部資金(科学研究費補助	助金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	·c)
(2)	個 人 句	开 究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
看護教育における疾病学の指導マニュアル作成に向けた研究	科学研究費挑戦的萌芽研究(平成27~28年度)	1,690,000 (平成 28 年度:	

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称	役職名等	任期
(内 容)	仅	期間等
社会福祉法人 福音会	産業医	2007年4月~現在
	評議員	2015年11月~現在
北九州いのちの電話	評議員	2009年2月~現在
医療法人起生会 大原病院	評議員	2009年4月~現在
	産業医	2016年6月~現在
	褥瘡委員会委員長	2016年8月~現在
神理幼稚園	評議員	2010年4月~現在
文部科学省大学間連携教育共同推進	外部評価委員	2013年7月~現在
事業 地域連携による「ものづくり」		
継承支援人材育成プロジェクト		
北九州市医療センター治験審査委員	委員	2015年4月~現在
会委員、医の倫理委員会委員		

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

西南の杜 編集委員 2011年4月~現在

入試部長 2016年4月~現在

地域連携室室員 2016年8月~現在

Sei jo Bible Cafe の担当者 2016年11月~現在

氏名 飯野英親	職名 教授	学位 修士 (経済学)
---------	-------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
	先天異常,染色体異常,奇形症候群,心理過程,トータルケア,イメージ分析,臨床遺伝,ラテックスアレ
	ルギー、キャリア発達、キャリアアンカー

#### 研 宪 課 題

1. 低頻度染色体異常児を養育する両親の心理過程

発生が低頻度な染色体異常児を養育する両親(主に母親)の心理過程を前方視的に分析し、疾患の特徴や病期による心理反応の特徴を分析する.

- 2. 看護学生におけるラテックスによるアレルギー反応の予防策の検討
- 3. プラダーウィリー症候群をもつ人に対するトランジション・ケアプログラムの開発

# 担 当 授 業 科 目

診療関連技術論(前期)(看護学科)

看護技術論(前期)(看護学科)

生活援助技術論(後期)(看護学科)

ヘルスアセスメント(後期)(看護学科)

看護過程論(前期)(看護学科)

基礎看護学実習 I (後期) (看護学科)

基礎看護学実習Ⅱ(前期)(看護学科)

看護基礎マネジメント論(後期)(看護学科)

遺伝看護学(後期)(看護学科)

看護マネジメント論(前期)(看護学科)

看護総合演習(通年)(看護学科)

看護総合実習(前期)(看護学科)

疾病学各論Ⅱ5コマ(前期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【診療関連技術論】

現在の医療現場で利用される「医療安全」を意識したディスポ製品を使い、静脈注射・静脈採血などの注射関連看護技術や無菌操作技術が習得できるように行った.

近年の看護師国家試験では、看護用品の写真が提示されて、各部位の機能について問われる問題が増加傾向のため、全員が同じ技術を体験できるように、技術演習の時間配分を変えて、体験を通して理解できることを目指した.

# 授業科目名【遺伝看護学】

遺伝看護分野でも、とくに、小児遺伝性疾患児と家族への看護について講義した。教材はオリジナルのレジュメを準備し、臨床の内容は講義担当者の遺伝診療部・小児遺伝外来での臨床経験をもとに解説した。

とくに、「母体血を用いた出生前診断の仕組み」「いとこ婚と遺伝子共有率」「血友病と X 連鎖」など、女性として考えさせられる話題から、遺伝学の基礎知識を教える工夫をした.

授業科目名	7	1	
汉未代日石	L	<b>J</b>	
授業利日夕	ľ	1	
授業科目名	[	]	
授業科目名	[	1	
授業科目名	[	]	
授業科目名	[		
授業科目名	[	]	
授業科目名	ľ		
授業科目名	ľ		

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本遺伝看護学会	学術雑誌 査読委員(2016 年度) 学会誌編集委員(2014.10~現在)	平成 12 年 6 月〜現在に至る
他 11の国内学術学会に所属 2つの海外の学術学会に所属		

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書) なし											
(学術論文) 1) 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連【査読有】	共著	2016.	4			日本看護管理		クをで安医集にそ知るた除対(結果)	アレルさく LA 予したいで、犬記式の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ドー(I に に に に に に に に に に に に に	中人の一角は、ないのでは、ないのででは、ないのでは、本人の一角が一角では、大きないのは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな

2016年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		マは の年月		.,, .	発表雑誌 学会等の			概		要	
								ス同知のおや性少往識育の②親順ク時つ多り呼になるがを教共、子	があ、LAと でくく 発器いっ無くめの者 の者を表して、 のると、 のると。 のると、 のると、 のると。 のると、 のると。 のると。 のると、 のると。 のる。 のると。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる	との答は、とのとなり、との答は、との答り、というでは、これのでは、これでは、これでは、これでは、「は、」とは、これでは、「は、」とは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	A 発症の R 発症の R 発症のいて たち45/748 よく(29.49 アペ)のもの た、LAの よの、LAの にいて で、LAの にいて にいて ないで、 にいて にいて ないで、 にいて にいて ないで にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて	この名での能は既知教で。英
その他(解説) 1)看護師国試対策合格 パプリ 小児看護学問 題の解説	共著	2016.	4		Andr	,カ 日 roid アフ		①第 題の/2	105 回 小児看詞 (解答 )	]看護師 養学分野 とその角	i国家試験 矛全 19 間 穽説した. 谷子,樋口	引に
2)基礎統計が示す意味・考え方	共著	2017.	2	小児 No.2		護, Vo	bl.40,	康計子健イな増手稿く説②	言護を考える。 関する質ター情が、もの域ー情が、もの地で、本報、「 いのでは、ないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	きないであった。 をおいるがであるは言います。 は言いますが、 はいますが、 はいまずが、 はいまずが、 はいまずが、 はいまがではいまがではいまがではいまがではいまがではいまがではいまがではいまがで	別合のでは、通すとお中に、ののでは、では、しる間のにないない。本語のでは、いいでは、は、は、いいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	は、保、々が苦本い
3) レポート・報告書の 「書き方」「作り方」「教 え方」書くために必要な 基礎テクニック (1)	単著	2016.	12	ナー Vol.1		ネージャ o.10	·	な 説 し が あ 式 切 に が に が に が に の に 。 に に 。 。	文書の c. 全4 内容に (フォー 日を確認	書き方 回連載 は,提出 ーマッ 忍する,	して必要 について 就の第1回 計する書類 ト), 字数 引用に便 去, レポー	解での大き

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑誌 学会等の	-		概		要	
								く近ク内的対書のジがき大とレ70に切て録をの内②点のナ容に象き視ネ守な切いポ%合ではを見力容飯	カンを解が物点スれいなうーでわあな提れ他容バ考説看をにのな人仕ロトあせるら出ば人を一えし護通心世い! (事ジ・って たなす た	書記「るこぎし、尽人信を少報て提た、る士書認」」点、理たてで=用任ク告も出がします。するには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	し提点こつ でネ 解期間きみ平のずる 告じのするといれ、だい るジし限管ななさ 完期こ書トプるとかしてわて たくたの理いいれ 成限ととやってい	たジっき、め、、約が人人る度にが毎議セの直ッて体・、トビ束で=、、が間大っ事ス人
4) レポート・報告書の「書き方」「作り方」「教え方」書くために必要な基礎テクニック(2)	単著	2017.	1		-スマン 18, No	ネージャ o.11		な説あか基く具とグ識心②	文書の4 た 全4 を	書きすまは、ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	して必要なではの第2[との第2] ままくと、アンスの第3をといった。 アンス	て回むきをハーイを解でのの書て ン意
5) レポート・報告書の 「書き方」「作り方」「教 え方」レポートと報告書 の違いとレポートを書 く技術	単著	2017.	2		-スマン 18, No	ネージャ o.12		なる! 説した ある.	文書の た. 全4 内容に	書き方   回連載 は, レオ	iして必要につい。 はの第3[ ポートと報告	て解 可で 報告

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事		項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		厅又は の年月			発表雑 学会等0			概			要	
								序プたと→く時書い②飯	本論を こつい こ, レガ 論で書 の短縮を	書くたて具体 ペートル き上げる	め的は本のるこ	を書くりに解説に解説を書くりに解説に解説を書きている。	ツし 論書総,
6) レポート・報告書の「書き方」「作り方」「教え方」レポートの校正方法	単著	2017.	3		18, No	ネージ <sup>3</sup> 0.13		な説あ校仕号きを章と解看た視のいがあさらがメとしるしる正事。直前にの説護め点名(糸分るられ)しいた	文と「(「書し削細重し管」を前告い、ころフジっ、野書・内添校き)し部要た理マ記が局りよ上(一がた)英の全容削正手をしにさ、一者ネ述書何にう位評ク大内。親	書回よっにと思てまに、がジレかざくなの話をきき連書、は使は定提でに、読メたれ言い文上させい。 声書 きょう はい はい 者と (たが) 言言 れりこ	「哉き上れ回てき意い」対ト列」に呉が下るアとこの物司れの,せ意て「対にえ」「い字出や」とを	てつ最にのる校提るを具 象生ば読の・回問こし心せ必い終関大共正出点払体 でか,みか脱っ囲とて得て要て回す切通(期,う的 あせ自に結字でにののる解	解でるな記書限文こに善るる分く論が,知方ダ,
その他(雑報) 1)雑誌「小児看護」特集 に当たって	単著	2017.	2	小り No.2		蒦, <b>、</b>	Vol.40,	足・診される	十算力不 る看護な	足に。	よっ 弊害	)理解 <sup>2</sup> てもた は, 何 ったこ	らも

2 0 1 6 年度	研 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デ又は の年月			発表雑 学会等の			概		要	
(Eller)								さそ性いンめ臨家に、	と を は と は と は と は と は と 場 か ま も 、 と ま の ま と 英 ま と ま ま と ま ま ま と ま ま と ま ま と ま ま ま ま	への影響 ケアに た後実践 字に強い 等集記 対象と が 護サー	生命力の/ 響は大きく, 当対してはない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	,頼しメ求の,全
(翻訳) なし												
(学会発表) 看護基礎教育で活用できるラテックスアレルギーの知識評価尺度に関する文献的検討	共著	2016.8	3	第 2 (於	6回賞	養学教育 学術集会 京 京 (5)	÷	防LAれ定を海かえかLIのhののに②親③の知る量め外海ての底文ar及検収に、日のにでは、所述には、日本のにのは、日本のにのは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本	手を私にしお文本討CIがをはを掛発野看段習漢評てい献語をCIが用は路掛表聡護	と得よ、LCを版行业タが抽まる者子しす習き策存理尺た。y、と出て件梶岩、	ルギー(LA) 学生がLAのし、度 ない とした度が尺、内では、NFO、 というでは、大きないでは、 では、LAのでは、大きないでは、 では、NFO、 にないでは、 にない。 にない。 にない。 にない。 にない。 にない。 にない。 にない。	いら哉成いい沓能MER Sc存間成 英ららを成るいま能EER Sc存間成 英

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者	交付決定額					
加 九 堰 日	文的凹件	○代表者()内は学外者	(単位:円)					
プラダーウィリー症候群をもつ人に対するト	科学研究費	○飯野英親,原山	1,100,000 円					
ランジション・ケアプログラムの開発	基盤研究(C)	裕子, 小野淳二						
発達障害傾向のある看護学生への現任教育ま	科学研究費	○安酸史子, 飯野英	5,460,000 円					
で含めた適応支援ガイドラインの作成	基盤研究(B)	親,他学外者26名						

外部資金(科学研	「究費補助金等)	導入状況(本	学共同研究費を含む	b)	
	(2) 個	人 研	究		
研 究 題 目	交	付団体	交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に お け る 活	動等			
団体・委員会等の名称	ZII. IIIIII. Et Arbr	任期			
(内 容)	役職名等	期間等			
・日本遺伝看護学会誌への投稿論文の	査読員	2016年			
査読					
・雑誌「小児看護」へるす出版	查読責任者	2005 年~現在に至る			
• 九州大学大学院医学研究院保健学部	非常勤講師	2012 年~現在に至る			
門看護学分野 博士後期課程(科目					
名:健康支援ケアシステム論Ⅱ)					
・山口県立大学看護栄養学部	非常勤講師	2009 年~現在に至る			
(科目名「小児看護学」の集中講義)					
•福岡県新人看護職員研修推進協議会	委員(看護系大学代表)	2014年10月~2015年3月			
・山口県下関市民病院 運営外部評価	委員	2012年7月~現在に至る			
委員会					
·山口県看護協会 認定看護管理者教	講師	2016年			
育課程ファーストレベル 「レポート					
の書き方・まとめ方・文献検討」					
•福岡県看護協会 認定看護管理者教	講師	2014年~現在に至る			
育課程ファーストレベル「看護に生か					
す情報管理」					
・山口県テニス協会 医科学委員会	委員	1997年~現在に至る			
・九州・山口プラダー・ウィリー症候	世話人代	2009 年~現在に至る			
群親の会					

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

- ・保健福祉学部看護学科 入試委員 平成25年4月~現在に至る
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベル教育委員会委員,セカンドレベル教育委員会委員 平成21年4月1日~平成29年3月31日
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベルの講師(3コマ) 平成21年~平成29年1月
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修セカンドレベルの講師(6コマ) 平成21年~平成29年1月
- ・教員免許状更新講習会(西南女学院大学保健福祉学部)での講義(2コマ) 平成22年~平成29年3月

 氏名
 岩本 テルヨ
 職名
 教授
 学位 修士((看護学)、北里大学 1995)

 博士((医学)、山口大学、2004)

研 究 分 野 研究内容のキーワード
- 基礎看護学、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護 看護専門職性、医療・看護倫理、看護教育

研 究 課 題

看護におけるラテックスアレルギーの実態と予防

看護職の専門職性

山口県の近代看護史

担 当 授 業 科 目

看護学概論(前期) 看護教科教育法 I (前期)、看護教科教育法 II (通年)

看護理論(後期) 基礎看護学実習 I (後期) 看護倫理 (後期) 基礎看護学実習 II (前期) 生活援助技術論(後期) 看護総合演習(前期) ヘルスアセスメント(後期) 看護総合実習(前期)

看護技術論(前期) 総合人間学概論(前期)

診療関連技術論(前期) 総合看護学(前期) (助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【看護学概論 】

国試対策の現状から、大学入学時より、勉学の習慣をつけさせる必要性を痛感したため、大学入学後1年前期専門科目である看護学概論(看護技術論も併せて)からポートフォリオ(指定したファイルを生協で購入させる)の作成を課し、講義終了後提出させた。内容の充実度はさまざまであるが、すべての学生がポートフォリオを作成できた。

また、大学入学後最初の専門科目であるため、まず「看護とは」を身近な友人にインタビューさせ、看護に対する関心を高めるようにした。インタビュー結果をまとめることによって人々が看護に求めるものに気づき、新たな視点を得ることができた。それらの結果をグループ発表し、「看護とは」に関して意見交換させ、看護学生としての自覚や関心を高めるようにした。

学生たちが看護に関心を持ち、知識を定着できるよう、それぞれ看護にかかわる課題をグループ発表させ、 意見交換することも取り入れた。

#### 授業科目名【看護理論 】

1 年生の段階で理論を理解することは難しい側面もあるため、各授業の終わりにまとめとして視覚に訴える DVD (各看護理論の解説) を活用して理解を促す計画であったが、1・2 回目において学生の反応が期待通り ではなかったため、事例活用に時間を割くように変更した。理論の実践事例の展開は学生が自ら考えることを 要求し、その内容を互いに意見交換することによって、理論の理解を促し、結果としてそれぞれの理論の特性 を掴める機会となったと考えられる。

# 授業科目名【看護倫理 】

学生は2年生で臨地実習も基礎看護学実習のみの経験しかなく、なかなか看護に関する倫理に関して関心を持ち考えることが難しいため、授業の初めに倫理にかかわる一般的な事例等を上げ、どう対処するか意見を聞くようにした。授業がすすむにつれて、医療・看護にかかわる簡単な事案について、質問を投げかけ、グループで意見交換させた。そこで出た意見に加えて違った視点も紹介し、考える幅を広げるようにした。最終的には授業で医療における倫理的課題を持つ事例を提示しグループで意見交換したうえで、自分自身の考えをまとめレポートとして提出させた。その後、そのレポートを踏まえて意見交換し、学生たちから様々な視点、対処法を引き出し、様々な価値・考え方があることに気づけるように意図して取り組んだ。

学会における活動									
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期							
日本看護研究学会	評議員 (2012~2016) 査読委員	1993~現在に至る							
	(2012~2016)								
日本看護科学学会		1993~現在に至る							
日本死の臨床研究会		1997~現在に至る							
日本生命倫理学会		1998〜現在に至る							
日本公衆衛生学会	評議員(2005-2008)	1999~現在に至る							
日本医学哲学・倫理学会		2000~現在に至る							
日本看護学教育学会	評議員(2012~2016)、専任査読委員	2002~現在に至る							
	(2015-2018)								
STTI		2008~現在に至る							
日本看護倫理学会	評議員(2015-2018)	2008~現在に至る							
日本看護技術学会		2012~現在に至る							

2 0 1 6 年度	<b>研</b>	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月	-		発表雑 学会等の	•		概		要
(著書)											
(学術論文) 看護師のラテックスア レルギー罹患率と知識 との関連 (査読付き)	共	2016.4	4			日本看詞 護管理		クをで安医集にそ知るた除にそ知るた。	アレルジストン A予取り A予取り A で まさい で 、	ドー (I (I に ) に (I に ) に (I に ) に と に と に と に ま L A の に で し い 紙 が い に 調 と か ら か ら が か に が か が か か に が か か か か か か か か か か	中でラテッ A)予防教育は、 いって がいった からない ない からない ない からない からない からない からない からな

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行 発表 <i>0</i>	マは 70年月		.,, .	発表雑誌学会等の	•		概		要	
(番指尺)								果製%あ、いは発器いっ無くめの②親順だ手)るLAと症曝でたに、る必共、子	っとはこのご定り属い、関致一要答と、用、「の答状仕(つさわ育方性者のである。」では、これでは、これでは、これでは、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに	のは13/5 ARでに545/7 では13/5 では545/7 でないでででででででいる。 はALA でのではできます。 でのでは、 でのでのでは、 でのでのでのでは、 でのでのでのでのでは、 でのでのでのでのでは、 でのでのでのでのでのででは、 でのでのでのでででできます。 でのでででできます。 でのでででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのでできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのででできます。 でのでででできます。 でのでででできます。 でのでででででできます。 でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	とう名りた、49つりののA場に美聡とう名りた、名のいまりは既知教で、美聡のいるのはない。、子はいいは、19のののは、19のののののののののは、19のののののののののは、19のののののののののの	ク16.4が時の多り呼にかりがと教野ス4がにてく、吸つす低進育英
(学会発表) 看護基礎教育で活用できるラテックスアレルギーの知識評価尺度に関する文献的検討	共	2016.8	3.	第 26	3回学 :東)	学教育学 经		予らら識作でがをが、ER e 既者作。②親 ののではないない。 ののでは、 の	つ知るEとるいまをLIDのDのこの同い一一識私的とものでは、対しては、関係を関係している。 これをはなり 表記をはるのでは、対象をはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これをはない。 これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、	と習を正して下す。また、用はいます。と得は評しており、本対の「一い件」と、「人」とは、して、「人」と、「人」と、「人」と、「人」と、「人」と、「人」と、「人」と、「人」と	レギーのとことでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
				術集会講演集 P	P. 247

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
				(1)	共 同 码	研 究			
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)		

外部資金(科学	研究費補助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	(P)
	(2) 個 人 4	研 究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称	役職名等	任 期
(内 容)		期間等
・西南女学院大学認定看護管理者教育	兼任	2016年8月5日
課程ファーストレベル(看護専門職		
論		
・日本看護学教育学会第 27 回学術集	査読委員	2017年3月の予定
会発表抄録査読		
・日本看護研究学会第 43 回学術集会	査読委員	2017年3月の予定
発表抄録查読		
•福岡県看護職員確保対策連絡協議会	委員	2016年4月~現在に至る
・日本看護系大学協議会	社員 (会員校代表者)	2014年4月~現在に至る
・日本私立看護系大学協会	会員校代表	2014年4月~現在に至る

看護学科長

入試委員

看護キャリア支援センター長

認定看護管理者教育課程教育運営委員長

氏名 新谷恭明 職名	教授 学位 博士 (教育	育学)(九州大学 1995年)
------------	--------------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育学、日本教育史	教員文化、学校史

### 研 究 課 題

福岡県教育会の基本史料である機関誌を分析し、近代における教員の文化形成について考察する。

# 担 当 授 業 科 目

教育方法論 (前期)

教職概論(前期)

人権と社会(前期)(人文学部)

人権と社会(前期)(保健福祉学部)

教育原理(後期) 教育課程論(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【教育方法論】

講義のみならず、ディスカッションと授業案の共同制作、プレゼンテーションなどをさせた。

# 授業科目名【教育課程論】

教育課程論の基本的な理論の教授とは別に学習指導要領や進行中の教育改革などについて資料をもとに考えさせる講義を試みた。

## 授業科目名【人権と社会】

人権問題は情緒的になったり、ステレオタイプな規範を求めたがるので、そうした発想に陥らないようにやり とり工夫した。また、ディスカッションや映像なども活用した。

### 授業科目名【教育原理】

初めて大学で教育学について学ぶので論理的な読解力、思考力を鍛えるために文章読解の訓練を行い、一方で映像や画像、文芸資料を用いて多角的な学びを促した

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本教育学会	理事 (2018.8まで)	1976年~現在に至る
教育史学会	代表理事(2016.9 まで)	1975 年~現在に至る
大学教育学会		2013年〜現在に至る
全国地方教育史学会		1982 年~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 明治末期に於ける被差 別部落と学校	単著	2017.3	西南女学院大学	① 「スラム化」された地域を 呼称する「特殊部落」という用 語が定着するのが明治 40 年頃 であるが、「スラム化」を食い 止めようとしたのが部落改善 運動であった。宗像郡福間町の 小学校による部落改善の活動 が『福岡県教育会々報』誌上に 掲載されたがこの時期における唯一の報告であり、部落改善 運動の実際を知る希少な史料であると言えよう。本稿ではこの報告書を翻刻し、解説を試みた 3p39~p50
(都記)				
(学会発表)				

外部資金	(科学研究費	補助金等	導入制	犬況 (本	学共同研究費を含む	to)	
	(1	) 共	同	研	究		

研	究	題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外部資金	(科学研究費補	助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	(P)
		(2)	個 人 石	·····································	
研	究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

产	土 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名	称		役	職名	等			任		期	
(内 容)			1X	机 1	4			期	間	等	
福岡市教育委員会ぬくもり	編集委員	編集	委員長	Ę			2018.3	まで			
会											
福岡市男女共同参画課中学	生向けテ	編集	委員長	É			2018.3	まで			
キスト編集委員会											

教職課程委員長

宗教委員

氏名 大嶋 満須美 職名 教授 学位 修士 (健康福祉学) 山口県立大学

研 究 分 野	研究内容のキーワード
慢性期看護	慢性期、受容過程、家族
看護管理	人材育成

研 究 課 題

慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

#### 担 当 授 業 科 Ħ 成人・若看對概論 (前期) 成人, 若看護漢習 (前期) 緩和・終末期看護 뺆 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習(通年) 看讓給完了 (前期) 看讓給演習 뺆

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 成人・老年看護学概論 】

看護の対象である成人期や老年期を連続体として捉え、成人期の特徴を基盤に教授した。社会環境が大きく変わる中で統計を踏まえ、事象を用いて具現化し発問をしながら進めた。

### 授業科目名 【 緩和・終末期看護 】

学生にとって「死」は非日常であり、身近な人の死を経験した人も少ない。避けて通れない現実に人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者としてかかわることの意義について教授した。「よりよく生きる」ことについて考え、看護観や死生観が育まれるよう問いかけを行った。

## 授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

既習の知識や、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として、疾患や症状について解説し、基礎看護学実習の受け持ち患者を引き出しながらイメージ化を図り教授した。

# 授業科目名【 成人・老年看護学演習 】

一連の看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による演習と、看護技術が安全にできるよう解説を踏まえ、実践を行った。グループワークと個人ワークを組み合わせ、理解が深まるよう個別に関わった。毎回、教員間で、進捗状況や課題の確認、方向性について情報共有を行い到達度について協議した。

# 授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

既習の学習内容を資源とし慢性疾患の病態理解と看護の方向性について、アセスメントの視点を重要視し看 護過程の展開が出来るよう指導した。また、慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ 伝えた。個別性のある看護実践について実習グループ間で学びの共有が出来る場の設定を行った。

# 授業科目名【 看護総合実習: 成人慢性期・終末期 】

自立した看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まるよう臨地の指導者と調整を 図りながら展開した。テーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、自らが取り組む実習として内容の 確認を行った。また、複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。

# 授業科目名【 看護総合演習

看護総合実習前後の演習として位置づけられ、関心のあるテーマや自己の課題について主体的に取り組めるよう個別に関わった。また、グループメンバーによる学びの機会を設け、学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会		1975年~ 現在
日本家族看護学会		1997年~ 現在

2016年度	研 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(都訳)											
(学会発表)											

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(1)	共	同	研	究			
研	究	題	目		交	付団体		研 ○代表者	究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)	

	外	部資金	(科学研	开究費補明	力金等)	導入狀	況(	本学共同研究費を	(含む)		
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	I		交	寸団体		交付決定額 (単位:円)		備	考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等
財団法人 佐波共済会 山口県立大学 山口県看護協会認定看護管理者教育	理事 非常勤講師 講師	2015年5月~ 現在 2014年4月~ 現在 2010年 ~ 現在 (開講時)

• 学生委員

(2016年4月~2017年3月)

・看護学科カリキュラム検討委員 (2016年6月~2017年3月)

・看護キャリア支援センター 認定看護管理者教育課程セカンドレベル 演習支援 (2016年 11月~12月)

・高大連携授業

(2016年6月8日)

・「北九州ゆめ未来ワーク」への出展(2016年8月26日)

・国家試験対策講義 (慢性期看護学領域 2017年1月)

氏名小野正子職名准教授学位修士(看護学)(Oregon Health Sciences University 2002 年)

	研	究	分	野	研究内容のキーワード					
小児看護学					小児	慢性疾患	看護用語	(臨床)		

#### 研 宪 課 題

慢性疾患をもつ小児およびその家族の看護について考察する。 小児看護学の教育方法について考察する。

臨床で使用する看護の言葉について考察する。

### 担 当 授 業 科 目

基礎学習ゼミΙ(前期) 必須

基礎学習ゼミⅡ(後期) 必須

小児看護学概論(後期) 必須

小児看護方法論(後期) 必須

小児看護学演習(前期) 必須

緩和・終末期看護学(前期) 必須

小児看護学実習 (通年) 必須

看護総合演習(前期)必須

看護総合演習 (通年) 必須

看護総合実習(前期)必須

看護総合実習(通年)必須

助産診断・ケア学IV(新生児・乳幼児)(前期)(助産別科)必須

乳児保育(後期)(福祉学科)

看護学(後期)(栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

授業は、教員 10 名が各 10 名程度の学生を担当し、グループでの学習活動を軸にゼミナールを展開する。

基礎学習ゼミIでは、授業内容の企画担当者として、初年次教育としての大学で主体的に学ぶための技法(何を学ぶか・どう学ぶか)の習得を支援した。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、討論の進め方、また、より深い学びを得るための文献検索の他、インターネット等のICT活用法などである。また、個々の学生の学修・生活支援として、個別相談を随時実施した。

基礎学習ゼミⅡでは、ディベートを通して学生の論理的思考やプレゼンテーション力の習得を目的に、小グループでの学習に対する指導を行った。グループ内での相手を尊重した意見交換や、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫ができるようアドバイスを行った。

### 授業科目名【 小児看護学概論 】

小児看護の対象となる子どもや家族の理解を科目目標の大きな柱としている。少子化の時代で、なかなか子どもを観察したり子どもと遊ぶ機会の少ない学生に出来るだけ子どもをイメージしやすいようにビデオや DVD 等の視聴覚教材を活用した。また、昨年から、北九州市の次世代育成事業の一環である「赤ちゃんふれあい授業」を授業の中に組み入れ、小グループに分かれて、1 組の親子と妊娠・出産・子育て、また女性の働き方を含めた話を聞いて、親子と触れあう中で、子どもや家族に対する理解を深めることが出来ていた。さらに、実際の社会の中での子どもがおかれている状況を、子どもの健康という視点で考えられるよう、雑誌・記事の中からトピックスを探させ、グループ討議を行った。

## 授業科目名【 小児看護方法論 】

この科目は、健康障害をもった子どもの看護の考え方、方法を理解できるよう、1 年次から学んできた形態機能や既に学んでいる小児疾患を復習しながら授業を進めた。また健康障害をもった子どもをイメージしやすいように、ビデオや写真、実物などを見せること等で、学生が理解しやすいよう工夫した。

#### 授業科目名 【 小児看護学演習 】

演習では、実習前ということで事例検討と技術演習を中心に行った。事例検討では、乳児、幼児、学童期の各発達段階の子どもを対象として、臨地実習で学生が遭遇することの多い症例(国家試験にもよく出題される疾患)を用いて看護過程の展開を行った。また、全員がグループワークに参加するように少人数によるグループワークで進めることにした。授業時間が十分ではないため、春休みの課題として事前に事例に関する基本的知識を復習し、ある程度グループで討議できる段階でスタートできるようにした。定期的にグループの進行状況を確認し、その都度コメントを返しながら指導を行った。技術演習においては、実際の実習場面を想定できるような設定をし、技術の習得が確認できるよう技術試験を行った。習得ができていない学生については、全員一定レベルに到達するまで個別指導を行った。

#### 授業科目名【 看護総合演習・実習 】

看護総合演習では、小児看護学領域を担当し、9月卒業の学生1名、旧カリキュラム履修中の学生1名を含めた計6名の学生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、自分自身の目標・テーマを実習に連動できるように指導した。演習の目的としては、小児看護の理解を深めるとともに、実習前準備として、実習場で必要とされる知識・技術の振り返りと、自分の選んだテーマに関する文献検索・検討を行いレポートとしてまとめることで、看護を実践するための基盤づくりを行った。学習は、実習場別のグループ毎に自主的に計画をたてて進めていった。また、実習終了後は、各自のテーマに基づいて作成していた事前のレポートを追加修正したものを、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することができた。

看護総合実習は、大学での最後の実習であり、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習前・中・後と実習内容を検討しながら、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。また、実習記録用紙や評価表も自分たちの目標に沿ったものを各グループ(病棟毎)で作成し、目標の達成度が確認出来るようにした。小児は、実習場が3箇所と他の領域と異なり多いため、目標が絞りにくいところがある。これについては、今後学生が目標を明確に定められるよう、各実習場の目標の見直しや日数調整等をしていく予定である。

### 授業科目名【 乳児保育 】

この科目は、福祉学科3年の通年科目である。保育士の免許取得を目指しているため、保育園や乳児院、病院等で働くことを想定し、乳幼児の心身の健康を守ることを中心に、子育て支援などについて理解し、実践可能な技術も習得できるよう授業内容を組み立てた。その年度によって、学習してきている内容が多少異なるため、授業開始時には、アンケートでこれまでの学習内容や技術習得状況等を確認し、実習場での経験等から学生たちの希望も含め、授業内容を多少修正している。今年度は、北九州市の次世代育成事業の一環である「赤ちゃんふれあい授業」を導入して乳幼児とその家族の理解に役立てることが出来た。学生たちからも大変好評で保育園での実習では、子どもを見る機会は多少あるものの、ゆっくりと母親と話をすることがないため、母親たちの思いや苦労を、また子育ての楽しさを初めて知ることが出来たと、これからの保育士としての子どもや家族との関わり方によい気づきができていた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		1976年4月~1985年、1989年~現在
		に至る
日本看護科学学会会員		1993年~現在に至る
日本小児保健協会会員		1993年~現在に至る
日本学校保健学会会員		1995年~現在に至る
聖路加看護学会会員		1996年~現在に至る
日本看護学教育学会会員		1998年~現在に至る
日本小児看護学会会員		2002年~現在に至る
九州小児看護教育学研究会	幹事 (2003 年~現在に至る)	2001 年~現在に至る

2 0 1 6 年 度	<del></del>	究	 業	 績	等	に	関	す	る	事	 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(著書) なし											
(学術論文) 1. ディベートを活用した初年次教育の試み―看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して―	共	2016.4	1			日本看護	学会	習活実でグイ課た。実美布毛田	ビミⅡ」 につる。 につる。 があり性のには者代、明 では、明 では、明 では、明 では、明 では、明 では、明 では、明 では、明 のは、。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	でて、ディアのカハー原材のアダイカルに果検 脚子打	対する間にルだされば、山上では、大きのを後とがでのと、上生のは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのを後とがでのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大き
2. 末尾語にサ変接続名詞を持つ実践医療用語の語彙分類	共	2016 4	Ŧ	ジウ 人 2	ウム,Vo 女科学 タシン	学会シ   <b>l.2016.1</b>  とコン  ポジウ	No.2, ピュ	およな ピ (ア (ア (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水)	び意味。 る」とV 質語彙表	を決 見 き	良かおる, 野 正 子 ,
3. 看護師・管理栄養士 国家試験に含まれる名	共	2017.3	3			院大学紀 2017.	要,				管理栄養士国 2-2016年)

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	Ą	頁 〔	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デ又は の年月			発表雑詞 学会等の			概		里	更	
刺連続語の特徴 (翻訳) なし								療記録計量はしている。	曲出した 録文書 いる。 略者名 P135-14	に出する 相良 明	見する D結界 かお。 野 正	お用語	野の最告
(学会発表) 1. 看護師・助産師国家 試験に含まれる語 彙の調査	共	2016.7	7	報学	17 回 学会看: 神	日本医 護学術大 戸市)		含まれ と実践 辞書C い, 語 告し	襲師・助 れる用記 浅医療F Ome Jis 記彙・表 ている。 司発表表	吾(教 用語の yoV5- 現の 替名	育用 <sup>1</sup> 分か 1との B違に	専門月 ち書き )照合 こつい かおる	用語)き用を行って報
								看 護	17 回 蒙学 徘 9-92)	日本	上野?	惠子 青報学	
								著書学術語翻訳	<b>侖文</b> 3	(20 ) ; (P	17.3	現在 共3)	

外部資金(科学研究費補助	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1) 共 同 研 究												
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額									
	文门团件	○代表者 ( ) 内は学外者	(単位:円)									
看護師・助産師・管理栄養士国家試験に含ま	西南女学院大	○相良かおる、	591,000									
れる専門用語の語彙調査	学共同研究費	小野正子										
		柏木公一										

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(2)	個	<b>L</b> 7	开	究				
研	究	題	目		交付団	体		交付決定額 (単位:円)	備	考		

社会	にお	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称	<b>分</b> 几	一	<i>5</i> 5			任		期	
(内 容)	12	職名	等			期	間	等	
第26回日本小児看護学会学術集会	企画実行	委員			2015年	₹4月~2	2016年	8月	
(2016年7月 大分開催)									
北九州市小児慢性特定疾病対策協議	委員				2015年	€4月~	現在は	ご至る	
会									
北九州市障害支援区分認定審査会	委員				2015年	€4月~	現在は	こ至る	

国際交流委員 2016年4月~2017年3月

FD 委員(大学・学科の FD 研修会の企画運営) 2016 年 4 月~2017 年 3 月

1,2年生アドバイザー 2016年4月~2017年3月

物品管理係(2016年度の年間スケジュールを基に、看護学科の物品・実習室使用についての管理)

2016年4月~2017年3月

看護学科のオープンキャンパス 模擬授業 (8月)

氏名 布花原 明子	職名 准教授	学位 看護学 (修士)
-----------	--------	-------------

研 究	分 郹	7	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学			公衆衛生看護学教育·学習方法 地域組織活動
			100块形工作(10岁)

研 宪 課 題

学生と卒業生保健師のネットワーク形成によるキャリア支援に関する研究

初年次教育の効果的な教育方法に関する研究

住民主体の地域保健福祉活動に関する研究

### 担 当 授 業 科 目

<1年次>

基礎学習ゼミⅠ・基礎学習ゼミⅡ

<2 年次>

保健福祉行政論 公衆衛生看護技術論

<3年次>

地区活動論

<4年次>

地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

基礎学習ゼミIでは、入学直後で不安感をもっている学生と教員、及び学生間のコミュニケーションを促すよう配慮した。グループワークではリーダーとメンバーが協力し合えるように、グループダイナミクスを意識して関わった。レポート作成の方法では、一人ずつコメントを記載し、ルーブリック評価に基づいて、学生と確認し合いながら返却するようにした。

基礎学習ゼミⅡでは、企画運用のリーダーを担当し、グループ学習形態によるディベートを行い、初年次教育を実施した。ディベートの理解及び関心意欲を高めるために、上級生による模擬ディベートを取り入れて講義を実施した。また、全員の習得度を高めるために、毎回のグループ学習に用いるワークシートの工夫を行った。また、生活指導面では個別相談を随時実施した。

#### 授業科目名【保健福祉行政論】

オムニバス科目で3回を担当した。保健医療福祉制度の履修では、行政用語に対する学生の苦手意識もあるため、できるだけ生活の話題を提供し、健康な生活を支えるための制度に関心をもてるよう工夫した。また、看護師、保健師が行う看護サービスとの関係についても触れるよう心掛けた。レジュメを作成し、要点を記入して整理できるよう工夫した。

# 授業科目名【公衆衛生看護技術論演習】

公衆衛生看護学実習で体験することが必須となる技術項目である。

家庭訪問技術では、学生が家族を対象としたアセスメント力を備えることができるように、また基本的な家庭訪問技術の習得できるよう、演習で用いる事例を検討した。また、実習地域で行う健康教育技術については、事前に教員が実習施設とテーマ調整を行い、できるだけ現場に近い健康教育の計画・実施ができるよう配慮し

た。技術発表では、学生間のディスカッション及び教員コメントをふまえ、実習で対象特性に応じて計画修正 する点を導き出せるよう心掛けた。

## 授業科目名【地区活動論】

保健師課程3年生必修科目である。アクティブラーニング教室を活用し、特定地域の人口特性の分析とフィールドワークを行い、地域診断のポスター発表を実施した。住民の健康を生活と環境と関連づける作業を体験学習によって理解することをねらった。授業評価からは、教室環境の良さがグループワークへの好影響を与えていたことがわかった。授業外の課題をグループ課題としたため、学生は他科目と調整しながら話し合う時間に苦慮した様子であった。次年度は、できるだけ授業外の課題は個人課題とし、授業中は、効果効率的にアクティブラーニングによる学習活動が行えるよう工夫することが課題である。

### 授業科目名【地区活動論演習】

保健師課程4年生必修科目である。実習自治体の地域診断演習を行った。6施設にわたる実習地域ごとに内容が異なるため、各グループの進捗状況に応じて、授業前に毎回資料を提出させ、コメントを事前に準備し、授業時間を有効に使えるよう工夫した。シラバスだけでなく、毎回の授業進行の内容を具体的に示すガイドブックを作成して進めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月~現在に至る
日本看護科学学会	<i>II</i>	2001年3月~ "
日本地域看護学会	<i>II</i>	2001年4月~ "
日本看護教育学学会	II	2003年4月~ "

2 0 16 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		発行又は 発表の年月			発表雑 学会等の		概			要
(著書)											
(学術論文) 1. 保健師学生の職業的 アイデンティティに 対する卒業生保健師 のソーシャルサポー トの効果	共	2017. 3	3			日本看記 看護教で		イとをシづ会イかポンを②布でしている。	ンてすいて前ンしトイ察花尹イの一条が流で、ラッチ・オールの一番では、アールの一番では、アールの一番では、アールの一番では、アールの一番では、アールの一番では、アールの一番では、アールのでは、アールの一番	ティ形の 質様生保 一会を開 のティのか 大きのでは 生のに 上のに 上のに 上のに 上のに 上のに 上のに 上のに 上	の職業的支援的では、大学の大学の大学を対して、大学の大学を対して、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の

2 0 16 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デ又は の年月			発表雑 学会等0			概		要
2. ディベートを活用した初年次教育の試み 一看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して一	共	2016.	4			日本看詞 看護教育		①礎の00施テ変果討②石子鹿田③ は看学活名。イ化は・共井、毛田共	習用をデカこ旨報司美布美出司出てに対イル着導告研紀花香子研不手上し究代原力	<ul><li>II」</li><li>C こ</li><li>C こ</li><li>C こ</li><li>E ま</li><li>D た</li><li>E ま</li><li>E ま</li></ul>	次教育「年紙後では、明光は大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大
(翻訳)											
(学会発表) 1. 保健師学生の職業 的アイデンティティに対する卒業生保健師のソーシャルサポートの効果	共	2016.	8. 5	(力 日 2	<ul><li></li></ul>	日本看護 賀県) 学会集録 (P182)		金業生の学生の大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの	こよる? のソー: の職業的 成に及り 司発表	交流会 シャル ずす効 者 <u>布</u> を 優・ 仮々美	
2. 女子大学における 保健師課程学生の キャリア形成と卒 業生保健師の支援	共	2016.	10. 28	学行	会(於 本公衆	日本公 大阪市 大衛生学 0,p597	<del>打</del> )	大学 生保( めを) 後の 唆を で ②共[	生のキー	ャリア 技援内 物法的 に ア試験 に 古 した。	をする女子 形成と卒業 容の受けと こ分析し,今 こ向けた示 や美香・ <u>布花</u> ・佐藤優・伊

2 0 16 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		行又は その年月			発表雑 学会等の			概		要	
										島美也 折及び	子 本文推敲修	W.

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
	(1) 共 同 研 究											
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	目		交价	寸団体		交付決定額 (単位:円)		備	考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月~現在に至る
日本私立看護系大学協議会	教育,学術および文化の国際 交流委員会委員	2015年4月~現在に至る
北九州市介護サービス第三者評価機 関(社会法人 福岡県社会福祉士会)	事業評価者	2009年4月~現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月~現在に至る
福岡県広川町健康づくり推進委員会	オブザーバー	2016年8月~現在に至る

### 1. 学生募集委員会

- 1) 学生募集活動として、地方会場(山口)の入試説明会に出席した。卒業生のスピーチを依頼、内容の推敲を行った。
- 2) 看護学科オープンキャンパスの企画及び当日の運営を行った。
- 3) 学生募集に係る本学の PR (パンフレット等) を入試課と協働して作成した。

### 2. 看護学科カリキュラム作成委員

昨年度,学科カリキュラム評価委員会から引き続き,2018年度改定カリキュラム開始に向けて,カリキュラムの検討(検討会の開催21回)を行った。

#### 3. 国家試験対策委員

前年度は保健師課程履修者と旧カリ学生を複数名加えた国家試験で 100%を達成した。今年度は、前年度を ふまえ、公衆衛生看護学実習終了後から、保健師国試業者模試の実施、結果分析に基づく強化補講対策を講じ 実施した。

#### 4.2年生アドバイザー

正規授業外活動として、2年生担当学生の学修及び生活支援を行った。

- 1) 前期試験対策に向けた学生のグループディスカッションの実施 (7月)
- 2) 低学年実力試験の実施、その後の問題解説のノートづくり指導(10月~11月)
- 3)1年生との交流会について、2年生を主体にした企画、運用の実施(6月・2月)
- 4) 保護者懇談会(10月)
- 他、随時、アドバイザー学生の個別相談対応を行った。

戊名	氏名	新木 眞理子	職名	准教授	学位 博士 (医学) (山口大学 2011年)
----	----	--------	----	-----	-------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
老年看護学					祖父母的ジェネラティヴィティ エリクソン 解釈学的現象学 ハイデガー 要介護高齢者

### 研 究 課 題

### 「要介護高齢者の気遣いの世界」

要介護高齢者の気遣いの世界を明らかにすることで、祖父母的ジェネラティヴィテイの源を探るという研究課題に取り組んでいる。ハイデガーの解釈学的現象学を基盤とした質的帰納的研究という手法を用いる。

### 担 当 授 業 科 目

成人・老年看護学概論(前期)

老年看護方法論(後期)

老年看護学実習 [ (通年)

老年看護学実習Ⅱ (通年)

看護総合演習・実習(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【成人·老年看護学概論】

- ・講義開始前に小テストを実施し、予習による授業理解度の向上をめざした。
- ・老年看護における倫理的原則について、具体例を挙げ、学生への質問を投げかけることで理解を促した。
- ・その日の講義内容に関連する国試過去問題を提示し、学生に解答とその根拠を問い、知識の確認・定着を 図った。

# 授業科目名【老年看護方法論】

・昨年と同様に、国試の出題基準の小項目ごとにグループワークを行い、パワーポイントによる発表を課題 とした。今年はスライドの枚数を3枚とし、学生の発表時間を短縮することで、教員の解説の時間を増や し、要点整理が充分行われるように配慮した。

## 授業科目名【老年看護学実習 I】

・今年から、事前学習課題をレポートという形にせず、学内オリエンテーション時の小テストという形で 行った。小テストの点数で、学生の準備状況を確認することができ、テスト終了後に、知識の確認のため の口頭試問、補足説明を行った。臨地実習初日の情報収集のための準備を整えるという点では効果的であ った。

#### 授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】

・臨地実習2日目の全体像発表時に、個々の学生に、より具体的なコメントを提供することで、3日目(最終日)の気づきがより具体的な気づきとして語られた。学内最終日のグループ討議では、介護施設での看護を契機に、自分や自分の家族に引きつけて老年看護のあり方を改めて考えてみる、という場を設けたことで、学生個々が具体的な課題をもつきっかけ作りをすることができた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護科学学会		1995 年~現在に至る
日本老年看護学会		2000年~現在に至る
日本老年医学会		2010年~現在に至る
日本看護学教育学会		2001 年~現在に至る

2 0 1 6 年度	研 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		・ ア ア ア 年月			発表雑言 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文) 要介護高齢者の気遣い の世界―祖父母的ジェ ネラティヴィティの源 を探る―	共	201	7. 3	西幸 Vol.		院大学	紀要	迎 第 子、言	通して、 遣いの† て、祖父 ヴィティ 共著者名	要介護世界を と母的シ の源を 子、神谷子、丸山	一个の面接を 長高齢者の気 明らかにし ジェネラティ ・探求した。 ・探求した。 ・英二、東玲 」泰子
(翻訳)											
(学会発表)											
								著書学術語	1(第	单0、 1 0(単	7.3現在) ķ1) <sup>〔</sup> 6、共4) <sup>〔</sup> 2、共14)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
(1) 共 同 研 究							
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
要介護高齢者の祖父母的ジェネラティヴィテ	文部科学省	○新木眞理子	1,560,000				
ィ発達を促すケアの開発	基盤研究C	東玲子					

外部資金(科学研究	費補助金等)導入状況(本名	学共同研究費を含む)	
(:	2) 個 人 研	究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円) 備	考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等
<ol> <li>北九州がんを語る会</li> <li>認定看護師研修</li> <li>語りと看護実践研究会</li> </ol>	世話人 講師	2003年~ 2011年8月~2015年3月 2013年11月~2015年1月

就職委員会 2016年4月~2016年3月31日

看護学科実習コーディネーター 2016年4月~2016年3月31日

氏名 石井 美紀代 職名 准教授 学位 修士 (看護学) 大分医科大学 2001 年

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
地域看護学					在宅ケア、訪問看護

### 研 究 課 題

「在宅」の定義が拡大し、在宅が自宅を指すものではなくなった。高齢者住宅、高齢者施設、グループホームなど、その人の生活の場において多職種協働のもと展開されている在宅ケア、看護職に求められるニーズについて研究する。

# 担 当 授 業 科 目

基礎学習ゼミ I (看護学科1年 前期)

基礎学習ゼミⅡ(看護学科1年 後期)

保健医療福祉行政論(看護学科2年 前期)

対象別保健指導論(看護学科2年 後期)

在宅看護学(看護学科3年 前期)

在宅看護学演習(看護学科3年 前期)

在宅看護学実習(看護学科3・4年 通年)

看護総合演習(看護学科4年 前期)

看護総合実習(看護学科4年 前期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

本授業は、初年次教育として10名の専任教員で学生を10人ずつ担当している。また、基礎学習ゼミは、アドバイザー役割もある。成績不振者の個別指導に加え、精神的に不安定な学生の見守りもあった。これらの学生については、看護学科教員で統一した指導内容で接していった。

今回、私は基礎学習ゼミIの企画を担当した。基礎学習ゼミIでは、高校の学習から大学の学びの移行を目的としているため、基本的リテラシー(聞く、読む、話す、書く、考える)の修得を目標に、論証型は『トの作成に取り組んだ。図書館の協力を得た「文献検索の仕方・レポートの書き方」の講義から、実際には『ト作成の過程をワークシートに沿って、グループでディスカッションしながら論証していった。

基礎学習ゼミで論証型は、小に取り組むのは初めてだったため、10人の教員で目標と手法を共通理解する事からはじめた。また、学生は、高校までに感想文は書いているが論証型は、小は初めてで、文献の要約から 戸惑っていた。そのため、全体講義 → 小グループでのディスカッション を繰り返して実施した。

#### 授業科目名【保健医療福祉行政論】

本授業は3人の教員で担当するため、事前に講義の項目、内容についての打ち合わせをし、前回の授業の復習からはじめ、それに繋げて今回の授業を展開するようにした。また、科目の名称から、本授業を「看護と関連するものの、看護学とは別物」ととらえている学生も多い。そのため、この内容は患者の看護にどう活用されるかを、意識して説明した。

講義資料は、重要な部分を学生が書き込むように空けて作成した。また、毎回、最後に、講義内容に関連した 国家試験問題を出題し、解答、解説した。さらに、毎回、出席カードに授業の評価を書いてもらい、質問が書 かれていた場合は、次の講義で答えた。しかし、学生の学習量を増やすことができなかったことが反省点であ る。

### 授業科目名【対象別保健指導論】

本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業である。看護師課程の受講者も14名あった(途中で1人が放棄)が、保健師国家試験をクリアする事を目指し、授業の難易度をあげておこなった。教科書とオリジナルの授業プリントで保健師活動の目的、特徴を解説し、保健師ジャーナルから公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。ポイントを説明しながら読ませると、学生は保健師専門雑誌に興味を示し、授業の後半では最低限の解説で内容を理解した。

15 回の授業のうち、前半は講義の終盤にテーマに関連した課題を出して小グループでのディスカッションを行った。これまで1対1の回答に慣れているので、複数の要素をまとめて記述することが小グループでも難しかった。後半は、テーマに関連した課題を個別のワークシートで提出させた。記述については個人差が大きくなったため、関連要素をまとめて記述することの訓練をする必要性を感じた。

#### 授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。そのため、実習中に実習施設と療養者家族にお願いして DVD や写真を撮り、在宅看護学の講義ではそれらも媒体に加えた。

在宅看護学演習では、導入で「訪問看護が必要な寝たきり高齢者にとって望ましいのは住み慣れた自宅で過ごすことである」をテーマにディベートを実施した。ネットで資料を得る学生が多かったが、家族介護を社会のありようとつなげて考えることに有効であった。一方、地域ケアシステムを理解させるため、グループワークでソーシャルサポートを調べて図式化させ、次の講義で良く書けているグループの図を配布し解説したが、全体的にネットワークの枠から広がらなかった。看護過程の演習は、グループワークをしながら個人個人で提出するが、講義の最終日提出にしていたため定期試験直前となり、学生に不評だった。時期を考えたい。

#### 授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が1対1で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。

病棟の実習では、学生は1人の患者を $2\sim3$ 週間継続して担当するため、複数の患者の看護を同時に考えることができない。訪問看護は、1人の看護師が1日 $4\sim6$ 件訪問をするが、実習では同伴訪問1日 $1\sim3$ 件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。

一方で、私を含め4人の教員(非常勤助手含む)が学生の指導を担当するため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や自己研鑽の機会につながった。また、助手が担当する施設にはなるべく足を運び、学生の引き締め、助手の指導を実施した。

#### 授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの実習での疑問、もっと深めたいことから、 学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。

看護総合演習では、段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待し、毎週 1回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。看護総合実習は、学生が選んだテーマに合った対象が複数いる訪問看護ステーションにお願いして実習させていただいた。事前に文献で調べていくため、学生は指導看護師に多くの質問やディスカッションができ、看護師の語った内容が学生の考えが及ばない視点にあることも理解できた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月~(現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月~ (現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月~(現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月~(現在に至る)
日本老年社会科学会		1999年4月~(現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月~(現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月~(現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月~ (現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月~(現在に至る)

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	- る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書) なし											
/4 C											
(学術論文) 認知症高齢者グループホームにおける入居高齢者の排便状況改善に向けた援助 一職員と研究者のケアカンファレンスを通した協働介入一	共著	2017. :	3	1		ア事例シ . 9 No.		2	ムの職員 アレンス した。そ 者と助た。 共同研究 美紀代、	と研究 を行い を促す の変化 者: 丸山つき につき	ループホー 者がカンフ 、入居者に対 ケアを提供 による、てま について、石井 子、原等子、原担当部
(鄱浦尺)											
なし											
(学会発表)											
なし											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1)	共 同 福	研 究						
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					
なし								

	外	部資金	(科学)	研究費補明	加金等)	導入状	況(本	マ学共同研究費を含む	<u>'</u> S)		
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	ĺ	莆	考

なし		
<i>ω Θ</i>		

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の	D名称 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	
北九州市介護認定審査会			委員					200	7年4月	~20	17年3月	

# [大学委員会]

教務委員

教務総合人間科学小委員会 委員

大学機関別認証評価部会 総括部、第2基準部

# 〔学科役割〕

1、2年生アドバイザーカリキュラム検討委員

 
 氏名
 前田 由紀子
 職名
 准教授
 学位 修士(教育学)(九州大学 2004年) 博士(教育学)(福岡大学 2010年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、共感性、倫理、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア

研 宪 課 題

精神科看護における倫理に関する研究 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

### 担 当 授 業 科 目

精神看護学概論(後期)(看護学科)

精神看護方法論(後期)(看護学科)

精神看護学演習(前期)(看護学科)

精神看護学実習(通年)(看護学科)

看護研究の基礎(前期)(看護学科)

看護総合演習(前期)(看護学科)

看護総合実習(前期)(看護学科)

看護教育論(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【精神看護学概論】

心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。また、国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。

### 授業科目名【精神看護方法論】

精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理の課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。グループの担当を決め、授業前にプレゼンをさせ、さらに知識定着のため国家試験形式の問題と解説を作成させ、基礎的な知識を確実にするように努めた。冬期休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。

# 授業科目名【精神看護学演習】

精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論を用い、セルフケアについてグループで十分にディスカッションを行った。例年、グループワーク中の机間巡視を助教2名と共に行っていたが、今年度はA病院の指導者4名が演習に参加し、ディスカッションに加わった。指導者より具体例を提示され、精神科看護のイ

メージが捉えやすくなったと思われる。ディスカッション後は、グループごとに発表させ、その後、事例に沿って精神科看護のポイントの資料を作成し解説した。配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。

## 授業科目名【精神看護学実習】

実習前は、事前学習(精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識)の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与えた。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実に努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。今年度はA病院の指導者が演習に参加したため、A病院の学生は緊張が軽減していた。実習では、精神に障がいを持つ患者とのかかわりの時間を十分取れるように計画し、患者との関わりから自己理解、他者理解ができるよう支援した。意欲的な学生には学生主催のレクリェーションを実施させ、さらに精神科看護に理解を図った。帰校日にロールプレイを取り入れることで、自らのコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション技法の向上を促した。PSW の講義やデイケア実習を取り入れ、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めさせた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。カンファレンスでの意見交換が年々難しくなっており、今後の課題と考えている。

# 授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】

6 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。例年、精神障がい者の訪問看護と就 労支援を中心に展開していたが、今年度はデイケア実習も取り入れ、精神障がい者の地域生活の理解が深まっ たと考える。4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい 者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッション を行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマでレポートを作成し、研究的思考が反映 されるように支援した。実習では、主体的な実習が展開できるように、実習計画をグループで考えさせ、施設 との交渉も学生のでき得る範囲で進めさせた。

## 授業科目名【看護研究の基礎】

3 年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるため、文献クリティークの時間を増やし、研究テーマの絞り込みに役立てることができた。

#### 授業科目名【看護教育論】

日本の看護教育制度、看護教育カリキュラム、看護職の生涯教育を取り上げた。日本の看護教育の変遷と戦後 数回行われたカリキュラム改正について解説した。その後に現在の看護教育制度の課題についてディスカッションし、今後の看護教育のあり方を考えさせた。4年生後期8コマの授業であるが、選択科目であるとともに 国家試験の勉強が忙しくなる時期になるため、希望者が少なく少人数の授業であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学会		1984年4月~現在に至る
日本看護福祉学会		2002年4月~現在に至る
日本看護科学学会		2003年4月~現在に至る
日本看護研究学会		2003年4月~現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007年10月~現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007年10月~現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008年4月~現在に至る
日本看護学教育学会		2008年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	ま 研	究	業	績	等	lZ.	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) なし											
(学術論文) 1. 臨床実習における看護学生の共感性、道徳的感性、自尊感情に関する研究	共	2017,	3	西南 21	女学	院大学	紀要	護尊性し感がっと性徳もれ②③ 学感をた情影た自に的のた共29 9.22	実情とを響すり見感で 著習 共し護めるた情はがない 松	後姓そ生るこ看共ら期可尾当の看は関共とが学性な間能に対	よび連続に明生されで性前がまで進感に明生されて性になる。これでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個
2. 精神科における大卒 新人看護師が求める能力と獲得過程—入職後1 年間のインタビュー結果から—	共	2017				<b>  本看護</b>		へ師ないか師力療看のと②③のが能るでは関護をが共和にのは関連をが共和に	就職できる。	希望しまたでは、1年1年2年に変換して、1年2年である。 (大学のの) (大学の)	精神科病にという。とは、神科などのでは、という。とは、神科などのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、は、ないのでは、は、は、ないのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
(翻訳) なし											

2 0 1 6 年度	更 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑誌 学会等の	·		概		要
(学会発表) 1. 精神科における大卒 新人看護師のニーズの 検討―新人看護師とプリセプターへのインタビューより―.	共	2016		看言		日本精神会学術質)		一師が導病わ新を務時導様人明②子③のの目の棟り入作時間】子看ら共 第2	見二り見全ケ膏も間をスこ雙い司をです。とで見る間とスこ雙いるとで見ばりとなっている。 ほうしん おいじょう ロー・ディン はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいか	月をるし育子が分でるフで司っといいがり、ててり聞の新】か情じた:松いらり、(る)がき経入業ら鞠跡。 尾	こし、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では
2. 精神科における大卒 新人看護師が求める能力.	共	2016.9	)	精礼		日本看護 養 - 学術 森)		たど識とかとつ人興科テ②綾③	をまないないでは、大きないないです。これでは、1年のでは、	が、技まそ的とも間)の出出:前に対している。 間のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	日由紀子、松尾 学会-精神看護
3. 看護学実習前後の看護学生の自尊感情と共感性の変化とその関連	共	2016.	12			日本看護 集会(於		精神の実施を持った。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	看護学等 が終了後 共感性 対した。 学生の目 生におい	実習前後の看記の変化 専門領 専門領 自尊感性	無床実習前と 後、全ての臨床 養学生の自尊 とその関連性 域別実習を通 青は高まった。 気取得が専門 、。自尊感情と

2 0 1 6 年度	研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月		, , , ,	発表雑誌 学会等の			概		要	
							ま自れと共成 2 共原 3 第3	と他者が習を通 関を通 感性を高 ことが同 司発表者	いらの ・ 尊重で して学 高める 素める ・ 記 ・ 記 ・ 社 に ・ 本 看 ・ 社 に ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本	綾、前田 科学学会	けず、 えら <b>享感情</b> 要で 日由紀
4. 精神看護学実習後における学生の倫理に関する思考	共	2016.12			日本看護集会(於		習思 10違るまた判こが②紀③集を考す項≫判結断と抽共子第会	冬と一感《所限とな出司 6少え明ド感複さ例すくさ発松回録にられる完れ表尾日集	学に19 たのだと、またまでは19 たのにた≪る、まででは、19 をできる。そのでは、18 では、18		すあ、結と薦り以こ
5. The ethical thinking of students after psychiatric nursing practice	共	2017.3	For Sch		East A		践か教学でりなにつる、た的が②紀③ 後に育生個違い振ここ意な思示共子A	かったとし、和学りとこれ見き変词学倫様とで感生返にがに点をさ発松早理でするを終りまで言名は、社会を発展	かにすて、え感いの)き語界から音奏 T m理いる備るじる場学る。化こう 後 BOOK	精切でで的と学かがま和促とまで、精悪のありので間断生し、一付にこである。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。原料を対する。	明的看つでき習でをいて倫と、田らな護いあで後持得て新理と、由

外部資金(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> (2)
(1)	共 同 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
看護実践能力促進のためのキャリアプラニン グに必要な教育の検証	文部科学省科 学研究費補助 金	○(立石和子)、前 田由紀子、(谷岸悦 子)	1,170,000 円
精神科病院に就職した新人看護師の現状と課題	西南女学院大学保健福祉学部付属研究所	○前田由紀子、松尾 綾	176,000 円
精神看護学における共感性と倫理的感性に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部付属研究所	○後藤有紀、前田由 紀子、松尾綾	120,000 円

		外	部資金	(科学)	研究費補明	助金等)	導入状	況(	本学共同研	肝究費を含む	<u>t</u> s)	
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	I		交价	付団体		交付決 (単位		備	考
なし												

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

# 〔大学委員会〕

図書委員会2016年4月1日~現在に至る

〔学科役割〕

国家試験対策委員 2016年4月1日~2017年3月31日

3年生アドバイザー 2016年4月1日~現在に至る

〔模擬授業〕

私立早鞆高等学校 2016年12月

氏名 髙橋 甲枝 職名 講師 学位 修士 (看護学)
----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
急性期・回復期の技術教育	<ul><li>看護技術教育</li></ul>	
運動器疾患を持つ患者の看護	・ 運動器疾患を持つ患者の QOL	
家族看護	・ 三角筋筋肉注射の安全性	
	・ 足浴の生体に及ぼす影響と実践	

# 研 宪 課 題

- ・ 2008 年~2013 年にかけて、大分大学の主任研究者清村教授とともに筋肉内注射の部位の検討を行うため に解剖体での検討を行った。 さらに 2013 年度は MRI 検査を行い解剖体での結果を検証した。 MRI 検査 と解剖体との関係について学会発表を行い、現在投稿中である。
- ・ 2012 年度、小田教授とともに足浴の基礎的研究を行い、2013 年度学会発表、2016 年度投稿を行った。今後は、基礎研究で得られた効果について、運動器疾患患者のしびれに対する足浴の検討を行っていく。
- ・ 運動器疾患の患者の研究に取りかかり、文献検討を行った。倫理審査通過後 2017 年度は運動器疾患の患者を対象に調査を行う予定である。

### 担 当 授 業 科 目

リハビリテーション看護学(前期)

成人急性期看護方法論(後期)

成人・老年看護学演習(前期)

成人・老年看護学実習(前期・後期)

救急・クリティカルケア看護学演習(後期)

看護総合演習(前期)

看護総合実習(前期)

国際看護論(後期)

看護学(栄養学科)(後期)

基礎学習ゼミI(前期)

基礎学習ゼミⅡ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【リハビリテーション看護学】前期 15 コマ,30 時間

リハビリテーション看護学は、3年次開講科目である。2年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。

昨年度の課題であった外部講師との講義内容の重なりを精選して、講義のゆとりを確保したことで、学生への講義内容の充実につながった。

# 授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ, 30 時間(5 コマ担当)

成人急性期看護方法論は、2年次開講科目である。3人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の概論では、手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護について解説を行い、モデル人形を用いるなど、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。

### 授業科目名【成人・老年看護学演習】前期 30 コマ,60 時間

成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、昨年度までは慢性期事例と急性期事例の2例であったが、実習への繋がりを考慮し、本年度は急性期事例(胃がん)、慢性期事例(肝硬変)、老年事例の3例を展開した。今年度も看護過程演習の講義・演習の担当を行い、演習計画立案、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。学生から課題が多いという指摘を受けた。しかし、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調したい。

看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の5項目からなる。手術後の観察演習はシミュレーション演習を行っている。演習回数を2回に増やし、学生がゆとりを持って演習ができるように変更を行った。また、実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。

### 授業科目名【成人・老年看護学実習】前期3週間2クール 後期3週間4クール

成人・老年看護学実習は従来の2週間実習にICUおよび手術室見学実習を導入し3週間実習とした。 病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への 指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認 を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教 の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確に することで次の実習に繋げるように努めた。ICUおよび手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリ エンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を取り入れた。実際の物品をもとに説明を行う ことで目的や方法についての理解に努めた。

#### 授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間

3 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題について グループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による 実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を 深めるように努めた。

# 授業科目名【看護総合演習】前期 15 コマ 30 時間

看護総合演習では、急性期・回復期6名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を図った。また、実習に必要な基本的な技術(清潔の援助、点滴管理)や消化器病棟、手術室、救急部で必要な技術演習(観察、心電図など)を行い、実習に備えた。さらに、実習後は論文形式でレポート作成の指導を行った。

4年生は就職および国家試験を控えているため、学習支援と就職活動の相談・指導を行った。

#### 授業科目名【看護総合実習】後期 2週間(臨地7日間)

看護総合実習では、学生の課題達成のために消化器外科、手術室、救急外来で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。

学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。

### 授業科目名【国際看護論】後期 8コマ15時間

国際看護論は2年後期、選択科目で22名が受講した。導入として、海外での協力経験について語り、学生が興味関心を持てるようにした。さらに、外部講師から開発途上国の現状や看護などを学んだ。女性性器切除など日頃学ぶことのない問題について考える機会となった。1名未修得となったが、他の学生は課題に取り組み講義を受けることができていた。最終レポートは途上国についてアセスメントガイドを用いて考察し、看護について述べることができていた。

### 授業科目名【看護学(栄養学科)】(後期)3コマ6時間

看護学は栄養学科、選択科目である。7名の教員が担当し、その調整および評価責任を行った。内容は発達課題、健康段階にそって講義展開を行った。学生の事前準備としては、課題提示を行い講義に臨むようすることで講義内容の理解と関心に繋がるようにした。

15回中3回担当し、看護概論や急性期の特徴および手術を受ける患者の心理について講義した。その際は、管理栄養士あるいは栄養士との共通点や違いを説明し、協働のあり方について説明を加えた。評価はルーブリック評価を導入して、レポート評価を行なった。学生は協働する看護師の役割について考えを述べることができていた。

# 授業科目名【基礎学習ゼミ I】(前期) 8コマ16時間

必修科目1年前期科目で10名の教員で演習を行った。1年生前期ということで一人暮らしをはじめた学生もいるため、学習および生活指導を兼ねて指導を行った。

基礎学習ゼミIでは、5名ずつの2グループに対して基本的なスキル(聞く、読む、話す、考える)の強化のためにレポート作成指導を行った。学生の興味を活かし、図書館ガイダンス内容を踏まえて学生が基本的な知識をもとに主体的に学習することができるように発問を行い、発言しやすい環境を整える工夫を行った。

### 授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】(後期)8コマ16時間

必修科目1年生後期科目で、10名の教員で演習を行った。5名ずつの2つのグループのディベート指導を行った。ディベートを通して、前期で学んだ批判的な思考および文献検索方法について学生が既習の知識を使用して学習できるように支援を行った。学生は演習を通して、基本的なスキルの向上と探求する必要性を学ぶことができていた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987年4月~(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995年5月~(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004年7月~(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004年7月~(現在に至る)
日本看護技術員		2011年4月~(現在に至る)
日本運動器看護学会員		2015年2月~(現在に至る)

2 0 1 6 年度	研	 究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 安全・安楽な下肢温熱刺激法に関する検討 - クロスオーバースタ ディによる準実験研究	共	2017.3	西南女学院大学紀要	下肢温熱刺激法の方法について安全・安楽の観点から、足温浴、下腿温浴、下腿蒸しタオルの3 通りの方法を検討した結果、下腿温浴が、より安全・安楽な方法と考えられた。
				小田日出子、清村紀子、 <u>髙橋甲</u> <u>枝</u> 、水原美地、塩田昇 西南女学院大学紀要, 21, 2017.

2 0 1 6 年 度	研	究 第	美	績 等	12	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又/ 発表の年		発行所、 又は発表	発表雑記 学会等の			概		要
(その他) 皮下注射や筋肉内注射 では、注射後に注射部位	単	2016.12		月刊ナー (14)p		ž 36	ケア」			けない看護 射後のマッ
をマッサージしてはいけない薬剤があること							サージ		てはい	けない根拠
を知らないとリスク大										
(翻訳)										
(学会発表)										

外部資金(科学研究費	費補助金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	·s)
(1	1) 共 同 石	研 究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外部	部資金	(科学	研究費補則	力金等)	導入状	況	(本学共同研究	費を含む	<u>_</u> C)	
				(2)	個	人	矽	开 究			
研	究	題	目		交付	付団体		交付決定 (単位:P		備	考

社 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任 期	間	期 等	
・オープンキャンパス模擬授業 「入院中に患者におこるエコノミー クラス症候群!?」~看護で防ぐ合併 症~						2016.9	.11			

公開講座委員会:2016.4.1~2017.3.31

卓球部顧問:2014.4.1~2017.3.31

2 年生アドバイザー: 2016.4.1~2017.3.31 1 年生および 4 年生との交流会、保護者懇談会、低学年模試の企画・運営を行った。

戊名	氏名 梶原江美	職名講師	学位 修士(看護学)(佐賀医科大学 2003 年)
----	---------	------	---------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
基礎看護学					ラテックスアレルギー
看護教育学					看護基礎教育
					看護技術
					コミュニケーション

研 究 課 題

看護基礎教育におけるラテックスアレルギーの予防に関する研究 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究 ケアリングに関する研究

### 担当授業科目

看護技術論 (前期) (看護学科)

生活援助技術論 (後期)(看護学科)

ヘルスアセスメント(後期)(看護学科)

看護理論(後期)(看護学科)

診療関連技術論(前期)(看護学科)

看護過程論(前期)(看護学科)

基礎看護学実習I(後期)(看護学科)

基礎看護学実習Ⅱ(前期)(看護学科)

看護のための臨床検査(前期)(看護学科)

総合看護演習(前期)(看護学科)

総合看護実習(前期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 看護技術論 】

科目構成は、前年度と同様に「看護における安全と安楽」「コミュニケーション」「記録・報告」「環境」「早期実習」とした。早期看護実習では、臨地で看護師の役割を実際に見て、聞いて、触れて、自分が目指す看護を考える機会となる。実習での学びがより深まるように、早期実習の日程に合わせて学内での技術演習スケジュールを組む他、療養空間での患者体験や騒音計や照度計を用いた環境アセスメントなどの課題を取り入れて実施した。演習スケジュールや課題の提示期間に際しては実習室を使用するため、他の科目責任者のご協力をいただき調整を図った。学生は、授業時間外に技術の自己練習や課題学習のために実習室を訪れまじめに取り組む姿勢が見られた。また、学生にとっては、看護を学ぶスタートラインに立っていることもあり、非常に意欲的な学生が多い。初回時には、現場で使用する看護用語をA4-3枚にまとめ、配付した。早期看護実習や筆記試験前には、熱心に見返す学生も多くみられ、学習意欲の高さを感じ取っている。

一方で、入学直後の開講科目であることと、実習が含まれているため、漠然とした不安を抱える学生も中に ろうと想定している。対策として、学生の出席や課題提出の状況の把握に努め、些細な不安や相談にも応じる 努めた。

### 授業科目名【 生活援助技術論 】

生活援助技術論は、日常生活援助技術を学習する科目である。科目構成は、「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」「感染予防」である。学生の普段の生活体験と援助を結びつけることを意識する。また、看護形態機能学との関連が特に必要な食事・排泄に関しては、事前課題を出して講義を行った。昨年の反省を生かして課題提示時期を早めた。学習意欲の高い学生は、丁寧な事前学習の仕上がりや質問に来る者もいた。来年度は、このような学生率を上げるようにしたい。授業は講義と実技演習が主となる。そのために、技術演習指導として携わる他の教員とともに、各演習で事前打合せを行うことは例年に倣い、学生のレディネス、技術指導の要点とその優先度を確認して臨んでいる。しかし、演習終了後の反省は、時間を有効に活用するために各演習担当教員に個別聴取やメールでの通知をお願いした。その後の演習に支障はない様子であったため次年度もこの方法をとっていきたいと考えている。学生への技術支援としては、希望があれば、日程を調整して時間外に技術指導を行っている。また、学生自身が、教員の予定に左右されずに、積極的な学習を可能にする視聴覚教材も一通り作成し終え、今後は、効率的かつ効果的に学習ができるようサポートする予定である。

## 授業科目名【 ヘルスアセスメント 】

主にバイタルサイン測定の実技チェックを行い、正確な測定と測定に関する意味が理解・実施できているかの確認をし、必要に応じて助言・指導を行った。

#### 授業科目名【 看護理論 】

ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」をテキストに使用し、ヘンダーソンが唱えた看護独自の機能とヘンダーソンが14項目挙げている人間の基本的欲求について解説をした。ヘンダーソンの唱える14項目は、日常生活行動を軸に平易な言葉で組み立てられているので学生には親しみやすいという利点がある。「看護の基本となるもの」を事前に読んでくるようにして、講義では、解説のほかに、事例を用いたグループワークを用い意見を促した。

#### 授業科目名 【 診療関連技術論 】

吸引の実技チェックに関わり、基礎看護学領域のメンバーで事前打ち合わせや事後の反省会を設けながら学生の技術習得につなげていった。

#### 授業科目名【 看護過程論 】

基礎看護活動論演習は、紙上患者を用いて看護過程を展開する演習である。非常勤助手とともに2名で、4グループ約30名の学生を担当した。患者状況のイメージ化にはDVD(教員のロールプレイ)を活用した。また、事例展開して導き出した看護技術は、実際に学生が実施し、情報の整理からアセスメント、看護上の問題を明確化し、目標・計画立案までの思考の整理と実践・評価までをトータルに発表することで一連の看護過程のステップが踏めるように工夫している。特に個人学習を強化するアセスメントとグループでの取り組みでも学習効果が期待できる計画立案など、グループの学習達成状況を踏まえながら指導をしていった。

## 授業科目名【 基礎看護学実習 I 】

この実習は、学生が初めて臨床で患者を受け持つ実習となる。プロセスレコードを用いるため事前準備として、教員が模擬患者となりロールプレイによるプロセスレコードの演習を引き続き取り入れ実施した。実習では、看護学生としての行動がとれるようにメリハリをつけて、助言・指導を行った。学生にとっては、患者へのバイタルサインの他にも朝の計画発表や報告、カンファレンスなど初めてのことが多いため、そのことを踏まえてサポートを行った。

## 授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ】

基礎看護学実習Ⅱでは、生活援助技術の提供を臨床で実践できるよう、看護過程のプロセスを経ながら指導をしていった。特に少ない時間で記録を書く必要がある本実習では、次の日までの課題を明確にし、効率よく学習が進められるように臨床指導者とも連携して指導するよう努めた。

#### 授業科目名【 看護のための臨床検査 】

看護のための臨床検査は、2 年生前期に開講されている。担当教員からの依頼を受けて、①音叉や耳鏡を用いた聴力検査とアセスメント、②検眼鏡を用いた眼底の観察の演習を行った。音叉を使用しての聴力検査は、簡便で看護師が臨床で実施できる可能性が高いフィジカルイグザムとして、全員が演習を行い伝音声難聴と感音性難聴の違いについて解説した。耳鏡を用いた演習では、自分の耳に耳鏡を挿入して PC 上に映写することで通常医師が観察している鼓膜がどういうものかを観察したり、耳垢を観察したりすることで清潔の援助に結び付けるよう解説を行った。検眼鏡を用いた眼底観察は、普段は見ることのない眼底を除くことで、検査に携わり学習することの意欲を高めるように努めた。学生の演習での関心度は高かった手ごたえを感じている。

## 授業科目名【 看護総合演習 】

4年生7名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行った。また、看護技術演習に参加することで、自らの看護技術力を強化する機会とした。

## 授業科目名【 看護総合実習 】

4年生6名に対して、看護総合演習で各自が立案した計画に基づき、学生自身が臨床指導者と打ち合わせを 行いながら、実習を行った。教員は、学生の自立を促しながら目的が達成できるよう助言及び指導をしていっ た。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		1996年4月
日本看護研究学会会員		2000年9月
日本看護科学学会会員		2003年3月
日本老年看護学会会員		2003年3月
日本公衆衛生学会会員		2003年3月
日本在宅ケア学会会員		2003年3月
日本看護診断学会会員		2003年5月
日本看護学教育学学会会員		2005年4月
日本健康支援学会会員		2005年4月
日本看護技術学会会員		2010年4月
日本看護倫理学会会員		2011年2月
日本死の臨床研究会会員		2011年6月
STTI 会員		2011年12月
日本看護管理学会会員		2012年7月
日本ラテックスアレルギー研究		2015年4月
会会員		

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別		デ又は の年月		は発表	発表雑言 学会等( 称			概		要
(著書)											
なし											
(学術論文)											
看護師のラテックスアレルギ	共	201	6. 4	第4	6回日本	看護学会認	論文集	① <b>看</b> 護	基礎教育	の中でラ	テックスアレ
一罹患率と知識との関連				看護	管理			ルギー	· (LA)予	防教育を伝	足していくこと
(査読付き)								は、臨	床現場で	のLA予防	行動となり、
								医療安	全への取	り組みに	つながる。医療
								従事者	はLAのノ	イリスク	′集団とされる
								が、そ	の知識状	況につい	ては不明瞭な点
								が多い	。そこで	、看護師	のLA罹患率と
								知識状	況につい	て、無記	名による自記式
								質問紙	調査を実	施した。	759名の回答か
								ら無回	答を除く	749名を分	分析対象とした
								。対象	やの中でLa	A既往者に	は28名(3.7%)

2 0 1 6 年度	研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概    要
				で、先行研究と類似の結果だった。この中でラテックス製手袋使用者は13/28名 (46.4%) おり、LA発症のリスクがあることが示唆された。同時に、LAの知識について、知っていると答えた545/749名の多くは、症状のみに留まっており、発症の仕組み(29.4%)や呼吸器曝露(20.7%)の可能性について知っているものは少なかった。さらに、LAの既往の有無に関わらず、LAの知識が低く、教育現場でのLA教育を進める一方で、臨床現場での教育の必要性が示唆された。 ②共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ
(角容説) 『小児看護』2月号特集:小児 看護・小児保健でよく使用する 数値と計算、「治療・臨床検査 関連」の「酸素ボンベに関する 数値と計算式」	共	2017. 2	株式会社 へるす出版 第 40巻2号 (通関第501号)	③P. 282~284  ①小児に関わらず、成人においても、また疾患に偏ることなく看護師が酸素療法に携わる機会は多い。臨床現場で即「できる」ことを求められる技術のひとつであることから、酸素ボンベの残量や使用時間の計算について解説するとともに、酸素療法の基本的知識について解説した。 ② 飯野英親 梶原江美 松本祐佳里廣渡加奈子 近江雅代 清原智子 嶋田香 晴佐久悟 他7名 ③P. 186—191
(都記) なし				
(学会発表) 看護基礎教育で活用できるラ テックスアレルギーの知識評 価尺度に関する文献的検討	共	2016. 8	日本看護学教育学会 第 26 回学術集会 (於:東京 京王プラザホ テル)	①ラテックスアレルギー(LA)予防の一手段として、学生時代からLA知識を習得することが挙げられる。私達は、習得したLA知識を定量的に評価できる尺度の作成をめざして、LA対策が進んでいる海外において既存の尺度がないか海外文献を整理し、内容を踏まえて日本語版の尺度作成が可能かの検討を行った。文献は、MEDLINE、CINAHL、Psyc INFO、ERICの文献データベースとGoogle Scholarを用いた。その

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別		テスは の年月		は発表	発表雑 学会等( 称			概		要
								間の検掛かる②共同聡子、	討を踏ま 1件を決定 発表者: 発表者: 岩本テル 看護学教	えて、日z 官した。 <u>梶原江美</u>	曲出され、研究者 本語版作成に取り 、飯野英親、小野 26回学術集会講
								学術	(201) 蓄書 5 (F 論文 18 翻訳 0 (同 請及び楽様者	(内訳 単 内訳 単 <sub>B</sub> 14 (内	在) ),共 5) <sup>〔</sup> 3,共15 )

外部資金(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	·c)
(1)	共 同 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
看護基礎教育から始めるラテックスアレルギ 一の予防教育プログラムの開発とその検証	文部科学省	○梶原江美 飯野英親 (小野聡子)	4,160,000 円
文化的背景に基づいたケアリング能力を測定 する尺度開発と看護学生の能力への影響要因	文部科学省	○(小野聡子) 飯野英親 梶原江美	2,210,000 円

	外部	部資金	(科学研	开究費補助	加金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含む	<u>_</u> C)	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 :	会し	こお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任期	間	期 等

教育予算配分委員会 委員 (2016年4月~2017年3月)

学科内教務担当(2016年4月~2017年3月)

看護学科カリキュラム検討委員 (2016年4月~)

山口県立響高校模擬授業(2017年1月18日)

氏名 一 期 﨑 直 美 職名 講師	学位 修士 (教育学) (熊本大学 2010年)
--------------------	--------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
養護教育					学校保健、養護教諭、専門性、ケア

#### 研 宪 課 題

養護教諭による子どもへのケアを研究課題としている。近年、子どもの心身両面の不健康行動やその状況に対応するために、学校におけるケアの必要性が叫ばれてきている。学校の養護教諭は、法的には「養護をつかさどる」とされ、学校保健活動を中心としている。その養護教諭の職務の内実はケアというとらえ方もなされてきている。その養護教諭のケアがどのように実践されているか明らかにしていくことが、養護教諭の専門性を明らかにしていくことにつながる。学校における養護教諭と他職種との連携を中心としたケアの過程を明らかにしていくことで、養護教諭による子どもへのケアの方途を探求したいと考える。

## 担 当 授 業 科 目

学校保健教育法と健康相談活動と養護実習と事前及び事後の指導(4年生)基礎学習ゼミ I と公衆衛生看護学概論と看護総合演習と看護総合実習(前期)(看護学科)

学校保健と養護概説と教職実践演習〈養護教諭〉と事前及び事後の指導(3 年生)と基礎学習ゼミⅡ(後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【学校保健教育法】

学校保健教育法は、教職課程養護教諭志望学生を対象とする。とくに、4年次の養護実習で授業を行うための基礎となる授業である。そのため、最終的に履修者が、自己で授業計画を作成し模擬的に授業を行えることが主な目標である。1時間の授業内容としては、知識理解を深化させるための発表や討論と、実践力が身につくための演習を組み合わせて構成している。事前学習については、学校保健の主な保健教育の内容を中心に、演習課題については、ブレインストーミングやロールプレイ等の学習方法が身につく事例を提示している。また、各学生が実施した模擬授業については、他者評価やビデオ等を活用した振り返りができるよう工夫した。また、授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などの個別支援を行っている。

### 授業科目名【健康相談活動】

健康相談活動は、養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本を身につけること、虐待や不登校をはじめとする課題を抱えている子ども理解を深めること、また、それらの子どもへの対応を含めた実践力を高めていくことが目標となる。1時間の授業は、健康相談に必要な理論と知識に関する学びと、それをいかした演習を組み合わせて構成している。養護教諭の健康相談は、保健室来室者への対応場面を通して実践されることが多いため、保健室の対応場面を設定したロールプレイを多く取り入れた。また、その後、他者との振り返り時間を設定し、自己の振り返りを深めるよう工夫した。

## 授業科目名【養護実習】

養護実習は、今まで学んできた学校保健活動や養護教諭の職務について、学校での保健室を中心に実習し、 養護教諭の実際の働き等について学ぶ。事前及び事後の指導の講義とつなげるだけでなく、実習に向けて、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生が目標に到達できるよう、希望に応じて個別相談を実施した。

### 授業科目名【事前及び事後の指導】(前期) 4年生

4 年次の養護実習の事前及び事後の指導は、養護実習に行く事前の指導が重要になる。とくに授業への不安が大きいため、授業計画作成や教材づくりを中心に支援する。また、模擬授業の評価は、評価表を事前に学生に提示し、討論にも活用する。実習後は、実習を振り返るだけでなく、学生同士が実習校での学びを共有するために実習発表会を設定する。発表会は、学生主体で進行できるよう、授業時間外でプレゼンテーションの資料作成の支援等を行った。また、発表会には、看護学科教職課程3年生の参加できるよう時間設定を工夫した。

#### 授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】

初年次教育として、大学で学ぶための基礎的スキルの強化とメディアリテラシーの習熟を図る。具体的には、 講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、討論の進め方、また、より深い学びを得る ための文献検索の他、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法(何を学ぶか・どう学ぶ か)の習得について支援する。加えて、学生生活上の問題・課題に対する学生個々の課題解決能力の向上を目 指す。授業は、全体講義とグループ討議を中心に構成され、10人の担当者が約10人の学生を担当する。各学 生が毎回提出するレポートにコメントを記入し支援していった。

#### 授業科目名【公衆衛生看護学概論】

公衆衛生看護学概論の中の3コマで、学校保健について授業する。学校保健の概論的な内容と、学校保健を主に担う養護教諭の役割について解説する。いじめや不登校や自殺など現代的な子どもの課題や特別支援教育の中の発達障害の子どもについて、テーマについてグループ討論する場面を設定している。発達障害をイメージしやすくするために、インターネットの映像等を活用した。

## 授業科目名【学校保健】

学校保健は、養護教諭の職務の基礎基本ともいえる授業である。学生の能動的な学習を促すために、授業の 事前学習課題をポートフォリオするように指示した。課題について学生が発表後、重要点や学校における実際 の活動について解説する。また、学生の学びを深化させるために討論や小テストを実施した。学校保健でよく 利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介し、必要資料をダウンロードし授業中に活用 を図った。

#### 授業科目名【養護概説】

養護概説は、学校保健の活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な内容と、その学びを活用していくことが重要になる。学生の能動的な学習を促すために、授業の事前学習課題をポートフォリオするように指示した。課題について学生が発表後、養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について解説した。また、学生は担当する演習課題(健康診断の各検査や児童生徒への保健指導)について養護教諭役でロールプレイした。その自己評価について、他者の評価シートを参考にしながら振り返りを深めるよう促した。また、本学で実施できる環境衛生検査などを取り入れていった。

#### 授業科目名【看護総合演習】

看護総合演習は、看護実践における自己の課題を探求し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後 テーマに基づきレポートを作成する。1時間の授業では、事前学習してきた課題内容について討論しながら復 習していくように構成した。学校保健の実習を立案していく際は、看護の専門性をいかしながら実習校で保健 指導が実践できるよう支援した。実習後は、実習について個人で振り返るだけでなく、グループでの振り返り や実習発表会で各自の学びを共有できるようにした。また、各自の実践した保健指導のレポート作成について は授業時間外にも個別支援した。

## 授業科目名【看護総合実習】

看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、自ら企画した実習計画に基づいて、現場との調整も図りながら主体的に実習を展開する。学校保健の領域は、養護教諭の職務を体験し、他職種と連携しながら、保健指導を実践したりその効果について評価したりする。今年度の受け持ち学生は、教職課程の学生と保健師課程の学生が混在し、保健師課程の学生は、学校保健領域の実習経験がない。そのため、学生自身がPDCAサイクルを展開し実習に取り組めるよう、実習前に実習校見学を企画した。日々の目標や課題を明らかにし、実習目標に到達できるよう、実習準備を中心に支援した。また、実習中、学生が授業を実践する際は、可能なかぎり参観し、保健指導の内容について改善していくよう支援した。

### 授業科目名【教職実践演習】(養護教諭)

教職課程担当教員で、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う授業と主に担当する授業がある。今年度、学校の中で協働が必要となってくる栄養教諭(栄養学科)の学生と担当教員で授業を進行した。学生は、養護教諭と栄養教諭というそれぞれの立場から新しい学びが得られたようである。また、特別支援学校における養護教諭の実際を学ぶために、特別支援学校への訪問を企画した。そのような取り組みの中で、職務や資質能力について、学生自身が見つめ直す機会となるよう学生と振り返りながら授業を進行させた。

## 授業科目名【事前及び事後の指導】(後期)3年生

事前及び事後の指導は、4年次の養護実習前指導の一部を授業する。3年後期の授業は、実習前の人権教育については教育委員会と連携し講話していただく。また、実習前オリエンテーションを行ない、実習に向けての意識を高め不安の軽減を図るように支援していく。今年度の養護教諭(外部講師)による講話は、来年度採用予定の看護学科卒業者を予定している。学科卒業者という、学生が身近に感じることできる講師を選択するよう工夫している。

### 授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】

前期「基礎学習ゼミ I」の学びを受けて、さらに主体的・能動的な学習を展開する。前期同様、10名の教員で、約10名のゼミグループを形成する。後期はとくにグループワークを中心に、大学で学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)の強化・定着を図る。また、授業にディベート・マッチを取り入れることにより、PDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)の流れを具体的・体験的に学ぶとともに、分析力・批判的思考力・プレゼンテーション力(→論理的思考力・伝達力)の向上を目指す。授業中だけでなく授業時間外でも、ゼミグループの進行を支援した。振り返りシートを活用し、学生と教員の相互で目標の達成状況を把握していった。授業時間外のグループ活動でもメンバー全員が役割を遂行できるように支援した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健研究学会		2008年5月
日本養護教諭教育学会		2008年9月
日本健康相談活動学会		2009年1月
日本教育保健学会		2013年3月
日本看護協会		2015年
日本看護学教育学会		2016年4月

2 0 1 6 年度	要 研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 1. ディベートを活用した初年次教育の試み― 看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して―	共	2016.4	第 46 回日本看護学会 論文集 看護教育	①看護学科初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、質問紙調査を実施する。ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目し、ディベートの効果と指導上の課題について検討・報告した。 ②共同発表者 一期崎直美、石井美紀代、吉原悦子、小野正子、布花原明子、村山由起子、

2 0 1 6 年 度	研研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
				鹿毛美香,均 小田日出子 ③p71-74	<b>富田昇,松尾綾,</b>
(翻訳)					
(学会発表)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
	(1) 共 同 研 3	究				
研 究 題 目	交付団体	研究者       交付決定額         表者()内は学外者       (単位:円)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
	(2) 個 人	研 究				
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考			

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	

教職課程委員会委員

2016年4月1日~2017年3月31日

キャンパスハラスメント防止・対策委員

2016年4月1日~2017年3月31日

看護学科1・2・4年アドバイザー

2016年4月1日~2017年3月31日

教員免許更新講習プロジェクト テキスト担当

2016年

氏名 松下 智美	職名講師	学位 修士(保健学)(山口大学 2011 年)
----------	------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学,遺伝看護学	慢性期看護 ,糖尿病教育·看護 ,生活習慣病 , 多因子遺伝 ,遺伝看護

#### 研 宪 課 題

- ・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究
- ・遺伝医療用語に対するイメージ分析
- ・2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究

	担	当	授	業	科	目
緩和・終末期看護学	(看詞	蒦学科)				
成人・老年看護学演習	(看詞	蒦学科)				
成人慢性期看護方法論	(看詞	蒦学科)				
成人慢性期看護学実習	(看詞	蒦学科)				
看護総合演習 [慢性期·終末期]	(看詞	蒦学科)				
看護総合実習 [慢性期·終末期]	(看詞	蒦学科)				
基礎学習ゼミI	(看記	蒦学科)				
基礎学習ゼミⅡ	(看記	蒦学科)				
看護研究の基礎	(看記	蒦学科)				
看護学	(栄養	養学科)				

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名 【 緩和・終末期看護学 】 担当:がん看護(5コマ)

がん看護に関する知識は3年次の実習において必要性が高いため、実習で活用しやすいように根拠に基づいた具体的な看護方法を示しながら講義した。毎回、講義で疑問に思うことや感想を記載してもらい、次の講義時にフィードバックすることでさらに講義への関心を高めるように工夫した。また、イメージしにくいと予測される内容は動画視聴を予習として課し、学生の理解を促進できるように努めた。

#### 授業科目名 【 成人・老年看護学演習 】

看護過程演習では、知識をもとに対象(成人慢性期/成人急性期(周手術期)/老年期)にあわせて看護過程を展開する力を身につけ、根拠に基づいた看護、個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークの指導に加えて毎回の個別指導を細やかに行い、思考過程のトレーニングとなるように意識的に関わった。さらに、慢性期の事例については2回の講義・解説を担当し、慢性期の看護展開を行ううえで重要となる視点と、具体的な解答例を示しながら学生の理解が深まるように工夫した。

技術演習では、慢性期の看護技術である①糖尿病の食事療法、②血糖測定・インスリン自己注射の演習を主担当として行った。知識と結びつけながら技術を習得することだけにとどまらず、その技術を患者教育に活かすことができるように、患者の思いや生活をイメージしながら、心身の状況に沿った援助が描けるように指導を工夫した。

## 授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、 代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家 族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援につ いても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中の問いかけや小テストなどを活用しながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、意図的に問いかけ、思考を促す機会を増やすように工夫した。

## 授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の2点を意識して直接的・間接的に指導を行った。 ①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。

②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。

特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。

また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

### 授業科目名【 看護総合演習「慢性期・終末期】 】

実習前の計画立案では、自己課題に基づいた実習テーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、実習計画立案に反映できるよう指導した。

実習後のレポートでは、自己の実践を振り返り、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもって検証することで今後の課題が明確になるよう指導した。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有できるように計らった。

そのほか、臨地との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

## 授業科目名【 看護総合実習[慢性期・終末期] 】

各論実習からステップアップし、根拠に基づいた総合的な看護実践能力を培うことや自己課題の明確化を目標に、各学生の立案した計画に基づき実習が遂行できるように指導や臨地指導者との調整を行った。また、これまで経験できなかったことなどを積極的に見学・実践し、学びを拡げられるように助言を行った。実習姿勢としては、これまでより自立した姿勢をもち、専門職の一員として責任感をもって実習にあたるように指導した。

## 授業科目名【 基礎学習ゼミ I 】

大学で学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)の強化とメディア・リテラシーの習熟、 大学での学習・生活スタイルの確立、課題解決能力の向上をめざし、一人ひとりの主体性を引き出すようにア プローチすることを意識した。また、グループワークやポートフォリオ、個人面談等を通して個々の特性や課 題に学生が気付けるように関わりをもった。

## 授業科目名【 基礎学習ゼミⅡ 】

基礎ゼミIで学んだことをさらにステップアップさせ、大学で学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)の強化・定着を図り、分析力・批判的思考力・プレゼンテーション力を高めるために、特に、物事を多角的に捉え思考するということや、根拠に基づく考えを相手に分かりやすく伝えるためのスキルが具体的に理解できるように関わった。また、グループワークにおける役割の遂行、協同学習への姿勢なども育むことができるように関わった。

### 授業科目名【 看護研究の基礎 】

看護研究の計画を立てるにあたり、動機や目的、意義、方法との一貫性を保ちながら、具体的で実現可能な計画であることの重要性を理解してもらえるように、実際の計画を考えるグループワークを通して指導を行った。また、実際の研究準備や調査、執筆、発表準備等にどの程度の時間を要するのかをイメージできるように情報提供しながらサポートした。

## 授業科目名【 看護学 】(栄養学科)

発達段階別の看護を意識して、慢性期患者の看護、がん看護、終末期患者の看護について解説した。それぞれの患者の特徴、看護の特徴、看護師の役割の理解を目標に、概論的な内容に加えて一部具体例を示しながら、栄養学科の学生にもイメージしやすいように工夫して講義した。また、保健福祉医療チームにおける看護と栄養の専門職間の連携の必要性や具体的内容について説明することで、今後の栄養の専門職としての活動に結び付けられるように努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月~現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月~現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月~現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月~現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	 E 研	 究 業	 績 等 に 関	 する事項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概  要
(著書) プチナース BOOKS 症状別観察ポイントと ケア チャートでわかる!	共	2016.8	照林社	①実習でよく出会う 20 症状について、Before、On、After に分け、事前に知っておきたい基本知識、患者の状態を推測できるチャート、アセスメントに要な観察項目、その後の基本的なケアおよび主要な疾患(状態)別に治療・ケアのポイントを解説している。②編集者名:小田正枝、山口哲朗共著者名:青木久恵、穴井めぐみ、安藤敬子、小田正枝、塩町下舞紀美、宮川操、村山由起子、山口哲朗、尹玉鍾(五十音順)③担当部分: *症状④脱水がある一脱水 (P145~P156) *症状® 体がだるい—全身倦怠感—(P185~P196) *総頁数 P224 ④AB版

2 0 1 6 年度	研	究	 業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		庁又は の年月			発表雑誌学会等の			概		要	
プチナース BOOKS 実習でよく挙げる看護 診断・計画ガイド	共	20	17.1		照	林社		げ診解②共子中雪夏恭③*C*138 が脱編著・両・香・乳型23 *P138 *P138 *P138	①各科・各領域の実習でよく挙げる 50 の看護診断について、診断の意味と標準看護計画を解説している。 ②編集者名:小田正枝 共著者名:穴井めぐみ、安藤敬子、坂田扶実子、下舞紀美代、中西順子、濱嵜真由美、姫野深雪、福田和明、古川秀敏、古庄夏香、松下智美、宮川操、山口恭平、尹玉鐘(五十音順)③担当部分: *23 非効果的呼吸パターン(P85~P86) *44 口腔粘膜障害(P137~P138) *総頁数 P160 ④AB版			
(学術論文)												
(鄱清尺)												
(学会発表)												

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(1)	共	同	研	究		
研	究	題	目		交	付団体			究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	Ħ		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任期	間	期 等
<ul><li>・平成 28 年度周望学舎シニアサマーカレッジ</li></ul>	公開講座	講師			2016年	₹9月9	日	
・平成 29 年度大学入学者選抜 大学 入試センター試験監督業務	試験監督	占			2017年	₣1月 14	4 日	
・大学生と NPO の交流会(北九州市) ・キャリアガイダンス出前授業(福岡 県立若松高校)	運営担当 講師	首				F1月19 F3月16		

- ・職員研修委員
- 実習コーディネーター

(実習施設間との連絡・調整,各領域間との連絡調整,実習計画,会議・オリエンテーション日程の調整など)

- 看護学科研究推進検討委員
- · 点検評価改善会議 大学機関別認証評価部会 担当者
- ・1年生ゼミ、2年生アドバイザー、4年生ゼミ担当

氏名 財津倫子 職名 講師	学位 修士 (看護学) (広島大学 2005年)
---------------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
· 看護教育学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル
・成人看護学→	医療システム、退院調整、医療提供システム

#### 研 宪 課 題

看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、投稿準備中である。

成人看護学(急性期)に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究 を進める予定である。

## 担 当 授 業 科 目

救急・クリティカル看護学(前期:看護学科)

救急・クリティカル看護学演習(後期:看護学科)

成人・老年看護学演習(前期:看護学科) 成人急性期看護方法論(後期:看護学科) 成人急性期看護学実習(後期:看護学科) 看護総合実習・演習(前期:看護学科) 基礎学習ゼミ I (前期:看護学科) 基礎学習ゼミ II (後期:看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 救急・クリティカル看護学 】

- 1. 「急性腹症」「外傷患者」「中毒患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「生体侵襲・生体反応」について、パワーポイントで示す際、図や写真や動画を用いながら、わかりやすく解説する。
- 2.レジメの重要なポイントはカッコ抜きとし、学生が重要な個所を自身で記入できるよう工夫した。

## 授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】

- 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質 疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。
- 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。

### 授業科目名【 成人老年看護過程演習 】

#### <看護過程>

- 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
- 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
- 3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
- 4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術:JVACドレーン管理>

- 1. JVAC ドレーンの管理方法・留意点・排液方法の説明を行い、管理方法・排液方法のデモンストレーを実施 する。その後、実際に学生にJVAC ドレーンの管理方法・排液方法を実践させる。その際、手技を確認し、 出来ているところできていないところを伝え、理解しやすいよう指導した。
- 2. 擬似血清排液を JVAC に何度も注入し、再度接続することを繰りかえし、学生全員が排液の実践を必ず経験できるようした。

#### <看護技術:周手術期の看護>

- 1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。
- 2. 学生が、ベッド毎(4人)に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。

#### 授業科目名 【 成人急性期看護方法論 】

- 1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
- 2.レジメの重要なポイントはカッコ抜きとし、学生が重要な個所を自身で記入できるよう工夫した。

### 授業科目名 【 成人急性期看護学実習

- 1. 答えを教えるのではなく、学生が自分で考え行動できるように声をかけ、見守ることを心がけた。
- 2. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメント するよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点 を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
- 3. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ(自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある)、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をするべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にしている。

#### 授業科目名【 看護総合実習・演習

- 1. 総合演習においては、総合実習前に「12 誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」の 装着方法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準 備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術 演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学び となるよう支援した。
- 2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。
- 3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入 方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。
- 4. レポート作成終了後、パワーポイントで(10分)発表できる資料を作成させ、発表会を開催する(質疑応答5分)。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

#### 授業科目名 【 基礎学習ゼミ I

- 1. 担当ゼミの学生に対し面接を行い、学生の性格や住居状況などを把握し、履修方法についても確認し、希望に合うようにアドバイスした。
- 2. 全てが初めての経験である学生が相手であり、ノートの取り方・講義の聞き方・文献の読み方・話し方・ 考え方・勉強の仕方・レポートの書き方などを少しずつ理解できるよう、学生のポートフォリオの日々の振 り返りシートへ、わかりやすくコメントすることで、振り返りがしやすいように配慮した(学生が質問に対 し回答するまで、付箋を付けたままとし、自覚できるようした)。
- 3. グループワークが主となるが、話し合いに参加できていないメンバーは存在していないか、司会者は進行できているかなど、常に観察を続け、問題がある際には、進行の手助けとなる声掛けをするよう心掛けた。
- 4. 理解できているように見えても、解散する前に必ず課題の確認を行った。

## 授業科目名【 基礎学習ゼミⅡ

- 1. 担当ゼミの学生に対し後期が始まってすぐに面接を行い、学生生活で困っている事や不安に思っていることがないかを確認した。
- 2. 前期に学んだ、基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)が活用できているかを日々のグループワークを観察しながら確認し、また学生のポートフォリオの日々の振り返りシートから確認した。活用できていない学生に対しては、わかりやすくコメントすることで、振り返りがしやすいように配慮した(学生が質問に対し回答するまで、付箋を付けたままとし、自覚できるようした)。
- 3. ディベートに向けてのグループワークが主となるが、話し合いに参加できていないメンバーは存在していないか、司会者は進行できているかなど、常に観察を続け、問題がある際には、進行の手助けとなる声掛けをするよう心掛けた。
- 4. 理解できているように見えても、解散する前に必ず課題の確認を行った。
- 5. グループワークが時間内に終了できない場合は、時間外にグループワークを行っていたが、その際も必ず コメントし、学生の意欲がそがれないよう努めた。

学会における活動									
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期							
日本看護管理学会		2004年12月~現在に至る							
日本運動器学会(日本整形外科	査読委員(2009年4月~現在に至る)	2005年6月~現在に至る							
看護研究会より改名)									
日本看護科学学会		2007年3月~現在に至る							
日本看護学教育学会会員		2015年12月~現在に至る							

2 0 1 6 年度	研研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					
(翻訳)					
(学会発表)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(1) 共 同 研 究									
研	÷	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)	

	外	部資金	(科学	研究費補助	加金等)	導入状	況(本	学共同研究費を含む	<u>t</u> p)	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	

### 4年生ゼミアドバイザー(2016年4月1日~2017年3月31日)

- 1. 2016年3月には1年間の年間計画を立て、4月に担当ゼミメンバーへ配布する。
- 2. 4月の上旬に個人カードの記載事項の確認および面接を実施する。
- 3. 就職活動中は、学生の履歴書の確認、推薦書の作成を行った。
- 4. 看護師国家試験の模試後は面接を行い、勉強方法について確認する。過去の問題集を購入していない学生には購入させ、どのように解いていくかは学生に計画を立てさせ、その計画の確認を行った。
- 5. 1月に入り、模試後の結果で強化学習メンバーにゼミメンバーが3名入っていたため、学生が毎日大学に来て勉強することを目的とし、問題を作成し、毎朝10時に必修問題10問のテストを実施した。

### 1・2年生ゼミアドバイザー(2016年4月1日~2017年3月31日)

- 1. 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。
- 2. 保護者懇談会では、1年生2年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。
- 3. 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。

#### NPOと大学生の交流会スタッフ(2016年11月17日~2017年1月19日)

- 1. 2016年11月17日 (木) の打ち合わせ会議に出席し、交流会の目的とその内容を把握。看護学生約20名の参加が望ましいことについても説明があった。
- 2. NPOと大学生の交流会への参加学生を募るため、看護学生の1・2年生に対し、声掛けや、メールで呼びかけ 17名を収集した2017年1月19日の当日、体調不良にて1名欠席するが、16名の学生が交流会に出席できた。
- 3. 当日は、受け付けを行い、学生の出席確認及び資料配布を行った。交流会中は、学生の反応を観察しながら、NPO団体の方々の説明を学生と共に聴取した。
- 4. 終了後、会場(331教室)の後片づけを参加教員全員で実施

## 学生募集委員(2016年4月1日~2017年3月31日)

- 1. 2016年4月13日に第1回学生募集員会が開催され、入試説明会およびオープンキャンパスについての詳細が説明され、入試説明会担当の決定。
- 2. 入試説明会用のパワーポイントの作成。入試説明会ゲストスピーカー選出。

- 3. オープンキャンパスの模擬授業担当者の選出から決定。
- 4. オープンキャンパスのパンフレット作成。
- 5. 5月24日第2回学生募集委員会が開催され、入試説明会を想定したプレゼンテーションが実施された。
- 6. 6月19日入試説明会への参加(鹿児島会場)
- 7. 入試課からの高校訪問の依頼があれば、担当教員を選出し依頼。
- 8. 6月8日福岡県立中間高等学校で模擬授業 (50分×2回)、10月21日門司学園高等学校で模擬授業 (50分×2回) にて高校訪問した。
- 9. 在校生による高校訪問を計画し、実施した。
- ・対象校として、必ず毎年学生が入学している指定校推薦の高校、隔年毎しか学生が入学していない指定校推薦高校、指定校推薦校ではないが必ず学生が入学している高校、加えて山口・大分の高校で、隔年毎にしか指定校推薦の学生が入学していない高校36校をピックアップした。
- ・対象校36校出身の在校生の中で、責任感がありしっかりしている学生を選出し、高校訪問の依頼をした。高校訪問の内容としては、お礼に加えて西南女学院とはどのような大学であるかを伝えてもらうため、現在の大学生活について話をしてきてほしいことを伝えた。持参するものとしては、手土産として、浅野先生が準備して下さったお菓子と西南女学院のオープンキャンパスのご案内パンフレットとし、学生への説明会(依頼)の際に配布した。
- ・高校訪問してくれる学生へは、1000円分の図書カードをお礼として渡した。
- 10. 7月16日 (土)、8月21日 (日)、9月11日 (日) に開催された、オープンキャンパスの運営・進行を行った。
- 11. 北九州ゆめみらいワークの担当者選出。8月26日(金)の開催当日には、写真撮影を実施した。
- 12. 過去4年間の卒業生の出身校を洗い出し、出身校の偏差値、卒業時のGPA及び入試形態も含めて、分析した。

## センター試験監督 (2017年1月15日 (日))

- 1. センター試験二日目、朝8:00に九州国際大学へ集合した。
- 2. 試験開始の9時30分から16時まで試験監督を行い、その後は全ての試験が終了するまで待機した。
- 3. 全ての確認が終了し、18時解散

## 生物入学試験問題作成担当(2016年4月1日~2017年3月31日)

- 1. 入試課より提供される教科書4冊から、生物基礎の問題を2題作成した。
- 2. チェッカーの先生からのコメントをふまえ、問題の検討・修正を繰り返した(計4回)。
- 3. 前期試験、生物基礎の採点を実施した。

氏名 吉原悦子 職名 助教	学位 修士 (看護学) (大分大学 2007年)
---------------	--------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
老年看護学					<ul><li>・認知症ケア</li><li>・認知症高齢者グループホーム</li><li>・排便ケア</li></ul>

#### 研 宪 課 題

・認知症高齢者グループホームにおける排便ケアについての検討

.

### 担 当 授 業 科 目

#### (前期)

- ・成人・老年看護過程演習
- ・リハビリテーション看護学
- · 基礎看護学実習 II

(後期)

- ・基礎看護学実習 I
- 看護学 (栄養学科)

(通年)

- ・老年看護学実習 I
- · 老年看護学実習 II

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【成人・老年看護過程演習】

- ・2 年次の看護過程論を基盤とし、看護過程の演習を進めた。今年度は、急性期(胃がん患者)の事例を基本とし、慢性期、老年期と看護過程を進めていった。例年、患者像をイメージできるように事例の説明を行っているが、急性期の事例では、術前と術後の患者の状況が変化していることを意識し行っていった。しかし、術後の早期離床やドレーン挿入の意味などが不明確な学生が多く、問題ありきで分析が進んでしまう学生もあり、グループ全体に投げかけながらグループで共通理解が進むことを促した。個人作業とグループワークの繰り返しであるが、その切り替えがうまくいかず、来年度の課題である。3 グループを 2 人の教員で指導したが、他の教員と事前に打ち合わせを行い、進行度や学生が困難に感じていることをその都度確認し、共通して指導を行った。
- ・技術項目の ADL の援助では、技術演習と技術チェックを組み合わせて行った。今年度も排泄の援助を担当したが、学生の演習への取り組みは熱心であった。学生が実習で、患者さんの排泄介助がスムーズにできるように、時折、教員が患者役となり学生に説明を行った。右片麻痺の患者さんの設定であったため、健側をどう使って日常生活を送っているのか患者状況のイメージが可能となるように説明を行った。排泄援助は、実際に実習で実施する項目であり、移動や回転を伴うため、麻痺側を保護し安全に援助ができるようにすること、また、羞恥心を伴うため適切な声掛けが行えるように指導を行った。また、おむつがきちんと当たっているのか、寝衣がずれていないか細かなところにも配慮ができることが必要と伝えていった。

### 授業科目名【リハビリテーション看護学】

・T 字杖、松葉杖歩行を担当した。外部講師の講義演習のサポートを行い、実際に杖歩行をする際には「高の順番で」ではなく、健側と患側を意識したうえで、どのように杖を使用すると安全で歩行しやすいのか、講義で学んだ方法がいかに理にかなっているのかを学んでいった。また、摂食嚥下では講義と演習が交互にあったため、学生が適切に演習が行えるように配慮した。

## 授業科目名【基礎看護学実習 I II】

- ・初めて臨地実習に臨む1年生が緊張や不安を少しでも軽減できるように声かけを行い、環境を整えていった。 臨床指導者ともコミュニケーションを密にはかり、実習を行った。受け持ちの患者様を通した対人関係の振り返り、看護者としての姿勢を考える機会とした。特に、カンファレンスや病棟内での態度・言葉使いを指導していった。患者さんとのコミュニケーションは言語だけではなく非言語的なものもあり、患者さんのメッセージを受け取ることの重要性を指導した。
- ・情報収集からニーズを導き出し、援助を行うまでの過程を実施するため、患者さんのニーズではなく、学生のできることに視点が、向いてしまうことがあり、誰が中心の援助なのかを適宜確認していった。実際のケア提供に向けて既習の知識・技術を振り返り、安全・安楽・自立の視点でケアが提供できるようにサポートしていった。

#### 授業科目名【老年看護学実習 I · Ⅱ】

- ・回復期の患者さんの特徴を踏まえるため、現在の状況を疾患が関連していること、療養の過程で引き起こされたことなど多くの要因を学生とともに整理を行った。
- ・学生は、受け持ちの患者さんが「大丈夫」といえば大丈夫と判断する傾向にあり、できないことばかりに捉れたり、サポートがあってできていることも自立と捉えるなど適切な援助を行うための分析があいまいになることが多く、患者さんの行っている ADL を細かく聞き取っていった。特にどの程度できて、どの程度サポートが必要なのかケアにつながるように声をかけた。
- ・障害によりコミュニケーション能力が低下した高齢者を受け持つことが多く、言語でのコミュニケーション が難しかった。学生は「上手くかかわること」が大切としており、患者さんが発信するメッセージをキャッ チすることが難しかったため学生と一緒にコミュニケーションを図りながら、助言した。
- ・特に自発性のアプローチではできるだけ患者さんと一緒に「楽しむ時間」とするように働きかけ、単なる場の提供にならないように助言し、患者さんが「やってみたい」、「今までやっていた」(例えば将棋や囲碁など) ことが学生自身がわからなくても調べてわかろうとする方向へ助言し、患者さんと楽しむことを勧めた。
- ・学生が受け持ち高齢者の持つ加齢や疾病後遺症の影響からくる身体状況により生活に及ぼす影響を考え、退院後の生活をイメージしながら、いま、どんな援助が必要かを検討し、実施できるように心がけた。また、 退院後にどのようなサービスを提供可能かなど介護保険制度についても考えていった。
- ・施設実習では、2人で1人の療養者を受け持つ。施設での生活支援がどのように行われているのかを学ぶためにも積極的に加わることができるように働きかけた。また、看護と福祉がどのように連携をとり療養者の健康管理を行っているのかを考え、3部署(特養・ケアハウス。グループホーム)の特徴をカンファレンスで共有し、それぞれの施設の特徴が理解できるように努めた。

## 授業科目名【看護学(栄養学科)】

「認知症高齢者の看護」「要介護高齢者の生活を支える施設看護」について行った。認知症とは。施設とは。について事前に学習したことについて問いかけながら講義を行った。さらに、DVD などを織り交ぜ、多職種で連携して行く方法を含めて講義した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4~現在に至る
日本老年看護学会		2003.4~現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4~現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4~現在に至る
日本看護科学学会		2008.6~現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家		2016.5~現在に至る
族の会」		

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) 1)認知症高齢者グループ ホームにおける入居高 齢者の排便状況改善に 向けた援助 職員と研究者のケアカ ンファレンスを通した 協働介入	共	2017年	年3月	認矢一十		ア事例	ジャ	ムーレの腹便結改らむ入ケ②	居者にはない。 はない。 といいけかがいる。 は、これの のこれの のこれの のこれの のこれの のこれの のこれの のこれの	対研、ドサマのになのにて、大きなのでである。というでは、本職知違つ井田のは、本職知違つ井田のは、本事のは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのは、大き	ルグがくいた性に着いていれていた。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、
2)要介護高齢者の気遣いの世界―祖父母的ジェネラティビティの源を探る―	共	2017	年3月		可女学的 7 vol	完大学紀 1.21	要	テめ世的面分分さの人よよ②イに界と接折析れ世やっう新	ご要的た通の へこは会形示真なのかた でまれる スクラス と作して 理	の源をきれています。 変に できまれて できまれて できまれて できまれて できまれて いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	的ジェネるに 大の気とと 大の大きで 大の大きで 大きで 大きで 大きで 大きで 大きで 大きで 大きで
(学術論文)											
(翻訳)											
(学会発表)											

外部資金	(科学研究費補助	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<b>-</b> c)
	(1)	共 同 斫	开 宪	
研 究 題	Ш	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

,	•	•

外部資金(科	学研究費補助金等)導力	八状況(本学共同研究費を含	せ)
	(2) 個	人 研 究	
研 究 題 目	交付団	交付決定額 (単位:円)	備考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期等	

2016.4~2017.3: 教職員懇親会 2016.4~2017.3: 国家試験対策担当

氏名   鹿毛  美香     職名   助教   学位  修士(医科学)(久留米大学 2008.	3月)
---	-----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積
公衆衛生学 公衆衛生看護学	大学生の健康 現任教育 住民の健康 保健行動

#### 研 宪 課 題

- ・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する.
- ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する.
- ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する。

## 担 当 授 業 科 目

看護技術論(前期;看護学科),

ヘルスアセスメント (前期・後期;看護学科),

基礎看護学実習 I (後期;看護学科),

感染と免疫(前期;看護学科),

疫学演習(後期;看護学科),

在宅看護学実習(前期・後期;看護学科),

地区活動論演習(前期;看護学科),

看護学(後期;栄養学科)

生活援助技術論(前期;看護学科),

診療関連技術論(前期;看護学科),

基礎看護学実習Ⅱ(前期;看護学科),

公衆衛生看護学概論(前期;看護学科),

在宅看護学演習(前期;看護学科),

公衆衛生看護技術演習(前期;看護学科),

公衆衛生看護学実習(前期·後期;看護学科),

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【 看護技術論, 生活援助技術論, ヘルスアセスメント, 診療関連技術(演習) 】

- 1. 演習では、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた.
- 2. 看護技術の習得の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた. また、実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた.

## 授業科目名【 基礎看護学実習 I 】

- 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.
- 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた.
- 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう、看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた.
- 4. 学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう、また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう、ワークシートとは別にペーパーに患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した.

### 授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】

1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等

学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

- 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、基礎看護学実習 I で獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ、患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた.
- 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように、基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた.

## 授業科目名 【 感染と免疫(実習) 】

- 1. 初学者であることを念頭に置き、学生自身の体験や実験内容と看護をつなげることを目的とし実施した。
- 2. 教育の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに、その行為が感染予防の第一歩であることを意識づけた.

## 授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】

- 1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。
- 2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた. 例えば、校内の職場巡視を実施し、3 管理の視点で改善提案書を記録するなど.

### 授業科目名【 疫学演習 】

- 1. 保健師(主に行政・産業)が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法,また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた.
- 2. 協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた. 協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した.
- 3. 授業資料の1枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う 学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた.

## 授業科目名【 在宅看護学演習 】

- 1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
- 2. 実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し、ペーパーペイシェントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた. 演習の際は、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた.
- 3. 在宅看護の現場では、治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない。そのため、療養者の全体像をとらえるために、どのような患者情報が必要なのか、学生自身が疑問に思い、知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために、カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた。その情報の必要性を明確にさせ思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。

#### 授業科目名【 在宅看護学実習 】

- 1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた.
- 2. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.
- 3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした.
- 4. 学生の捉える実習場面(看護現象)を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面

- から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた.
- 5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた.
- 6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護 学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した.

## 授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

- 1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
- 2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた.
- 3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児~4 ヵ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った.
- 4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた. これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である.
- 5. 健康教育(集団)では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った.

## 授業科目名【 地区活動論演習 】

- 1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
- 2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように 試みた
- 3. 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

## 授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

- 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
- 2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
- 3. 学生の捉える実習場面(看護現象)を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
- 4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
- 5. 公衆衛生看護学実習の実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を教員・助教間で検討した。その結果、昨年度試みた実習スケジュールおよび行動目標表と実習記録用紙を継続活用した。
- 6. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

#### 授業科目名【 看護学(栄養学科) 】

1. 産業看護および在宅看護について、管理栄養士国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、管理栄養士が看護の場でいかに重要な連携相手であることを強調し、学生が就職した時の自身の姿をイメージできるようにしながら看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにした。

## 授業科目名【 その他 】

1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた.

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本産業衛生学会	代議員(2008年11月~)	2003年4月~現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会		2003 年 4 月~現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産	役員幹事: 広報担当 (2006年4月~)	2003 年 4 月~現在に至る
業看護部会		
日本公衆衛生学会		2008 年 4 月~現在に至る
日本産業保健師会		2013 年 1 月~現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月~現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究 第	業 績	等	ız	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年			発表雑記 学会等の	·		概		要
(著書) なし										
(学術論文) 1. ディベートを活用した初年次教育の試み-看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して-(査読有)	共	2016年4			日本看護		学の生間果でグイ課た 一吉布鹿小 日教の 1 1 2 2 3	習話ののほうのは、即気を毛田というでは、これでは、明れのでは、明れのでは、明まのは、明まのは、明まのは、明まのは、明まのは、明まのは、明まのは、明まの	[]い対実ディ変効で、、小、塩、 会での、これでの、なり、 のののののでは、 ののののののでは、 ののののののののののののののののののの	」由起子, 中,松尾綾, 工集: 看護
2. 特定の地方自治体における介護保険二次予防事業のアウトカム評価 : 新規要介護認定の発生を指標	共	2016年4	月日会		衛生看	護学	い, リン でに	2007年 スト実施 こ起きた	度の基 面から20 二新規要	モデルを用 本チェック 013年3月ま E介護認定 、として,二

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	12	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
とした Cox 比例ハザ ードモデルによる分 析 (査読有)								により、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、一切を対して、	たとというというというというというというというというというというというというという	きされた。 きません。 では、まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	<b>養学会</b> 誌
3. 保健師学生の職業的 アイデンティティに 対する卒業生保健師 のソーシャルサポー トの効果 (査読有)	共	2017年	₹3月			日本看護教育		イ援経をし催生ィ生学テ察 布佐平 第4	デヒ倹ノてしかのり生れし、 花豢島 フンしを一位た職変ソの形た 原優美 回って、すせて 交的をう 講成 明月日 日	アタるルが流かされている。 「藤、「子領卒サて会イらルアぼ 鹿直亟形域業ポ交のデかサイす 毛子々	, 美香 学論文集
(翻訳) なし											

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		万又は の年月		.,, , ,	発表雑誌 学会等の			概		要
(学会発表) 1. 九州における産業保健に関わる看護職の活動状況調査(第一報)-本学会における活動状況-	共	2016	F7月	衛生 学会	学会	F度日本 九州崎ひ 黒崎ひ	方会	名式 1名収 97 たがな地の,は研修職のわ、柴平の	をある8、多、や、除、州経会とこれです。対実う47.5、まり、東職的地験のかけり、奈原施ちらに、歴学に切り方の企品だり、	郵し有%つ軽会は事さ会浅画法情一 鹿 医送回回 有て未研学,海業看がな報か 毛 本	看達等等別分満修会日見看護め産供必 香業線職190 記答等別析のに等常た護職的業の要 ・ 衛集ののでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一
2.	共	2016年	₹8月		大	本看護学		イとをシづ会イかポンを ②優々 ③ でし有りで前がに一テ考 布・美 第4	/ て、かいで、かいで、アークで、アークで、アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・アーク・	で、は生いを学って生の成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の職業の保健を 対の保健をでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、というでは、 は、は、は、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別		テヌは の年月			発表雑誌学会等の			概		要
3. 九州における産業保健に関わる看護職の活動状況調査(第二報)-本学会以外の活動状況ならびに産業保健看護専門家制度の認知度-(優秀ポスター賞受賞)	共	2016 4	平9月		全国	日本産業協議会け)		会に施たのみを窺そし営な度ッ必がら度員要 鹿 第三の手に着かり、解えれりをでは「要理なは以下」 第二名	所称/言所 自発といるとうは、要里はこ以生 三属送 / 護修 自染たらそとで高が性由いつ外が 美の調分職等身しとをれ践くあがでこいへ示 香香街がにがた同総をてま,る履資とての咳 ,	護法を多て直い時続基ぎた専一以格か所更さ、柴、産職16行く自面とに的にる、門方ら修ら属なれ、戸、業	会の記たよび、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは
4. 女子大学における保健師課程学生のキャリア形成と卒業生保健師の支援	共	2016 4	平10月			日本公衆 (於 大		大保を成容保関人キ間スキ	生態にいい、生態にはいい。 生態にはいい。 生態にはいいできません。 生態にはいいできません。 生態にはいいでは、 生態にはいいできます。 生態にはいいできます。 はいい、これでは、 はいい、 はいい、 はいい、 はいい、 はいい、 はいい、 はいい、 は	下、下、学ャルたのでは、学生のように、できません。 では、 一本のは、 では、 では、 では、 できました。 これに、 できまれる。 これに、 できまれる。 これに、 できまれる。 これに、 できまれる。	をする女子生とのアナスを学生のアナスを主義を発生のアナスをでは、アナスのでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学

2 0 1 6 年 度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		で アン アン年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
								鹿= ③日z		他2名 断生雑誌		

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
(1)	共 同 研 究					
研 究 題 目	で付団体 研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
	(2) 個 人 斫	开究				
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考			

社 会 に	おける活動	等
団体・委員会等の名称		任期
(内 容)	役職名等	期間等
◎ (公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業	役員幹事	2006年4月~現在至る
看護部会		
・九州地方にて就業する産業看護職に対す		
る研究会および研修会を開催する等、現		
任教育に努める。また、役員として現場		
の看護職からの相談等を受ける。		
・産業看護部会本部(全国)と協働し、産		
業看護職に関係する法改正等がある場合		
は、現場より意見を集約する。		
◎ (一社) 日本私立看護系大学協会	国際交流委員会事務局担当	2014年4月~現在に至る
・国際交流委員会として、グローバル社会	(教育、学術および文化の国	
のニーズに対応するための看護教育のあ	際交流事業)	
り方などの情報発信の企画から評価まで		
を実施する。		
◎福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修	講師	2017年1月~2月(2日間)
得支援事業		
・在宅看護学、社会保障、老年看護学につ		
いて講義する。		

・3年生アドバイザー 201

2016年4月~現在に至る

キャンパスハラスメント相談員

2016年4月~現在に至る

• 生協理事

2012年5月~現在に至る

氏名 大塚 和良	職名 助教	学位 修士 (医学) (佐賀大学 2008年)
----------	-------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
	e ラーニング、教育効果測定、視聴覚教材
	医療安全、インシデント・レポート

研 宪 課 題

看護基礎教育過程におけるe ラーニングの教育効果に関する研究

医療電気機器の安全な使用に関する研究

電子カルテ情報の二次利用による看護の質評価に関する研究

担 当 授 業 科 目

#### 看護研究の基礎

**続・**クリティカルケア看学

成人慢性期看護方法論

成人・若看護済習

成人急性期看護学実習

基礎看護学実習I

基礎看護学業習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【看護研究の基礎】

看護学領域における研究デザイン、研究プロセスについて解説した。量的研究の研究方法を理解する上で重要 となる統計学について振り返りつつ、実際の研究報告を事例として取り上げて解説した。

## 授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】

生命危機の状態にある人間の反応、心身の回復過程、医学的介入や治療処置の過程、生命危機の状態にある患者の生命を守り生活を支えるための援助方法について講義を行った。

既習の知識に基づき、救急看護・クリティカルケア看護領域の主要病態によって生命危機の状態にある患者のフィジカルアセスメント、処置・ケアの方法について解説した。

クリティカルケア看護に特徴的な生体侵襲と生体反応・せん妄・人工呼吸器関連肺炎・肺保護戦略について解 説した。

呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア、クリティカルケア看護領域における主要な病態に対するフィジカルアセスメント・処置・ケアについて解説を行った。

### 授業科目名【成人慢性期看護方法論】

腎・排泄機能に障害を持つ人の看護について、腎・排泄機能のメカニズム、CKD の概念、診断、治療、看護について講義を行った。また、末期腎不全の治療としての血液透析療法、腹膜透析療法、腎移植の概要と看護について講義を行った。

### 授業科目名【成人急性期看護学実習】

成人期あるいは高齢期にある人の身体的、心理・社会的特徴の理解を基盤として全体像を描き、対象の身体的・心理的・社会的特長を理解した上で、看護問題および目標を定め、根拠の明確な看護介入を行う基本的な看護過程を展開することができる様実習指導を行った。また、急性期、回復期における看護過程を展開し、個別性のある看護介入の実施が行えるよう指導を行った。臨床における看護の見学あるいは実践を通して「診療の補助」、「日常生活の援助」技術の実践能力を高められるよう実習指導を行った

#### 授業科目名【成人‧老年看護学演習】

さまざまな健康レベルにある成人期・老年期の対象者および家族の特性を、身体的、心理的および社会的側面から 理解し、対象者および家族の健康の回復、生活再構築、自己管理や自立に向けた援助技術を安全・安楽をふまえて 適切に実勢出来るように技術演習指導を行った。

### 授業科目名【基礎看護学実習 I】

コミュニケーションに主眼を置いた実習であったため、患者と円滑なコミュニケーションがとれるよう指導した。1年次の学習内容を確認し、既習の知識に戻れるように指導を行った。

学生の率直な感想を重視し、看護への興味関心が深まるように関わった。

### 授業科目名【基礎看護学実習 II】

基礎看護学実習 I で学んだ援助的人間関係の形成をベースとして、既習の知識、技術を統合し、対象者の生活上のニーズを満たすための生活行動援助技術の計画・実施・評価がスムーズに行えるよう実習指導を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本集中治療医学会		2008年2月~現在に至る
日本呼吸ケアリハビリテーショ		2009年8月~現在に至る
ン学会		2009年8月~現在に至る
日本看護科学学会		2010年4月~現在に至る
看護学教育学学会		2010年4月~現在に至る
日本医療マネジメント学会		2012年7月~現在に至る
日本看護技術学会		

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑語 会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											

2 0 1 6 年度	要 研	究 業	績 等	に関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発 又は発表学:			概		要	
(翻訳)									
(学会発表)									

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(1)	共	同	研	究				
研	究	題	目		交	付団体			究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)		

	外	部資金	: (科学	研究費補則	加金等)	導入状	況(	本学共同研	F究費を含む	<u>_</u> C)	
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	目		交	付団体		交付決 (単位		備	考
İ											

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 名	) 名称 字)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

学生個人情報保護委員会 2016年4月~2017年3月

3年生アドバイザー 2016年4月~2017年3月

認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」講師

 氏名
 塩田 昇
 職名
 助教
 学位 修士 (工学) 九州工業大学大学院 2008 年 博士 (学術) 九州工業大学大学院 2016 年

研 究 分 野	研究内容のキーワード
セルフケアと看護	セルフケア、看護

研 宪 課 題

セルフケア行動と行動特性の関係を人で明らかにする。セルフケア行動と情動特性の関係を人で明らかにする。

### 担 当 授 業 科 目

基礎看護学実習 I (後期)(看護学科) 基礎看護学実習 II (前期)(看護学科) 成人・老年看護学演習 (前期)(看護学科) 成人急性期看護学実習 (後期)(看護学科) 成人慢性期看護学実習 (後期)(看護学科) 看護学 (後期)(条養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【基礎看護学実習 I】

学生がコミュニケーションを通して自己を振り返ることができるよう、プロセスレコードを用いて指導した。 バイタルサイン・援助技術などできるだけ経験できるように指導者と調整を行い、基礎的な技術が身につくよ う関わった。実習における態度も重要であるため、身だしなみ、言葉遣いから丁寧に指導した。

#### 授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

基礎看護学実習Ⅱでは、基礎看護学実習Ⅰで学んだバイタルサインや生活援助技術を的確に実施できるよう 指導した。看護過程の理解を深めていけるよう情報収集、分析の指導を行った。

### 授業科目名【成人慢性期看護学実習】

慢性期看護学実習は3週間で事例を展開する。慢性期の特徴を踏まえ、情報収集し、アセスメント、全体像を描くことができるよう指導した。循環、代謝、神経系の疾患が複雑に影響しあうため情報収集、分析、実践の過程で、学生と面接を繰り返し理解にもとづいた看護の展開を支援した。学生が多くの看護技術を実践できるよう指導者と調整しながら関わった。

### 授業科目名【成人急性期看護学実習】

急性期看護学実習は周手術期の対象を受け持ち、2週間で事例を展開する。3週目にICUと手術室で見学実習を行う。病棟の特色を生かした関わりができるよう指導者から情報を得て学生の調整に努めた。循環器と呼吸器の理解が深まるように学生に発問を繰り返し考えるよう関わった。集中治療室と手術室実習では学生が環境に適応できるよう指導者と調整を図った。見学実習の効果を高めるため事前に学内で実習目的にあった実習計画を考えるよう働きかけた。実習後の学内ではさらに知識と経験の振り返りを行った。

### 授業科目名【成人·老年看護学演習】

- 1. 自己血糖測定・インスリン注射 学生の安全に配慮しながら技術の実施を指導した。多数の教員が加わるため調整を図った。
- 2. 食事交換表

事例を用いて食事と問題点を理解するよう指導した。食品モデルを活用し実際の食事とカロリーや食品バランスを考えていけるよう関わった。

### 授業科目名【看護学】

栄養学科の学生にセルフケアについてわかりやすく講義した。セルフケアの目的、役割、阻害された場合の 結果について説明した。看護理論と生命科学の書籍を用いて根拠に基づく内容を講義した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生理学会		2007年11月~(現在に至る)
日本看護技術学会		2013年 7月~(現在に至る)
日本看護科学学会		2012年 9月~(現在に至る)
日本看護学教育学会		2015年 5月~(現在に至る)
日本心身医学会		2016年 1月~(現在に至る)

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(著書)											
1. 安全・安楽な下肢温熱 刺激法に関する検討 -クロスオーバースタディによる準実験研究-	共	2017.	3. 1	西南 Vol.		完大学 <b>系</b>	要	り別別ル環調浴ずがいと②村塩本	の足:「動査が、あこ考案紀五人下温服実・た。環処主から者・	温と器を目す動薬観られる橋部敷下と主神法態解的安た。「中日分別」を発展のいる。「中日の別別」を表していませば、「日本の別別」を表している。「日本の影」を表している。「日本の影の影になっている。「日本の影の影になっている。」	対象に3通 激温経期的のは動化評別で 表別で を対象に不動化に を対象に を対象に を対象に を対象に を対象に を対象に を対象に を対象
2. ディベートを活用した初年次教育の試み— 看護学生のクリティカ	共	2016.	4	1		日本看護 護教育		①看記 習1	ヹミⅡ」	でのラ	対育「基礎学 ディベートの 質問紙調査を

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
ルシンキング志向性に 着目して―								で グ イ 課 た。 ② 共 計 子 鹿	のクリ あった で 題 一	ティルは 果 かい ない で と で で の の い で も に に に の に に に の に 。 に の に 。 に の に 。 に 。 に 。 に に 。	にかられる (本)
(都訳)											

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(1)	共 同 研	研 究						
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	矽	f	究		
研	究	題	B		交价	付団体			交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
北九州ゆめみらいワーク		イベ	ント金	と画・参	рп		2016 年	-8月26	日(2時	間)	

- ・国家試験対策委員会:4年生および国家試験受験の既卒生に対して計画的に学習に取り組むよう働きかけた。成績低迷者に強化学習や面接を実施した。
- キャンパスハラスメント相談員

氏名 丸山 泰子 職名 助教	学位 修士(保健看護学) 川崎医療福祉大学 2011年
----------------	-----------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
老年看護学					認知症ケア 祖父母的ジェネラティヴィティ

#### 研 宪 課 題

- ・グループホームにおける排便ケアに関する研究を通し、認知症高齢者の健康管理について探求する。
- ・認知症高齢者の通所サービス利用による認知機能への影響について探求する。
- ・要介護高齢者を対象に、要介護高齢者の祖父母的ジェネラティヴィティの発達について探求する。

### 担 当 授 業 科 目

成人老年看護学演習(前期)

老年看護学実習 I · II (前期・後期)

診療関連技術論(前期)

看護研究の基礎(前期)

リハビリテーション看護学(前期)

基礎看護学実習Ⅱ(前期)

基礎ゼミⅠ・Ⅱ(前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【 成人老年看護学演習 】(前期)

1. 看護過程(急性期、慢性期、老年)

2人の教員で3グループ (17名) を担当した。2年次の看護過程論で学んだことを想起させながら、3年次の看護過程は患者の病期に応じた展開となることを急性期、慢性期、老年期と事例が変わるごとに強調して伝えていくよう努めた。特にアセスメントでは、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。教員間で学生の理解習得状況を共有しあいながら、学生個々の把握に努め、状況に応じた指導を行った。

2. 技術演習(手術直後の援助、ADL援助)

病態の理解とアセスメントを踏まえての援助実践になっているか確認をしながら指導を行った。また、精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。

### 授業科目名【 診療関連技術論 】(前期)

「吸入・吸引」に関する演習を担当した。技術指導のみでなく、援助を受ける患者の苦痛をイメージしながら、コミュニケーションを活かした技術実践となるよう、また、患者の安全・安楽への配慮を意識して行うよう演習を進めた。また、実習室での学生の実習姿勢等に対しても具体的説明と注意喚起を行った。

### 授業科目名【 看護研究の基礎 】(前期)

看護学科3年生に看護研究の意義・方法に関する指導に携わった。研究課題を絞り、仮説を立てる段階のグループワーク演習を担当した。学生が臨地実習を経験する中で抱いた疑問、気づきから抽出された課題であるため、学生の意見を尊重し、どうすればそのテーマが看護研究として成り立つのか、学生がグループ間で話合

い、検討を進めていけるよう助言を行った。グループ内で意見を出し、まとめることの大切さを伝えていけるように心がけた

### 授業科目名【 リハビリテーション看護学 】(前期)

「摂食・嚥下のある患者のリハビリテーション看護」に関する演習を担当した。外部講師による嚥下に関するアセスメントの視点について講義がなされた後、実際に、嚥下時の観察方法や嚥下訓練、とろみの付け方等に関する演習を行った。嚥下のプロセスに戻り、その方法にどんな意味があるのか形態機能を意識しながらの演習になるよう、また、とろみをつけた食事をとる患者の思いをイメージすることができるように学生に問いかけながら指導を進めた。

#### 授業科目名 【 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 】(前期・後期)

基礎学習ゼミⅠ・Ⅱは、大学で学ぶための基本的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)の強化、定着とメディアリテラシーの習熟を図ることを目的に、前期・後期で連動して展開される。教員 1 名に対して学生約 10 名のゼミグループを形成し、グループワークを前提に授業が進行される。

- 1. 基礎学習ゼミ I:論証型レポートの作成の基本を習得することを学習目標とし、授業が構成される。自分 たちの主張を根拠づけるための情報収集や文章構成など各ステップにおいて学生個々の習得状況に差が 生じる。理解の状況に応じた個別指導を行い、その後のグループワークが効果的なものとなるよう努めた。
- 2. 基礎学習ゼミII: 前期で学んだ基本的スキルを実行し、さらに主体的・能動的学習を展開することを目的に「ディベート」を行う。この授業企画を担当した。「ディベート」では前期のレポート作成までのスキルに加え、他者に根拠ある意見をわかりやすく伝える力が求められる。グループ内でのコミュニケーションや進行に応じた共通理解が求められるため、授業時間内のみでなく、時間外での時間を学生と調整した上で助言を行いメンバー全員が自分の役割を遂行でき、発表に迎えるように指導に努めた。授業企画では、担当教員の指導統一ため授業ごとの進行を検討し、授業で用いるワークシート、振り返りシート、運用表などの授業資料を他の担当教員とともに作成した。
- 3. 基礎学習ゼミは、アドバイザー役割もある。1年次は精神的に不安定となる学生もおり、その学生との面談や成績不良者との個別指導等も行った。学生の状況に関しては、授業、実習など当該学生に関係する教員へ必要な情報は伝え、学生の学習環境の整備を意識して対応した。

#### 授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ (前期) 】

2 年生を対象とし、臨床の場で初めて看護過程を展開し生活援助技術の実践を目指す実習である。カルテ情報のみでなく、患者との関わりから学生自身が知り得た情報が分析に生かされているか、情報収集から看護計画立案・実施までの過程をつながりとして学生が認識し看護過程の展開ができているかを確認し、指導を行った。また、既習の知識を随時振り返り、その知識が分析や実践に活用されているか確認し、不足部分は補いながら実習が進むよう関わった。臨床指導者へは学生の進行状況を説明し、臨地指導が円滑に進むよう意識した。

#### 授業科目名 【 老年看護学実習 I · Ⅱ (前期・後期) 】

- 1. Iでは、回復期にある高齢者に対する看護を学ぶ。疾患のみでなく、老年期にある患者の生活に学生が目を向け、生活機能を中心に患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代、立場の違いから学生は老年期にある患者の身体や精神面の問題、悩みに気づき辛い。学生が自ら気づけるように問いかけ、考えたことがアセスメントにつながるよう指導に心がけた。
- 2. チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。
- 3. IIでは、介護施設で生活をする高齢者を担当し、疾患治療を行う入院中の患者ではなく、身体的課題を持ち合わせる高齢者の生活を理解すること、生活機能の維持改善に向けた生活支援を学ぶことを目標とし指導を行った。特に、高齢者と関わりながら生活史をたどることで、施設という生活の場で、高齢者が日々どのような思いで生活しているのか、生活の中で大事にしているものは何なのかなどに関心を向け、捉えることができるよう実践の振り返りを重視した。学生個々の高齢者観が育まれることを意識し関わった。
- 4. 両科目共通として、加齢、疾患によりコミュニケーション能力の低下している高齢者も少なくない。関わりの振り返りやその時の対象者の思いを想起することを促して、高齢者理解が深まり、高齢者との良好な関係性構築につながるよう助言を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本在宅ケア学会		2008年7月~
日本看護研究学会		2010年3月~
日本老年看護学会		2010年5月~
日本看護科学学会		2011年6月~
日本看護学教育学会		2012年5月~
日本認知症ケア学会		2012年5月~

2 0 1 6 年度	5 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行 発表の	文は 0年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
・要介護高齢者の気遣い		2017年	手3月	西南	<b>万</b> 女学	院大学	紀要	1.	祖父母	的ジェ	ネラティヴ
の世界				Vol.	21						探究するた
-祖父母的ジェネラテ									•		齢者の気遣
ィヴィティの源を探る											らかにする 特別養護老
										-	所中で、要介
											定を受けた
									高齢者	に日々	の生活に関
									する思	いや考	え等に関す
											ーを行った。
											に沿い分析
											京介護高齢者
											や社会との
											によって形
											のありよう
											ことが分か
									った。		
								2.	新木 真	理子、	神谷 英二、
										、吉原	悦子、丸山
									<u>泰子</u>	. <u>»</u> »-	1. 24 va <del>ar</del>
								3.			大学紀要
									Vol.21,	hr-9	
・認知症高齢者グループ		2017年	₣3月	認知	症ケ	ア事例	ジャ	1.	認知症	高齢者	グループホ
ホームにおける入居高				ーナ	ソレ Va	ol.10(推	載予		ーム入	居者に	対してグル
齢者の排便状況改善に				定)					ープホ	ーム職	員と研究者
向けた援助									とでカ	ンファ	レンスを行
-職員と研究者のケア									い、食事	事・飲水	など排便を

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
カンファレンスを通した協働介入一									結果にき入象居く性原山	非善も進ののうつ子子ケ便したむ細行にな、、アケシにか動なが石原事	井美紀代、 <del>等子</del> 例ジャーナ
(学会発表)											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
(1) 共 同 研 究						
研	題 目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)	

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)					
	(2)	個 人 句	开 究		
研 究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考	

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等
・老いを支える北九州家族の会		2011.5 〜現在に至る

- ・1、2年生アドバイザー
- 看護学科研究推進担当

氏名 松尾 綾 職名 助教 学位 修士 (看護学)
---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学	精神看護、家族、レジリエンス、 メンタルヘルス、語り、共感性、倫理的感性

#### 研 宪 課 題

精神看護学に関して、青年期のメンタルヘルスに関する研究を行っている。メンタルヘルスと家族との関連やストレスや危機的状況からどのように回復していくのかについて、当事者の語りなどから研究している。現在は、本学の看護学生のレジリエンスを測定するとともに、半構造的インタビューを行うことで、学生自身が感じているこれまでのレジリエンス形成要因の実態を把握することとレジリエンスと問題解決行動の関連を明らかにすることを目的とした研究を行っている。また、精神科においては倫理的葛藤場面が多く、学生時からの教育が重要と考えられ、学生の共感性と倫理感の関連の研究を行っている。

### 担 当 授 業 科 目

精神看護学概論(後期:准教授の指導の下)、精神看護方法論(後期)、精神看護学演習(前期)、精神看護学 実習(後期~前期)

看護研究の基礎(前期)、基礎看護学実習 I (後期)、基礎看護学実習 II (前期)、

看護学(後期:栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【精神看護学演習】

・精神看護学概論、精神看護方法論、疾病額各論での学習内容をもとに、事例を用いて看護展開を行っている。で用いる看護理論を用いて患者のセルフケアをアセスメントさせるとともに、問題点だけを探すのではなく、ングスやエンパワーメントの視点を用いて、患者の QOL を伸ばすようなケアを考えることができるように助言また、実習に向けて具体的な場面をイメージできるように臨床のエピソードを交えた。学生のグループワークにては、グループ内の討議が活発になるように声をかけ、疑問点が整理できるように努め、グループ間でのディションを促した。また、精神疾患を抱える患者の理解を深めるため、患者の背景や成育歴のエピソードから、制動論的な視点を用いて学生に助言を行った。

#### 授業科目名【精神看護学実習】

- ・学生が患者とのコミュニケーションを大切にし、患者の疾患や問題だけに捉われずに一人の人間として捉え、理解していくことのできるように指導を行った。また精神科の歴史的な背景や、患者の家族、ソーシャルサポート、社会復帰への視点を持って患者自身と患者を取り巻く環境を踏まえて、患者の身に寄り添って考えることができるよう具体的に学生がイメージできるように助言と発問を行った。患者の日々のケアでは、患者の現在だけでなく、患者自身の希望や今後の方針等も踏まえた関わりができるように指導を行った。
- ・プロセスレコードで書き起こした場面に基づいて、学生と共に患者とのコミュニケーションについての振り返りを行い、自己洞察を深め、今後の関わりにつなげていけるように具体的な指導を行うよう努めた。
- ・日々のレポートを通して、学生が実習での患者との関わりから何を考えているのかを論理的に表現すること ができるような指導を行うように努めた。
- ・カンファレンスにおいて、学生が自由に自身の考えを表現し、グループ間で活発なディスカッションができるような雰囲気づくりを行った。

・学生と指導者、各専門職との橋渡しを行い、学生が興味を持っていることや実習中に希望をすることが可能な限りスムーズに実現できるように努めた。

#### 授業科目名【精神看護学概論】

- ・授業担当の准教授の指導の下で講義を行った。
- ・精神科の社会的な背景や歴史を踏まえて、現在の精神疾患を取り巻く環境や偏見などを考えることができるように学生の意見を取り入れながらおこなった。
- ・精神保健福祉法に基づく精神科特有の強制入院や患者の人権の保護について、具体例を用いながら講義を行った。
- ・講義内容に沿って、学生の疑問やわからない点について、助言と指導を行った。

#### 授業科目名【精神看護方法論】

・精神科で取り扱う疾患や症状に関する看護に関して、スライドや DVD などの視覚教材を用いて具体的にイメージしやすいように工夫を行った。特に患者や当事者、家族の思いに触れられるような教材を使用し、看護としてどのように関わっていくのかを考えるように促した。精神科看護においては、看護師自身の言動や感情を振り返ることが重要であり、患者へのよりよい看護につながっていくことを、臨床における具体的なエピソードを交えながら講義し、3年時の実習との連続性を持てるように努めた。

### 授業科目名【基礎看護学実習 I】

初学者であるため、実際の臨床現場の雰囲気を感じ、患者とのコミュニケーションを図れるように指導を行った。また、これまでの学習内容およびそれぞれの学生の学習状況に応じて、実際の受け持ち患者の状況を学習内容から理解できるような助言に努めた。臨床指導者とも連携を図り、患者の状況や学生に学習振興に応じた実習展開ができるように調整を行った。

### 授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

・基礎看護学実習 I で学んだコミュニケーションと関係性作りをベースとして、患者とのコミュニケーションを図ることができるように指導を行った。学生が患者とのコミュニケーションで得た情報をこれまでの学習内容と関連して考えることができるように、学生の学習状況を把握し、それぞれの学習内容から理解できるような助言に努めた。学生が主体的に看護実践を行えるような環境を整えるために、臨床指導者との連携を図った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会		2009年4月~現在に至る
日本うつ病学会		2009年6月~現在に至る
日本精神科看護技術協会		2011年4月~現在に至る
日本看護科学学会		2011年7月~現在に至る
日本精神保健看護学会		2013年7月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研研	究 業	績 等	に関	する	5 事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月		発表雑誌等 学会等の名称	概		要
(著書) なし							
(学術論文) 1. 精神看護学実習における看護学生が共感性を獲得するプロセスー	共著	2016	第 46 回 会論文集 P291	日本看護学 精神看護 L~294	が共感性	を獲得する	いて、学生 っプロセスを らに、どのよ

2016年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
教員の介入を中心にして一				うな教員の介入が必要であるのかを質的に検討した。その結果、「自己に関心がある段階」「看護計画を立案する段階」「看護実践の段階」「患者の人生に寄り添う段階」の4つの段階が明らかになり、教員は具体的に患者の状況を想像させ、学生が患者に関心を寄せ続けることができるような介入が必要であった。共同研究者: 松尾綾・前田由紀子
2. 臨床実習における看護学生の共感性、道徳的感性、自尊感情に関する研究	共著	2016	西南女学院大学紀要vol.21 (印刷中)	臨床実習前後および精神看護学 実習前後の看護学生の自尊感情、共感性および道徳的感性を 比較し、その関連性を検討した。 臨床実習前後で自尊感情、MESC合 計得点、MES下位との関連を においていたのからのではないのででである。 精神看護学表ののででは、 はなかった。 がみられたが、M と自尊感情、MESとの間に共変により はなかった。 がいてに、 がみられたが、 がいるには、 をできま習前後に、 をできま習が、 がみられたが、 がいるに、 をできま習が、 がいるに、 がみられたが、 がいるに、 がった。 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がいるに、 がった。 がいるに、 がった。 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、

2 0 1 6 年度	E 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		で フは の年月			発表雑誌			概		要	
(翻訳) なし												
(学会発表) 1. 精神科における大卒 新人看護師のニーズの検討 ~新人看護師とプリセプターへのインタビューより~ (ポスター)	共同	2016 7.2 - 7	7.3	会第総会	26 E	保健看言の関係を関する。	会・	状のすの相セ【識たる棟わ【囲る師に新報じっ共子日と戸る大談プ精の。現全り新気】と関人収勤た同 本にこれができれる。 まればいる おいまん しょうしょう しょうしょう しょうしょう	「対で変です申卡に犬体ラ人と【新た香蕉券 肝 情なでい安さき一疾熟たとでを看作勤する護すが 究 神・【】】】ると患さプし育見護る務時指師る少 者 保絵患 現同・プリでで見護る解時指師る】か : 候会	景【【景)や】して、野師、開身の【い 性者と護務棟が勤済がせ【るりが目別を】様新】 屋 護の技をみが勤寮明クル サ間らみかに子がか 産 護	看関術党々らがにらって【思っきのでみとに写明 きょううできれる。 一番明明ののではない、「なずに認師とない、「ない、「ない」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、「ない ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	へ関とのリー知の対病関】雰語護務ら情同な 紀 学
2. 精神科における大卒 新人看護師が求める能力 (口演)	共同	2016 9.15 -	9.16	会一 集会 (於	-精神	日本看 看護一: ンクス -ル青森	学術	大学ではしたというという。表力時	言護師だいない。 さうなかいない。 でごっているのに でごっているのに でいる。 でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいるのに でいる。 でいるのに でいるのに でいるのに でいる。 でいるのに でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	が、力をより、からない。 たいまた こうない またい またい といり は は しょり は でん といり は は でん といり は かい	を希望し 散後1年間 を術を必用 で獲得しよ の明り関係 が、3) 興種 4) 精神和 截の4つの	でとうイに能・盾

2 0 1 6 年 度		究	 業	績	<u></u>	に	関	す	る	事		項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌学会等の			概			要	
								共同项 <u>綾</u> 第47回	リーが招 研究者: 回日本和 所集会招	前田日	由紀 会-	子· <u></u> 一精神	
3. 看護学実習前後の看護学生の自尊感情と共感性の変化とその関連(ポスター)	共同	2016 12.10	- 12.11	学学会	学術東	日本看 床 東 国際		習て看変の点お意感領習尺・(の度点性がで(得れ共子第前の護化結系)に情域後度 23 二相間取ばがはこいた同 66	をご専定され医であた別この5.頻ご身の5、31: 肝 回象実精門生そ、下専か共実自自 r 8がは、いれ、31: 死 日集P 践神領のり自位門が惚習尊己 - 8、4 他でも。月、9) : 本B	護域尊專界領にの前感指・する犯指群専点被に 松 護漢尊連感度域(p)と情指もすれ者指群専取被正 松 護学習感を情の別く製精尺向9)・た指向も晩得響の 経 科	実が青倹、20月:車脊度的 26.60円の頂身響の 愛 学習が、影 4.41実のて神でが、66.40m反に埋と性相 ・ 学	前終共しES点習のは看と文被のES反応正別なと関節を会後了感た合取後の、護Sで繋と下応との実像視が、田・学	、後性。計得が自専学下(響に位と想相習象点見(由)全ののそ得に有尊門実位に性負尺視像関後性取ら(紀)のでは、
4. 精神看護学実習後に おける学生の倫理に関 する思考 (ポスター)	共同	2016 12.10	- 12.11	学学会	学術東	日本看 析集会 京国際		のにいど(1)完めが立場	看選には、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	するのが するのが かい感 : だけ にいな : だけ になる < と には には になる < と には には になる < と には には には には には には には には には には	考援ししばこれる	を明に方法によれば、	らにン果ま精感自かつタ、自神じ分

2 0 1 6 年 度	. 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑ぎ			概		要
								をさ題にさ結判構感》い共紀第36回子	りて葛るて讷をさ惑 ボ・とうた。)はた。しるてるテー・者尾	等5カ(2) まっつのまから (2) まっついまっている (3) できる (4) という (4) という (5) という	にゴ≪判ゴ≪自み(4く構紀・学者ので藤なゴ≪結さ 前学者を構成を構成がでででででででででででででででででででででです。 は、 一
5.	共同	2017 3.9 - 3	3.10	(E of N 東フ	Cast As Jursing アジア フォーラ		orum ars)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1)	共 同 石	开 究						
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額					
19) / 12	文门团件	○代表者 ( ) 内は学外者	(単位:円)					
精神看護学における共感性と倫理的感性に関	西南女学院大	○後藤 有紀	120,000 円					
する研究-看護学生へのインタビューを通し	学保健福祉学	前田 由紀子						
てー	部付属研究所	松尾綾						

	外部資金	金(科学	研究費補助	力金等) 莒	<b>尊入状</b> 液	兄(才	文学共同研究費を含む	<u>_</u>	
			(2)	個	人	研	究		
研	究 題	目		交付	団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

実習コーディネーター(看護学科)

看護学科ブログ委員

氏名 井手 裕子	職名助教	学位 修士(看護学)	(大分大学 2006 年)
----------	------	------------	---------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
成人看護学					慢性期看護学 看護教育

#### 研 宪 課 題

成人看護学の教育活動に関して、特に臨床実習の場において、学生が慢性期にある患者の特徴とその看護 を理解するための効果的な指導方法について事前学習の内容も含めて考察する。また、学生に実習で受け持 たれた慢性疾患患者と学生との人間関係構築に影響する因子について調査、考察し今後の実習指導の示唆を 得る。

### 担 当 授 業 科 目

- 母性看護学演習(前期)
- · 小児看護学演習(前期)
- ・基礎看護学実習 I (後期) ※2017 年 3 月 10 日~3 月 17 日に実施予定
- · 基礎看護学実習Ⅱ (前期)
- ・基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ(前期・後期)
- ・成人・老年看護学演習(前期)
- ・成人慢性期看護学実習(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 母性看護学演習 】

・新生児の沐浴技術試験を担当した。沐浴技術の留意点に沿って確認すると同時に、新生児(モデル人形)への声かけや物言わぬ新生児への安全への配慮を重点的に確認した。また試験終了後、個々の学生への口頭での評価時には、今後の課題だけではなくその学生のよかった点も伝えることで、学生の自己効力感を高められるるように努めた。

### 授業科目名【小児看護学演習】

・乳幼児の身体計測の演習を担当した。1つのモデル人形に4名の学生配置であったため、4名全員が時間内に集中して実践できるよう様々な問いかけを行った。教員自身の母親体験から、子供が入院した際の母親の不安軽減への配慮にはどのような関わりが必要かなど、実際の臨地での状況も踏まえた内容を伝えることで、実習への興味・関心を持つことが出来るように工夫した。

### 授業科目名【 基礎看護学実習 I · II】

- ・1年生を対象とした実習 I においては、看護職という専門職の立場で患者の前に立つことへの意識づけに主眼を置き、臨地指導者との密な調整を重ねながら個々の学生への指導に当たる予定である。
  - ※基礎看護学実習 I は、2017年3月10日~3月17日に実施予定。
- ・2年生を対象とした実習Ⅱにおいては、実習導入時に、個々の学生の基礎実習Ⅰ(主として、患者とのコミュニケーションに主眼をおいた実習)での課題と、それらを達成するためにはどのような実践がもとめられるかを確認し実習に臨ませた。また看護者として患者を観察すること、療養生活上の看護上の問題点(気がかり)を解決するための看護実践について、基本的知識や技術の定着化を基盤におきながら個別的な援助への工夫にも、目を向けられるよう指導した。教員個人としては、初めての施設での実習指導であったため、指導者との連絡・調整には通常よりもさらに時間を割き、学生が効果的に学習を進められるよう配慮した。

### 授業科目名【 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

- ・1 年次の入学直後からの関わりであり、まずは大学生活に慣れるために定期的な面接以外にも何か不安なことがあれば相談できるように、学生とのコミュニケーションを密にとるように心掛けた。
- ・Iにおいては最終目的である、1つのテーマについてのレポート作成に向けて、毎回のゼミの振り返りにおいて、単なる事象の記述にとどまらず、必ず自分の考えを明記するよう繰り返し指導した。また最終的に提出されたレポートの評価面接時には、何が書かれており何が書かれていないかを紙面においても口頭においても具体的に解説しながら指導を進めた。
- ・Ⅱにおいては最終的であるディベートの実践にむけて指導を行った。後期は3年次の実習指導のため講義時間以外はほぼ学外に出ており不在なことが多かった。そのため、講義時間の際のグループワーク時には、進捗状況を確認しながら、学習目標からそれていないかという視点で指導を行った。教員自身も初めての指導内容であり、あまり十分な指導ができず、次年度への課題となった。

# 授業科目名 【 成人・老年看護学演習および成人慢性期看護学実習】

### <演習>

・紙上患者における看護過程展開において、患者の情報から専門的な知識を用いて科学的に分析するという基本的な指導は勿論のことであるが、急性期および慢性期という健康レベルにおける看護の特徴をいかに伝えられるかを念頭におきながら指導を行った。具体的には、情報を分析する段階で大まかな看護の方向性を考え、それを計画立案時に繋げることの重要性を意識させた。急性期の特徴である術後患者の合併症の予防と早期の回復を目指す視点と、慢性期の特徴である疾患と共に共存しながらQOLを維持する視点を比較しながら口頭で説明した。

#### • 技術演習

血糖測定・インスリン自己注射の技術では、看護技術の正確な習得のみならず、看護者として慢性疾患患者の自己管理へむけての指導をいかに実施していくかについて、実際での臨床での様子などを口頭で説明しイメージさせた。術直後の援助の演習においては、単に身体的な援助にとどまらず、精神面での看護の必要性も口頭で指導した。ADL援助技術の演習では、更衣援助を担当した。学生は実際の臨床でのベッドサイドのイメージがわきにくいため、設定場面をイメージ化しやすいよう床頭台や椅子の配置なども考えるよう指導した。

#### <慢性期看護学実習>

- ・上記の演習において慢性期の看護の特徴をいかに理解させるかということを重要視し、今年度は実習事前学習において、糖尿病患者の闘病記を読んで学生個々がとらえた患者および家族の特性やその看護についてレポート提出を求めた。成果としては、「実習前にこのようなことを考える機会があってよかった。」という学生も多かった。しかし実際その内容を実習に活かせていない学生も多く、レポートに書いた内容を想起させることで単に教員からの一方的な指導にならぬよう学生の考えを発展させるよう意識して指導にあたった。
- ・受け持ち患者を2人以上受け持つ場合は、1人目での課題を確認し2人目でそれらを達成できるよう、学生にも課題を提示し確認しながら指導した。
- ・療養生活が長期にわたり、尚且つはっきりしない病態へのもどかしさを抱える慢性期疾患患者および家族の精神的苦悩に少しでも共感できるよう、学生と共にベッドサイドへ行き、タッチングなどの技術を通して患者との援助的人間関係を成立させるよう工夫した。
- ・病棟のみの実習では、継続看護についてイメージできないことも多いので、学生を患者会や外来などへも積極的に参加できるよう指導者との調整を密に行った。
- ・慢性期患者は長期の療養生活に及んでいることが多く、学生がそれらの経緯や情報を電子カルテから情報収集でするにはかなりの時間を要する。短時間で効率よく情報収集できるよう、適宜どのような情報が収集できているかを確認し、必要に応じて閲覧時のポイントなどを指導した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
聖路加看護学会		1996年 4月
日本看護研究学会		1996年 6月
日本看護学教育学会		1998年 4月
日本看護診断学会		1998年 6月
日本糖尿病教育・看護学会		2003年 8月
日本看護科学学会		2008年 10月

2 0 1 6 年度	. 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(form)											
(翻訳)											
(学会発表)											

	外	部資金	: (科学研	开究費補助	协金等) 導入状	況	(本学共同研	究費を含む	(c)
				(1)	共 同	矽	千 宪		
研	究	題	目		交付団体		研究	者	交付決定額
14/1	76		Н		文门凹件		○代表者()	内は学外者	(単位:円)

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等) 導力	入状況	(本学	半月研究費を含む	(s)	
				(2)	個	<b>L</b> 7	开	究		
研	究	題	目		交付団	体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

#### <2年生アドバイザー>

他学年との交流会として、例年の1年生との交流会に加えて、今年度は4年生との交流会を11月に実施した。 例年の1年生との交流会では先輩として体験談を話す立場であったが、4年生との交流会では、4年生の体験 談を聞かせてもらう立場であり、3年次からの長期に渡る各論実習や就職活動、国家試験に向けての学習などついて直接聞くことができ、多少の不安解消にはつながっていた。また今年度から業者の低学年模試を5月と10月に実施した。全国レベルの模試は初めてであり長時間の試験やマークシートも記入など、国家試験の雰囲気に早期に慣れるという点では効果があったが、実施にむけての学習行動の定着化や事後の振り返りとしてのノート作成などにおいては、個人差が大きく今後の課題が残った。

担当した10名の学生の中に数名の成績不良者がおり、前期の時点で定期的な面接以外にも面接を行い、授業への出席状況、学習の理解度などを確認し、9月の基礎看護学実習IIへつなげるよう工夫した。

#### くゆめみらいワーク>

2016年8月26日(金)に北九州市主催で開催された「北九州ゆめみらいワーク~わたしたちの"しごと"と"まなび"を考えよう~」に参加した。当日へむけては20日前くらいから、担当する他の教員2名と共に打ち合わせをしながら準備した。心音・呼吸音の聴診では、シュミレーション人形を使用し実際の音をリアルに体感できるようにした。血圧測定ではボランティアの2年生の学生2名に来場した高校生の血圧を測定してもらい、当学の学生とのコミュニーケーションを通し、高校生へ看護職を身近に感じてもらえる工夫をした。<オープンキャンパス>

2016 年 9 月 11 日 (日) に開催された今年度の第 3 回目のオープンキャンパスに参加した。テーマは「入院中の患者におこるエコノミークラス症候群!?—看護で防ぐ合併症」で、術直後などに生じやすい深部静脈血栓症予防の看護について高校生に向けて指導した。担当内容は足背動脈の触知の場面であったが、一般的には橈骨動脈触知が知られているため高校生らも慣れない様子であったが、当日、ボランティアの学生(4 年生)との交流を有効に活用できるよう、声掛けなどを意識して行った。

	氏名	水原 美地	職名助手	学位 学士(福祉経営学)	日本福祉大学 2007 年
--	----	-------	------	--------------	---------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
地域看護学					地域生活者, エンパワメント, ケアマネジメント, 社会資源・

#### 研 宪 課 題

現代社会において、地域で生活する様々な人々の健康について現状を把握し、エンパワメントを志向したケアマネジメントの必要性と、求められる社会資源についての考察

### 担 当 授 業 科 目

母性看護学演習

基礎看護学実習 I

基礎看護学実習Ⅱ

在宅看護学演習 在宅看護学実習

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 母性看護学演習(沐浴) 】

- 1. 教員のデモンストレーションや、DVD 映像が見えにくい位置にいる学生は、見える位置へと誘導し、演習に十分参加できるよう促した。
- 2. 臨床の現場で起こりうる沐浴に関連した事故の事例を伝え、新生児さらにはその家族への責任を認識し、 人形での演習ではあるが、実際の人間と思って臨むよう繰り返し助言した。

#### 授業科目名【 基礎看護学実習 I 】

- 1. 学生が患者を受け持つにあたり、患者の疾患の基礎知識をもつことは、不可欠である。学生は、疾患の学習は十分ではない段階ではあるが、疾患・そのメカニズム・治療について事前に学習して書面に記したうえで臨地実習に臨むことを求めた。
- 2. 初めて受け持ち患者を担当する実習である。特に初日は、患者の体に触れる行為全てに関して指導者付き添いを原則とし患者の安全を第一とした。指導者への連絡報告相談の練習の重要性を伝え、実施させた。
- 3. 学生と患者との関係性を細かく観察するとともに、プロセスレコードの記載内容から、学生患者間に信頼関係が芽生えているのか、学生に振り返りを促し、自ら気づくよう問いかけた。患者や病棟スタッフに対する言葉遣いやふるまいに関しては、その都度客観的判断を伝え自己の特性を認識できるよう努めた。
- 4. 日常生活行動の援助の実施に関しては、学生に実習 2、3 日目終了時に臨床指導者に助言を求める機会を作った。ケアの選択や、患者と学生の体位、実施場所、使用物品(図示を求めた)など具体的方法について助言を得るよう調整した。臨床指導者とともに実施させて頂いたが、学生の計画と実施ではその場で大幅な変更があった。学生は、準備、実施、観察、評価、すべての過程で自己の知識や技術の拙さも実感することができ、2 年次への学習意欲へとつなげることができた。
- 5. 臨地実習終了後の学内実習日には、事後課題(主に疾患と治療、症状とケアとの関連を確認させた)を課し、記述することで、患者理解が十分だったかを振りかえる機会とした。

#### 授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】

- 1. 患者の情報収集に関しては、患者とのコミュニケーションや、フィジカルアセスメントを実施して情報を収集し、電子カルテの情報に固執しないよう助言した。
- 2. 看護技術の計画を行うにあたっては、物品準備、配置、手順、体位など事細かく計画書に記載させた。ケ

ア時の物品配置は、図を活用し、指導者に伝わりやすく学生もイメージできるように記載方法の工夫も求めた。 3. ケアの実践に関しては、早期に指導者の助言をもらえるよう、日々のカンファレンスの時間等も調整した。 ケアの実践は、ほとんどの学生が臨地実習指導者の直接の指導のもとで行えたため、計画・実施・評価と一連 の助言をいただくことができ学生の理解も深まった。

### 授業科目名【 在宅看護学演習 】

現カリキュラム3年目、昨年に引き続き①在宅療養のメリットデメリットを社会的視野で考えるディベートの演習、②ライフステージ障害別の3種類の地域ケアシステムを図式化する演習、③居宅サービス計画書事例の提示し、利用者負担金を計算する演習、④訪問看護計画作成演習であった。

- 1. 看護過程演習・居宅サービス計画の事例作成を担当した。その際には、訪問看護実習で出会った実在の療養者をモデルとした。アセスメント演習では19パターン中9パターンは模範を記載し、学生の負担が過重になりすぎないよう工夫した。
- 2. 社会資源の図式化の演習では、学生の苦手な社会資源の知識の基礎について、調べる方法を提示し自ら社会の制度に興味を持つよう促した。また、この知識は実習の際にマネジメントプランを考えるための基礎となるものであることを伝え、学習意欲を高めた。

### 授業科目名【 在宅看護学実習 】

- 1. 実習の事前調整では8訪問看護ステーションと、8診療所と1病院について、実習内容の説明、実習時期・実習日の確認・協議を行った。
- 2.12~13 日間の臨地実習の中で多数の療養者の訪問を経験できるようになったが、その一人ひとりについて 事前学習が不十分な状態で実習する傾向が見られた。事前学習の不足している学生には、臨地実習指導者と訪 問件数の調整も適宜行った。学生には実習を承諾していただいた療養者への責任を考えさせた。
- 3. 多数の療養者を訪問させて頂いているため、受け持ち療養者の看護展開のみならず、地域で療養する人々を集団でとらえる視点の重要性を強調した。最終カンファレンス資料を文章化させるにあたり、実習2週目の週末を活用してグループ学習が進められるように2週目金曜日に学生ミーティングを行い、昨年度より達成度が上がった。
- 4. 実習期間中、体調不良の学生が見受けられた。その際には、学生の体調を早朝、夜間にも確認し、単位認定者や、臨地実習指導者と連絡を密にとり、学生には、訪問予定の療養者に悪影響が及ばないことが最優先であることを説明し、実習を調整した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会		2008年4月~現在に至る
日本社会福祉士会		2009年4月~現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2010年4月~現在に至る
日本公衆衛生学会		2012年9月~現在に至る
日本看護技術学会		2013年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		了又は の年月			発表雑誌 全等の			概		要	
(著書)												
(学術論文)												

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(番指尺)											
(学会発表) 1. 生活援助技術としての洗髪に関する国内文献の検討	共	2016.3	12	第:	36 回学	<ul><li>養科学術集会京東京</li><li>よい</li></ul>		け二者でるて動す的能よ神る②事につかまるの何るでし、る的の世界を	なべ、犬施と先を文あ、洗「安と司くの態しこ髪明献る髪安楽大発表でにない、「神体をある	地、おけ、関い、清かで、いるとは、は、は、ほうで、清かで、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	潔をようの場合である。 適番を保いませる。 適番を保いませる。 一次のでは、 一次ので

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
				(1)	共 同 福	研 究			
研	究	題	目		交付団体	研 究 者	交付決定額		
H) I	<u> </u>	765			入门回厅	○代表者()内は学外者	(単位:円)		

外部資金(科学	研究費補助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	(2)
	(2) 個 人 福	研 究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等

### ◆物品管理委員

- ・看護学実習室・標本室内の管理:物品の在庫確認、不要物品の廃棄、看護学実習室のリネンの洗濯だし、
- ・演習・実習に関する物品の購入及び管理
  - 1年生への実習室使用に関するオリエンテーション実施、
- ・看護学科共有物品の貸借管理
- ◆学生募集関連担当(ブログ等運営)

今年度より、委員以外も記事の執筆をしていただき、ブログへの掲載は委員で行った。委員による執筆記事と合わせて本年度は23件のブログ掲載ができた。

氏名	末光 順子	職名	助手	学位 学士(比較文化学)(北九州市立大学)
1			,,,,	Bachelor of Comparative culture

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
看護教育					・視聴覚教材の活用
看護技術					・看護技術の習得方法
					・技術演習の安全(アレルギー反応の予防)

#### 研 宪 課 題

- ・看護学生が看護技術を習得するための有効な方法を検討する。
- ・看護技術演習での学生の安全を確保するための方法について探求する。

### 担 当 授 業 科 目

- 看護技術論
- 生活援助技術論
- ・ヘルスアセスメント
- 診療関連技術論
- 看護過程論
- · 基礎看護学実習 I
- 基礎看護学実習Ⅱ
- · 看護形態機能学Ⅱ
- 母性看護学演習
- ・感染と免疫

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目【看護技術論】

最初の実習室使用の演習であり、実習室使用オリエンテーションで「実習室は病室であり、患者の生活の場である」と説明し、その後も演習毎に繰り返し指導した。また、ベッドメーキング等は実技試験がなく学生の自己練習にバラつきが多い。そのため、技術習得の必要性を説明し、自己課題を持って取り組むように指導した。

また、早期看護実習は、初めての臨地であり学生の緊張感が強い。そのため学生の表情に気を配り積極的に声をかけて、学生が安心して実習に臨めるように配慮した。よりよい実習環境を整えるために、指導者会議だけでなく前日にも実習病棟に連絡したり、担当看護師に学生の状況を尋ねたり等の関わりをした。

#### 授業科目【生活援助技術論】

主に担当させてもらっている清潔(足浴、洗髪)の援助に加えて、栄養(経管栄養)の援助や排泄の援助も 担当させて頂いた。患者の安全や安楽にポイントをおき指導すると共に、栄養や排泄に関する演習では形態機 能を振り返りつつ指導した。また、演習全般において必要物品の準備や AV 機器の調整等、学生の学習環境を 整えた

安全面として、ラテックスアレルギーのハイリスク者を抽出し、該当学生にはラテックスフリー手袋の使用を指導した。

#### 授業科目名【ヘルスアセスメント】

学生は、演習での手技の模倣に留まりがちであるため、既習の知識と関連させ、観察の意味を考えるアセスメントの視点を持つように指導した。

また、技術の習得の機会でもある実技試験では、自己練習の環境を整え、練習時に根拠を考えるように発問し、教科書や資料に戻って学習をするように声かけをした。

### 授業科目名【診療関連技術論】

演習全般において必要物品の準備やAV機器の調整等、学生の学習環境を整えた。昨年修正した kaname.net の教材の活用で自己練習の効果をあげるように働きかけた。

演習では注射器や採血等の針を使用するため、安全面への配慮として注意点を指導しつつ学生一人一人の動作を確認した。主に担当させて頂いた酸素療法では、学生自身に酸素吸入を体験の中から、酸素療法をしている患者の状況や看護を考えるように指導した。

#### 授業科目名【看護過程論】

今年度は飯野先生の指導の下で4グループ(33名)の演習を行った。グループワークでは個人学習と学生間の意見交換が活発に行われるように働きかけ、個々の学生の主体的活動を促すように関わった。しかし、学生のモチベーションの差が大きく、理解の差も大きくなった。

#### 授業科目名【基礎看護学実習 I】

初めて患者を受持ち、患者との関わりを振り返る中で対象を理解することの重要性を学ぶ実習である。学生のプロセスレコード等の記録や面談を行い指導する。患者との関わりに困難を感じている学生に対して、共に患者と接し患者の言動の意味を考え、対象者を尊重することを考える機会とする。

また、2 つの病棟を担当し病棟を不在にすることがあるため、臨床指導者との連携をより密にした。また、 学生にも主体的かつ計画的に行動するように指導する。

### 授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

看護過程を展開し、日常生活援助を実施する実習である。看護過程の履修後とはいえ、看護過程の思考で患者を理解することは難しい。そのため、学生自身が学んだ知識やテキスト、資料を有効に生かしつつ、患者の全体像を捉えることができるように関わった。また、事前準備としての学習や技術習得の必要性を説明し、主体的に技術練習に取り組むように働きかけた。

事前の知識不足や技術の練習不足、モチベーションの低い学生に対して、実習初期より個人面談を繰り返し、 臨地指導者とも連携を持ち、患者と向き合えるように関わった。

また、2 つの病棟を担当し病棟を不在にすることがあるため、臨床指導者との連携をより密にした。また、 学生にも主体的かつ計画的に行動するように指導した。

### 授業科目名【看護形態機能学Ⅱ】

解剖見学実習では、解剖を学習ことと死者と接するということを経験する。そのため、緊張や恐怖心を抱き、 気分不良になる学生がいるので、実習中の学生を注意深く観察し、不安な様子の学生に声掛けをした。

また、人骨を使用する実習は、ただ人骨を並べるのではなく、教科書を活用し人間の動きを考えるように関わった。

#### 授業科目名【母性看護学演習】

沐浴技術演習を担当した。技術の安全に関して、根拠を交えて指導した。また、初めての実施で緊張している学生に対して、沐浴のイメージを持たせつつ児(モデル人形)への声かけを行うことで、児と共に実施者も落ち着くと話した。

#### 授業科目名【感染と免疫】

消毒効果での手洗いを実践しながら説明することを主に担当させて頂いた。手順だけでなく、根拠づけて実施した。また、細菌の分離と観察では、学生に発問して興味関心を持つようにしたり、観察したことを学習した知識と結びつけたりできる等にポイントをおいて関わった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護倫理学会		2011.2~現在に至る
日本看護学教育学会		2011.4~
日本看護科学学会		2011.7 $\sim$
日本看護技術学会		2012.6~

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 1.看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連 (査読付き)	共	2016.4	第46回日本看護学会論文集看護管理	①臨床現場で働く看護師のLA既往者と LA知識の獲得状況を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、自己申告によるLA既往率は3.7%と先行研究と類似の結果だった。またLA既往に関わらず、LAに関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部でのLA教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。 ② 共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ 3 p282-284 (2015 年度に印刷中で記載)
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 生活援助技術としての 洗髪に関する国内文献の 検討	共	2016.12	日本看護科学学会 第36回学術集会 (於:東京 東京国際フォーラム)	①洗髪は、頭髪の清潔を保つだけでなく 心地よさを伴う患者ニーズの高い技術 であるが、患者の状態に応じて、適切な 方法で実施しなければ苦痛を与える。そ こで、生活援助技術としての洗髪に関す る国内文献の動向を明らかにした。洗髪 に関する文献は、清潔援助の主な目的で ある「清浄効果と頭皮の機能」、洗髪体 位や用具の検討による「安全・身体的安 楽」、精神的安楽等の「副次的効果」の3 つに大別された。 ②共同発表名 水原美地 ③日本看護科学学会第36回学術集会 -PA-4-17-
				教育研究業績 総数 (2017. 3現在) 学術論文 9 (内訳 単0、共9) 学会発表 21 (内訳 単0、共21)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
	(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	で付団体 研究者 交付決定額 (単位:円)								

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
	(2) 個 人 研 究							
研 究 題		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考				

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等

- ・物品管理委員:看護学科での物品管理係の役割である実習室・標本室の物品管理、看護学科所有物品(実習室・標本室以外)、演習・実習に関する物品の購入及び管理を行った。
- ・学生募集関連担当(ブログ等運営): 入学式や卒業式等のイベント、オープンキャンパスの紹介、学内演習に加えて、実習や卒業生の活躍を紹介した。毎月アップした。
- ・後援会学校委員:懇親会の出席や連絡等を行った。

氏名 樋口 由貴子	職名  助手	学位 学士 (西南女学院大学 2002年)	
-----------	--------	-----------------------	--

	研	究	分	野	研究内容のキーワード			
小児看護学					子ども、ワクチン、感染症、発達障害児、家族支援			

#### 研 宪 課 題

- ・ 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家 族の健康管理について考察する。
- ・ 大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。
- 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。
- ・発達障害児とその家族への支援について考察する。

### 担 当 授 業 科 目

小児看護学演習(前期)看護学科)、小児看護学実習(通年)看護学科)、 小児看護学概論(後期)(看護学科)、 母生看護学演習(前期)(看護学科)
基礎看護学実習 I (後期) 看護学科)、 基礎看護学実習 II (前期)(看護学科)、 看護のための臨床検査(前期)(看護学科)
乳児保育(後期)(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 小児看護学演習 】

ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習を行った。事例検討では、実際の患児や家族がイメージで うに発問し、看護展開を理解できるように工夫した。

実技演習では、安全面の留意し、根拠と工夫することの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助し、実技習得に向けて学生が練習する際にも指導を行った。

### 授業科目名【 小児看護学実習 】

臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドに一緒に行き、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、達成できるよう支援を求めた。

臨床実習の中で、学生がもった「疑問」・「気付き」から明日の看護に結びつける課題を見出せるよう援助した。 看護師以外にも医師、保育士、療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。

#### 授業科目名【 小児看護学概論 】

NPO 法人ママの働き方応援隊が企画する「赤ちゃん先生プロジュクト」の協力を得て、学生が赤ちゃんとお母さんに触れる中で、子育ての大変さ、喜びを実感しその中で看護師としてどう母子を支えるかを考えるように支援した。

### 授業科目名【 母性看護学演習 】

沐浴演習では、新生児の解剖生理学に基づき技術の根拠となる考え方とそれを実践する方法について説明し、 学生が理解し安全に実践できるよう援助した。

### 授業科目名【 基礎看護学実習 I 】

初めて患者を受け持つ実習となる為、学生としての身なり・行動や安全、個人情報取り扱いの責任を持つことを意識行動できるよう具体的に指導した。グループで行動する意味を説明し、報告・連絡・相談を意識して行動できるよう指導の工夫をした。

プロセスレコードを用い、自己の振り返りの中から自己の特徴が分かるように支援した。

### 授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】

臨床実習では、学生としての身なり・行動や、個人情報取り扱いの注意について指導した。

また、患者さまを実際に見て触れて感じたことから、患者さまに必要な看護を導きだすよう指導した。カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。

### 授業科目名【 看護のための臨床検査 】

心電図検査の目的と安全に、かつ確実に装着できるよう指導した。

また、演習の中で、羞恥心や安全にも配慮するよう指導した。

### 授業科目名【 診療関連技術論 】

技術の根拠と工夫することの重要性について説明し、学生が根拠を考えながら実施できるように工夫した。 また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージしやすいように援助した。

#### 授業科目名 【 乳児保育(福祉学科) 】

NPO 法人ママの働き方応援隊が企画する「赤ちゃん先生プロジュクト」の協力を得て、学生が赤ちゃんとお母さんに触れる中で、子育ての大変さ、喜びを実感しその中で保育士としてどう母子を支えるかを考えるように支援した。安全の配慮を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		平成14年4月(現在に至る)
日本小児看護学会会員		平成21年1月(現在に至る)
日本小児保健協会会員		平成21年4月(現在に至る)
日本環境感染症学会会員		平成 22 年 10 月 (現在に至る)
北九州医療保育士ネットワーク		平成23年3月 (現在に至る)
日本看護科学学会会員		平成25年6月(現在に至る)

2 0 1 6 年 月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デ又は の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書) 小児臨床現場で使用さ れる単位と比率	共	2017.	2	小 vol.4	児 10No2	看 FEBRU	護 JARY	る単 た ②飯!	位や比	· 率につ · 梶原注	場で使用すいて解説し
(学術論文)なし											
(翻訳) なし											

2 0 1 6 年 月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行 発表の	で アン アン 年月			発表雑 学会等の	•		概		要
(学会発表) 自閉症スペクトラム障 害がある子どもをもつ 家族の思いと支援の現 状	共	2016.1	.0	第34会	4 回産	業医科	大学学	下ASI 援に し、支 にした ②共同	)) の子 ついて! で援の!	どもの 文献を 見状と記 者名	ラム障害(以 )家族への支 もとに検討 果題を明らか 中村恵美(産
								翻訳	論文 ( 0		単0, 共1) で 単0, 共1)

外部資金(科学研究費補助	加金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	·c)
(1)	共 同 研	开 究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

		外	部資金	(科学研	F究費補!	加金等)	導入状	況 (7	本学共同研究費を含む	ts)	
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	目		交价	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし											

;	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名 (内 容)	称			役	職名	等			任期	間	期 等	
日本小児看護学会 (第 26 回学術集会運営)			実行	委員				2016年	<b>₹7月2</b> 2	2 日~24	<b>日</b>	

・保健福祉学部 1 年生および助産別科 1 年生への感染症予防/予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 2011 年 6 月〜現在に至る

2010年度	<b>拟月则几</b> 位	到 取 口 用 机 (*** 1.9 (2010))	
氏名 後藤有紀	職名助手	学位 学士	
		·	
研 究 分	野	研究内容のキーワード	
精神看護学		教育、精神看護	
	 研 究	課 題	
精神看護学実習を終えた学生が、実習	で直面した課題に対	してどのように思考しているのかを明らかにする目的	で実
施した。(2016年度看護科学学会に	てポスター発表)		
	担 当 授	業 科 目	
なし			
	(※ 助手についてに	は、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)	
授業科目名【看護研究の基礎】	() () () () () ()	X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	
	ろよう分かりやすく言	说明することを心掛けた。グループワーク形式てあ・	った
		のとその場で考え問題解決できるような声掛けの工	
った。	3 - ( ) · ) 3 - A( )		, ,,,
授業科目名【精神看護学演習】	7八の悪美な字振し	た 学生が集中して時けるとされて土 <i>(</i> 字周なえれ	Z
		た。学生が集中して聴けるような工夫(実例を入れ トや目標設定の視点を教科書を基に分かりやすく説F	-
		ド く 日宗政定の祝ぶされ行音を基にガパック く す く 配ぐ 学びを深めていく形式であったため、全員参加型か	
		が発表しやすい雰囲気作り等演習運びの工夫をした。	-
授業科目名【精神看護学実習】		-	
学生の実習が効果的に行えるように	工実習先や授業担当	<b>教員とのタイムリーな情報交換と調整。カンファレ</b>	ンス
		ーマ決め、運営への助言等)。学生からも精神看護学	
でのカンファレンスはとても効果的	りだったと評価を得力	た。考える力を養うため、個別に具体的指導の実施。	)

授業科目名【

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護科学学会	なし	2016年度
日本精神科看護協会	なし	2015年度
日本看護協会	なし	2015年度

2 0 1 6 年 度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					
(翻訳)					
(学会発表)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1)	共 同 码	开 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)							
①精神看護学実習後における学生の倫理に関する思考	西南女学院大学	○前田由紀子 ○後藤有紀	120,000							

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含	<b>む</b> )	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 (内	の名称 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
なし												

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)
国家試験対策委員										

# 福 祉 学 科

氏名     柳澤伸一     職名     教授     学位修士(文学)(東北大学 1975年)	
--	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
南ドイツ(スイスを含む)中・近世史	神聖ローマ帝国 スイス誓約同盟

#### 研 宪 課 題

スイスの神聖ローマ帝国からの独立過程を考察する。当面は、近世スイスの人々に、神聖ローマ帝国を支える 使命を帯びたドイツ人の一員であるとの意識が根強く存在していたことを検証する。

#### 担 当 授 業 科 目

ジェンダー論(前・後期)

西洋の歴史と文化 前・後期

基礎習(解年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 ジェンダー論 】

現在のジェンダー問題を、「国連婦人の10年」以降のフェミニズムの歴史の中で捉えられるようにした。 ジェンダー問題の日本的特質を、欧米との比較の中で捉えられるようにした。

最新の新聞記事(近代家族の揺らぎ、男女格差の国際ランキング、家族政策の国際的動向など)をできるだけ 取り上げて、問題を身近に感じられるようにした。

節目ごとに、小レポートの課題を出し、受講生に授業内容の整理を促した。

# 授業科目名【 西洋の歴史と文化 】

ョーロッパ世界が直面している現在の諸問題(一方に EU の拡大・深化とゆらぎ、他方に地域主義の台頭)の歴史的根源をたどることにより、現在と過去とのつながりが感じられるようにした。

フランスとドイツ、スイスを例に、中世の平和団体のあり方と近代の国家のあり方との密接な関連をたどることにより、各国の個性的、長期的発展について考えられるようにした。

節目ごとに、小レポートの課題を出し、受講生に授業内容の整理を促した。

#### 授業科目名【 基礎演習 】

6人の教員によるオムニバス形式の授業の一環として、「歴史認識の共有可能性」をテーマにした。 比較の方法に習熟するため、日中韓三国の高校歴史教科書を素材として、比較を通じてそれぞれの教科書の特 徴を考察させた。

口頭発表における効果的な発表資料の作り方を学ぶため、レジュメの作成に際して比較表の活用を促した。

1

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本西洋史学会		1973年4月~現在に至る
西洋史研究会	評議員 (1997年11月~2007年11月)	1973年4月~現在に至る
歴史学研究会		1984年4月~現在に至る
スイス史研究会		2004年4月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	<del>等</del>	に	関	す	る	事	項										
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		発行又は 発表の年月											「、発表雑誌 表学会等の名					概		要
(著書)																					
(学術論文)																					
(その他) 日露戦争とはなんであったのか―安倍談話と 日・中・韓教科書の歴史 認識	単	2016年	- 5月	『西南	の杜』	] 第 1	1号	高校图		科書の	日・中・韓 日露戦争観 た。										
(学会発表)																					

3	外部資金	(科学研究費	費補助金等	)導入	状況(オ	マ 学共同研究費を	と含む)	
		(1	.) 共	同	研	究		

研	究	題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	I		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 容				役	職名	等			任期	間	期 等	
西南の杜			編集	委員				2010年	₹11月~	-2017 <sup>£</sup>	<b>手3月</b>	

図書委員会委員 水泳部顧問

氏名 谷川弘治 職名 教授 学位 社会学修士

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床健康心理学	病気の子ども 小児慢性疾患
特別支援教育(病弱児の心理、病弱教育)	小児がん 白血病 先天性心疾患 1型糖尿病
医療保育	トータルケア 心理支援 心理社会的支援
医療ソーシャルワーク	セラピューティックアプローチ 治癒的遊び
高等教育論	教育支援 社会的支援 自立支援 家族支援
	病弱教育 病弱児心理 医療保育 多職種協働
	研修システム 多職種研修
	大学管理運営 大学評価 地域貢献

#### 研 宪 課 題

小児医療における心理社会的支援専門職の専門性向上のシステム構築 小児医療フィールドにおける教師と保育士の言葉の運用に関する研究 小児医療フィールドにおける治癒的遊びの研究

地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究

# 担 当 授 業 科 目

#### <看護学科>

- ①臨床心理学
- <福祉学科>
  - ②ヒューマンサービス基礎演習
  - ③心理統計学
  - ④心理学研究法
  - ⑤発達臨床心理学
  - ⑥福祉臨床心理演習 I
  - ⑦家族心理学演習
  - ⑧保育の心理学 I
  - ⑨保育の心理学Ⅱ
  - 10保育実践演習
  - ①専門研究 I
  - 迎専門研究Ⅱ
  - ① 卒業論文

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

①授業科目名【臨床心理学】看護学科2年後期選択1単位(8コマ+定期試験)

#### <準備>

看護師に必要な臨床健康心理学の基礎知識を身につけ、臨床の場での支援の基本を考えることをねらっている。また、8コマと短いため基本資料を第1回目に配付するようにした。

「かかわりながらの患者理解」という視点を取り上げて論じていることもあり、関心や学習意欲は高い。看護学生としてなじみのない概念(「リフレーミング」「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」)などについては留意するようにした。

毎回、「質問・感想・意見」を回収し、i質問への回答、ii学習を深める上で参考となる感想や意見をまと

めたプリントを, 次の回に配付した。

さらに中間テストを配置し、復習を促すようにした。

#### <評価>

# 1. アウトカム評価

本年度の履修登録者は 68 名 (昨年度 32, 一昨年度 51) と増加した。そのうち 65 名が最後まで受講し、追 再試後に 64 名が単位認定を受けた。

定期試験を終えてのアウトカムは平均点 68.5 点 (昨年度 67, 一昨年度 71) と例年並みであった。成績のばらつきが大きく、65 名中 10 名が再試験となった。

定期試験の結果からは、インフォームドコンセント(アセント)や QOL、病気や障がいの受容などの基本的な事項を、複雑な医療環境において捉える視点の獲得に課題が認められた。

学生の授業評価の関連項目を昨年度と比較した。

- ①自分なりの目標を達成:3.4→3.5 (看護学科平均:3.9)
- ②DP1-2 関係:知識を確認,修正したり,新たに得る:3.8→3.6 (同4.1)
- (3)DP1-2 関係: 事象を理解する視点や考え方を得る: 3.5→3.6 (同3.9)
- ④DP2-1 関係:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力:3.5→3.6 (同3.9)
- ⑤DP2-1 関係:自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力:3.4→3.6 (同3.9)
- 全般に昨年度並みであるが、看護学科平均が上昇傾向にあるなかで不十分であったと思われる。
- 以上から教育目標は「やや達成されなかった」と判断した。

#### 2. プロセス評価

毎回の「質問・感想・意見」には、学生の自らの経験に基づいて、さまざまな意見や疑問が寄せられていたことから、参加度が高い学生がいる一方で、教員の支援によっても私語が改善しない学生も少なくなく、授業フィールドの課題への集中度は、昨年度よりも低下していた。学生の授業の質評価は昨年度並みか改善もみられたが、看護学科平均の上昇には追いついておらず、課題が示されたと考える。

#### <まとめ>

成績のばらつき、授業評価の状況は、学習準備性の変化の把握が不十分であった結果と推察される。履修比率の高まりも影響しているように思われた。当初に実践的な内容であることをアピールし、ときどきの学習状況のチェックなども交えて、臨機応変な対応に努めたい。

#### ②授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】福祉学科1年前期 必修1単位

#### <準備>

下記の方法は例年通りである。

本人達にとっては初めて経験する密度の濃い対人関係のリフレクションの時間となっている。その機会を活かすために次を重視してきた。a. テーマの説明を丁寧に行うb. 達成感がもてるようにするc. できたことを評価する d. 弱点は長所でもあることを指摘する(リフレーミング)e. 「いまできないことがあっても良いが、卒業するまでには克服するように」と見通しを持たせるf. 振り返りの時間を大切にする。さらに1つのテーマ毎に次の流れを作るようにした。X回目:a. アイスブレーキングに参加するb. テーマの説明を聞くc. エクササイズを実施するd. 解説を聞くe. まとめを作成する(リフレクション) X+1回目:f. まとめをもとに教員が作成した解説を聞くことで再度のリフレクションg. 最終のまとめのレポートを作成し、提出するg. 次のテーマに移行する(g. から進行する)。1つのテーマを1回で終わらせるよりも、まとめをもとにした解説を聞くことで視野を広げたり、深めることができる。

学生の授業評価では、受講動機はほぼ「必修科目である」であった。このことは、授業を通して動機づけを高めていくべきことを示している。

#### <評価>

#### 1. アウトカム評価

成績は83.6 (75から92) であった。

学生の自己評価は下記の通りであった。

DP4 3.6 (昨年度 3.8) (学科平均 3.6) DP5 技術 3.9 (昨年度 4.4) (学科平均 3.7), 表現 4.1 (昨年度 4.4) (学科平均 3.7) であった。

このように、学生の自己評価は昨年度よりも低下していた。

最終レポートでは、自分の今後の課題も具体的に述べることが出来ており、的確に実施出来たと考えられる。

#### 2. プロセス評価

日々の学習は全員が熱心に取り組めていたが、グループにより上手く回っていない場合がみられた。できるだけ声かけするなどしたが、上手くいかない場合もあった。

また、予習復習などは行われておらず、学習課題の提供は必要かも知れない。

#### <まとめ>

1年生前期の導入教育としての目標は概ね果たせていると思われる。毎年のグループ構成とダイナミクスの 把握を早めに行って、かかわりを調整しなければならない。また、日常への課題提示をどうするか、検討を要 するところである。

### ③授業科目名【心理統計学】福祉学科2年後期 選択2単位(認定心理士希望者のみ)

#### <準備>

担当が変わってあらたに担当した。できるだけ手で計算したり、グループで話し合うように心がけた。

#### <評価>

記述統計、分散分析の基礎、ノンパラメトリック検定まで到達し、各自、ガイドがあれば計算を行って、判断を行うまで到達した。

学生の自己評価で-.3以上学科平均より下回っていたのは知識理解,思考・判断,関心・意欲に関するものであった。計算に時間を取られ,これらの意義についてじっくり検討する時間を取れなかったことが原因と思われる。

#### <まとめ>

思考過程を客観化し、意思決定をする上での統計学の意義をじっくり考える構成を目指したい。

#### ④授業科目名【心理学研究法】福祉学科3年前期 選択2単位(認定心理士希望者のみ)

#### <準備>

次の点を配慮して構成している。

- ① 科学の多様な研究方法を学習する機会は少ないため、できるだけ身近な例をあげながら解説する。
- ② 実際的な課題を提示し、意見を求めたり、可能な範囲でデータ分析を実施しながら進める。
- ③ 中間テストを実施して、振り返りの機会を提供する。
- ④ 質的調査,量的調査,実験を簡潔にして,実践の効果測定に活かせる準実験,一事例実験,実践研究の内容を充実させる。
- ⑤ 理解の状況を確認しながら進行を微調整する。

#### <評価>

# 1. アウトカム評価

中間、期末テストをあわせた総合の正答率を観点別に見た場合、下記の通りであった。

DP1-1 (知識要素): 90.6% (昨年度 75%), DP1-2 (含む判断要素): 55.6% (59%), DP3-1 (関心): 85% (73%), トータル 80% (68%)

学生の到達度評価は下記の通りであった。

DP1: 新たな知識 3.8 (昨年度 3.7) (学科平均 3.8), 理解の視点 3.8 (昨年度 3.5) (学科平均 3.6),

DP 3 意欲: 3.8 (昨年度 3.3) (学科平均 3.6)

目標達成: 3.4 (昨年度 3.3) (学科平均 3.5)

以上から、アウトカムは全般的にみて昨年度よりも向上したと考えられる。知識レベルであるが一定の判断を要する問題については課題が残された。

#### 2. プロセス評価

授業中のやり取りは活発であったが、予習、復習の実施は十分ではなかった。この点は改善を要する。 前回、とくに低い項目であった「説明は理解しやすいものであった」は 2.8 から 3.4 に上昇した。 学科平均との比較を整理したところ、下記の通りであった。

評価基準が明確: 3.6 (学科平均3.6)

課題が明確: 3.6 (3.6) 理解しやすい: 3.4 (3.6)

アクティブラーニング要素:4.0 (3.5)

質疑: 4.0 (3.5)

以上の結果は、少人数クラスであることが十分に活かせたことによるのではないかと考えられる。 なお、ポストイットイーゼルTMを用いた授業展開も役だったと思われる。

#### <まとめ>

内容の精選、授業中の課題提示、質疑のやり取りなどを通して、習熟度が上がってきたように思われる。今後は、理解が難しい領域中心に宿題を提示するなど、工夫を進めていきたい。

⑤授業科目名【発達臨床心理学】福祉学科2年後期 選択2単位

#### <準備>

心理学概論Ⅰ,心理学概論Ⅱ,発達心理学Ⅰ,発達心理学Ⅱ,福祉臨床心理学Ⅰ,福祉臨床心理学Ⅱの学修を踏まえて,福祉学科で必要と思われる臨床発達心理学の応用理論について学習を深める科目である。

学生の授業評価によると昨年度、受講動機の1番は「関心のある内容である」50.0%であったが、本年度は「必修科目」66.7%、「資格取得に必要」55.6%、「関心のある内容である」11%となり、まったく異なる準備性であった。これは子ども家庭福祉コースの学生のほとんどが受講したためであり、学習準備性は低くはないと思われた。

なお、あらかじめ小テスト、レポートの予定を示し、計画的な参加ができるようにしている。昨年度、課題 とした、成人や老人、保健医療分野への内容のシフトを実施した。

#### <評価>

履修者は18名(昨年度35)採点対象者も同数であった。

レディネスの調査では、心理学概論 I は 100%、心理学概論 I と福祉臨床心理学 I は 94% が履修しており、発達心理学 I 、発達心理学 I の履修者は少なかった。また、現場に出て行く経験をもつものは少なかった。以上から、発達心理学については入り口のみの学習であり、臨床心理学は基礎を押さえていると考えられた。

#### 1. アウトカム評価

成績の平均は72%であり全員が一度で合格した。

学生の自己評価を昨年度と比較すると下記の通りであった。

- ・全体:自分なりの目標を達成:3.2→3.6 (学科平均3.5)
- ・DP1-1,1-2:知識を確認、修正したり、新たに得る:3.5→3.8 (同 3.8)
- ・DP1-1.1-2: 事象を理解する視点や考え方を得る: 3.3→3. 6 (同 3.6)
- ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力: $3.4 \rightarrow 3.7$  (同 3.6)
- ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力: $3.3 \rightarrow 3.7$  (同 3.6)
- ・DP3-1: 自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつ:  $3.5 \rightarrow 3$ . 8 (同 3.6) 以上のように全般に改善傾向であった。

以上の結果から到達目標は「概ね達成」と評価した。

#### 2. プロセス評価

昨年度実施した「質問・感想・意見」の記入については実施できなかったが、できるかぎり授業その物の中で双方向のやり取りを行うように工夫した。学生の授業評価で学科平均よりも.3高いものとして「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつくられていた」3.8 (学科平均3.3)「質問を受け付け、それに答える機会が与えられていた」3.8 (同3.5) にも、これらの工夫の結果が反映していたと推察される。

#### <まとめ>

福祉フィールドでの実践的な課題を増やしていくこと、学習準備性を確認すること、双方向のやりとりを重視することについて、継続していきたい。

⑥授業科目名【福祉臨床心理演習 I 】福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

#### <準備>

ソーシャルスキルトレーニングと家族療法という2つのテーマについて、理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。テーマ毎のプロシージャーは次の通りとし、間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。

導入 (教員による解説)  $\Rightarrow$  ロールプレイ・グループワーク  $\Rightarrow$  理論学習 (発表と討論)  $\Rightarrow$  まとめ 本年度は、SST の応用について、災害時のストレスマネジメントを取り上げて検討する機会を設けた。

#### <評価>

認定心理士コースではない福祉心理養護教諭コースの学生と子ども家庭福祉コースの学生の履修も増えてきた。それゆえ「関心のある内容である」という受講動機が41%と多くを占めた。

1. アウトカム評価

成績評価は下記の通りであった。

- ・全体の平均:82.0点(昨年度78.5点)
- ・ソーシャルスキルトレーニングの得点割合:.82
- ・家族療法の得点割合:.86
- ・最終レポートの得点割合:.75

学生の授業評価を昨年度と比較した結果は下記の通りであった。

- ・全体:自分なりの目標を達成:3.3→3.7 (学科平均3.7)
- ・DP1-1,1-2:知識を確認,修正したり,新たに得る:3.6→3.9 (同4.0)
- ・DP1-1,1-2: 事象を理解する視点や考え方を得る: 3.7→3. 8 (同 3.7)
- ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力:3.8→3. 8 (同 3.8)
- ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力: $3.5 \rightarrow 3.9$  (同 3.7)
- ・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつ:  $3.5 \rightarrow 3$ . 9 (同 3.8)
- ・DP-5-1,5-2: 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける: 3.4→3.9 (同 3.7)
- ・DP-5-1,5-2: コミュニケーション力や表現力を高めることができた:  $3.8 \rightarrow 4$ . 0 (同 4.0)

全般にみて改善傾向がみられ、目標は概ね達成したと評価した。

# 2. プロセス評価

履修した学生達のペースを見ながら進め方を調整していった。本年度, 災害時のストレスマネジメント教育 については時宜を得ており, 参加度が高いことが示された。今後も, これらの形を維持していきたい。

なお、授業の質の評価において「説明は理解しやすい」3.6 (学科3.9)、「質問を受け付け、答える機会」3.6 (同3.9) と低くなっていた。演習でありながらこのような結果であったのは、課題を提示し、それらの実行を観察したあとのフィードバックの量的な課題として受けとめたい。

#### <まとめ>

「履修者の状況が変わりつつあることを意識して、従来の方法に拘泥しない」という昨年度の総括に沿って、展開することができた。今後も、やり取りを増やしていくことが求められる。グループワークにおけるフィー

ドバックの力量を高めていきたい。
テキストの必要性についてはさらに検討を進めたい。

#### ⑦授業科目名【家族心理学演習】福祉学科4年前期 2 単位 選択

#### <準備>

#### 1. 授業の実施方針

ここ数年、学生のコミットメントが強い科目であり、それに応えるために内容の充実を図ってきた。重視してきたことは、つぎの点であった。①家族の発達過程と直面しがちな課題について最初に学び、家族支援の進め方、最後に家族システム論による理論的な押さえをしていく流れとする。②学生の状況を考慮し、1回の発表分担量を調整する。③観点別評価の導入にあわせて、アセスメント、事例検討(グループワーク)を行う。

#### 2. 学生の学習準備性

受講動機を見ると、一位「資格取得に必要である」が88.9%となり、昨年度一位であった「関心のある内容である」67%は11%に低下した。背景として、本年度認定心理士希望者が大半を占めてしまったことが挙げられる。認定心理士希望者の家族心理学への関心の低さの理由は不明であるが、昨年度のように全体で積極的に聞き合う、話し合う状況が構成できず、形式的進行になりがちであった。

#### 3. 進行上の基本的留意点

- ① 毎回の議論の主題は発表担当の学生が提案するが、教員としても提案できる主題を準備しておく。
- ② 話し合いは学生の進め方を尊重するが、必要に応じて、家族療法の技法である円環的質問の方法を準用するなど、演習の主題に関連する技法も用いてシステムの活性化に努める。
- ③ 以上の点に加え、話しあった後のまとめとして深めるための問題提起をするようにしたが、受け止めは ばらばらな印象であった。

#### <評価>

#### 1. アウトカム評価

- ① 教員評価による観点別の出来具合を表す指標は、次のような結果であった。 DP1:70% (昨年度1-1:60%, 1-2:79%), DP2:69% (昨年度2-1:87%, 2-2:57%),
- ② 学生の到達度評価は次のような結果であった。

DP3:74% (昨年度3-1:80%, 3-2:57%) であった。

- DP1:新たな知識 3.3 (昨年度 4.8) (学科平均 3.9) 理解の視点 3.1 (昨年度 4.3) (学科平均 3.6),
- DP2:課題検討 3.2(昨年度 4.0)(学科平均 3.7)判断 3.1(昨年度 4.0)(学科平均 3.6),DP3: 意欲 3.1(昨年度 4.0)(学科平均 3.7)
- ③ 成績を単純にみると昨年度と比べ思考・判断に課題が残ったが、これはとくに家族支援への関心の低さによっていると思われる。学生の自己評価の低さは、議論が深まらなかったプロセスの問題と思われる。

# 2. プロセス評価

授業の準備についてで述べたように、議論が形式的になりがちで、多角的な意見の引き出し、家族を深く理解することの意義などを伝えることに限界があった。

# <まとめ>

昨年度は学生の関心の高さに支えられ、知識理解、意見表明の点では効果の高いプログラムを実施出来ているとしたが、本年度は、その基本の部分で躓く状況であった。毎年大幅に変動するグループダイナミクスを考慮して、進め方を工夫するように準備をしていきたい。基本的な枠組みは変更しないが、問題をたて、解決を目指すという形式の演習の時間を増やしていきたい。

学生の授業評価意見として課題の多さが指摘されているが、昨年度と同様であり、事前に示しているものであることから、計画的な準備を促すようにしたい。

#### ⑧授業科目名【保育の心理学 I 】福祉学科子ども家庭福祉コース2年後期 必修2単位

#### <準備>

具体的な事例を増やすよう努めたほか、下記の視点は変更をせずに進めて行った。

子ども家庭福祉コースであるが子どもとかかわる機会が少ないことが背景にあるため、スタート段階で、準備性を確認するレポートの作成を求め、それを出発点におく。子どもらしさの既成概念を壊すこと、子どもと関わるときの価値志向性の多様性などを理解し、自分の考え方を相対化することからはじめている。根拠をもって考えるという姿勢を大切にしたいため、維持していきたいところである。その上で、個の発達について、関わりの発達について、できるだけ具体例を通して解説している。また、授業中に問題を提示してのグループワークなど、アクティブラーニングの要素を導入している。

#### <結果>

受講動機として「必修科目である」86.7%,「資格取得に必要である」60.0%が多く,「関心のある内容である」は13.3%と少なかった。

# 1. アウトカム評価

最終成績の平均は81点であった。

評価対象別にみるとレポート A82%, レポート B88%, 小テスト 74%, 期末テスト 78%であった。 学生の授業評価の結果を昨年度と比較した結果,下記の通りであった。

- ・全体:自分なりの目標を達成:3.2→3.7 (学科平均3.5)
- ・DP1-1,1-2:知識を確認,修正したり,新たに得る:3.8→3.9 (同3.8)
- ・DP1-1,1-2: 事象を理解する視点や考え方を得る: 3.6→3. 9 (同 3.6)
- ・DP2-1:自分が学ばうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力: $3.7 \rightarrow 3.8$  (同 3.6)
- ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力: $3.5 \rightarrow 3.8$  (同 3.6) 改善傾向もみられており、成績も加味してみた場合「概ね達成」と考えて良いと思われた。

#### 2. プロセス評価

ワールドカフェを含むグループワークにより、多様な視点があることを学ぶようにしているが、議論は昨年 以上に活発であった。

学生による授業の質評価は下記の通りであった。

「評価基準は明確であった」4.1 (学科3.6)

「学習範囲、課題が明確であった」4.2 (同 3.6)

「説明は理解しやすい」3.3 (同 3.6)

「参加する機会があった」 4.3 (同 3.3)

「質問を受け付け答える」4.0 (同3.5)

以上のように、説明の難しさを除いて、活性化された授業ではあったと思われる。

# <まとめ>

今後も、各種のアクティブラーニングの要素の導入には積極的でありたい。説明の難しさに関しては、なんらかの形で、双方向のやりとりを増やす必要がある。

#### ⑨授業科目名【保育の心理学Ⅱ】福祉学科子ども家庭福祉コース3年前期 必修1単位

### <準備>

#### 1. 基本的方向性に関する課題

保育の心理学 I での学びを受け、より実践的な課題を多く取り入れて、子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきている。とくに、子どもの行動観察 (VTR)、子どもへの遊びの提供(実技)という課題を提供することで学生の動機づけを高める努力をしてきた。事後の授業評価での受講動機をみると、多くが「資格取得に必要である (65%)」「必修科目である (65%)」であって、「関心のある内容である」は 4%であった。

その後の学生の学習状況を見ると、昨年以上に課題一つ一つについての関与は主体的と判断された。

学習課題が多いため(レポート 5 本, 行動観察, 遊びの計画と実施, 保育の質保障, 最終の発表), 初回のオリエンテーションで課題全てを提示し, 学生が計画的に取り組める様にした。

# <評価>

#### 1. アウトカム評価

成績は平均 68 点, 最低点 33 点から最高点 85 点とばらつきが大きかった。不合格者が 6 名となったが、これは提出物の遅れによるところが大きかった。

学生の授業評価は下記の通りであった。

DP1:新たな知識3.7 (昨年3.4) (学科平均3.9) 理解の視点3.6 (昨年3.3) (学科平均3.6), DP2:課題検討3.6 (昨年3.2) (学科平均3.7) 判断3.6 (昨年3.1) (学科平均3.6), DP3:3.8 (昨年3.2) (学科平均3.7), DP5:技術3.7 (昨年2.8) (学科平均3.7) 表現力3.7 (昨年2.9) (学科平均3.7)

以上のように全般に改善していた。とくに技術・表現力は 0.8 から 1.0 ほど改善している。これは、授業の進め方だけでなく、昨年導入した方法への教員の慣れ、学生自身の準備性の高さがあると思われる。

全般的にみて不合格者が出た点では、まだまだ到達度は低く、とくに動機付けを引き出す点で課題があるように思われた。

#### 2. プロセス評価

全般に参加度、計画性は高く、学習が深まった印象を持っている。ただ、進行について来られなかった学生がおり、課題の量を調整するといった作業が、まだ必要と思われた。

#### <まとめ>

目標は「やや達成された」という状況であり、学生の受講動機の向上、学生の達成感を引き出すためのスキル評価の導入、内容の精選などをさらに進めていく必要性が明らかとなった。

学生の評価は、教員の説明が難しいという結果であった。次年度は行動観察と遊び活動の実施を除く部分で テキストを用い、グループワークを展開することで、予習と復習のための環境整備を進める。これによって学 生の評価に応えることを目指したい。

⑩授業科目名【保育実践演習】福祉学科子ども家庭福祉コース4年通年 必修2単位

#### <担当制>

本科目は担当教員グループが分業と協業によって構成されており、教員は各担当箇所での参加、担当を越えて共通参加での参加を行う。谷川の担当箇所は「保育の現代的課題」というテーマのうち「健康障害」である。 学生は、病気の子どもの保育に関する基本的知識と病院における日常的遊び活動について学ぶ。

#### <担当箇所業務の評価>

「保育の現代的課題」は 2015 年度より選択制であり、以前に比べ学生の自発的な行動が増えており、参加度は高く維持されていると評価される。遊び活動では、病院でできる遊び活動を計画するものであり、学生の創意工夫が認められるが、応用するためには配慮すべき事項について見直していくためには、時間不足が少なくない。

#### <共通参加業務の評価>

他のテーマで進めてきた準備によって取り組まれる行事には参加し、学生の行動を観察し、評価することが 各教員の共通参加業務である。行事の終了時の講評において、講評の時間がないときはメモを担当教員に渡す 形で、学生の動きの中から評価できる点、課題と思われる点について伝えるようにした。

最後の授業では各教員からのコメントを伝える時間があるが、谷川は「仲間と共に自分でする」ということについて話したところ、最終のレポートでその視点を取り上げた学生がいた。印象に残るコメントをしていくことを今後も心がけたい。

#### ①授業科目名【専門研究 I 】福祉学科 3 年 必修 2 単位

本年度は履修者がなかった。

- 迎授業科目名【専門研究Ⅱ】福祉学科4年 必修2単位本年度は履修者がなかった。
- ③授業科目名【卒業論文】 福祉学科 4年 選択 4単位 本年度は履修者がなかった。

	学会における活動			
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期		
日本医療保育学会	理事 2009年8月まで	1997年6月		
	理事 2015年6月から現在に至る			
全国病弱教育研究会	副会長	1992年7月		
日本特殊教育学会		1992年2月		
日本心理臨床学会		1992年4月		
日本小児保健協会		1995年4月		
日本造血細胞移植学会		1996年12月		
Child Life Council		1998年8月		
日本小児看護学会		1999年4月		
日本育療学会		2009年10月		
日本心理学会				
日本教育心理学会				
日本小児血液・小児がん学会				

2 0 1 6 年 月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行。 発表の		発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称					要		
医療保育セミナー	共	2016年10日	平 5 月	健帛	社			門トやれ礎1進変編編谷・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	資あく『などをて、弋の1ヵ呆責筆7ち格り構医っ第取い日表分章1青任は章「認・成僚で70~本)担「11の者」「2.	定般れ育るはれ、寮川、寮お践編、寮の向たデがその、保郁・保よい、集・保	子,鈴木裕子 育概論」 び第7章 「医 pp.103-139) 育の実践」の こ必要な情報

2 0 1 6 年 月	ま 研	究	業	績	争 し	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月	発行所 又は発	f、発表 表学会				概		要	
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第6集:子どものための夢の病院をつくろう~改善活動の手法を学び、実践に活かそう	共	2016 : 30 日	年 8 月	私製 http://k	ota.la.	cooca	an.jp	う師ぶプ第も数JSPS Num 会 リ SPS Num 会 第 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	育士や療 ど 、 に を は あ よ と と と と と と と と と と と と と	始 ス 働 テ 系 A4 に KEV に 以 の の ス 動 4 に KO458 に 中 治 に 血 で	医 と つ ト か 引 HI 31 L) ド と 道 と で ま に が に が に が に が に が に か に か に か に か に か	る。 を学ぶ ページ Grant よる助 子,
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第7集:子どもの遊びと遊び活動	単	2017 30 日	年 1 月	私製 http://k	ota.la.	.cooca	an.jp	う保 の の の が の が の が の が の が の が の が の が の の が の の の の の が の の の の の の の の の の の の の	育ど職と集ど即動を一学療協の、病理とどもなる。 な療協の、病理とどもなる。 KA	始師が, ス働きに 所解して いののペー KEN K0458	医 フート ひ 向 ど に あ ジ ら か と う あ ど き よ 提 い よ が い 出	る。 もの
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集:表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために	共	2017年	平2月7	私製 http://k	ota.la.	.cooca	an.jp	う 解 が の が の が の が の が の が の が の が し と 者 ら に し よ し に に し に に に に に に に に に に に に に	育と職を集か聞を開たる 大を療協の、 は対の的視 KA ber 15	始 ス 働 キ 院 さ に 世 学 KEN KO458	医かったのこれをあるのでは、これで子の多をします。 まんしゅう おいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はい	る。 もと家 種の支 て, そ めの実

2016年月	芰 研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
				部附属保健福祉学研究所共同研究費(2014~16年度)の助成により作成。 A4判,総ページ数14ページ。執筆者谷川弘治,文屋典子豊永絵里谷川の分担谷川の素案をもとに執筆者で協議を行い、まとめた。
(学術論文) 子どもの療養生活にか かわる看護師・保育士・ 教師が作成した個別支 援計画の現状と課題 (査読あり)	共	2016年7月	小児保健研究	子どもの療養生活にかかわる 看護師・保育士・教師が作成し た個別支援計画の特徴や課題 を明らかにするため、模擬患者 について看護師3名、保育士9 名、教師3名が作成した個別の 支援計画を分析した。同一の支 援行為でも、職種によって共通 する部分と異なる部分があり、 さらに他の職種も行っている 支援であっても自らの職種の みの記述であった。 執筆者 甲斐恭子、関佳子、谷 川弘治 役割分担 研究の企画、分析、執筆内容 について3者で協議して進め、 甲斐がまとめた。
(翻訳) なし				
(学会発表) 小児医療フィールドで はたらく教師と保育士 の言語表現に関する研 究	共	2016年7月9日~10日	日本医療保育学会第 20 回総会・学術集会 (川崎医療福祉大学)	前研究で行った小児医療フィールドで働く保育士の語句使用の実態把握(豊永・谷川2014)に、教師を対象とするデータを加え、その特徴と課題を整理した。本研究は西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所共同研究費(2014~16年度)の助成によって行われた。 発表者 文屋典子・豊永絵里・谷川弘治役割分担 研究の企画、分析、執筆内容

2016年月	度 研	究	業績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行区 発表の			発表雑詞 学会等の			概		要
								いて3者 まとめた		をして進め、文

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1)	共 同 矿	开 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)							
冊子『臨床におけることばの運用から見た医療保育と病弱保育』の作成	保健福祉学部 附属保健福祉 学研究所	○文屋典子 谷川 弘治 豊永絵里	155,000							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(2)	個 人 可	开究								
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考							
医療保育、病弱教育に関する多職種合同研修	日本学術振興	3年間の直接経費								
システムの質的向上・普及の研究	会科学研究費	3,600,000								
15K04581	補助金基盤研	2016年度直接経費								
	究 (C)	1,400,000								

社	会	に	お	け		る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職	名	等			任 期	間	期 等	
病気の子ども支援ネットワーク 講演会「病気の□ども達が□き□き	,	講師						2016年	₹6月4	日(フェ	ェリエ草津	)
ぶこと ~ 『院中の学校教育の意	義と											
課題」 修猷館高校出前講座(「臨床の知	. 17	講師						2016年		3 日(福	岡県立修猷	雌高
アプローチする 医療フィール	_											
例に)		講師						2016 <sup>を</sup> ター)	丰 10 月	17日(	福岡県教育	でと
平成 28 年度特別支援中核教員養 座 (特別支援学校教諭免許状取得 ス)「病弱児の心理・生理・病理」												

1. 保健福祉学部長(2015年4月から,現在に至る)

本年度は「将来計画 2016-2018」の保健福祉学部及び看護学科、福祉学科、栄養学科に関する部分、研究活動推進に関する部分などを取りまとめ、実施に移すことができた。

- 2. 学校法人西南女学院理事(2015年4月から、現在に至る)
- 3. 入試会議メンバー (2015年4月から, 現在に至る)
- 4. 倫理審査委員会委員長(2015年4月から,現在に至る)

2015 年度に改定した研究取扱規則等にもとづく審査および研究倫理教育を実施してきた。研究倫理教育の受講状況調査を実施した。

- 5. 動物実験委員会委員長(2015年4月から,現在に至る)
  - 9月に外部検証を受け、必要な改善を図ってきた。
- 6. 地域連携室室長 (2016年8月から, 現在に至る)

地域連携室は、学生参加の地域貢献活動を推進するため、本年度あらたにスタートした学長直轄の組織である。年度前半に地域連携プロジェクトによって地域連携室の立ち上げのための業務を実施し、立ち上げ後は地域連携室の基礎作りをすすめている。

なお、 COC+企画運営ワーキンググループ責任者としての業務も地域連携室業務の中に含めた。

7. 公的研究費統括管理責任者(2016年9月から,現在に至る)

公的研究費の適正な管理運営のための手続きを定めることに貢献し、統括管理責任者としての業務にあたることとなった。

8. 保健福祉学部附属保健福祉学研究所長(2015年4月から、現在に至る)

若手の研究環境の改善を重点課題として、取り組みを進めてきた。

- 9. 教学マネジメント検討会メンバー(2015年4月から,現在に至る)
- 10. 授業評価に関する業務

昨年度まで点検評価改善会議FD部門のメンバーとして、授業評価アンケートの改訂(①),委託業者とのやりとりのための確認作業(②),委託業者から得られたデータを分かりやすく解説した文書の作成(③),授業評価での教員表彰基準と手順作成(④)のなどの業務を担ってきた。本年度はメンバーから外れたが、②および③を担った。③については委託業者のルーチンワークとしてアップデートすることができた。

11. 外部資金導入促進プロジェクトリーダー (2013 年度~2016 年度まで) 科研費研修会等を企画運営してきた。2017 年度より新しい教員に引き継ぐ予定である。

氏名 稲木光晴 職名 教授 学位博士(体育科学)(筑波大学, 1994年)

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
運動生理学					筋疲労、持久性パフォーマンス、持久性鍛錬者

研 究 課 題

持久性鍛錬者の競技力向上に関する研究

# 担 当 授 業 科 目

健康科学(前期)(看護学科)

健康科学(前期)(福祉学科)

健康科学実習I(前期)(看護学科)

健康科学実習 I (前期) (福祉学科)

健康科学実習I(前期)(栄養学科)

健康科学実習 I (前期) (英語, 観光学科)

健康科学実習Ⅱ(後期)(看護学科)

健康科学実習Ⅱ(後期)(福祉学科)

健康科学実習Ⅱ(後期)(栄養学科)

健康科学実習Ⅱ(後期)(英語,観光学科)

運動処方論(後期)(福祉学科)

保育の表現技術IV(後期)(福祉学科)

保育実践演習(通年)(福祉学科)

専門研究 I (通年) (福祉学科)

専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科)

母性の運動科学(前期)(助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【健康科学】

- 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。
- 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。

#### 授業科目名【健康科学実習 I 】

- 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。
- 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。

#### 授業科目名【健康科学実習Ⅱ】

- 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。
- 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。

# 授業科目名【運動処方論】

- 1. 机間指導や質問をすることによって、学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。
- 2. 授業の最初に小テストをすることで、授業の復習ができ、内容を理解しているかのチェックを行った。

# 授業科目名【保育の表現技術Ⅲ】

- 1. 幼児期運動指針に沿ったさまざまな運動遊びを実際に体験させると同時に、学生本人の体力づくりを行った
- 2. 毎回授業で体験した運動遊びについて調べさせ、新たに工夫を加えた遊びを考えさせた。

# 授業科目名【母性の運動科学】

- 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。
- 2. 授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学会における活動	
役職名等(任期)	加入時期
評議員(1999年~)	1988年4月~現在に至る
	1993年4月~現在に至る
	役職名等(任期)

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要	
(著書)												
(学術論文)												

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(都記)											
(学会発表)											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(1)	共 同 码	· 究					
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
		(2)	個 人 石	研 究						
研 究	題目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考					

		社	会	に	お	け	る	活	動	等		
	団体・委員会等の (内 2	D名称 字)			役	職名	等			任 期	間	期 等
1.	シニアサマーカレッ? からだを使って「活き	<u> </u>		講師					2016年	三8月5日		-
2.	だいすきにっぽんー	子どもだ	たちに	スタ	ッフ						-	月24日、11月
	伝えたい「食」と「あ <sup>2</sup> ば」-	そび」と	「こと						19日、	12月1	7日、2	2017年2月25
3.	小倉南特別支援学校「小倉南特別支援学校			講師					2016年	F9月 14	日	
	童生徒のための運動で											

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委	員、学生支援など)	
福祉学科長 人事委員長 陸上部顧問												

氏名 山根 正夫 職名 教授 学位 修士(教育学)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児(者)の援助方法・応用行動	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用
分析・保育ソーシャルワーク	行動分析・保育ソーシャルワーク

研 宪 課 題

障害児・者の援助全般について行動分析的視点から考察する。

#### 担 当 授 業 科 目

保育者論 子ども家庭部は論 障害者部は論 障害児保育・相談親助演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・保育実習Ⅲ、生命倫理、朝門研究Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 保育者論 】

子ども家庭福祉コース1年次後期開設のであり、導入として大切な科目であり、基礎的な内容の理解促進のために、テキストとの予習を兼ねたノート作りと毎回の学生によるプレゼンテーション及び教員の解説とディスカションで授業を組み立てた。

#### 授業科目名【子ども家庭福祉論・障害者福祉論】

社会福祉士養成のための必修科目であり、レジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。レジメや時々のトピックスの論文などを適宜配布し、両科目の理解の深化に勤めた。レジメについては毎年空欄を作って書き込めるようにしてほしいという要望があるが、何が大事が強調されているのかについての認知力を高めるためにレジメを作成していることを学生に説明している。

#### 授業科目名【 障害児保育 】

演習系科目であるが、講義が中心となった。副読本についてノート作成し提出させ、点検の上返却することを 試みた。学生によって講義内容の理についてもばらつきが大きく、来年度は授業形態を変更し学生の主体的学 習を深めさせたい。

# 授業科目名【 相談援助演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V 】

授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Vについては、現代の児童家庭の課題を示しそれについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。来年度はこの点を踏まえ、授業を進めていきたい。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本特殊教育学会		昭和51年4月~
日本行動分析学会		昭和61年4月~
日本発達障害学会		
日本福祉学会		平成7年9月~
日本保育学会		平成 12 年 11 月~
福岡教育大学付属障害児治療教		平成22年4月~
育センター研究部員		

2 0 1 6 年 度	研研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書) 発達が気になる子ども の行動が変わる、保育者 のための ABI(活動に根 ざした介入)実践事例集	編著	2017年1月	福村出版	第 I 部 4 章 「子どもの評価の考え方と具体的な方法」を執筆した。
(学術論文) 保育所におけるインク ルーシブ保育の現状と それに関連する要因	共著	2016年12月	日本保育ソーシャル ワーク学会	保育所におけるいわゆるイン クルーシブ保育について調査 した結果を報告した。
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
(1) 共 同 研 究													
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					
なし													

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考	
なし												

社 会	12	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称		役	職名	等			任		期	
(内 容)		TX.	机力	4			期	間	等	
九州市児童福祉施設等第3者評価委員会委員						平成 28	8年4月	~平成	30年3月	1
北九州市発達障害児(者)支援体制	整					平成 28	8年4月	~平成:	29年3月	1
備検討委員会委員										
北九州市福祉事業団評議員						平成 2′	7年11月	~平成	之29年11	L 月
社会福祉法人福音会評議員						平成 2′	7年11月	~平成	之29年11	L 月
社会福祉法人喜久茂会理事						平成 2′	7年4月	~平成:	29年3月	]
北九州市社会福祉審議会委員						平成 2′	7年11月	]~平成	:30年10	)月
北九州市社会福祉協議会理事						平成 2′	7年4月	~平成:	29年3月	]

宗教委員会・倫理審査委員会

 氏名
 岡田和敏
 職名
 教授
 学位修士(社会学)(佛教大学 1984年)

 研究内容のキーワード

 社会福祉学

 医療福祉、保健医療福祉制度

研 究 課 題

医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

# 担 当 授 業 科 目

地域福祉論 (2年前・後期)

医療福祉論 (2年前期)

相談援助演習 I (1年後期)

相談援助演習 Ⅱ (2年前期)

相談援助演習 Ⅲ(2年後期)

相談援助演習 IV (3年前期)

相談援助演習 V (3 年後期)

相談援助実習指導 I (2年前・後期)

相談援助実習指導 II (3年前·後期)

相談援助実習 (3・4年)

専門研究 I

専門研究 Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 地域福祉論 】

社会福祉の動向において「自立支援」「連携」「地域福祉」などが強く求められている時代であることを強調域で暮らす人々の生活をいかに支援していくかについて指摘するとともに、新聞記事などの活用を図り、講義が理解できるようにした。

#### 授業科目名【 医療福祉論 】

身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰し もに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医 療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。

# 授業科目名【 相談援助演習 I】

社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてをロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。

#### 授業科目名【 相談援助演習 Ⅱ】

ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践についてを考えさせる形で学ばせた。

# 授業科目名【 相談援助演習 Ⅲ·Ⅳ 】

問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。

#### 授業科目名【 相談援助演習 V 】

地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。

# 授業科目名【 相談援助実習指導 I 】

医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。

### 授業科目名【 相談援助実習指導 Ⅱ 】

他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践 場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの 特性に応じ配属に繋げた。

### 授業科目名【 相談援助実習 】

学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。

# 授業科目名【 社会福祉特講 Ⅱ 】

本講義は、6名の教員によるオムニバス方式で、「保健医療施策の動向」を2コマ担当した。保健医療機関に 社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目 指した講義を行った。

# 授業科目名【 専門研究 I 】

病気やケガを中心に据え、各自が考え、気付き、そして、人々の生活課題から研究してみたくなったことを 見つけられるよう指導した。

#### 授業科目名【 専門研究 I 】

専門研究Iから各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1990年10月~現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー		1985 年 4 月~現在に至る
協会		
佐賀県医療ソーシャルワーカー		1998 年 6 月~現在に至る
協会		
日本医療社会社会福祉協会		1998 年 4 月~現在に至る
福岡県社会福祉士会	外部理事(2010年4月~現在に至る)	2010年4月~現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 4 月~現在に至る

2 0 1 6 年度		究	 業	績	等	に	関	す	る	事	 項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別		テスは その年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(翻訳)											
(学会発表) (その他) 地域活動について	単	8/29 2/7	11/16			立年長「穴生学		研修訓	<b>帯</b> 師		
介護職員初任者研修	単	5/31 6/7 6/14 6/24 7/22	6/10					31 現			文(2017. 3. 引 共 )

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		で ア ア 年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
								学術	論文0	(内訳	単	
											共	)
								翻割	0 5	(内訳	単	
											共	)
								学会	発表 0	(内訳	単	
											共	)
								その	)他 12	(内訳	単	12
											共	)

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)													
(1) 共 同 研 究														
研	究	題	目		交付団体			究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

	外	部資金	(科学)	研究費補助	加金等)	導入状	況	(本学共同研究費を含む	<u>(2)</u>	
				(2)	個	人	矿	f 究		
研	究	題	目		交付	団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称		任 期
(内 容)	役職名等	期間等
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月~現在に至る
社会福祉法人 北九州精神保健福祉	評議員	2014年4月1日~2016年3月31日
事業協会評議委員会		
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2013年12月1日~2015年11月30日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネ	委員	2016年5月~2017年3月31日
ットワーク第三者委員会		
社団法人北九州市障害福祉ボランテ	理事長	2013年5月~現在に至る
ィア協会		
障害者差別解消法連絡会議		2016年4月~2017年3月31日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月~現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月~現在に至る
社会福祉法人 敬寿会	理事・評議員	2012年3月22日~2014年3月21日
特定非営利法人 生活支援館「パート	理事	2002年3月~現在に至る

ナー」		
社会福祉法人 療養介護事業所「ひな	理事・評議員	2014年7月~現在に至る
た家」		

# ①就職委員会

② 学生支援においては、これまで通り介護職員初任者研修(ホームヘルパー2級)の資格を取得出来るよう外部事業所との調整と講義の担当を行っている。

氏名	平田健太郎	職名	教授	学位 博士 (医学)	(九州大学 1985年)
----	-------	----	----	------------	--------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
精神医学					精神疾患、QOL,地域支援、学校保健

研 宪 課 題

精神障害と福祉

# 担 当 授 業 科 目

- 精神疾患とその治療(福祉学科、前期)
- 基礎演習(福祉学科、前期)
- 精神保健学(福祉学科、後期)
- 基礎演習(福祉学科、後期)
- · 精神保健福祉援助演習 I
- · 精神保健福祉援助実習 I
- · 精神保健福祉援助実習 II
- · 精神保健福祉援助演習Ⅱ
- 専門研究 I 3年
- 母子の心理・社会学(助産別科、前期)
- · 疾病治療各論 II (看護科、前期):精神

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 精神医学:精神疾患とその治療 】

VTR の提示、症例提示、グループ討議と発表。

新聞、TV、インターネットなどのマスコミから、講義に関連したトピックを取り上げて興味を持たせるとともに、最新の情報を随時提供し、内容を深めた。

#### 授業科目名【精神保健学 】

VTR の提示、症例提示、グループ討議と発表、学生に評判の良い教員の講義方法を参考にした。

新聞や TV などのマスコミから講義に関連したトピックを取り上げ興味を持たせるとともに最新の情報を随時提示した。さらに、 グループ単位での席の指定と、移動、出席表を兼ねた「自己学習記録表」の使用。毎回の授業終了後に書かれた質問と意見はほぼすべて取り上げ、次回講義の開始時に可能な限り解答した。

#### 授業科目名【 基礎演習 】

- ・ 12 名~13 名のグループ内の相互理解を図り、自由な発表と意見交換が出来るような雰囲気作りのため、 第一回目はゲーム形式(他個紹介)を取り入れた。
- ・ 大学生の自覚をもたせるため、高校と大学との違いについて全員から意見を求め、板書させて確認した。 このときの司会も学生に担当させ、必要に応じてコメントを加えた。
- この演習のテーマには、学生時代に注意すべき代表的な心身の疾患を用いて自主学習を中心に行なわせ、

#### 注意と自覚を高めた。

- ・ デング熱、MERS、ネット依存症等の社会的に問題になっている疾患についても同様の学習を行った。
- ・ この演習を通して、DRUG 防止教育を今年度も実施した。「ドラッグフリーキャンパスにするにはどうすればいいのか」各自にレポートを課した。
- 3人(または4人) 一組で担当した疾病テーマについて自主学習し、発表原稿を作成するとともに、抄録を提出。発表、質問にもそれぞれ各自がマイクを使用した討議を体験させた。必要に応じて知識の修正と追加を加えた。
- 基礎演習終了後の学生たちの感想では、初めてのパワーポイントを用いた発表体験、共同での準備体験、 質問体験等を通して、集中力が高まった、講義への興味と積極的参加の姿勢が身についてきた、と述べている。

# 授業科目名【専門研究I】

・福祉学科内においては、卒業論文・専門研究Ⅱを論文形式での作成指導を行うことが少なくなった中、担当 ゼミ生には各自に論文作成を指導してきた。次年度の卒業論文・専門研究Ⅱにつながるような専門研究Ⅰで の自己学習を指導してきた。研究テーマは「日本人の幸福感について」多角的な視点から検討を行っている ところである。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本精神神経学会		1975 年~現在に至る
日本てんかん学会		1978年~現在に至る
	評議員	1978年~2013年
日本てんかん学会九州支部会	世話人	2005 年~現在に至る
九州精神神経学会	評議員	1975 年~現在に至る
全国大学保健管理研究会	評議員	1998 年~現在に至る
全国大学メンタルヘルス研究会		1998年~現在に至る
全国大学フィジカルヘルス・フ	評議員	1999年~2008年
オーラム		1998 年~現在に至る

2 0 1 5 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
なし											
(学術論文)											
(翻訳)											

2 0 1 5 年度	研	究 第	養 績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年		発行所、 は発表				概		要	
(学会発表)											

		外	部資金	(科学)	研究費補則	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> C)
					(1)	共 同 4	研 究	
	研	究	題	目		交付団体	研 究 者 ○代表者 ( ) 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし								

		外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況(2	本学共同研究費を含	含む)		
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	B		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	1	備	考
なし												

社 会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称		役	職名	等			任		期
(内 容)		<i></i>	15%	.,			期	間	等
・北九州てんかん懇話会	世言	舌人				1995年	下~現在(	に至る	
(北九州地区においててんかん診療									
に携わる種々の職種の合同意見る	2								
換会)									
・九州山口てんかん外科研究会	世書	舌人				1994 <sup>‡</sup>	下~現在(	に至る	
(てんかん外科の一般社会への普及	ž								
を図るための会)						2011 年	下~現在心	こ至る	

- · 学生個人情報保護委員会委員
- ・保健室・学生相談室支援 2008年4月~現在に至る

心的ストレスや、精神疾患に悩む学生に定期的、継続的な修学支援を行ってきた。また、教員、家族からの相談に積極的に応じて医療機関への紹介や家族支援を行ってきた。臨床心理士、看護師とは毎週1回症例検討会を開き、情報交換するとともに学生相談利用の拡張を図ってきた。さらに、少子化を迎えて高水準の学生支援が求められる状況下に、近い将来の保健センター設立を目指した準備を開始した。その一環として、2008年11月には保健福祉研究所主催の講演会で『学生と健康』のテーマで講演を行い、学内に設立の必要を訴えた。さらに、学長を通して大学当局に保健センター設立の提案を行った。

その後も上記活動に積極的に取り組んで来た。この活動は、今後も細々とでも継続していく所存である。

- ※第 46 回九州地区大学保健管理研究協議会(宮崎)に参加しその報告書の中で、本学にとって とりわけ重要な喫緊の2課題について指摘し改善を求めた提言を行った。
  - (1) 災害時の支援体制(危機管理体制)の整備
  - (2) 学生の支援体制の整備(障害学生支援体制の整備と学生相談室の充実化)

					学位 博 士 (哲 学)
氏名	古 川 敬 康	職名	教	授	(The Southern Baptist Theological Seminary
					1994年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード				
メタファー論、説教のための解釈学と修辞学、喪失心 理学	弁証法的メタファー、文学的解釈、悲嘆作業による意味論的癒し				

#### 研 宪 課 題

現代人が喪失心理学の示す悲嘆作業を経ての癒しを説教への傾聴により体験できるよう、何をどのように説教は語られることを求められているか。

具体的には、1) 喪失体験に基づくメタファー的に表現されている聖書の福音の意味を明らかにする文学的解釈を行うこと、2) 使信が聴き手にとって癒しの出来事となるように、福音の意味を表現する修辞学的なメタファーの活用法を明らかにすることである。

#### 担 当 授 業 科 目

キリスト教学 I (前期) (看護学科)

キリスト教学 I (前期) (福祉学科)

キリスト教学Ⅱ(後期)(看護学科)

キリスト教学Ⅱ(後期)(福祉学科)

宗教と人間(前期)(看護学科)

宗教と人間(前期)(英語学科)

宗教と人間(前期)(観光文化学科)

宗教と人間(後期)(福祉学科)

専門研究 I (通年) (福祉学科)

専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科)

卒業論文 (通年)(福祉学科)

キリスト教と生命倫理(前期)(助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【キリスト教学Ⅰ】

学生と教員の集中力向上のために祈りをもって始めた。前期と後期の授業内容を1冊の教科書にまとめており、前期後期を問わずに縦横に講義ができた。また学生は、予復習がし易くなった。進むに当たっては、学生のほとんどにキリスト教の背景がないため、テーマ毎にレジメを配布し、理解が出来たかを質問し確認することを心掛けた。加えて、当該授業の講義の位置づけをその都度繰り返し明示して、全体の流れの中で確認できるように努めた。板書は、ノートに取り易いよう、黒板を左右半分に分け、さらに内容とイメージしやすいように図解を心掛けた。

授業内容はシラバスに従って建学の精神である「感恩奉仕」の精神の背景にあるキリスト教を学術的に現代の問題に絡めて説明し、その今日的意義を理解できるように工夫した。天地創造からキリスト出現の予言までを扱った。

学問的な「批判力」の意義と、批判力の基準としての聖書の価値観を説明し、学生自身が自己の存在意義を意味論から理解を深めるように具体的例を取り上げ、また、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。テストは、問題を予め提示し、学生が共同して全体の学びを復習できるように工夫した。

#### 授業科目名授業科目名【キリスト教学Ⅱ】

前期の学びを復習した上で、キリスト教の成立過程、イエス・キリストに対する信仰内容、イエス・キリストの示す神の愛の理解、その愛に照らしての自己理解、及び、奉仕の精神の重要性につき、理解し深めることができるように、前期と同じ方法による工夫をした。すなわち、イエス・キリストの説いた神の国、愛と赦しの教えと癒しの活動、その死と復活と昇天の物語を通して、それぞれの場面で何が大切なこととされているかを、実生活と結びつけながら理解できるように工夫した。

また、前期のテストの総評、良く理解している答案とはどういうものが具体的に示して、後期の授業を受けるに当たって理解力を向上できるように工夫をした。

更に、学生の前期の授業評価に鑑み、学生から具体的な予復習の方法を知りたいとの指摘を受け、後期は、改善策として、読むべきテキストの箇所を具体的に指摘することを務めた。

#### 授業科目名【 宗教と人間 】

「人間性」に関して、学生がキリスト教学で培われた批判力を、さらに身につけることができるよう、シラバスに従い、異なる宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教を比較した。具体的には、生活に密着したテーマにそってそれぞれの宗教の特徴を再確認し理解を深める機会を多く持った。関連のビデオ鑑賞を取り入れ、宗教に関する知識を実生活と関連させて統合できるように工夫した。さらに、前年度の学生の意見から、講義の位置づけを全体の流れの中で確認できるよう頻繁に努めた。復習がし易いように、毎回、プリントを作成し、配布した。また少人数の授業であったことから、学生との対話とその参加の機会が多くなする工夫をした。

また学生の前期の授業評価から、明確に他の宗教と比較できるように、それぞれの特徴を強調することを心掛けた。

#### 授業科目名【 専門研究 I 】

学生が意味論に関する基礎的理解を修得することから始め、続いてV・フランクルの意味論の全体像を学ぶことを目指し、その上で、喪失心理学、死生学における意味論に関する専門書を読むことができるように指導した。また、まとめ方を具体的に指導した。

後半は、テーマに関する研究書を早く、多く読み、大切な個所を見出す方法を指導した。その上で、学生自らが、専門書を読み込み、他の学生に解説し、ディスカッションを導けるように指導した。

#### 授業科目名【 専門研究Ⅱ 】

専門研究 I で学んだV・フランクルの意味論に関する基礎的理解を前提に、専門的知識の習得として、理解を深めるように多方面に亘るフランクル自身の著作を選択し多く読む工夫を指導した。

学生が、現代の日本におけるニートに象徴される若者の喪失心理の研究をテーマとしたので、

内閣府n調査を土台に、現代のニートに関する見解、ニート自身の労働への意味などを探り、論理を他ゲルカを養う工夫をした。

# 授業科目名【 卒業 論文 】

学生が卒論のテーマにそって、論旨を展開する構成をできるように論理の力を修得できるように工夫した。その論理的思考力をつける具体的方法として、専門研究IIでの成果を卒論テーマにそって必要十分であるかを検討し、研究を自ら深めることができる力を養えるように指導した。さらに、資料の収集に当たっては、テーマとの関連のあるものを残すことができる能力、その中の重要度の濃淡の基準を設定することができる能力、それを論文に実際に用いることができる能力が培われるように指導した。特に、方法論、先行研究的なものの存在、文献リストの検討、結論がはじめの問題提起に対して適切な応答となっているかという点については、幾度も確認することを指導した。

### 授業科目名【キリスト教と生命倫理】

助産師を目指す学生の多くにとり、初めてのキリスト教であるので、前半はキリスト教の基礎的知識を扱い、その後で、キリスト教から見た生命の尊さ、生命の誕生、死の意味を扱った。続いて、優生学、DVの夫婦関係、離婚などに関するキリスト教の物の見方を解説した。その上で、助産師としての自己アイデンティティ、助産師の直面する死産や五体不満足児のケアの課題なども取り上げるように努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期

Academy of Homiletics		1991年(平成3年)10月
日本キリスト教文化学会	理事(1993年4月~現在に至る)	1993年(平成5年)4月
日本キリスト教教育学会		1993年(平成5年)10月
日本基督教学会	幹事(2007年4月~現在に至る)	1993年(平成5年)10月
	事務局(2016年4月~現在に至る)	
日本キリスト教社会福祉学会		1994年(平成6年)7月
日本新約学会		1994年(平成6年)9月
関西新約聖書学会		2010年(平成22年)6月

			NII 6	/-1-	t.t.			,			
2 0 1 6 年 度		究	業	績 T	等	に	関	す	る	事	項 ————
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) 1. キリスト教概論 - 新たなキリスト教の架け橋 (第3刷)	東	2017.3			勁	草書房		に増刷等できる。というでは、おいました。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	するに当いる記述に 換えた。 りますを りますを りますを りますを りますを りますを りますを りますを りますを のののでする。 これを でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 でまる。 できる。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で。	たり幾~ が、第3 こつき、 その事。 そいするも をするも をするも をなの点が こった。 こった。 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こつき、 こっさ、 こっさ、 、 こっさ、 こっさ、 こっさ、 こっさ、 、 こっと、 、 、 、 、 こっと、 、 こっと、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	のものを、2016年 つかの箇所を加筆 刷に当たり、聖典 正典としての記述 というのは、その めの記述を神聖な のであるが、「正 え等の諸文書の中 ノンと決定したか る決定に重点を置 不明瞭であったこ 妻 (本文P216)
(学術論文) 「パウロにおける十字架のメタ ファーとしての意義の考察 ― コリントの信徒への手紙― 1章 及び2章―」  (翻訳) なし	単	2017.3		西南	女学院大	·学紀要 Vol	l. 2I	神学的 する社 一の構 一マ社 社会的 いう人 説的に る試論 ② 著	意味を、 遺、テキン 造、テキン での意かい 間自由になる。 を替える でのある。 である。 である。 をする。 でのが、 でいが、 でいがが、 でいがが、 でいがが、 でいががが、 でいがが、 でいがが、 でいががががが、 でいがが	近のパパー 完を踏ま スト的文 派の意味 を検討し 事柄に関 観の次う ること 古川敬い	•

2 0 1 6 年 度	研研	究	業績	事 等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行3 発表の		発行所、 又は発表 <sup>生</sup>				概		要	
(学会発表) なし											

外部資金(科学研究費補助	加金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> 2)									
(1)	(1) 共 同 研 究											
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)									
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究 一 教養教育を中心として 一	西南女学院大学	<ul><li>○神崎明坤</li><li>古川敬康</li><li>(林楽常)</li><li>(呉雲珠)</li><li>(張暁鵬)</li></ul>	911,000円									

		外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含	含む)		
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	目		交价	寸団体		交付決定額 (単位:円)		備	考
なし												

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 <i>の</i> (内 名	D名称 字)			役	職名	等			任期	間	期 等	
社会福祉法人北九州ナオ	ミ福祉	会	理事					2004年	三 (平成		4月 現在に至る	

## (本部関係)

理事、評議会委員、連絡協議会委員、運営協議会委員、

学院宗教主任、拡大宗教委員会議長、宗教主事会議長

キリスト教センター長、キリスト教センター便り編集委員長、キリスト教教育研究会事務局長、

維持会常任幹事、職員研修懇談会職員研修委員会委員

寄付行為変更検討委員会委員

その他、職務上必要的に出席するもの:

幼稚園運営会議・卒園式、中高入学式・卒業式・入試判定会議、後援会役員会・総会、同窓会総会

# (大学)

宗教主事、宗教委員会議長、運営会議構成員、

非構成委員であるが職務上出席するもの:評議会、点検評価改善会議構成員、

その他:2016年度昇格選考人事委員会依頼の選考、

学友会関係: ITKイラストサークル顧問、映像制作愛好会顧問(本年度限りで解散)、

LOD ダンスサークル顧問

(大学短期大学部)

宗教主事

氏名 杉谷修一 職名 准教授	学位 教育学修士
----------------	----------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
教育社会学					子ども、遊び、社会化、相互行為、うわさ、ニューメ
					ディア

#### 研 宪 課 題

- (1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。
- (2)子どもの遊びの構成要素としてのうわさや流言に関する研究。
- (3)ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

# 担 当 授 業 科 目

道徳教育の理論と実践(前期)(看護学科)

道徳教育の理論と実践(前期)(福祉学科)

道徳教育の理論と実践(前期)(栄養学科)

道徳教育の理論と実践(前期)(英語学科)

社会調査の基礎(前期)(福祉学科)

現代と教育(前期)(看護学科)

現代と教育(前期)(福祉学科)

現代と教育(前期)(栄養学科)

現代と教育(前期)(英語学科)

現代と教育(前期)(観光文化学科)

教育原理(後期)(福祉学科)

教育社会学(後期)(看護学科)

教育社会学(後期)(福祉学科)

教育社会学(後期)(栄養学科)

教育社会学(後期)(英語学科)

社会学概論(後期)(福祉学科)

基礎演習(通年)(福祉学科)

教職実践演習(後期)

教育実習 I (福祉学科)

養護実習(福祉学科)

事前および事後の指導三期にわたる)(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】

道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。 次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に着けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。また、今年度途中より変更のあった学習指導要領についてフォローした。

### 授業科目名【 社会調査の基礎 】

国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などを工夫して理解を助けた。

# 授業科目名【 現代と教育 】

現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。現代の動向についてはクロスメディア等の事例を紹介した。

### 授業科目名【 教育社会学 】

子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。

#### 授業科目名【 社会学概論 】

国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように 工夫した。特にモデル図や具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。 また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減し ながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試 みとして、海外の事例を中心に動画を資料として活用した。

#### 授業科目名 【 基礎演習 】

少人数の集団学習であるため、その中でさらに小集団を構成し、7回の演習を通じてディスカッションやワークショップを繰り返し、最終的に小集団単位の学習成果をまとめさせた。集団学習における主体性や発表や調べ学習の技法などに関し、具体的実践を通して学んでもらった。また、自己学習を進める上で必要となるデータベースの紹介等も行った。

読む技能を中心に、書く・まとめるなどの活動と結びつけることで、大学における学習基盤の確認と技能修得に向けた具体的実践を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本教育社会学会	紀要編集委員(2009年4月~2011年3	1985 年 6 月~現在に至る
九州教育社会学会	月、2016年3月~2016年12月)	1985 年 6 月~現在に至る
日本教育学会		1990年5月~現在に至る
九州教育学会		1990年5月~現在に至る
日本社会学会		1990 年 11 月~現在に至る
日本教育方法学会		1997年5月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					

2 0 1 6 年度	研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年		発行所、 な発表				概		要
(学術論文)										
(翻訳)										
(学会発表)										

2	外部資金(科学	研究費補助金	金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> C)
		(1)	共 同 矽	· 究	
研究	題目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
	(2)	個 人 斫	开 究									
研究	題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考								

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称			役	職名	等			任		期	
(内 容)			1又	141 石	寸			期	間	等	

特定非営利活動法人生涯学習指導者	生涯学習指導者育成セミナ	2007.9~現在に至る
育成ネットワーク	一講師	

教職課程委員 2014年4月1日~現在に至る

教員免許更新講習プロジェクト(教育部門担当者) 2012年4月1日~現在に至る

氏名 木村 茂喜 職名 准教授 学位 修士 (法学) (九州大学 1997年)

研 宪 課 題

福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 社会的孤立の状態にある者に対する社会保障のあり方

### 担 当 授 業 科 目

法学概論(前期)(看護学科)

法学概論(前期)(福祉学科)

日本国憲法(後期)(看護学科)

日本国憲法(後期)(福祉学科)

日本国憲法(後期)(栄養学科)

社会保障論

公的扶助論(前期)

司法福祉論(前期)

権利擁護論(後期)

基礎演習

専門研究I

専門研究 II

社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに、pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。

授業科目名【法学概論】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの 憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、昨今の改憲論議の高まりを踏まえ、学生が今後改憲 の是非について判断するための素材として、自由民主党が 2012 年に発表した憲法改正草案を毎回の講義内容 に即して、自由民主党の提案理由とこの改正に反対する意見を交えつつ紹介した。 授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を2回(前期末・後期末)行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的イメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【司法福祉論】社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、3名の外部講師(保護観察官・保護司・更生保護施設長)に講義を依頼した。今年度は受講する学生に聴覚に障がいのある学生がいたため、レジュメと併せてパワーポイントのスライドをそのままプリントアウトしたものをノートテイカーに配布し、ノートテイカーの負担軽減と当該学生の講義内容の一助に努めた。

授業科目名【基礎演習】1年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを4グループに分けて「ディベート」を行った。なお、今年度から1クラスの担当コマ数は7コマとなっている。

授業科目名【専門研究 I・専門研究 II】今年度は 3 年生が 1 名しかいなかったので、3 年生の専門研究 I と 4 年生の専門研究 II を合同で行った。社会福祉士国家試験の受験予定者が多いことから、とりわけ社会保障制度を楽しく学ぶことを目的に、専門研究の成果物として「社会保障人生ゲーム」の作成を通年で行った。作業の手順は、①基本的なゲームデザイン(コース)の作成、②イベント・アクシデント(ゲームのマス)案の策定、③イベント・アクシデントに対応する社会保障制度の確認、④②③を踏まえたイベント発生効果の策定、⑤ゲームのマス、各種カードの作成、⑥テストプレイの上、修正を加えて完成、であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月~)	1995年12月~現在に至る
日本労働法学会		1998年5月~現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月~現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月~現在に至る
日本障害法学会		2016年12月~現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013 年 4 月	1995 年 4 月~現在に至る
	~2014年3月)	
社会法判例研究会		1995 年 4 月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・	発行	「 又は	発	行所、	発表雑	誌等		概		ш	
者青、子州神人寺の名外	共著の別	発表	の年月	又们	は発表学	学会等の	名称		邩		要	

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又 発表の <sup>年</sup>				発表雑詞 学会等の			概		要
(著書) 『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門』	共著	2016年4	4月	みらい				「なて実解と用理をンる②金、、③害社会の践決とし解学を。編執子木佐担補	会等のではできる。 音音では、音音の保で、容法に社き楽め、一者、茂本部保数にかかえい。 という はい	高りててAAラ障うやい・伸井は小生、第度にや、の方ス制にモ構・伸んみ修理章で	解からの問で、を入れば、「人子科」で、を入れば、「人子科」で、を入れば、「人子科」では、明用例すま目会シて、「高田坂か働]頁い平しいとすをで保ョい、志恵本の者)で、多、障・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(判例研究) 「児童福祉施設入所措 置等の期間更新(秋田家 裁平成21年3月24日審 判)」	単著	2016年	5 月	ュリン	スト	編 別 227 号 『 百選(第 8	社会	、童童新事措否、ね害童性のな体審家相養の件置か児るすの、指ど的判別を記述のは、	<ul><li>裁所施認の期よをとこれ護や半半、半長設のる間措保がとの者生断断保 がより、中。更置護当が状に活要す護</li></ul>	の行の立家新期者該な沢対状素る者が行うの立家新聞に見かける状素とこが	項を児腊却戦認満るのどで児よって記載を児腊神野神の高いア児としてに重なが、児更た入か点にを、要談況別。所、き児ののしがる時護祉か必相状個る談とも別して、ののして、ののして、のののとは、ののののので、

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		f又は の年月			発表雑 会等の			概		要
								ある。 居を 児童 たま	こと、児 歯く望 <i>P</i> 目談所の 即下して	記童が保 しでいる	いが可能で 浸護者との同 らことから、 夏新の申立
(都信尺)											
(学会発表)											

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(1)	共 同	研	究					
研	究	題	目		交付団体			<ul><li>究 者</li><li>() 内は学外者</li></ul>	交付決定額 (単位:円)			

		外部資	資金	(科学研	究費補明	力金等)	導入状	兄(本	学共同研究費を含む	<u>_</u> C)		
					(2)	個	人	研	究			
研	李	ž Į	質	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考	

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称			役	職名	等			任		期	
(内 容)			1又	141 石	寸			期	間	等	

社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会 放送大学 総合科目「社会福祉と法」 執筆担当講師・放送担当講師 2016年4月~2020年3月第7回~第9回 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 講師 2016年4月~2017年3月中央福祉学院 社会福祉施設長資格認定講習課程「法学」

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

西南女学院大学生活協同組合 理事長 2016年5月27日~2017年5月26日 学生委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日 教務総合人間科学小委員会 委員 2015年4月1日~2017年3月31日 キャンパス・ハラスメント調停委員会 委員長 2016年7月20日~2016年9月21日 フォークソング部 顧問

KOIKOI 顧問

氏名 野井 未加	職名 准教授	学位 修士(教育学)
----------	--------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU ハイリスク児 心的帰属 家族への援助 極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助 保育所相談援助 個別支援計画

#### 研 宪 課 題

- ・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその変容過程に関する研究」
- 「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」
- 「保育士との協働による気になる子どもへの個別支援計画立案と実行に関する研究」

# 担 当 授 業 科 目

ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科)

障害者心理学(前期)(福祉学科)

福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科)

福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)

心理学概論 I (前期)(福祉学科)

心理学基礎実験(後期)(福祉学科)

発達心理学 I (後期)(福祉学科)

専門研究 I (通年)

専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【発達心理学 I (後期)(福祉学科)】

発達心理学 I では、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティーの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。

#### 授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】

児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。

### 授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】

第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの

具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどの様な影響を受けるのかについて解説することを 通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。

## 授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】

ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例:「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。

### 授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】

心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。

#### 授業科目名【心理学概論 I (前期)(福祉学科)】

福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Iでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説した。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。

#### 授業科目名【専門研究 [ (涌年)(福祉学科)】

心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、 文献講読及びディスカッションを行った。ゼミへの参加態度において、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。 また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようであ る。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開してい く力を培うことを目標にしていきたい。

#### 授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】

学生各自がそれぞれ興味のある内容について、レビュー論文を作成した。学生は、3 年次の専門研究 I において論文の読み方を学んでいたため文献検索に優れており、論文を批判的に読む力が見についていたと考えられる。従って、レビュー論文作成にあたって問題意識がはっきりしており、自らの論を進めていく事に意欲的であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本臨床心理学会		1998年7月~現在に至る
日本特殊教育学会		1998年9月~現在に至る
発達心理学会		1998年2月~現在に至る
西日本心理劇学会		2001年1月~現在に至る
日本リハビリテイション心理学会		1997年4月~現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員(2006年4月~現在)	2006年4月~現在に至る
日本心理学会		2008年4月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	要 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	ij	 頁
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		罗	Ę
(著書)												
(学術論文)												
(翻訳)												
(学会発表)												
								教育研究	究業績	総数 (2	017.2.2	28現在)
								著	書	0(内訳	単0,	共0)
								学術論		0(内訳		
										0(内訳		
								学会発	法	0(内訳	里0,	共())

外部資金(科学研究費	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
(1	上) 共同石	研 究											
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)										

	外	部資金	(科学)	研究費補明	加金等)	導入状	況(本	学共同研究費を含む	`G)		
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	目		交	寸団体		交付決定額 (単位:円)		備	考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 容				役	職名	等			任 期	間	期 等	
九州大学大学院人間環境 達臨床心理センター	色学府阿	付属発	研究	員				2004年	E4月~₹	見在に言	Ē3	

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)
研究紀要委員										
777010222										

氏名 吉田 あや子 職名 准教授 学位 修士 (教育学) (1997年) 福岡教育大学

	研	究	分	野	研究内容のキーワード						
養護教諭教育					養護教諭の力量形成	養護教諭養成					
学校健康相談					児童生徒の健康課題	健康相談					
健康教育学					保健指導の開発						

研 宪 課 題

- (1) 養護活動の FD に関する研究
- (2) 学校健康相談に関する研究
- (3) 効果的な保健室経営に関する研究

			担	当	授	業	科	目
地域保健Ⅱ	(前期)	(福祉学科)						
養護実習	(通年)	(福祉学科)						
事前事後の指導	(通年)	(福祉学科)						
専門研究 I	(通年)	(福祉学科)						
専門研究Ⅱ	(通年)	(福祉学科)						
学校保健教育法	(後期)	(福祉学科)						
学校保健Ⅱ	(後期)	(福祉学科)						
看護学	(後期)	(福祉学科)						
教職実践演習	(後期)	(福祉・看護	護学科)					

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 地域保健Ⅱ 】

新しく作成した自著「新版養護教諭が行う健康相談・東山書房・2016.3」を参考書として使用した。 健康相談の基本理論や事例分析等の説明では、学生が理解しやすいように図やフローチャート等を活用する ように努めた。また、実践事例として日常対応・頻回訪室者対応等を取り入れた。プロセスに応じて考えをま とめることが出来るようにワークシートを活用した。

#### 授業科目名【 学校保健Ⅱ 】

板書を工夫し、知識や理論を理解しやすいように努めるとともに、授業後の学習カードとして本時のテーマ、キーワード、学んだこと等を記入することで知識の定着化を図り、理解ができていないところは、次の時間に説明を加えるようにした。

また、重要なところはワークシート学習を行った。まず、説明ののち学生自身が自分の情報や考えを記入し、その後グループで協議、次に発表する方法をとった。(アクティブ・ラーニング AL)

教員採用試験も視野に入れて、多くの専門用語や理論を理解できるように工夫した。さらに学生が納得して知識や理論を吸収できるように、できるだけ実践事例を多く提示するよう努めた。

# 授業科目名【 看護学 】

総論では、基礎となるナイチンゲール、アンリー・デュナン等の功績と理論について、授業者自身の海外研修での調査映像をもとに分かりやすく解説を行った。

学習プロセスとして、課題の概要を説明し、各自が興味のある内容についてインターネット等を活用して調べ学習を行い、それをまとめてレポートを作成する。次に各自の調べた内容をグループでカンファレンスを行い、発表のための準備をグループで行う。最後に役割分担をして PC を使って発表する。(AL)

各論の疾患については、学習効果を高めるために、ライフサイクルに応じた疾患の概要を説明した後に問題

解決型学習方法等を指導し、課題を与えグループ発表の場を設けた。

このような方法での授業(Active な演習)を取り入れて数年経過したが、毎年改善を図ってきた結果、養護教諭になるための力が徐々についてきていることが確認できた。(授業中の学習態度や毎回の授業後の学生コメント、プレゼンテーションなどの結果から)

#### 授業科目名【 学校保健教育法 】

自著のテキスト「学校における養護活動の展開」を使用し、小・中・高等学校における養護教諭の行う保健 教育について校種別に重要事項を説明した。次に、学習指導要領に基づく校種ごとの保健教育の目標、内容の ポイントを示し、小・中・高の検定教科書に沿って、指導案作成を指導した。

学生の学びを高めるために、個別指導とグループ指導をした上で作成した指導案による模擬授業を行い、その後にカンファレンスを設定した。カンファレンスでは授業者役の自評と観察者役の意見交換を行い、学生がより良い授業に向けて学習できるように図った。

#### 授業科目名【事前・事後の指導】

3年後期から4年前期までの履修期間であるため、方法及び内容を工夫した。

人権学習については、3月末に外部講師・教育委員会の専門の先生を招聘して教職課程合同で実施した。 養護の専門科目担当者として実習目的・目標、実習内容、記録の仕方、個人情報保護の留意点等の実習時の 留意事項などの説明会を実施した。

また、事前指導の一環として、定期的に「課題学習」を取り入れ実施した。実習の事後指導については、全員の実習終了後に発表会を行った。

# 授業科目名【 養護実習 】

養護実習における現地指導では、実習校の管理職、担当の先生方と話し合いをしたうえで実習生の指導を行った。査定授業、指導案作成指導及び反省会・協議会等にもできるだけ参加するように努めた。そのため、学生の実習状況の把握が十分にでき、その実習時期だけでなくその後も適切な指導等につながったように思う。 養護実習生用に作成した「養護実習の手引き」を使い、事前・事後において個別の相談やグループ指導に力を入れた。

#### 授業科目名 【 教職実践演習 (養護教諭) 】

本講は4年目であり、一部のコマを福祉・看護・栄養・英語学科合同で実施した。

養護教諭養成の分野を担当した。(11コマ)視野の広い養護教諭を育成することに努めた。

受講生は養護実習を終えており、広い視野で考察できるような教育方法と内容を取り入れた。また、グループ学習を取り入れ、学生同士の学びあいを深めることができるようにした。

### 授業科目名【 専門研究 I · 専門研究 II 】

研究の力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表・討議などの基本が学べるようにプロセスを重視した。さらに、学校保健安全及び養護教諭の職務を理解するために輪読会を行った。

3・4 年生ともに出来るだけ小学校や児童館等での体験学習、北九州市小児口腔保健学会、学会教育セミナー等への参加機会を設けた。

希望者には、長期の体験学習として児童館、放課後クラブ等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験の場を提供し、学生の自主性を尊重しながら、適宜、子どもへの対応について指導・助言を行うよう努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本思春期学会	社団法人日本家族計画協会(上級思春期保健指導士)(2005年)	1994年4月~現在に至る
日本養護教諭教育学会	査読担当 2007 年 理事 (2009 年 4 月 ~ 現在に至る) 学会活動委員会委員 (2009 年 4 月 ~ 現在に至る) 査読担当 2009 年度	1995年4月〜現在に至る
日本学校保健学会	第47回日本学校保健学会実行委員 (1999年5月~2000年11月)	1995年9月〜現在に至る
九州学校保健学会	評議員(2013年8月~現在に至る)	1995年 9月~現在に至る
日本健康教育学会		1997年4月〜現在に至る
日本地域看護学会		1998年2月〜現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事(1999年6月~2002年) 常任理事(2003年6月~現在に至る) 第23回北九州市小児口腔保健学会大会長 (2014年10月)	1999年6月〜現在に至る
日本幼少児健康教育学会	理事(2003年4月~2014年) 常任理事(2014年~現在に至る) 健康教育セミナー委員(2006年~現在に至る) 第29回秋季学会北九州大会会長(2010年) 第69回幼少児健康教育セミナー実行委員長(2011年~2013年度) 第73回幼少児健康教育セミナー実行委員長(2012年度) 第76回幼少児健康教育セミナー実行委員長(2013年度) 第81回幼少児健康教育セミナー実行委員長(2014年度) 第88回幼少児健康教育セミナー実行委員長(2014年度)	2003年3月~現在に至る
日本学校健康相談学会	查読担当 2005 年~2007 年	2004年12月~現在に至る
日本歯科医療福祉学会		2007年4月~現在に至る
日本外傷歯学会(JDTA)	理事(2013年7月~2016年)	2011年7月~現在に至る
ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (AADT)	As a director of the ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (2013~2016)	2009年9月〜現在に至る

2 0 1 6年度	ぜ 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行! 発表の				発表雑誌学会等の			概		要	
(著書) 1. 養護教諭養成講座 「学校における養護活動の展開」	共著	2016. 3 改訂 3 片	版	(株)	ふく	ろう出版		人とび護論を ② 3 著の 3 著の	護教論 で護論 著く 選手 古い きょう	が自主に より の 展性の 。 上げ を き き き き き き き き き き き き き き き き き き	学生及び 、学生及び 、学い考えび 、 、学い方に 、 章保健室 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	こ健及養理例
2. 新版 養護教諭の行う健康相談 (学術論文) なし	共著	2016. 3		(株)東	<b>(山書</b> )	房		護書諸康のい分過も面談活料・6編他共第一番を選挙を表の手を記される。	対ので、問題と、世界というがで、問題というと、世界は、「ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	た 現 向 の よ 。 第 祖 頃 あ か か 6 4 7 音 世 の 在 を 理 び 2 全 変 に 第 る 4 7 9 倍 田 世 の 4 1 9 倍 田 の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	すがの取論実 章の悪 芸 3 記 1 1 6 5 9 9 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	たの健談つ のど場相談資 12 光
(翻訳) なし												

2 0 1 6年度	. 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要	
(学会発表) 1. (特別講演) Health and safety management at school on the basis of children's growth and development process in Japan	単	2016.	10	流会	÷	学口腔		構造の 及びう まえた	)変化と 子どもの こ学校保	全健康記 の成長を 保健安全	子どもの将連 課題の関連 発達過程を 全の進め大 講演した。	性。
2. (講演 ) 幼少児健康教育セミナ ー 「小学校における危機 管理について」	単	2016.	12	学会康教	第 88 (育セ	児健康 3 回幼少 ミナー 1 州市立 )	児健	て講演 災以降 対策が 全管理 徒の作	属を行っ 降は地震 が課題と 型につい 作文を参	った。 などのこなって、 さなって、 それに!	も機管理に 特に東日本 の自然災害 ており、今 破災地の児 リスク対応 いて説明し	本大震 香への を校安 君童生 ぶの心
								(201 著書 学術語 学会系 2(内	卷表、座 訳:単2	現在) R:単0 P訳:単 E長、特 E長、特	共2) i 0共 0) 特別講演な	よど

外部資金(科学研究)	E費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1) 共 同 研 究											
研 究 題 目	交付団体     研究者     交付決定額       ○代表者()内は学外者     (単位:円)										

		外	部資金	(科学)	研究費補明	力金等)	導入状	況(本	マ学共同研究費を含む	ts)	
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	B		交付	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし											

社	会におけ	ト る 活 動	等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職	名 等	任 期 期 間 等
日本幼少児健康教育学会	理事 常任理事 健康教育セミナー委員		2003年4月~2015年3月 2015年4月~現在に至る 2006年~現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	常任理事		2003年6月~現在に至る
日本外傷歯学会	理事		2013年7月~現在に至る
ASIAN NTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (AADT)		the ASIAN OCIATION OF DENTAL T)	2013〜現在に至る

- ○本学教職課程委員会委員(~2016)
- ○教員免許更新講習 【選択領域】教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項「子どもの健康問題と健康教育」 (2008 年~2016 年) 企画コーディネーター及び講座講師を担当。
- ○福祉学科養護教諭コース担当
- ・「教職カルテの」指導として、3年生から4年生を対象に定期的に個別指導及び全体指導した。
- ・教職採用試験対策、臨時採用等の就職対策指導を精力的に行った。
- ・養護教諭志望の4年生を対象に実践力アップ講習を行った。学生の自主参加であった。
- ・卒業生に対しても、教採試験対策や就職等の相談活動を行った。
- ○1年生・2年生アドバイザーを担当し、学生の相談、指導を丁寧に行うよう努めた。
- ・定期的に交流会を行い、交流を深めるよう努めた。
- ○養護教諭を目指す学生に対して
- ・学生からのメールでの質問等にもこまめ対応し、意思の疎通を図るように努めた。
- ・特に学生の自主性を重視した指導に努めた。
- ○週に4回オフィスアワーを設定し、学生の質問・疑問に応えるよう努めた

	氏名	荒木 剛	職名 准教授	学位 (社会福祉学)(熊本学園大学 2002 年)
--	----	------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

#### 研 究 課 題

- ・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方について検討する。
- ・社会福祉士養成教育における実習教育のあり方について検討する。

# 担 当 授 業 科 目

社会福祉概説(1 年次通年)、基礎実習(1 年次通年)、高齢者福祉論(2 年次通年)、介護技術演習(2 年次前期)、相談援助実習指導 I (2 年次通年)、相談援助実習指導 II (3 年次通年)、相談援助演習 II (2 年次前期)、相談援助演習 II (2 年次後期)、相談援助演習 II(2 年次後期)、相談援助演習 IV(3 年次前期)、相談援助演習 V(3 年次後期)、社会福祉特講 II(4 年次後期)、専門研究 I (3 年次通年)、専門研究 II(4 年次通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【社会福祉概説】

本科目は社会福祉士指定科目であり、1年次開講の福祉基礎に位置づけられる。講義は教科書を中心に展開し、毎回レジュメを作成することで学生の内容理解を助けた。また、新聞記事やDVD等を用いて、社会福祉の問題やソーシャルワーカーの仕事に対する学生の関心を高められるよう工夫した。

## 授業科目名【基礎実習】

本科目は、学生が対人援助のフィールドで体験型学習を行うものであり、1 年次開講の福祉基礎に位置づけられる。実習前には対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先を十分に理解させ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。なお、学生指導は教員4名による担当制とした。

# 授業科目名【高齢者福祉論】

本科目は社会福祉士指定科目である。講義は教科書を中心に展開し、毎回レジュメを作成することで学生の内容理解を助けた。また、新聞記事やDVD等を活用し、高齢福祉に関わる最新の情報提供を行った。毎回の講義後にはコメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。

### 授業科目名【介護技術演習】

本科目は介護現場に従事する外部講師2名による実技指導である。講義では外部講師との連携を図り、使用物品の準備や環境整備等を行った。また、単元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。

### 授業科目名【実習指導I】

本科目は相談援助実習(3年次)に向けた準備学習を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。講義ではグループ学習やDVD等の視覚教材を活用し、実習領域・施設、利用者理解が深まるよう工夫した。また、見学実習を行うことで、実習内容のイメージ化と動機づけを図った。

#### 授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】

本科目は相談援助実習(3年次)の事前・事後の指導を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習前には、実習関連書類の作成指導を通して学生の動機を高めた。実習後には個別面談やケアプラン報告会、実習報告会を通して実習で得た学び・気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問や帰校日を通じて、個別指導及び実習状況の確認を行った。

### 授業科目名【相談援助実習】

本科目は対人援助の実践現場において学外実習を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習を実施するにあたり実習指導者との連絡調整を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生の実習配置が円滑に進むよう、新規実習施設の開拓を行うなど実習先の確保に努めた。

# 授業科目名【相談援助演習Ⅱ】

本科目は社会福祉士指定科目の1つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法や記録について教授した。毎回の講義において必ず各人に発表の機会を与え、主体的な態度を促した。また、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験・参加型の講義となるよう努めた。

### 授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・V】

本科目は社会福祉士指定科目の1つである。講義では高齢者への支援事例を用いてケアマネジメントの手法 や権利擁護のアプローチを教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取 り入れ、学生同士で様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。

※相談援助Ⅲ・Ⅳ・Vはオムニバス形式のため講義内容・方法は同じ。

### 授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】

本科目は4年次の開講科目であり、国家試験対策としての位置づけでもある。講義では、高齢者福祉分野を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正部分や学生の理解度が低いと思われる内容を中心に教授した。

### 授業科目名【専門研究 I】

本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した上で各学生に個別テーマを与えた。学生指導では、学生の自主性を引き出しながら、各自が積極的にテーマに取り組めるよう努めた。

# 授業科目名【専門研究Ⅱ】

本科目では、学生各人が関心のある研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを十分に図りながら進捗状況に応じた指導を行った。また、ゼミ生同士の交流を通じて学習意欲や主体性が高まるよう努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会福祉士会		1998 年 4 月~現在に至る
日本社会福祉学会		2002年3月~現在に至る
日本地域福祉学会		2007年3月~現在に至る
日本介護福祉学会		2007年3月~現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2008年1月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(学会発表) 介護支援専門員の高齢 者虐待の遭遇経験と兆 候察知の現状(その1) 一福岡市・北九州市に着 目して一	共	2016 4	平6月	九小	州部会	福祉学会 第 57 回 崎ウエ <i>ン</i>	大会	び北地 遭 ン 虐待 け た	た州市) 経験や記 ート調査 発見・文 に同発表 ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	を対象に、 とは という を さればらい はい という はい という はい という はい はい こう はい はい こう かっぱい はい	会九州部会 ログラム・

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額					
,,,, ,,, ,,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	スパロハ	○代表者()内は学外者	(単位:円)					
地域包括支援センターにおける地域のインフ	文部科学省	○荒木剛	1, 000, 000					
オーマル資源の主体形成を図る実践(2016年		(本郷秀和)						
度~2018 年度)								
高齢者虐待の予兆察知における介護支援専門	文部科学省	○ (本郷秀和)	4, 680, 000					
員の現状と課題-ソーシャルワークによる支		(鬼崎信好)						
援の方向性- (2014年度~2017年度)		(永田千鶴)						
		(袖井智子)						
		(畑香理)						
		荒木剛						

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	况 (2	本学共同研究費を含む	<b>た</b> )	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交价	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任 期	間	期 等
北九州市社会福祉協議会 (権利擁護・市民後見センター運用委 員会)	委員					2009年	€4月~5	見在に至	<b>至る</b>
北九州市社会福祉協議会 (福祉人材バンク事業運営委員会)	委員					2012 年	€4月~5	見在に至	至る

入試会議(2016年4月~現在に至る)

学生募集委員 (2016年4月~現在に至る)

地域連携室室員(2016年8月~現在に至る)

COC+連携講義検討部門(2015年11月~現在に至る)

氏名    上村 眞生        職名    准教授     学位 博士(教育学)(広島大学 2012 年)	氏名 上村 眞生	職名   准教授	学位 博士(教育学)(広島大学 2012 年)
--	----------	----------	-------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
保育学					保育の質
幼児教育学					保育士のストレス・メンタルヘルス
					保育士の労働環境
					幼児期の食育

### 研 宪 課 題

- ・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況
- ・保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。
- ・幼児における食育活動の衛生面の課題克服と教育的意義の再検討を行う。

# 担当授業科目

#### 保育原理(前期)

保育内容 環境(前期)

保育内容 総論(前期)

保育課程論 (前期)

保育の表現技術Ⅲ(前期)

保育内容 表現(後期)

保育の表現技術IV (後期)

保育実習 I (3年前期~4年前期)

保育実習Ⅱ (通年)

保育実習指導 I (3 年前期~4 年前期)

保育実習指導Ⅱ(通年)

保育実践演習(通年)

専門研究 I (通年)

専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【保育原理】

保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。必然的に課題や学生自身による取り組みが多くなるため、授業評価アンケートからもその様子が窺えるが、同時に学生の目標達成、将来への展望にも繋がっていることが確認できた。

#### 授業科目名【保育内容環境】

保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。

#### 授業科目名【保育内容総論】

保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、これまでの学習の総括と総合的且つ専門的な視点からの課題解決について、これまでディスカッションを中心に講義をしていたが、今年度より学外での演習を加えた。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られた。

### 授業科目名【保育課程論】

保育の計画に関して、長期・短期計画について解説した上で、「保育課程」の作成方法を指導した。保育課程作成にあたり必要となる乳幼児の発達、現代の保育における諸課題について、より認識しやすいよう各グループによる発表を基に、ディスカッション、解説を行い、実際に学生一人一人が保育課程を作成する試みを実施した。高度な専門的内容であるため、学修のフォローとして個別指導も実施した。

#### 授業科目名【保育の表現技術III】

保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。

## 授業科目名【保育内容表現】

表現活動の意味や学生自身の表現を豊かにすることだけでなく、そのための方法論を学生自身が導くことができるよう、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。授業評価アンケートからは、目的を持って参加した姿が伺われた。

### 授業科目名【保育の表現技術IV】

保育者として必要な造形表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の造形表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。授業評価アンケートからは概ね目標は達成できたと考える。

#### 授業科目名【保育実践演習】

保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に 非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの 昨年同様、「課題の量」については課題である。

### 授業科目名【専門研究I】

研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。 また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。

#### 授業科目名【専門研究Ⅱ】

個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。

### 授業科目名【保育実習指導 I · II】

保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても 教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返り では、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。

#### 授業科目名【保育実習 I · Ⅱ】

実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。 また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期

に至る
に至る
に至る
に至る

著書、学術論文等の名称 単著・ 共著の別 発表の年月 発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称 要	2 0 1 6 年 度	2 0 1 6 年度 研		研 究 業			績等に関			す	る	事	項	
	著書、学術論文等の名称									概		要		

外部資金(科学研究費補		(本学共同研究費を含む	<u>-</u> C)
(1)	共 同 7	研 究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
社会人基礎力養成のための「意図的な Hidde	n 西南女学院	○上村眞生	1,007,800
Curriculum(潜在的カリキュラム)」構築に関する	5	小田日出子	
研究		天本理恵	
		塚本美紀	
		篠木賢一	
		橋本久美子	
		藤川信幸	
		岸名英海	

	外部資金	(科学研	f究費補!	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>(c)</u>
			(2)	個 人	研 究	
研	究 題	目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)	;		役	職名	等			任 期	間	期 等	
・福岡県青少年アンビシャス 砂山アンビシャス広場	運動	ボラ	ンティ	ア委員			2001年	₹4月~	現在に登	ES	

- · 学生委員 委員 2014年4月1日~現在に至る
- ·FD 部門会議 委員 2013年4月1日~現在に至る
- ・PHOTO 部 顧問 2010年12月14日〜現在に至る

# 2016年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司 職名 准教授 学位 修士 (福祉社会) (福岡県立大学)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソ	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健
ーシャルワーク	福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更
	生保護

### 研 宪 課 題

精神障害者の地域生活支援に関しての研究

精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関しての研究

精神保健福祉士の専門性向上に関しての研究

精神障害者の成年後見に関しての研究

触法精神障害者の地域定着に関しての研究

### 担 当 授 業 科 目

相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位)

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (福祉学科3年前期選択4単位)

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(福祉学科3年後期選択4単位)

精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位)

精神保健福祉援助実習指導 I (福祉学科3年通年選択2単位)

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位)

精神保健福祉援助演習 I (福祉学科 2 年後期選択 1 単位)

精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位)

精神保健福祉援助実習 I (福祉学科 3 年選択 4 単位)

精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位)

ヒューマンサービス基礎演習(福祉学科1年前期必修1単位)

相談援助演習 I (福祉学科 1 年後期必修 1 単位)

専門研究 I (福祉学科 3 年通年必修 2 単位)

専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【相談援助の基盤と専門職】

福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。

#### 授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】

精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神

障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

#### 授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ】

精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対してのリハビリテーション全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神科リハビリテーションの実際を視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

#### 授業科目名【精神障害者地域生活支援論】

精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

### 授業科目名【精神保健福祉援助実習指導I】

精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

#### 授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】

上記同様3人の教員合同で行い、実習 I を踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

#### 授業科目名【精神保健福祉援助演習 I】

精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。

## 授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】

精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。

#### 授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】

対人サービスを行う専門職養成のために、5名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、 チームワークの3つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

#### 授業科目名【相談援助演習 [ ]

相談援助者の基本的理解である「受容」「傾聴」「共感」を中核に、クライエントに寄り添う重要性を習得させることに努力をした。小グループでの活動を中心に、できるだけきめ細かい関わりが行えるよう配慮した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

### 授業科目名【専門研究I】

9 名のゼミ生に対して、精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に病院や施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参

加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

## 授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究 I を踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究(ゼミ論)」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。3月7日現在、9名全員の就職が内定し、あとは国家試験の結果を待つところである。なお、本年度は、福祉業界ではメジャーな全国誌である「月刊福祉」に、今村ゼミが「ゼミ紹介」として掲載された。

<u> </u>	全会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本精神保健福祉士協会(精神保健福	理事(2001年~現在)	1994 年~現在
祉士学会)		
日本社会福祉士会(社会福祉士学会)	代議員 (2010年6月~2012年6月)	1996 年~現在
日本社会福祉学会	代議員(2013年~現在)	1996 年~現在
日本病院・地域精神医学会		2006 年~現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008 年~現在
日本精神保健福祉学会		2012 年~現在
九州精神神経学会		2012 年~現在
日本更生保護学会		2013 年~現在

2016年月	ま 研	究	業	績	等	に	関	す	- る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行: 発表の				発表雑誌 学会等の			概		要
(著書 等) 1.「精神疾患とその治療(第2版)」	共	2017年	:3月	弘文	堂			_	との連携療の導入 福祉士の の視点を 責任編集 第9章 健・福祉	<ul><li>場につい に向け きまとめ ままき 時 は 手 を 手 を 上 の け た ま と め た れ り れ り れ り れ り れ り れ り し れ り し れ り し れ り し り し</li></ul>	Ü
2. 「精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)(第2版)」	共	2017 年	:1月	弘文	堂			_	相談援助 福祉関連 専門職に 責任編集 第 3 章	かの専門 を行政機 について 村談援 相談援 計職を執 82 頁	助の専門職 政機関にお
3. 「精神保健福祉に関する制度とサービス(第 3版)」	共	2017年	2月	弘文	堂			1	保障制度	そ (障害	連する社会 者差別解消 防止法・改

2016年月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	- る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行 発表の	マスは の年月			発表雑誌学会等の			概		要
								3	窮者自立動向につ 責任編集 第3章障	支援なまという (本)	龍太 関連する社 、法改正の 筆
4.「更生保護(第3版」」	共	2017 年		弘文:				2 3	機所年ワ福司ルい責第るを総門と検・ク協支プま編章係筆数で10	体庁護福会セ被め、生関、200の刑察事児タ者。 護団 頁	制度におけ
5. 認定成年後見人ネットワーク「クローバー」ハンドブック(第9版)	共	2016 年	= 4 月			法人 「		2	所成バ成ア健係て編精作委核でをに見なせ、。 2 健時とり	恩受登記訂とそ 盆辐のし担担成業 実の第 成重 社社が本の当当	福年、た務版年要 団・協担誌共分報後「方的。後性 法会当作同抽出見ク々マ精見を 人 委成研出協人口へニ神の述 日 員の究不会養一のュ保関ベ 本 会中で可
(学術論文 等) 1. チームとしての学校 の在り方からみるスク ールソーシャルワーカ	共	2017 年	≅3月		女学 l.21.2	院大学紀 2017)	紀要	1)	教育やス ワーク事	クール 業を整	てきた学校 ソーシャル 理し、これ チーム学校

2 0 1 6 年月	 麦 研	——— 究	 業	 績	等	に		す	- る	 事		<u> </u>
著書、学術論文等の名称	単著・	発行	又は	発	行所、	発表雑誌	志等		概		要	
4目( 1)(1)(m)(人4*2)(1)(1)	共著の別	発表の	)年月	又は	<b>!発表学</b>	会等の	名称		149/4		<u> </u>	
一の役割(査読あり)									とスク	ールソ	ーシャ	・ルワー
									カーの	役割を	述べた	<b>-</b> 0
								2	西南女	学院大	学	
								3	pp95∼			
								4	○今村			
2. 離島地域におけるう	共	2017年	2月			学教育	•	1				を発症
つ病高齢者の社会的背						文科学	- 第					背景に
景~外来診療録を使っ				67 身	Ę						•	保健福
た後方視調査から~(査									•			の精神
読あり)											につい	て検討
									をした	~		
								2	和歌山	•		
									pp41~		A 1 1 24	
(40.11. +.44)								4	○瀬戸	<u>川</u> 澤、	今村浩	司等
(報告書等)	11	2012 5		н. г	111-4	'	T. I		11. 1 111	<del></del>	. 1 - 7 / 1	1.6+11.1
1. 北九州市保健福祉才	共	2016年	-7月			保健福 。		1				と健福祉 。 、、、、
ンブズパーソン事業運					-	パーソ			. 12 4 /	-		ペーソン
営状況報告書						州市保						動報告。
				仙向	於務計	<sup>3</sup> 総務課	<del>(</del> )	2				福祉局
											-	務局(北 (務部総
									務課)	水烤油	7111./中J不管	<b>州为可</b> 称它
(翻訳 等)	なし								1/14/1/			
(学会発表 等)	なし											

外部資金(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含	<b>さむ</b> )
(1)	共 同 矿	开究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額
如 九 烟 日	文刊団件	○代表者()内は学外者	(単位:円)
グループホーム職員を対象とした職場内にお	保健福祉学部	○納戸美佐子	
ける研修プログラムの検討	附属保健福祉	今村浩司	
	学研究所	(中村貴志)	
		(野村美代子)	
		(野瀬真由美)	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
(2) 個 人 研 究													
	研	究 題 目 交付団体						交付決定額 (単位:円)	備	考			
なし													

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 (内	の名称 容)			役	職名	3 等			任期	間	期 等	

	和中	0001 /5 4 🖽	
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月~	
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月~	
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月~	
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月~	
北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協	代表世話人	2006年4月~	
議会			
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月~	
北九州成年後見センター	理事	2006年3月~	
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月~	
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月~	
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月~	
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月~	
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月~	
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月~	
北九州市精神障害者社会適応訓練事業運	委員	2000年4月~	
営協議会			
北九州市教育委員会スクールソーシャル	委員	2008年4月~	
ワーカー運営協議会			
福岡県教育委員会スクールソーシャルワ	委員	2008年4月~	
ーカー運営協議会			
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委	委員(地域包括支援部会兼	2006年4月~	
員会	務)		
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月~	
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月~	
福岡県精神医療審査会	委員	2013年4月~	
厚生労働省(社会福祉振興・試験センタ	委員	2014年4月~	
一) 精神保健福祉士国家試験委員会		2014年6月~	
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016年8月~	

大学·大学短期大学部地域連携室 副室長

FD部門会議FD実行委員会 委員長

公開講座委員会 委員長

西南女学院大学精神保健福祉研究会 顧問 (精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会) 福祉学科カリキュラム検討WGメンバー、国家試験対策WGメンバー、学科報(ニュースレター)担当 精神保健福祉士養成レーン担当

氏名 納戸 美佐子	職名 准教授	学位 博士(医療福祉学)2005年
-----------	--------	-------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
高齢者福祉					認知症高齢者グループホーム・認知症高齢者

#### 研 宪 課 題

- ・グループホームに入居している認知症高齢者の認知症の行動・心理症状 (BPSD) について機能的アセスメントに基づいた対応方法を検討する。
- ・認知症高齢者グループホームに勤務している職員を対象とした研修内容について検討する。

### 担 当 授 業 科 目

相談援助の理論と方法 I (通年) (福祉学科)

基礎演習(通年)(福祉学科)

ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科)

相談援助演習Ⅱ(前期)(福祉学科)

相談援助演習Ⅲ(後期)(福祉学科)

相談援助演習IV(前期)(福祉学科)

相談援助演習V(後期)(福祉学科)

相談援助実習指導 I (通年) (福祉学科)

相談援助実習指導Ⅱ(通年)(福祉学科)

相談援助実習(通年)(福祉学科)

専門研究 I (通年) (福祉学科)

専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)

卒業論文

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 相談援助の理論と方法 I 】

本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、相談援助の場面について具体的にイメージできるよう工夫した。ビデオ教材を用いた学習では、要点をまとめたワークシートを作成し、学生が主体的に学べるように工夫した。また、確認問題を作成し、学生が復習しやすいようにした。さらに、講義終了メントカードを配布し、質問等については、次回の講義で説明を行った。

#### 授業科目名【 基礎演習 】

本演習では、「調べる」「聴く」「読む」「書く」「発表・討論する」ことを通して、大学での学びに必要な力を 身に付けることを目的としている。6名の教員が7コマずつ担当し、教員が設定したテーマに沿って演習を行っている。担当分においては、教材として新聞を用い、新聞を読むことの意義や大学生活における新聞活用の 方法について考えることなどをテーマとした。個人ワークだけでなくグループワークを行い、自分の意見を他 者に伝える力、他者の意見を聴く力を育むことができるようにした。

### 授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】

本演習では、参加型・体験型のプログラムを用いることにより、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされる基礎的能力を形成できるよう工夫した。グループワークなどが多いため「楽しい」だけで終わってしまわないようにするため、振り返りシートを配布し、学んだ内容について整理できるようにした。

## 授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】

本演習では、相談援助専門職に必要な相談援助の方法や支援の視点について、グループディスカッション、ロールプレイなどを用いて体験的に学ぶ。また、事例等を用いることにより、福祉課題や利用者の状況について理解できるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートを準備し、学生の理解度に応じて、補足説明を行うようにした。

### 授業科目名【相談援助演習Ⅲ·相談援助演習IV·相談援助演習V】

本演習では、ロールプレイや事例を用いることにより、相談援助専門職の役割や必要な基礎的な技術および 知識等に関して、学生が体験的に学ぶことができるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートの確認を行 い、学生の理解状況を把握するよう心掛けた。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う 機会を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションについて継続的に学べるようにした。

### 授業科目名【相談援助実習指導 I】

本講義では、高齢者福祉施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。調べ学習やグループワークを用いることにより、相談援助実習指導の意義・目的、高齢者に関する福祉的課題等について自ら考えることが出来るよう工夫した。

### 授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】

本講義では、高齢者福祉施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。実習前の指導では、調べ学習を行い、実習施設について理解出来るようにした。また、実習後の指導では、個別面談を行い、学生の課題や達成した目標などについて学生自身が整理できるようにした。

### 授業科目名【専門研究I】

専門研究 I では、各学生が関心をもっている福祉課題について、調べ学習を行った。学生は、調べた文献について、各自発表を行った。また、その内容について学生同士でディスカッションを行い、多角的な視点から課題を把握できるよう工夫した。

# 授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅱでは、各学生が課題を設定し、文献研究を行った。課題設定や研究方法について適宜助言を行った。

# 授業科目名【卒業論文】

本人の申し出により、卒業論文作成辞退。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会福祉学会学会員		2000年5月 ~現在に至る
日本老年行動科学会学会員		2000年6月 ~現在に至る
日本行動分析学会学会員		2001年4月 ~現在に至る
日本地域福祉学会学会員		2002年4月 ~現在に至る
日本認知症ケア学会学会員		2002年7月 ~現在に至る
日本福祉心理学会学会員		2004年10月~現在に至る

2016年度	研		績 等	に	関	す	· る	事	 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、 又は発表 <sup>は</sup>		-		概		要
(著書)									
(学術論文)									
地域在住高齢者を対象とした認知課題ゲームと認知機能の関連	共	2016年	日本臨床 究.(3)(查		法研		知課題クの関連性 た。 共著者名	ームと 生につい i:上城	を対象に認 認知機能と ハて検討し 憲司、井上 宮原洋八、
						3	<u>納戸美佐</u> 21-25	<u>子</u> 、中	村貴志
地域在住高齢者の認知 機能状態別における眼 球運動と生活機能の比 較	共	2016年	作業療法ル.50(12)			1	名を対象症疑い郡	きし、正 作におけ 能との	生高齢者 91 常群と認知 る眼球運動 関連性につ
							井上忠俊 太田尾浩 原口健三 1331-13	5、 <u>納戸</u> 5、中村	美佐子、
グループホームの正規 職員と非正規職員の職 場満足度と職場定着を 促すための支援に関す る検討	共	印刷中	西南女气要.21(查	•	学紀	1	と非正規 環境に関 かにし、	閲職員の 引する満 職員の	の正規職員 業務や職場 起度を明ら 定着を促す いて検討し
							共著者: 中村貴志 印刷中		<u>佐子</u> 、

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	K	関	す	- る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(翻記)											
(学会発表) Examination of job satisfaction and the cause of job turnover of full-time workers and contract employee in group homes for elderly people with dementia.	共	2016	年 7 月	Hu	man ngress		vices	② ③ (2) (2) 学符 (F) 学名	満足度が いて職務 共同発表 中村貴派 2016 A Human Congre (p42)	および 素形態 表	在) 3)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					
情報共有 IT ツールを活用した認知症に伴う 行動・心理症状対応プログラムの実践的開発	日本学術振興会	○ <u>納戸美佐子</u> (鈴木明宏)	260,000 円					
グループホーム職員を対象とした職場内に おける研修プログラムの検討	保健福祉学部付属研究所	<ul><li>○納戸美佐子</li><li>今村浩司</li><li>(中村貴志)</li><li>(野村美代子)</li><li>(野瀬真由美)</li></ul>	72,600 円					
軽度認知機能障害高齢者の地域活動支援に有効な歩行機能の評価法の開発	日本学術振興会	(○中村貴志) <u>納戸美佐子</u> (鈴木明宏) (上城憲司)	65,000 円					

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
				(2)	個	<b>L</b> 7	开	究		
研	究	題	目		交付団	体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任期	間	期 等	
戸畑区地域ケア研究会 日本社会福祉士養成校協会 国家 験合格支援委員会	運営 委員	委員					7年4月 8年2月			

大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会 2016 年 4 月〜現在に至る COC+事業 教育プログラムワーキンググループ 2016 年 4 月〜現在に至る 社会福祉士国家試験対策 2016 年 4 月〜現在に至る

氏名	嶋村 美由紀	職名	講師	学位 修士 (社会福祉学) 日本社会事業大学大学
IV.	%们 大田ル	州联一口	רוי <del>ם ולו</del> ם	院 1998年

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神保健福祉	精神保健福祉士
	ソーシャルワーク

### 研 宪 課 題

精神科病院における精神保健福祉士 (精神科ソーシャルワーカー) の役割について考察する。 また、精神障害者と家族との関係と精神保健福祉士の関わり (質の向上) について考察する。 当事者や家族へのアプローチ方法と、その支援について整理する。 障害者の障害受容について考察する。

### 担 当 授 業 科 目

- ・精神保健福祉に関する制度とサービス
- ・精神保健福祉相談援助の基盤(専門)
- ·精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ
- ·精神保健福祉援助実習指導 I · Ⅱ
- 社会福祉概説 (栄養学科)

- ・精神障害者の生活支援システム
- ·相談援助演習 I
- ·精神保健福祉援助実習 I · Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 精神障害者の生活支援システム 】

精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や制度、政策との結びつきを具体的に示し、ビデオ等も使いながら、興味がわくような講義内容になるよう努めた。精神保健福祉の歴史・制度やサービスについての復習を行い知識の定着に努め、講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。

# 授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅲ】

精神保健福祉士国家資格受験資格取得のためのまとめを行う演習であるため、実習での体験を共有し、各自で考える力が備わるよう考察を促した。特に気になった話題については、時間をかけて専門職としての視点や姿勢から考えることが出来るように議論した。また少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めていけるよう工夫した。

# 授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅱ 】

精神保健福祉士国家資格受験資格取得のための演習であるため、精神科への理解やソーシャルワークの視点などを各自で考える力が備わるよう調べたり、議論をしたり、ロールプレイをしたりしながら考察が深まるように促した。特に気になった話題については、時間をかけて専門職としての視点や姿勢から考えることが出来るように議論した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めて精神保健福祉援助実習への導入とふりかえりをした。

### 授業科目名【 精神保健福祉に関する制度とサービス 】

精神科や精神障害者に関しての興味関心が広がるように努め、学生の将来について考えることができるよう情報提供を行った。視覚教材を用いたり、双方向のやりとりを行ったりしながら、学生が眠くならないように工夫した。講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。重点項目や学生の理解が不十分な制度については、複数回説明して、事例を用いながら学生自身の言葉や方法で理解が進むようにした。歴史の流れについては、他の講義とも連動して記入したり確認したりできるように年表を作成することも効果的であることを伝え、学生個人が作成した資料を有効に受講時間に使えるようになることの意義も伝えた。

### 授業科目名【 精神保健福祉相談援助の基盤(専門) 】

精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や当事者の様子等を具体的に示し、ビデオ等も使いながら興味がわくような講義内容になるよう努めた。双方向でのやりとりを通じて、学生一人一人が講義に参加し、自身で考えることが必要であることを伝えた。講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。

### 授業科目名【 相談援助演習 I 】

福祉の領域や、ソーシャルワーカーの役割・視点等について、具体的事例を提示した上で、学生各自が考えて調べたり、他のメンバーの意見を聞いたりする中で、各々の考え方や他者との関わり方などに気づき、また、再発見することができるように関わった。

# 授業科目名【 精神保健福祉援助実習Ⅱ 】

精神保健福祉援助実習IIに向けての実習指導を行った。障害福祉サービス事業所等社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。障害者福祉サービス事業所等地域の社会資源での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。

#### 授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導 [ ]

精神保健福祉援助実習 I に向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、 精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。精神科医療機関での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。

### 授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 】

精神保健福祉援助実習IIに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、さらに地域で生活している精神障害者の現状や思いについて学生の理解を深めるよう努めた。地域での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。

# 授業科目名【 社会福祉概説 】

栄養学科の学生に向けての講義である為、社会福祉に興味関心がわくような、時事問題や、身近な内容を導入し、福祉への理解を促すことに努めた。講義の最後には、コメント用紙を配布し、理解度や質問等を書いてもらい、次回講義時にフィードバックを行った。ビデオを使って視覚的なアプローチも行い、学生の視野を広げるよう努めた。

学会における活動	
役職名等(任期)	加入時期
	1998年
	2004年
	2012年
	2013年

2 0 1 5 年 度	研	 究 業	績等に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌 又は発表学会等の名			概		要
(著書) なし								
(Nt bent I)								
(学術論文) なし								
(翻訳) なし								
(講座) 精神保健福祉サポータ		2016年10月	北九州市立精神係	よ健		邮音がい	者を批	域で支える」
一養成講座		2010   1071	福祉センター	1.00	1131	117-7	n C.L.	<i>y</i> ()()()
			I					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
					(1)	共 同 码	开 究	
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし								

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入狀	況(本	学共同研究費を含む	<u>_</u> C)			
				(2)	個	人	研	究				
研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)		備	考	

なし		

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	間	期 等
北九州市精神医療審査会	保健福祉	委員			2004年	三4月~5	見在	
あかつき会(北九州精神障害者家族	評議委員				2005年	三10月~	現在	
会)								
北九州市自殺対策連絡会議	委員				2010年	三11月1	日~現	在
発達障害児·者家族等支援事業審査会	委員				2014年	€4月~₹	見在	

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)
教務委員										

氏名 文屋 典子 職名 講師 学位 修士(社会学) (関西学院大学 1994年)

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
社会福祉学					ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援、
					ファミリーソーシャルワーク

研 宪 課 題

子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性 小児医療フィールドにおける教師と保育士のことばの運用に関する研究

# 担 当 授 業 科 目

相談援助の理論と方法Ⅱ(通年)

相談援助実習指導 I (通年)

相談援助実習指導Ⅱ(通年)

相談援助実習 (通年)

相談援助演習Ⅱ(前期)

基礎実習(通年)

保育実習指導 I (通年)

保育実習I(通年)

保育実習指導Ⅲ(通年)

保育実習Ⅲ(通年)

保育の表現技術 I (前期)

保育の表現技術Ⅱ(後期)

保育実践演習 (通年)

家庭支援論(前期)

保育相談支援(前期)

専門研究 I (通年)

専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】

複雑多様化する現代の福祉課題に対して、ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用的視点によって問題状況を捉える"視点"をもつことに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについては時代背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解し、アセスメントや介入における"視点"の違いを理解し、説明できることに重点をおいた。できる限り多くの視聴覚教材や事例を用いることによって、概念的理解にとどまらず、臨床的感覚を覚えながら理解を深められるよう授業を展開した。学生には毎回の授業で授業内容を要約して提出することを課し、学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。

### 授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】

実習前の事前学習、実習後の振り返りでは個別指導を各学生につき複数回行い、各自の課題を明確にするよう心掛けた。特に、実習後の振り返りでは、実習期間中に経験したこと、感じたこと、学んだことについて学生自身が語ることを促し、個別指導やグループディスカッションを活用して語りをさらに引き出すこと、学びを深めること、自己の課題に結びつけることに重点をおいた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間においては、各自が取り組むべきことを整理し計画的に後期実習準備に取り組むことによって、それぞれの学生が前期実習時より積極的に実習に臨む姿が見られ、実習記録の記述においては、「着目点が的を得ている」「考察が深まっている」と実習先から評価される等、充実した実習を経験することができたと考えている。

### 授業科目名【 相談援助実習指導 I 】

実習や資格取得へのモティベーションを高めていくことを念頭に置いた。児童福祉領域を担当しているため、学生の中には養護教諭志望の学生が多く、子どもや子どもを取り巻く現状について理解するうえで、ソーシャルワークと教職課程の共通する捉え方とそれぞれの独自の視点を意識できるよう課題を設定した。また、実習に向けて学生同士が忌憚なく意見を言えること、実習中困難に直面した場合にはお互いをサポートできる関係を築くことなど、グループ学習を通して関係性を形成していくことを引き続き来年度の相談援助実習指導IIにおいても課題としたい。

### 授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】

事例学習やロールプレイを通して、困難を抱えた状況にある人をできる限り具体的にイメージし、どうかかわっていくかを実践的に学ぶことに重点をおいた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を実際に用いること、情報収集、仮説設定、言語的やりとりが実際にはどのように行われ、見立てのためにほかの授業で学んだ知識がどのように使われるのかを実際的に学べるよう、ロールプレイ、解説、グループ討議により、多様な事例を用いて授業をすすめた。

### 授業科目名【 基礎実習 】

本科目は1年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる姿勢について学び、実習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。

### 授業科目名【 保育実習指導 I 】

本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2~3月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。 保育の現場において実習生として保育技術を実践できるよう、毎回の授業の中で保育技術を実践的に学ぶこと を取り入れた。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門 性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学 生の中でも混在する部分を整理して、"社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと" について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習後は振り返りと実習報告に関する個別指 導に重点をおいた。

# 授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】

本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2~3月の施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえつつ、実習目標を設定し実習計画書の作成するよう個別指導を強化した。また、福祉専門科目において学んできたことを総合して、実習先での支援の実際、現場の課題、利用者理解を深め、実習に臨めるよう事前学習にも重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいて各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。

# 授業科目名【 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ 】

学生の入学までのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。保育の表現技術 I (前期)においては、演奏するうえで求められる基本的な音楽的知識を理解することにも重点をおいた。入学時にピアノを弾いた経験のなかった学生も"弾けるようになりたい曲"を目標に設定することで、練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生がこの目標を達成することができた。入学前の時点で習熟度の高い学生においても、保育者としてピアノを弾くことを意識させ、さらに練習に熱心に取り組んだ。奏法に改善の必要性がある場合にはその克服に適した課題に取り組むことを通して、学生の演奏の向上を目指した。

### 授業科目名【 保育実践演習 】

科目全体での学習目標として、"保育専門職として協働の意味と意義を学ぶこと"を掲げ、全体のプログラムを通してこの点について学びを進化させつつ、保育士に求められる技術と知識を高めることをめざした。なかでも、〈劇の創作と発表〉と〈保育の現代的問題の検討〉を担当し、〈劇の創作と発表〉においては発表に向けて、グループ内での役割分担と役割遂行、発表に向けて気づきや改善点について意見を共有しながらよりよい発表づくりをめざして学生間で協働できるようサポートを行った。〈保育の現代的問題の検討〉においては、子育でする親の気持ちを受けとめることをテーマに、各学生が親の思いを共感的に聞くことを実践的に経験し、そこからの学びを学生間で共有し、保育の現代的問題の検討を行った。2つのテーマのうち、学生自身が選択してこの授業に参加していたことから、学生の取り組みに対する意欲が高く、学習成果も大きかったと考える。

### 授業科目名【 家庭支援論 】

現代の家族をとりまく状況を概観し、子ども家庭福祉領域で家族を支援することの意義と家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものと考える。具体的事例や視聴覚教材などを厳選し、学びの意欲を高めることができるよう、今後も工夫していきたい。

### 授業科目名【 保育相談支援 】

子どもと家庭をめぐる様々な状況について具体的事例をあげ、多角的に状況を捉え、支援方法について検討を行った。答えは一つではなく、着目点や分析のモデルが異なれば多様な見方が出てくることを実践的に学ぶため、グループの話し合いにおいて他者の意見に安易に同調しないこと、自分と異なる意見も受け入れつつ話し合いを進め、意見の相違がどこから生じるのかを見出すこと、最終的に自分自身の意見を明確にもつこと、表明することができるようになることを重視した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月~ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月~
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月~
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月~
日本小児保健学会		1997年5月~
日本特殊教育学会		1999年8月~
日本保育学会		2011年10月~
日本医療保育学会		2016年5月~

2 0 1 6 年 度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(翻訳)											

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(学会発表) 1. 小児フィールドで働 く教師と保育士の言語 表現に関する研究	共	2016	年 <b>7</b> 月		回学	呆育学 <del>会</del> 術集会 崎医療		教構プ句そ特し行	でと保育 化面接・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ と ・ と ・ と ・ と ・	士を対するところがいる。またが、これののでは、の質的では、の関するとのできまれる。	谷川弘治 学会第20回学

外部資金(科学研究費補助	助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>t</u> e)
(1)	共 同 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額
14) /L /ES []	文的団体	○代表者()内は学外者	(単位:円)
冊子『臨床における言葉の運用から見た医療	西南女学院大	○文屋典子	155,000 円
保育と病弱保育』の作成	学保健福祉学	谷川弘治	
	部附属保健福	(大重育美)	
	祉学研究所	(豊永絵里)	

(2) 個 人 研 究	
研究 題 目     交付団体     交付決定額 (単位:円)	

社 会	にお	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	間	期 等	
北九州市高齢者支援と介護の質の向 上推進会議 地域包括支援分科会	構成員				2011年	三4月1	日~201	4年3)	月 31 日
北九州市高齢者支援と介護の質の向 上推進会議 地域包括支援に関する	構成員				2014年	€4月1	日 <b>~</b> 201	7年3	月 31 日
会議									
社会福祉法人 喜久茂会	監事				2015年	€4月1	日 <b>~</b> 201	7年3	月 31 日
社会福祉士養成校協会九州ブロック	副運営委員	長校(打	旦当)		2015年	三4月1	日 <b>~</b> 201	7年3	月 31 日

# 学生募集委員

教育予算配分委員(委員長)

吹奏楽部顧問

# (学科内役割)

- 日本社会福祉士養成校協会、日本社会教育学校連盟 学科内担当者
- 日本社会福祉士養成校協会においては、学科内担当者として九州ブロックにおける実務を担当した

九州ブロック研修委員担当校(2011年4月~2013年3月)

九州ブロック実習委員担当校(2013年4月~2015年3月)

九州ブロック副運営委員長校(2015年4月~2017年3月)

氏名   杉本 有紗   職名   講師   学位   修士(人間環境学)(九州大学 200
--

研究内容のキーワード						
齢者、施設入所、対人交流、コミュニケー 、役割意識、援助的介入						

### 研 宪 課 題

認知症高齢者の臨床心理学的援助に関して、個別の実践事例を積み重ね、具体的援助方法を考察する。また、援助対象となる認知症高齢者の心理について、対人交流および役割意識という観点から考察していく。その際、援助プロセスに伴う認知症高齢者の心理的変化プロセスについても考察する。さらに、認知症高齢者の対人交流形成とその効果を評価するため、コミュニケーション役割や役割意識の評価方法についても検討していく。

# 担 当 授 業 科 目

### 発達心理学Ⅱ(前期)

発達臨床心理学演習(前期)

ヒューマンサービス基礎演習(前期)

福祉臨床心理演習Ⅲ(後期)

心理学基礎実験(後期)

コミュニティ心理学(後期)

心理学概論Ⅱ(後期)

福祉臨床心理学 I (後期)

社会心理学(後期)

専門研究 I (前期・後期)

専門研究Ⅱ(前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【発達心理学Ⅱ】

本講義では、青年期から老年期までの人間の発達を、身体的、認知的、心理社会的側面から解説を行った。 始めに生涯発達心理学についての説明を行い、生涯を概観した上で、詳細の発達的変化を捉えられるようにす すめていった。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポー 質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう、心掛けた。

### 授業科目名【発達臨床心理学演習】

本演習では、発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を学生が持ち寄り、学生同士のディスカッション、 論文講読を行い、この分野の理解を深めるよう促した。発言がしやすい小グループに分けたり、学生の興味に 沿って積極的な発言を促したりするなど、学生の参加しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。論文の比較につい ての課題を課すなど、各臨床分野での最新の研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。

### 授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】

本演習では、新入学というタイミングでヒューマンサービスの基礎となる対人場面でのスキルアップを目指した。12,3名という少人数を1名の教員で担当し、一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回小レポートを課し、フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。

### 授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅲ】

本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達的側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮、アセスメントのフィードバックのあり方について、演習を行った。また、認知症高齢者の心理についてビデオや文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、前後のアセスメントについて、演習を行った。具体的な手続きを学ぶことで、学生が心理的課題への理解を深められるよう工夫した。

### 授業科目名【心理学基礎実験】

本演習では、心理学の具体的な研究手続きについて演習を行った。目的に沿った研究方法、データ収集、データ解析を指導した。また、一連の手続きを、問題、目的、方法、結果、考察という形式に則った論文レポートにまとめる作業について指導した。学生の理解、課題の進み具合に沿って指導を行った。

### 授業科目名【コミュニティ心理学】

本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。4 年次開講科目ということもあり、一方的な講義ばかりではなく、疑問提示や質問をする機会を積極的に設けることで、議論しながらこれまで身につけた臨床心理学や社会福祉学の理論と比較する中で、コミュニティ心理学の特徴について理解を深めるよう工夫した。

### 授業科目名【心理学概論Ⅱ】

本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究方法、基礎となる理論や著名な研究、 導き出されたな理論等、心理学の概論について解説を行った。分野が多岐に渡るため、学生の記憶 の定着を図るべく、毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

### 授業科目名【福祉臨床心理学Ⅰ】

本講義では、臨床心理学の基礎となる精神分析理論、学習理論、人間性心理学の理論と、フロイト、エリクソン、クライン等の発達理論、またそれらの理論に基づく心理療法、心理アセスメントについて解説を行った。 専門用語などは初めて聞く学生も多いため、テキストに加え補足プリントを配布し、語句や概念の理解を促した。毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

### 授業科目名【社会心理学】

本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。 日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活では どのようような形で現れるかを考えて小レポートにするよう促し、次回始めに授業内にてフィードバックし、 知識の定着を図った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。 小レポートのフィードバックを行うことで、学生が質問しやすいやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

### 授業科目名【専門研究I】

本年度は受講する学生は0名であった。

### 授業科目名【専門研究Ⅱ】

本年度は受講する学生は0名であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本心理臨床学会	会員	2001年~現在に至る
西日本心理劇学会	監事 (2016年4月~2019年3月)	2001年~現在に至る
	心理劇技能士資格(第42号)	資格取得2016年6月12日
	心理劇臨床技能士資格(第 42 号)	資格取得2016年6月12日
日本リハヒ゛リテイション心理学会	会員	2002年~現在に至る
日本発達心理学会	会員	2007年~現在に至る
九州臨床心理学会	会員	2008年~現在に至る
日本心理学会	会員	2008年~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要	
(著書) 該当なし												
(学術論文) 該当なし												
該当なし												
(学会発表) 該当なし												

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
					(1)	共 同	石	开 究		
	研	究	題	目		交付団体	本	研 ○代表者	究 者 ()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
該当なし										

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究			
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)		備	考
該当なし												

社 会	に お け る 活	動 等			
団体・委員会等の名称	公L III	任 期			
(内 容)	役職名等	期間等			
九州大学大学院人間環境学府付属総	研究員	2016年4月~2017年3月(1年間)			
合臨床心理センター					
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2016年6月~2017年3月			
大分県中津児童相談所	児童養護施設職員研修担当	2016年7月~2017年3月			
福岡女学院大学	講師「高齢者心理学」担当	2016年8月31日,9月1,2日(3日間)			
放送大学福岡学習センター・北九州サ	面接授業講師「高齢期の心理	2016年12月3、4日(2日間)			
テライトスペース	臨床」担当				
西日本心理劇学会	第 42 回福岡大会 ワークシ	2017年3月4日			
	ョップ講師				

# 【大学】

後援会委員会 委員

教育の質の保証プロジェクト 担当

# 【学科】

ヒューマンサービス基礎演習 担当

氏名 金谷 めぐみ 職名 講師 学位 修士 (芸術学) (日本大学 2003年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽	ミサ曲、アリア、モーツァルト、ソルフェージュ
幼児音楽教育	
声楽	

### 研 宪 課 題

モーツァルトの《声楽のためのソルフェージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393(385b)》とミサ曲およびオペラアリアとの関連について考察する。

# 担 当 授 業 科 目

保育の表現技術1 (前期) 福祉学科)

保育の表現技術II(後期)(福祉学科)

西洋の音楽と文化(前期)(人文学部 英語学科・観光文化学科)

西洋の音楽と文化(後期)保健福祉学部 看護学科・福祉学科)

保育実践習 (年) (福)学科)

基準習(無)(温)学科

保育実習譜 [ 通年 ) 福山学科

保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【保育の表現技術 I】

音楽理論ではテキストの他にプリントによる解説と、毎回、練習課題を出し、復習させることで 学生の理解を向上させた。また個別指導を行い、一人ひとりに適した細やかな指導ができるようよう 工夫した。

歌唱およびピアノの実技指導では、人前で歌うことに慣れていない学生が多いため、まず学生自身が楽しんで歌えるよう、身体運動を伴った子どもの歌で発声練習を行った。また、ピアノ奏法においては、スケールおよび易しい曲で基礎的な奏法を身に付けるよう工夫した。

#### 授業科目名【保育の表現技術Ⅱ】

歌唱表現では、教科書の幼児唱歌だけでなく季節に合った手遊びとわらべうたを取り入れ、身体表現活動を 取り入れた音楽表現ができるよう工夫した。

幼児唱歌の弾き歌いにおいては保育の現場を想定して、学生の伴奏に合わせて全員が歌うなどの時間を設け、 伴奏技術の向上を図った。

### 授業科目名【西洋の音楽と文化】

キリスト教音楽について録音 (CD) やパワーポイントによる資料を用いて解説した。学生が西洋音楽の歴 史について理解するだけでなく、西洋の音楽文化と日本の音楽文化との関係について考えることができるよ う授業内容を工夫した。また、讃美歌への関心を高めるため、授業で学生がリクエストした讃美歌について 解説し、讃美歌成立の知識をもって讃美できるよう工夫した。

### 授業科目名【保育実践演習】

音楽劇の創作および発表において、発表後に振り返りの時間を設けることで、協働することについての気づきや反省点をグループおよび全員で共有するなどの工夫をした。練習では舞台における危険性やその対処法、舞台マナー、舞台上での演じ方、声の出し方などを口頭による説明だけでなく実践することで学生自身が体得できるよう工夫した。

### 授業科目名【基礎演習】

レポート作成における文献検索については、実際に図書館で文献検索を行い、図書を借りるなどの演習を行った。グループ演習では日常生活における身近な疑問や問題、課題について話し合い、レポートのテーマの設定方法、提出時の注意事項などを再確認した。課題や疑問点を全員で共有し、より良い方法や解決法について話し合う時間を多く設けるなどの工夫をした。

### 授業科目名【保育実習指導I】

実習の現場で行う設定保育を想定し、指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行い、改善すべき ところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。

また、指導案作成においては、練習を重ね、個別の指導を繰り返すことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。

# 授業科目名【保育実習指導Ⅱ,Ⅲ】

「保育実習指導 I」に引き続き、実習の現場を想定し、指導案の作成および設定保育の発表を行った。 実習前に発表することで、その反省から指導案の内容をより深め、保育現場における実践力を養うことができるよう工夫した。また、個別指導において十分な時間を確保し、学生の学習を補強するよう努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本保育学会		2012年10月~現在に至る
日本声楽発声学会		2013年~現在に至る
日本演奏連盟		2009年12月~現在に至る

2016年月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行! 発表の				発表雑 学会等の	-		概		要
(著書)											
(学術論文)								(Ī) ¬	トーツァ	ルトの	)《ソルフェ
1. 総説:モーツァルト	共著	2017年	3月	西南	<b>j</b> 女学	院大学	紀要	_	ŕ		て作曲と出
の《声楽のためのソ				Vol.2	21			片	反の経緯	記つい	て記し、こ
ルフェージュ								1	1まで!	こ記述	されている
Solfeggien für eine									《ソルフ	ノエージ	ジュ》と《ハ
Singstimme								矢	豆調ミサ	おは《せ	びその他の
K.393(385b)》~作								7	モーツァ	ルトの	声楽曲との
曲、出版の経緯およ								B	関係につ	いて文	献的考察を

2 0 1 6 年 月	度 研	究	業	績 等	に	関	す	- る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の <sup>4</sup>			発表雑誌 学会等の			概		要	
びモーツァルトの 他の声楽曲との関 係~							2 3	行った。 共 <del>著</del> 者名 (P.87-F		3浩司	
2. 原著:モーツァルトの《声楽のためのソルフェージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393(385b)》の「断片 Fragment」と オペラ《ルーチョ・ シッラ Lucio Silla K.135》のジュ ーニアのアリア	単著	2017年		西南 <i>女</i> 学 Vol.21	<b>卢院大学</b>	紀要	①	ージュと 曲を読譜 の作成 ユ 》 で さつ で と CD 検 ション 検 ジュー たっ で か で り で か で り で か で り で か で り で か で り で か で り	声、を以楽のジ結「、ラのこ楽をいんがいる。」とは、ラのこれが、ラになる。	り《ソルフ 東習》の全 は、録子(C) い《ソルフ に作 リ ア で との と ア と の と ア で と の と ア で の 関 フ ェ い 、 《	5 Dェた読ソを一切チア律
(翻訳)											
(学会発表) (その他)											
1. 録音資料 (CD) W.A.MOZART: Solfeggien und Gesangsübungen K.V.393	独演	2017年		西南女学 Vol.21 ( 学図書館	西南女学		② 1. S 2. S 3. S 4. S	ージュと 曲の録音 い、上記 ツァルト ソ ル Solfegg Singstir の「断片 ペラ《/ Lucio Si ーニアの	声楽総式 (CD の この原 こののフェ ien Fra いつ Fra 11a K. リア要 Vol (全 5 自 1. 2. 3. Fragn	nent	5行ーのュne》オラュ学

2016年月	度 研	究	業績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の <sup>4</sup>		終行所、 は発表等				概		要	

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1) 共 同 研 究											
<b></b>	研 究 者	交付決定額									
文的回体	○代表者()内は学外者	(単位:円)									
		(1)     共     同     研     究       交付団体     研     究     者									

	外	部資金	(科学研	开究費補明	力金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含む	<b>む</b> )	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交价	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	間	期等
苅田キリスト教会	奏楽者				2006年	三~現在(	こ至る	
苅田町四季の音楽会実行委員会	委員				2010年	E4月~₹	見在に3	<b>喜る</b>
国立音楽大学同調会福岡県北九州支部	役員				2011年	€4月~₹	見在に3	<b>喜る</b>
通所介護施設「和楽庵」	講師				2011年	€4月~₹	見在に3	<b>喜る</b>

# 入学式の讃美指導

大学および短期大学部チャペルの讃美指導

西南女学院中学・高等学校讃美歌コンクール審査員および講評(2016年6月4日)

大学クリスマス礼拝の讃美指揮、聖歌隊指導、独唱(2016年12月15日)

氏名 木村 茂喜 職名 准教授 学位 修士 (法学) (九州大学 1997年)

研 宪 課 題

福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 社会的孤立の状態にある者に対する社会保障のあり方

### 担 当 授 業 科 目

法学概論(前期)(看護学科)

法学概論(前期)(福祉学科)

日本国憲法(後期)(看護学科)

日本国憲法(後期)(福祉学科)

日本国憲法(後期)(栄養学科)

社会保障論

公的扶助論(前期)

司法福祉論(前期)

権利擁護論(後期)

基礎演習

専門研究 I

専門研究 II

社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに、pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。

授業科目名【法学概論】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの 憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、昨今の改憲論議の高まりを踏まえ、学生が今後改憲 の是非について判断するための素材として、自由民主党が 2012 年に発表した憲法改正草案を毎回の講義内容 に即して、自由民主党の提案理由とこの改正に反対する意見を交えつつ紹介した。 授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を2回(前期末・後期末)行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的イメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【司法福祉論】社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、3名の外部講師(保護観察官・保護司・更生保護施設長)に講義を依頼した。今年度は受講する学生に聴覚に障がいのある学生がいたため、レジュメと併せてパワーポイントのスライドをそのままプリントアウトしたものをノートテイカーに配布し、ノートテイカーの負担軽減と当該学生の講義内容の一助に努めた。

授業科目名【基礎演習】1年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを4グループに分けて「ディベート」を行った。なお、今年度から1クラスの担当コマ数は7コマとなっている。

授業科目名【専門研究 I・専門研究 II】今年度は 3 年生が 1 名しかいなかったので、3 年生の専門研究 I と 4 年生の専門研究 II を合同で行った。社会福祉士国家試験の受験予定者が多いことから、とりわけ社会保障制度を楽しく学ぶことを目的に、専門研究の成果物として「社会保障人生ゲーム」の作成を通年で行った。作業の手順は、①基本的なゲームデザイン(コース)の作成、②イベント・アクシデント(ゲームのマス)案の策定、③イベント・アクシデントに対応する社会保障制度の確認、④②③を踏まえたイベント発生効果の策定、⑤ゲームのマス、各種カードの作成、⑥テストプレイの上、修正を加えて完成、であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月~)	1995年12月~現在に至る
日本労働法学会		1998年5月~現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月~現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月~現在に至る
日本障害法学会		2016年12月~現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013 年 4 月	1995 年 4 月~現在に至る
	~2014年3月)	
社会法判例研究会		1995 年 4 月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・	発行	「 又は	発	行所、	発表雑	<b>誌等</b>		概		ш	
者青、子州神人寺の名外	共著の別	発表	の年月	又们	は発表学	学会等の	名称		邩		要	

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又 発表の <sup>年</sup>				発表雑詞 学会等の			概		要
(著書) 『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門』	共著	2016年4	4月	みらい				「なて実解と用理をンる②金、、③害社会の践決とし解学を。編執子木佐担補	会等のではできる。 音音では、音音の保で、容法に社き楽め、一者、茂本部と数に対し、という、対し、数には、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	高りててAAラ障うやい・伸井は小生、第度にや、の方ス制にモ構・伸んみ修理章で	解からの問で、を入れば、「人子科」で、を入れば、「人子科」で、を入れば、「人子科」では、明用例すま目会シて、「高田坂か働]頁い平しいとすをで保ョい、志恵本の者)で、多、障・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(判例研究) 「児童福祉施設入所措 置等の期間更新(秋田家 裁平成21年3月24日審 判)」	単著	2016年	5 月	ュリン	スト	編 別 227 号 『 百選(第 8	社会	、童童新事措否、ね害童性のな体審家相養の件置か児るすの、指ど的判別を記述のは、	<ul><li>裁所施認の期よをとこれ護や半半、半長設のる間措保がとの者生断断保 がより、中。更置護当が状に活要す護</li></ul>	の行の立家新期者該な沢対状素る者が行うの立家新聞に見かける状素とこが	項を児腊却戦認満るのどで児よって記載を児腊神野神の高いア児としてに重なが、児更た入か点にを、要談況別。所、き児ののしがる時護祉か必相状個る談とも別して、ののして、ののして、のののとは、ののののので、

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		f又は の年月			発表雑 会等の			概		要
								ある。 居を 児童 たま	こと、児 歯く望 <i>P</i> 目談所の 即下して	記童が保 しでいる	いが可能で 浸護者との同 らことから、 夏新の申立
(都信尺)											
(学会発表)											

	外	部資金	(科学研	研究費補則	协金等) 導入状	兄(	本学共同	司研究費を含む	·c)
				(1)	共 同	研	究		
研	究	題	目		交付団体			究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

		外部資	資金	(科学研	究費補明	力金等)	導入状	兄(本	学共同研究費を含む	<u>_</u> C)		
					(2)	個	人	研	究			
研	李	ž Į	質	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考	

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称			役	職名	等			任		期	
(内 容)			1又	141 石	寸			期	間	等	

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

西南女学院大学生活協同組合 理事長 2016年5月27日~2017年5月26日 学生委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日 教務総合人間科学小委員会 委員 2015年4月1日~2017年3月31日 キャンパス・ハラスメント調停委員会 委員長 2016年7月20日~2016年9月21日 フォークソング部 顧問

KOIKOI 顧問

氏名 通山 久仁子	職名助教	学位 修士 (人間関係学)
-----------	------	---------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者家族福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO

### 研 宪 課 題

「発達障害のある人の親」が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性(「親当事者」性)を基盤にした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通した主体としての「親当事者」への変容過程とその意義について明らかにする。

# 担 当 授 業 科 目

相談援助実習指導 I (通年)

相談援助実習指導Ⅱ(通年)

相談援助演習I(後期)

基礎実習 (通年)

社会福祉特講Ⅱ (集中)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 相談援助実習指導 I 】

実習前指導を行う本科目では実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。 講義にできるだけワークなどを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いす・白 杖体験と、基本的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を学ぶ機会を設けて、事前学習の強化を図った。個別指導の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3年次の実習指導につなげられるよう心がけた。

# 授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】

実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法について演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。事後学習では、それぞれの体験のプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を多く設けるようにした。

また実習施設と共同で開発した実習プログラムを標準化していくため、各施設との共通認識を形成していく 準備を行っている。

# 授業科目名【 相談援助演習 I 】

グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、「災害時のソーシャルワーク」というテーマを取り上げ、救命救急センターの医師や医療ソーシャルワーカーを講師として招き、講話を聴いたり、北九州市危機管理室の協力を得て避難所運営ゲーム HUG を実施したりして、災害時の状況をできる限り想定しながらソーシャルワーカーがどのような役割をはたせるかについて学びを深められるようにした。

# 授業科目名【 基礎実習 】

実習施設に対して、基礎実習導入の趣旨、目的などの事前説明、また実習後の情報交換、および情報共有に 努め、学生が希望する施設で円滑に実習が行えるよう、調整に努めた。また事後学習では、幅広い分野での体 験を共有し、領域による差異とともに、共通する基盤について理解を深められるよう促した。加えて個別指導 の際に日誌・レポートを用い、日誌・レポートの内容をフィードバックして学びを深められるように試みた。

# 授業科目名【 社会福祉特講Ⅱ 】

本科目は6人の教員によるオムニバス形式の講義である。4 年次の国家試験対策として位置づけられており、 就労支援サービス論を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中 心に、問題演習を取り入れながら実施した。

学会における活動	
役職名等(任期)	加入時期
	2004年~現在に至る
	2005 年~現在に至る
	2009年~現在に至る
	•

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑 学会等の	-		概		要
(学術論文) 特定非営利活動法人 全 国 LD 親の会にみる全国 組織としての「親当事者」 団体の機能	单	2017.8	}	西 P		·院大学	紀要	特親運針て者たと理ルはノク取親ある。	定非会の理全団そて軽いまったといる。 はないないではないないではないないでは、 では、これでは、これでは、これでは、 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	活りや検織機果請動発れスペリと明動上活計と能と話ををでれれるようか	見の人、内るて生国やい指覆、経会にとの人、団容との「ら織研政すしッしとすない国組営通当に機業レけきワいっ能。 おり おりしましましました しょしん しまし 能 、べでたーくたが

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
	(1)	共 同 石	开 究					
研 究 題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(2)	個 人 斫	开 究							
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考						
「発達障害のある人の親」による地域福祉活	日本学術振興	1,950,000							
動の生成・展開過程に関する研究	会								

団体・委員会等の名称 (内 容)     役職名等       特定非営利活動法人 nest     理事	<u>\$</u> F	任 期 間	期 等
特定非営利活動法人nest 理事			
北九州市障害程度区分認定審査会    委員		6月〜現在に 4月〜現在に	

# 【社会福祉士国家試験対策講習会】

オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は前期に一問一答試験(基礎編)、後期には一問一答(応用編)と過去問3年分の問題演習を継続して行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくった。またこれまでの国家試験対策に加え、模擬試験後の個別面接を行い、勉強方法等の指導を行った。

# 【実習指導室・ボランティア相談室】

ボランティア相談室として、ボランティア活動を学生が円滑に行えるよう、ボランティア先との連絡調整、 学生への情報提供に努めた。またボランティア活動を活性化するため、4 月のオリエンテーション時にボラン ティア入門の講座を1コマ設け、大学での支援体制、実際にボランティア活動をしている先輩や、ボランティ アの受け入れ団体の講師を招き、ボランティア活動を具体的に紹介する機会を設けた。

## 【障害学生支援】

聴覚障害学生支援として、障害学生および支援学生のサポートを行った。

# 栄 養 学 科

氏名 八木 康夫 職名	教授 学位	博士(医学) (産業医科大学 2003年)
-------------	-------	-----------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
運動生理学					exercise, recognition, information proceeding, event
生理学					related potentials, P300, reaction time, elderly,
生理心理学					supplements, athlete, conditioning, nutrition,
					health promotions

### 研 宪 課 題

高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間 (RT) を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、アスリートの運動パフォーマンス、健康増進に及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次高機能に及ぼす効果についても検討している。

### 担当授業科目

# 健康科学(栄養学科、1年前期)

健康科学実習 I (栄養学科、1年前期)

健康科学実習Ⅱ(栄養学科、1年後期)

運動生理学(栄養学科、4年前期)

健康体力評価論(栄養学科、4年後期)

卒業ゼミ (栄養学科、4年通年)

卒業研究(栄養学科、4年通年)

健康科学(英語学科、観光文化学科、1年前期)

健康科学実習 I (英語学科、観光文化学科、1年前期)

健康科学実習Ⅱ(英語学科、観光文化学科、1年後期)

健康科学実習 I (看護学科、1年前期)

健康科学実習Ⅱ(看護学科、1年後期)

健康科学実習 I (福祉学科、1年前期)

健康科学実習Ⅱ(福祉学科、1年後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 健康科学 】

- 1. PCを用いて、プレゼンテーション・ソフトウェアーによる資料提示をおこない、必要に応じて資料を配布した。
- 2. 最新のトビックスの引用、および、最新の資料の提供に努めた。
- 3. 単元毎にテストを行い、採点結果を各学生に伝え、学習意欲を誘導した。

本講における単元毎のテストの導入は、受講態度は積極的な参加態度に変容し、質問する学生は増加し、クラス全体の積極性が向上し、授業内容の理解度はこれまでになく向上していると考える。

### 授業科目名【 健康科学実習 I 】

- 1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握を体感できるようにした。
- 2. 3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業

外に、また将来にわたり自ら運動処方ができるよう誘導した。

- 3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動量の把握を行わせ運動意欲を喚起した。
- 4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
- 5. 健康科学実習 I では、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合 前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、 組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われ る。

### 授業科目名【 健康科学実習Ⅱ 】

- 1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や 健康度との関係を把握できるようにした。
- 2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
- 3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
- 4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

### 授業科目名【 運動生理学 】

- 1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
- 2. 単元毎に小テストを行い、翌日採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導するよう努めた。
- 3. 単元毎に授業ノートを提出させ、添削し、授業に対する緊張感と聴講する集中力を高めるよう努めた。

#### 授業科目名【 健康体力評価論 】

- 1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
- 2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、 全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え 方を定着させるようにした。
- 3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、各レポートを個別に指導し、論理的考察方法を会得できるように個別指導に努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本運動生理学会	常任理事(2008.7~2015.3)	1992.4
日本体力医学会	評議委員(2015.4~至現在)	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

2 0 1 5 年 度	要 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		アスは の年月			発表雑 学会等(			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(翻訳)											
(学会発表)											
(その他) 平成28年度 福岡県バスケットボール リーグ戦 準優勝	共	2016. 4.			<b>岡県大</b>	学バス・ 盟	ケット	の出場 顧問:	-	護得した 夫	<del>県総合選手権</del> た。
第20回 全九州大学春季バスケッ トボール選手権大会 (熊本地震のため中止)	共	2015. 4.	17–5. 11		州大学ル連盟	バスケ	ットボ	となっ に遭れ チーム	った。 部 っれた <i>。</i> っなに募	『員達は バスケ	め大会は中止 、熊本の被害 ットボールの や内で行い、送
男子第65回女子64回 西日本学生バスケットボ ール選手権大会 ベスト16位(4回戦)	共	2016. 6.	1-6. 24	<u>-</u> )	西学生 ル連盟 大阪)	バスケ 主管	ットボ	に留す 顧問:	ぱに進出 そった。 八木康 木村友	夫	ベスト 16 位
第65回 九州地区大学体育大会 第3位	共	2015. 7.	5–7		   田大学    福岡地	本育連合 区)		カレ ある。 を飾っ 顧問:	は、九州 本大会	地区の  におい  夫	ある九州イン 大学の祭典で て第3位入賞
第 22 回 九州大学バスケットボー ルリーグ戦 4 位	共	2015. 9-	-10	<u></u> )	州大学 心連盟 九州各5	バスケ	ットボ	出場格顧問:	京差で4 確を逃し 八木康 木村友	ンた。 夫	より、インカレ
平成27年度 福岡県総合バスケットボ ール選手権大会 準優勝	共	2015. 11	8–9	ル	杂会	スケッ		勝した 州総合 得した 顧問:	こ。これ 合選手	により 権大会 夫	本大会で準優 2位までは九 の出場権を獲

2 0 1 5 年 月	要 研	究 業		する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
平成 28 年度 全九州総 合選手権大会(全日本 総合選手権大会九州地 区予選会) 第2回戦進出 (ベスト8)	共	2016. 11. 12–13	九州バスケットボール 協会 主管:熊本県バスケット ボール連盟	九州各県の代表 2 チームとトーナメント戦が行われた。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第52回 三地区大学バスケットボ ール選手権大会 A チーム準優勝	共	2016. 12. 4–12. 1	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管:中国大学バスケットボール連盟 (福岡)	顧問:八木康夫

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
			(1)	共 同 码	研 究							
研	究 題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)						

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	I		交付	団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学バスケットボール連盟 北九州市バスケットボール協会 日本バスケットボール協会 日本体育協会	常任理事 理事 JBA 公認 C 級コーチ スポーツ指導員	2005.4~2015.3 2003.4~2015.3 ~2016.3 ~2017.9.30
公開講座シニアサマーカレッジ 福岡共同・教員免許状更新講習	講師	~2016.8 2015.8.18

人事委員:全学科人事審査及び昇格審査等

学生委員:委員会活動、栄養学科の新入生研修会の計画と総指揮、栄養学科オリエンテーション・記念行事・

卒業式栄養学科オリエンテーションの計画・進行・司会等

総合人間科学小委員会委員

氏名 南里 宏樹	職名  教授	学位 医学博士
----------	--------	---------

研 究 分	野	研究内容のキーワード
栄養代謝学 生化学 臨床栄養学	細胞生物学	活性酸素 酸化ストレス 抗酸化防御機構 糖毒性 糖化タンパク質 血管内皮細胞

### 研 宪 課 題

栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・ 細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸 化防御機能との関連において検討する。

# 担 当 授 業 科 目

病理学(後期)

基礎栄養学 I (前期)

基礎栄養学Ⅱ(後期)

臨床栄養学実習 I (前期)

管理栄養士演習Ⅱ(前期)

管理栄養士演習VII(後期)

運動・環境と栄養(後期)

健康と栄養(後期)(看護学科)

栄養学概論(前期)

卒業研究(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 病理学 】

病理学は、栄養学科の学生にとって難解な医学専門用語が多いため、できるだけ具体的な図解や例を挙げるようにした。これまでの授業評価では、「授業進行が速い」、「重要ポイントがわからない」などの感想が多いので、重要事項はなるだけゆっくり、繰り返し強調するように留意した。管理栄養士国家試験の過去問題(2000年~2016年)の解説集、病理学の重要項目の練習問題を早期に配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。

### 授業科目名 【 基礎栄養学 I および II 】

基礎栄養学は、苦手とする学生が多いので、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、全体の流れが分かるように留意した。また、重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、本年度は管理栄養士国家試験の過去問題(2000年~2016年)の解説集、基礎栄養学の重要項目の練習問題を早期に配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。

### 授業科目名【 臨床栄養学実習 I 】

糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する臨床検査指標の測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と栄養代謝を関連づけて理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学的および医学的意義について考えさせるために、ポイントを絞った課題を出し、レポートを提出させた。

## 授業科目名【 管理栄養士演習ⅡおよびVII 】

三人の教員が分担する栄養学科 4 年生のための演習で、わたしは「基礎栄養学」と「病理学」を担当した。 2000 年~2016 年の基礎栄養学、病理学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに 10~15 年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、ただ問題の正答を知るだけではなく、問題に関連する周辺事項を含めて幅広く理解させるため、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習(分担)と自主講義と併せて、前期 12 回(うち自主講義 7 回)、後期 11 回(うち自主講義 6 回)実施した。また、夏休みの集中ゼミを 2 日(4 コマ)、国試前の直前対策を 3 日(6 コマ)実施した。

## 授業科目名【 栄養学概論 】

本科目は、1 年生の初年次教育を目的としたオムニバス方式による講義および体験学習である。今年度の体験学習では、管理栄養士の仕事に対する理解を深め、管理栄養士としての自覚を高めることを目的として、実社会で管理栄養士として活躍している本学の卒業生、および、現在、在学中の先輩学生によるセミナーを開催した。各教員は10人前後の学生グループを受け持って、体験学習のレポートを評価した。

### 授業科目名【 運動・環境と栄養 】

三人の教員が分担する栄養学科3年生のための講義で、わたしは「環境と栄養」を担当した。 ストレス、体内リズム、気温、気圧、重力など、通常、あまり「栄養」では扱われないテーマについて、なるだけ学生の興味を惹くように、身近な具体例を挙げながら講義した。

## 授業科目名【 健康と栄養(看護学科)

三人の教員が分担する看護学科1年生のための健康と栄養に関する講義である。わたしは「基礎栄養学」を担当した。時間が限られているため、基本的事項に焦点を絞って講義をした。

### 授業科目名【卒業研究】

「口腔粘膜細胞から抽出した微量 DNA の PCR による一塩基多型解析」というテーマで、綿棒で採取した口腔粘膜細胞から抽出した DNA を用いて、アルコールの分解に関する酵素の一塩基多型について検討した。 限られた時間内での卒業研究であったが、卒研生の努力により研究をまとめることができた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生化学会		1977年4月より現在に至る
日本栄養・食糧学会		2003年5月より現在に至る
日本肥満学会		2008年4月より現在に至る
日本栄養改善学会		2014年1月より現在に至る
2015 年第 62 回日本栄養改善学	総務委員会副委員長(2014 年~2015	
会学術総会実行委員会	年)	

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	12	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
(著書)												

2 0 1 6 年 度	. 研	究 第	業績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の年		発行所、 又は発表				概		要
(学術論文)										
(577)										
(翻記代)										
(学会発表)										
(3 4)220										
							教育研究			)17.3.7現在) 共 8)
							有音 学術論文 学会発表	64	(単 3	共 61 ) 共 97)
							<b>丁</b> 乙元 (X	91	/ <del>-1-</del> 0	)5 UI/

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
				(1)	共 同 码	开 究			
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)		

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
			(2)	個	人	研	究			
研	究 題	目		交付	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考	

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	間	期 等
第2次北九州市食育推進計画の推進にかかる意見交換会	構成委員	(座長)			平成 26	3年~平	式 29 年	

西南女学院評議員(2015年4月1日~2017年3月31日)

図書館長(2016年4月1日~2018年3月31日)

図書委員(委員長)(2016年4月1日~2018年3月31日)

研究紀要委員(2016年4月1日~2018年3月31日)

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
生化学					細胞内 Ca²+動員機構
細胞生物学					細胞内 Ca²+恒常性維持機構
					タンパク質相互作用
					インスリン分泌

### 研 宪 課 題

- ① 細胞内カルシウム動因機構
- ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構
- ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用
- ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

### 担当授業科目

#### 栄養学概論

生活の中の化学

生化学 I

生化学Ⅱ

生化学実習

人体の構造と機能実習

管理栄養士演習Ⅱ

管理栄養士演習Ⅶ

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【 栄養学概論 】

- 生理学、生化学、細菌学、食品学および病理学が、栄養学、特に基礎栄養学を習得するための基礎となる科目であること、さらに基礎栄養学という土台の上に応用栄養学や臨床栄養学が構築されていくことを、相関図を用いて説明した
- 上記の基礎額がいずれも生命に関連したライフサイエンスであること、その上に構築される栄養学も当然ライフサイエンスであること、そして人の健康にとって栄養という営みが極めて重要なファクターであることに力点を置いて説明した
- 哲学、生物学、化学、物理および数学といった最も基礎的な学問領域の相関図を用いて、自然科学の中での 栄養学の位置づけを説明した
- 講義は、スライドを用いて行った

## 授業科目名【 生活の中の化学 】

- 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、 化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを、目標の中心として講義を行った
- 三段論法についての説明および演習を一コマ設けた
- 本科目、生化学 I および生化学 II をとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた
- 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

## 授業科目名【 生化学 I 】

- 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた
- 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした
- 代謝の各論として、従来は"解糖"から始めていたが、今年度から"解糖"だけでなく糖代謝の全体像を俯瞰した説明をしてから、"解糖"の講義を行った
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに図を加えるなど改訂して配布した
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題 した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した

## 授業科目名【 生化学Ⅱ 】

- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学 I」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 生化学 I で配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた

講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

## 授業科目名 【 人体の構造と機能総合実習 】

- 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学 I (同時期に開講)で学んだ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

### 授業科目名【 生化学実習 】

- 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、 および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫 して要求し続けた
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように 指導した
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

## 授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】

- 生化学 I およびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 管理栄養士Ⅱでは、代謝の基礎と総論、および糖代謝を重点的に取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

## 授業科目名【 管理栄養士演習VII 】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 管理栄養士VIIでは、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期

日本生化学会	1995年5月~現在に至る

2 0 1 6 年度	廷 研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月			発表雑誌 全会等の			概		要
(著書)										
(学術論文)										
(子州四州)										
(翻訳)										
(学会発表)										

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
				(1)	共 同 矽	· 究				
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)			

外音	将資金	(科学研究費補)	助金等)	導入状	況(本	学共同码	研究費を含む)	
		(2)	個	人	研	究		

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)

# 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

 氏名
 甲
 斐
 達
 男
 職名
 教
 授
 学位
 農学博士(九州大学 1992年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	パネットーネ、酵母、乳酸菌、ゲノム解析、嚥下障害、 音声解析、音源修復、低糖質食品、 I 型糖尿病

### 研 究 課 題

- (1) パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析
- (2) 嚥下障害の予知と予防に関する音声医学的研究
- (3) Ⅰ型糖尿病患者対応の糖質フリー加工食品の開発
- (4) カストラートの音源修復

		担	当 授	業科	目	
科	目	名		単位	立 数	日日=  井
17	Ħ	泊		必 修	選択	開講学期(備考)
栄養学概論	(栄養学科、	オムニバス	ス)	1		前期(担当コマ数:1)
加工食品機能論	(栄養学科)	×2クラス	ス	2		後期
食品衛生学実験	(栄養学科)	×2クラス	ス	1		後期
管理栄養士演習Ⅲ	(栄養学科、	オムニバス	۲)	1		前期(担当コマ数:4)
食品衛生学	(栄養学科)	×2クラス	ス	2		後期
微生物学	(栄養学科)	×2クラン	Z	2		前期
微生物学実験	(栄養学科)	×2クラス	ス	1		前期
管理栄養士演習Ⅷ	(栄養学科、	オムニバス	ス)		1	後期(担当コマ数:4)
卒業研究	(栄養学科)	通年科目			4	通年
卒業ゼミ	(栄養学科)	通年科目			2	通年

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【微生物学(3年生対象)・食品衛生学(2年生対象)・加工食品機能論(2年生対象)】

- 1. 定期試験の問題を7年連続で同じ内容と同じ形式(5択問題50問)にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、4年次の国家試験対策への取り組み方を学年ごとに調整するのに役立った。
- 2. 学生の要望により、成績を学生に開示しているので、評価方法に関するクレームは無かった。
- 3. 教科書以外の授業資料はプリントで配布した。昨年は配布したプリントの電子ファイルが欲しいという学生が多かったが、今年度は皆無であった。やはり学年によってかなり気質が異なる。
- 4. 本試・再試を通じての合格者は9割を超え、ここ数年、受講生の学力が向上していることを感じた。
- 5. 私語が皆無であった。「私語が他人の迷惑になる」ことを今期強く説明し続けたことと、私語に対して若干の減点処置を講じたことが効を奏した。

#### 授業科目名【食品衛生学実験(3年生対象)・微生物学実験(2年生対象)】

- 1. 例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功した。班のメンバー構成は極めて重要であることを再認識した。
- 2. 例年通り、全員参加型の授業(アクティブラーニング)になるよう工夫し、成功したと思われる。
- 3. 実験レポートの質は、昨年に引き続き、高い状態で推移してきている。レポートの質によって、その学年の学力のポテンシャルが把握できるので、それに応じて、講義のやり方を調整できている。

## 授業科目名【卒業ゼミ・卒業研究】(4年生対象、卒ゼミ5名、卒研1名が対象)

- 1. 昨年度の失敗を踏まえて、グループワークではなく、ひとりに1テーマとしたところ、今年度は成功した。 卒ゼミにまったく参加せず単位を取得できなかった学生は昨年4名、今年度はゼロであった。卒研生も研 究を完遂し、研究発表会、かつ、卒論も無事に完成させた。ほぼ全員が短い期間にきちんとした良い成果 を出してくれた。
- 2. 受講生を対象に、今年度も、国家試験対策の勉強会を週1回開催したが、国試受験のモーチベーションを高めるのに効果的であった。

## 授業科目名【**管理栄養士演習Ⅲ・IV**】(4年生対象)

昨年度とは打って変わって、気質上、極めて指導の難しい学年であった。もともと、ほぼ8割の学生が本試では不合格で、再試では高得点でほぼ全員が合格するという気質、つまり、切羽詰まるまで勉強しないが、追い詰められると成果を上げるという気質であった。その気質がそのまま国試の受験勉強に悪い意味で反映され、必須科目以外の演習や国試対策の補講には僅かな学生しか出席せず、年が明けてからゆっくりと重い腰を持ち上げてゆっくりと本格的な学習に入るという状態になってしまった。今回の指導のやり方の是非は、例年通り、5月の国家試験合格者発表で判明することになるが、今回はかなり不安を感じる。

「食べ物と健康分野」の補講(単位とは無関係の補講)の回数は、昨年同様30コマとし、前期はベーシックな「よくわかる管理栄養士合格テキスト」を、夏休み以降は全国で利用されている「クエスチョンバンク」を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を狙った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本分子生物学会	正会員	1988 年 4 月~現在に至る
日本生化学会	正会員	1991 年 4 月~現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994年4月~現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995 年 4 月~現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995 年 4 月~現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000年4月~現在に至る
日本栄養・食糧学会	正会員	2000年4月~現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002年4月~現在に至る
日本音声学会	正会員	2010年4月~現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012年4月~現在に至る
日本臨床栄養学会正会員	正会員	2012年4月~現在に至る
日本嚥下障害臨床研究会正会員	正会員	2012年4月~現在に至る
日本嚥下医学会正会員	正会員	2012年4月~現在に至る
芸術科学会正会員	正会員	2012年4月~現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014年4月~現在に至る

研	究 業	績 等	に関する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(学術論文)				
<ul><li>① パネットーネに関する研究動向</li><li>Ⅳ. 抗菌性物質の産生</li></ul>	共著原著論文	2016年4月	日本調理食品研究会誌 Vol.22、No.1、1-8、 2016 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding	① 乳酸菌が産生する抗菌性物質研究のレビューを行うとともに、パネットーネ乳酸菌が産生する抗菌性物質に関する著者らのこれまでの研究結果を報告し、その特

研	究 業	績 等	に関する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
			Author)	性を他の乳酸菌と比較解説した。
<ul><li>② 古くて新しいパネットーネ種〜パネットーネの誕生と変遷〜</li></ul>	共 <b>著</b> 総説	2016年5月	Breads & Cakes No.5-6、105-107、2016 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	② イタリア北部ミラノ近郊で パネットーネがどのように して誕生し、その後、どう のようにして伝統的なパン として位置づけられるよう になったか、また、イタリ ア移民が南米やアメリカ大 陸に持って行ったパネット ーネ種がどのように普及し たかを解説した。
③ 古くて新しいパネットーネ種~酵母と乳酸菌の共生関係~	共 <b>著</b> 総説	2016年7月	Breads & Cakes No.7-8、74-76、2016 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	③ さまざまな発酵食品における酵母と乳酸菌の共生関係のメカニズムを紹介し、パネットーネにおける共生関係についてこれまで明らかになった事実と、その特性を解説した。
<ul><li>④ 古くて新しいパネットーネ種、パネットーネ四方山話~パネットーネ風味の秘密~</li></ul>	共 <del>著</del> 総説	2016年9月	Breads & Cakes No.9·10、73·75、2016 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	④ パネットーネの日本語発音 に関する問題提起、現在の イタリア産果物にパネット ーネに棲息している酵母と 乳酸菌の実態、自然種パン の安全性、パネットーネも どきパン、機能性成分につ いて概説した。
<ul><li>⑤ 食品成分表の日米比較</li></ul>	共著原著論文	2016年10月	日本調理食品研究会誌 Vol.22、No.2、18-27、 2016 石本祐子、長藤信哉、 吉野精一、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	⑤ ほとんどの先進国において 食品成分表が政府によって 刊行されているが、これま で日本国内では、諸外国の 食品成分表について詳細な 内容が知られていない。今 回は、米国の食品成分表を 取り上げて、日本と比較す ることによって様々な視点 からその特性を明らかにし た。
<ul><li>⑥ 食品成分と医薬品の 相互作用</li></ul>	共著 原著 論文	2016年10月	日本調理食品研究会誌 Vol.22、No.2、28-40、 2016	⑥ 食べ合わせ、つまり、食品 成分同士の相互作用につい ては学術論文や書籍によっ

研	究 業	績 等	に関する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
			長藤信哉、石本祐子、 吉野精一、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	て多くの情報が公表されているが、食品成分と医薬品の相互作用に関する情報は少ない。そこで、本論文では、すべての相互作用を網羅すべく、研究論文を調査しその要点を取りまとめた。
⑦ 古くて新しいパネットーネ種、中種パネットーネ (技術編)	共著総説	2016年11月	Breads & Cakes No.11-12、68-70、2016 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u>	⑦ イタリアのパネットーネ母 種から純粋分離した酵母と 乳酸菌の中から、優れた製 パン能を発揮した酵母ー乳 酸菌ペアについて、それら を個別に純粋培養した菌体 を用いて製パンレシピを検 討・開発した。市販の製パ ン酵母を用いたものをコン トロールとして用い、パネ ットーネの生地特性と製品 特性を明確化した。
(学会発表)				
① 製パンに適したパネットーネ酵母と乳酸菌ペアの選抜に関する研究	共同	2017年3月 19日、15: 55-16:10	講演番号:3AO5p08 石本祐子(発表者)、 西園葵、長藤信哉、吉 野精一、甲斐達男 日本農芸化学会 2017 年度大会、2017 年 3 月 17 日-20 日、京都 女子大学(京都市東山 区栗田口華頂町 1)	① パネットーネ酵母と乳酸菌について、著者らがこれまで分離した株、および、ミラノ大学農学部食品微生物科学工学部所蔵株の中から、製パンに適した酵母ー乳酸菌のベストペアを選抜した。このペアを純粋培養した菌体で、ラージスケールでの製パン試験を行い、市販製品と遜色のないことを確認した。
② 食品成分表の国際間 比較-日米-	共同	2017年3月 19日、18: 05-18:20	講演番号: 3AO4p16 石本祐子(発表者)、 竹崎江里、 <u>甲斐達男</u> 日本農芸化学会 2017 年度大会、2017 年 3 月 17 日-20 日、京都 女子大学(京都市東山 区栗田口華頂町1)	② これまで日本では、諸外国の食品成分表について詳細な調査研究がなされていない。演者らは、旧 G8 諸国を手始めに、諸外国の食品成分表について、その作成目的や歴史的背景、構成などの調査研究を行ってきて

研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著 共著			又は の年月			発表雑誌			概	要
									成 と 相	成分表を : 比較	で回は、米国の食品 を取り上げて、日本 することによって 見点からその特性を こした。
										<b>業績</b> 7.3.20	<b>総数</b> 現在)
									学術記 (単1) 国内等 (単0)、 国際等 (単0)、 国内記	編者· 章文 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	8、責任著者14、共9) 長 16 責任発表者3、共6)
									特許	1 5	責任発明者9)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1)	共 同 硕	开 究						
研究 題 目								
如 九 煜 日	文的団体	○代表者()内は学外者	(単位:円)					
音声波形解析による摂食・嚥下障害発症の予	独立行政法人	○甲斐達男	500,000 円					
知技術確立に関する研究	知技術確立に関する研究 日本学術振興 石本祐子							
	会(挑戦的萌芽							
	研究)							

社 会	に お け る 活 動	等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
バイオインダストリー協会	正会員	期 同 寺 1989年4月~現在に至る
内閣府食品安全委員会	モニター	2016 年 4 月~現在に至る

- ①国際交流委員会委員
- ②予算委員会委員

 氏名
 田川辰也
 職名 教授
 学位博士(医学)(九州大学 1995年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
循環器内科学 血管内皮機能 酸化ストレス	血管内皮機能障害 一酸化窒素(NO)
動脈硬化予防	抗酸化食品

#### 研 宪 課 題

抗酸化食品による血管拡張機能(血管内皮機能)の改善作用に関する研究 非薬物的介入による代謝異常における動脈硬化の予防に関する研究 食生活改善による血管のアンチエイジング戦略ー栄養学による血管内皮機能の改善ー 心血管イベント抑制のための栄養学的戦略ー若年成人からの動脈硬化予防一

## 担 当 授 業 科 目

疾病診断治療学 I (前期)

臨床栄養学実習 I (前期)

管理栄養士演習 I (前期)

栄養学概論 (前期)

疾病診断治療学Ⅱ(後期)

臨床栄養管理学(後期)

管理栄養士演習VI(後期)

臨床栄養活動論 (後期)

卒業ゼミ (通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【疾病診断治療学 I 、Ⅱ】

疾病診断治療学 I、IIの講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患について、栄養学との関連に留意して概説している。講義内容としては、消化器、肝臓、膵臓、心臓、腎臓などの代表的疾患について、その成因、症状、診断、治療(食事療法を含む)について概説している。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、疾患を学ぶにあたって、各臓器の生理機能と疾患を関連づけて理解できるように、その基礎となる解剖生理学や生化学を復習した上で、臨床生理学・臨床生化学の講義をしている。資料については、次回の授業プリントを先に配るようにし、予習しやすいようにした。昨年に引き続き、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに授業の確認テストを行っている。授業アンケートでは、説明がわかりやすいという意見をいただいた。今後もわかりやすい授業を心がけるつもりである。

## 授業科目名【臨床栄養管理学】

臨床栄養管理学では、ニュートリション・サポート・チームの一員として管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、さらに保健、医療、福祉との連携の中でも、ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的として、授業を行った。臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができるようになるよう、指導した。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、予習しやすいように次回の授業プリントを先に配るようにした。また、理解度の把握、確認のため、昨年に引き続き、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに授業の確認テストを行っている。

#### 授業科目名【臨床栄養学実習 [ ]

基本的な身体診察法、救命救急法、心電図、75g 糖負荷試験、GI 値などの実習授業を行った.これらの内容は、医療現場の実際を体験することであり、医療スタッフとしての管理栄養士を目指すためには重要な内容である。学生たちが興味をもてるように、できるだけ医療の現場に近い形態で、体験型の実習にこだわって実習を行った。学生たちは、実際の医療現場に対する興味が深まったと考えられた。また、症例検討会を行い、症例のアセスメントをトレーニングした。

## 授業科目名【管理栄養士演習 I·VI】

管理栄養士演習では、単に国家試験対策として問題を解かせるだけでなく、毎回の授業で、テストとレクチャーを組み合わせ、ポイントをまとめたプリントを作成し、学生たちが疾患の成り立ちやその治療法に対する理解を深めることができるように努めた。管理栄養士演習Iは過去問を中心に、管理栄養士演習VIは学生の不得意分野を重点的に講義し、参考プリントを作成し、理解しやすくなるように心がけた。今後も学生に理解しやすい授業を心がけるつもりである。

## 授業科目名【栄養学概論】

栄養および栄養学とは何か、また、人の保健・健康に対してどのような影響や意義もつのかを理解することにより、学生自身が栄養学を学ぶ意味を考え、展望を持って学べる姿勢を養う栄養学概論において、栄養と健康および疾患との関係を理解するため、病院での管理栄養士の役割を説明した。特に、栄養サポートチーム(NST)の活動、患者のQOL(生活の質)の改善に対し興味が持てるように努力した。

## 授業科目名【臨床栄養活動論】

臨床栄養活動論のなかで、医療人の倫理について、講義している。管理栄養士は当然医療人であり、倫理観が問われるが、医師や看護師における倫理と管理栄養士の倫理の違いについて、解説している。また、講義内容を理解できているかどうか、確認するため、授業の最後にレポートを提出させ、確認している。今年は、障害者に対する倫理観を問う「クワガタと少年」のビデオを見せ、「電池が切れるまで」の読み聞かせをして、その感想文を書かせて、学生たちの理解度を確かめた。

### 授業科目名【卒業ゼミ】

前腕血流量測定装置であるプレチスモグラフ、大動脈波伝播速度測定装置である form、酸化ストレス測定装置である FRAS4 を使用し、血管内皮機能と酸化ストレスの測定を行っている。研究課題としては、アルギニン、緑茶カテキン、エイコサペンタエン酸などの食品による血管内皮機能改善効果や抗酸化作用を調べている。学生に研究の面白さを知ってもらえるよう、できるだけ、学生主導で研究を計画、実行している。

学会における活動									
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期							
日本循環器学会	循環器専門医(1996年3月〜現在に至る) 九州支部評議員(2004年4月〜2008年3月)	1989年4月〜現在に至る							
日本内科学会	認定内科医(1994年9月〜現在に至る) 認定総合内科専門医(2005年12月〜現在に 至る)	1989年6月〜現在に至る							
日本高血圧学会	評議員(2002年4月〜現在に至る) 特別正会員(2003年4月〜現在に至る) 高血圧専門医(2009年4月〜現在に至る)	1992年8月〜現在に至る							
日本臨床薬理学会	会員	2002年5月~2009年9月							
日本医師会	産業医 (2005年2月~現在に至る) 健康スポーツ医 (2006年1月~現在に至る)	2002年6月~現在に至る							
日本栄養改善学会	会員	20014年10月〜現在に至る							

2 0 1 6 年 度	研	究 第	 <b>Ě</b>	等等	に	関	す	る	事	]	 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又に 発表の年			発表雑誌学会等の			概			要
(著書)											
(学術論文) 1. アルギニンによる血管拡張機能増強効果に対する抗酸化ビタミンの影響に関する研究	共	2017年3月		百南女学院力 1巻	<b>《学紀要</b>		2	合成酵素 ギニン様 とた。 とか にた。 とか に とか に とか に と た。 と た。 と た。 と た。 と た。 と た。 と た。 と	(NOS) いまとアルととなる。 投手が響いというのが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	のギニンのは単色の脱血を生まれて、単色の脱血を生まれて、単色の脱血を生まれて、まず、生の、これでは、大きのでは、たらのでは、大きのでは、大きのでは、たらに、たらには、たらには、たらには、たらには、たらには、たらには、たらには	
(翻訳)											
(学会発表) 1. 地域住民の骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する食育推進活動の展開-2015年度パイロット研究-	<b>#</b>	2016年6月			食育学会総:		2	「食と健! して、地! ることを! 開催して! の骨密度! が低骨量! を介して! 粗鬆症の!	東」に関 域住民のしる。 を測該当を を とこま 養支 繋 が に り と に り と に り と に り と し と に り と し と に り と に り と り と り と り と り と り と り と り	す健たのたたのげ津也啓増講講結食入い、近	発活動を追進に貢献。 公開講座を 経際の参加者 に関係を に関係して に関係し に に に に に に に に に に に に に

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	- る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行! 発表の				発表雑誌 学会等の	- •		概		要
2. 高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発(第1報)	共	2016年9	月		リンク	交養改善学		2 3	員及び利用 ズに基づい コップ、箸 )の開発を 完成した討 、使用して いくことと 共著者名	諸の現場 た、介護 ・・スプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプーし ・・トスプー ・トスプー ・・トス ・・トス ・・トス ・・ト ・ ・ ト ・ ト ・ ト ・ ト ・	いて、多職種脂の課題及びニー 食器(碗、皿、 ・シ・フォーク等 た検討を行った 、 改良を進めて 可、 中島 浩二、 、 浅野嘉延 号)
3. 地域密着型公開講座を基盤とした参加型学生教育の効果〜食生活および学習に対する自己評価を指標として〜	<b>共</b>	2016年9	月			《養改善学》 4 巻(5 号)		2 3	大学は連携 住民を対象 公開講座は 第2部は教師 とした。こ 密着型の食 る。また、 関わる一連 共著者名	公開講座 に公開講 と2部制と 員と学生に の活動に 育活動に 学生が公 の管理栄 近江雅代 境田靖子	学科と九州歯科 を北九州の地域 座を実施した。 し、第1部は講演 こよる食事提供 地域貢献、地域 かると考えられ 開講座の遂行に 養士業務をじ 、 青木るみ子、 、 田川辰也 号)
(講演会等の発表) 1. 認知症って生活習慣病なの? ~食事から始める認知症予防~	単	2016年7	月			回西南女 <sup>。</sup>		①	血管性認知を説明する習慣の改善	嘘の病態 とともに による子	ハイマー病と脂 及び危険因子 、糖尿病の生活 防および食事 いて解説した。
2. 「ロコモティブシンドローム」 って何?	単	2016年10	)月			3回西南女			ムについて て解説する	、その概 ことともに	イブシンドロー 念、病態につい 、早期発見のた について、説明

2 0 1 6 年度	<b>新</b>	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
				教育研究業績 総数	(2017.3.7現在)
				学術論文 1 (内	訳 単 0, 共 1)
				学会発表 3 (内	訳 単 0, 共 3)
				講 演 2 (内	訳 単 2, 共 0)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者	交付決定額					
,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,,	24.4	○代表者()内は学外者	(単位:円)					
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大	○清末達人、田川辰	797,000					
学 也、他 24 名								

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	目		交价	付団体		交付決定額 (単位:円)	(ī	莆	考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 名	D名称 字)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
九州大学医学部同窓会			同窓	生名簿	編集員			2009年	€4月~	現在に登	Ē3	

倫理審査委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日

動物実験委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日

内部監査部門 責任者 2017年1月5日~2017年3月31日

キャンパスハラスメント相談員 2016年4月1日~2017年3月31日

外部資金導入促進プロジェクト 委員 2016年4月1日~2017年3月31日

ブラッシュアップ支援(国家試験対策)委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日 号道部顧問 2016年4月1日~2017年3月31日

アドバイザー

氏名 近江 雅代 職名 教授	学位 博士(医学) (福岡大学 2002 年)
----------------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、
	低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

### 研 宪 課 題

- ・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究
- ・栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案
- ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立
- ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開
- ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

## 担 当 授 業 科 目

栄養治療学 I (前期)

栄養治療学Ⅱ(後期)

臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担)

総合演習Ⅱ(前期)(分担)

臨地実習Ⅱ(後期)(共担)

管理栄養士演習IV(前期)(分担)

管理栄養士演習IX(後期)(分担)

栄養学概論(前期)(分担)

臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【栄養治療学 I · Ⅱ】

本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、毎回の講義終了後、講義内容を復習するための確認テストを配布した。提出されたテストは次回の講義までに採点し、学生に返却することにより、学生は自身の知識の修得を確認することに繋がったものと思われる。本科目は、臨地実習II(臨床栄養:病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。

#### 授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】

本実習は、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目標としている。『栄養治療学 I・II』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1 疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。傷病者の栄養管理では、治療用特殊食品を使用することも多く、実習後は臨地実習 II(臨床栄養:病院)での学外実習を控えていることもあり、業者協力のもと、治療用特殊食品を用いた調理実習も行った。また、実習の最終回には、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で

解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数化することで、病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

## 授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は、様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1~2疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

## 授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2~3週間の実習を行うため、事前学習として、4回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。実習終了後は、事後指導として、事後報告会を開催した。施設ごとに発表資料を作成し、全実習施設が発表を行った。また、その報告会には新3年生を出席させることにより、臨地実習IIへのモチベーションを高めることに繋げた。

#### 授業科目名【管理栄養士演習IV·IX】

本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は28/200 間であり、本演習の中で、過去5年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1回の演習において、学生は10~15 間の過去間を解き、その後、詳細な解説を配布して、1 間ずつ説明を加えながら解説した。

## 授業科目名【栄養学概論】

本科目は、管理栄養士としてどのような社会的貢献ができるのか、また、将来のキャリアに対する自己の課題を認識し、4年間の学習への動機づけを行うことを目標としている。全8回の講義のうち、第3回『管理栄養士に必要な知識および技能とは?4年間の学習内容について~資質の高い管理栄養士となるために~』を担当した。生活習慣病の蔓延、平均寿命の延伸、医療費の増大等、現代の日本について理解を促し、社会に貢献できる管理栄養士の必要性が高まっている現状を説明した。臨床的および予防的な食支援のできる管理栄養士を目指すため、管理栄養士として身につけるべき知識および技術を解説し、管理栄養士養成施設のカリキュラムに沿って、本学栄養学科の開講科目を説明した。また、第8回『私の目指す管理栄養士として勤務している卒業生3名による講話~』では、現在、病院、高齢者施設および行政にて管理栄養士として勤務している卒業生を招聘、それぞれの職域における管理栄養士業務等について講話をいただき、講師紹介、学生からの質疑応答等の司会進行を務めた。全8回の講義を通して、管理栄養士としての目的意識を強く持ち、4年間の過ごし方等について改めて考え、今後の学習意欲を高めるものになったと思われる。

#### 授業科目名【臨床栄養学】

本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取りいれ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年 4月~現在に至る
日本栄養改善学会	正会員・評議員	2003 年 4月~現在に至る

日本病態栄養学会正会員・評議員2003 年 4 月〜現在に至る日本給食経営管理学会正会員2012 年 4 月〜現在に至る日本臨床栄養協会正会員2012 年 4 月〜現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) 1. わかりやすい臨床栄養学(第5版)	共著	2017	年3月		共出版	坂株式会	社	栄論がまン題能発患各診をし②  美田③((『む障染養編わたにやな行、種療施た監共子理担6肝2)  実記	野こり 国生公見 炎齢長闘 ハー 多香 「烹旨) 旧:(P)(P) にけや家 し関 盛慢期ののこ (名名井小分)・腎 48 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	い、「験過連)と腎患が全度、吉飯己夫:『2~~とい、「主執の去領人騰感ド等、「田嶋、智1~3』路3)229)、に筆衆の域で療感ラに第一般正近子5:(歿『2)	E広、井上久 <u>行江雅代</u> 、恩
(学術論文) 1. 栄養に関する基本数値	単著	2017	年2月		Vol. :	見看護 20 No.2 す出版		くめる。をで出でメて、でいる。	発育には 切な栄 をのたとと ないたといり といり といり といり という という という という という という という という という という	は個人養補給の、小児童し、計算に必要にはなられています。	発達が求した。 差が求した。 が栄養に大きな、 が栄養に大きな、 ない、 をはないないでは、 ないないでは、 ないないないない。 ないないないない。 ないないないないない。 ないないないない

2 0 1 6 年度	. 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別		デスは の年月			発表雑誌 学会等の		(D1 4C	概		要	
 (翻訳) なし								(P146	<u>~150)</u>			
(学会発表) 1. 地域住民の骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する食育推進活動の展開~2015年度パイロット研究~	共著	2016	年6月	術大	会	学会第 4 美女子大		と接71.均82.の齢リ発度骨健らと②浅③しを1.1位に対しており、別粗康、して野田のは、1.1分割のは、	で行生3.4%とこう・定縁寿也で同嘉僧のた歳2慣いなり治お種命域有発延、の延伸益表、	更別、2.1 量地、で急隊が伸入で斉川会測対骨生量地、で急業がにのる:辰第年象の名:「は要ある。」とは、	食は者度% 核性反為で反対が食思い、回うなの年でし、・粗りのなる推れ英近学が年成あた特要鬆、実らこ進れ、津江術	養齢人り。に介症骨施びと活。子雅支は平、こ高護の密はにか動、代
2. 女子学生の月経前症候群に影響を及ぼす食事因子	共著	2016	年9月	学会	学術経 とリン			前食析代象た経月月たの強防と取と②今中③症事に研者。困経経、摂い。菓を考共井園第	突囚は咒は目離前前毀取こ女子避え司克栄群子『』新経質後が類量と善類けら発己里(PMに養の入前間の有東ががに等るれ表岩)	IS)の関連を振票DD意写の成のここ者本単すに関連をの調MD各に類はさ正嗜と ・名昌博栄養村学をの選ののである。名書は楽芸村学を、建設ののでは、または、または、または、または、または、または、または、	设善学:	ぎ。3、と的た点 酒伏の摂剰あ 子代す解世対し月。はま類の予取摂る 、、

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
3. 地域密着型公開講座 を基盤とした参加型 学生教育の効果〜食 生活および学習に対 する自己評価を指標 として〜	共著	2016	年9月	学会	学術終	日本栄養終分ステークを表しています。		開へいがに第ケはす回『意はすらが②木③講のる学で4一非るは自に学る、あ共る第	を全とい回、対嵩等に訪ら目がらずみを生そのに目を対理と1的かの己加とそ、開のこ自検公施と』に勉た生価学が考境	した、評討講し比が上強。活が習示名田本て的参価にを降。、参し、取事よま育さ近子養	江雅代、青 一、田川辰也 改善学会学
4. 管理栄養士養成施設における学生の食品重量 目測能力の実際〜第2報: 学習支援による効果〜	共著	2016 4	年11月	管理	学会	日本給食学術総会手前大学		実のし科食目は習た目どらがたが品加返に②木③際たた3品測実後。測の、激。10目しし繋共る第一のでは、10日のでは、10分にみまる第一ででは、10日のでは、1	とおり2014年(大阪前食が量食をしためらりでするアントランでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日のでは、大阪の日の日のでは、大阪の日の日のでは、大阪の日の日のでは、大阪の日の日のでは、大阪の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日	た 室 2015 施 米重 年値 大 目と均 食 15 な量 が 名 本上 接 年	目、効度はの20確は準つ力ら重な質能は江経集制能果まれの20推認い課たはか量は65接力が推営に力向検養物重年、行もはと人な差度に繰向、、理りの上討学の量度実っ、殆か差っ率2増り上・青学の

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
								教育研	肝究業績	<b>長</b> 総数	¢
								(2017	. 3. 31瑪	(在)	
								著書4	: (内部	7:単0.	、共 4)
								テキス	スト2(内	訳:单	丝0、共 2)
								学術語	<b>論文21(</b>	为訳:	単2、共19)
								学会系	≹表54(I	为訳:	単6、共48)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(1)	共 同 研	开究							
研 究 題 目	交付団体	交付団体 研究者 ○代表者()内は学外者							
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大 学共同研究費	○清末達人 栄養学科教員	797, 000						
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	全国栄養士養 成施設協議会	○清末達人 栄養学科教員	70,000						
北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨 密度改善に対する栄養支援の効果	西南女学院大学共同研究費	○近江雅代 手嶋英津子 田川辰也 浅野嘉延	1, 734, 000						

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究		
研	f 3	芒	題	目		交付	団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし										•	•

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称	役職名等	任期
(内 容)	区 概 石 寸	期間等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活	非常勤講師 2	2008年4月~現在に至る
・福岡女学院看護大学『食生活論』	非常勤講師 2	2016年4月~現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品	責任者 2	2014年3月~現在に至る
(弁当・惣菜)の開発および提案		
・西南女学院大学・九州歯科大学連携	給食担当 2	2014年4月~現在に至る
公開講座		
・北九州ぬか炊き文化振興協会第4回	講師 2	2016年9月12日
勉強会『ぬか・ぬか炊きの栄養・タ		
能』		
・北九州市産業経済局 食の魅力創	執筆協力 2	2016年10月
造・発信室『小倉城下の郷土の味め		
か炊き』チラシ発行		
・平成 28 年度福岡県栄養士大会『(仏	表彰 2	2016年10月2日
社)福岡県栄養士会会長表彰』		

・第 20 回日本病態栄養学会年次学会	座長	2017年1月14日
集会一般演題(ロ頭発表)栄養アセ		
スメント①		

- ・教務委員(2014年4月~現在に至る)
- ・教育の質保障プロジェクト委員(2014年6月~現在に至る)
- ・教務総合人間科学小員会委員長(2015年6月~現在に至る)
- ・管理栄養士国家試験対策委員(2013年4月~現在に至る)

氏名 久保 由紀子 職名 准教授 学位 学士 (教養)
-----------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
栄養教育					乳幼児栄養の実際、栄養教育マネジメント 高齢者の栄養改善、栄養ケアマネジメント

### 研 究 課 題

- ・2015 年 1 月に実施した幼児期の食生活及び生活習慣調査から、幼児期の栄養の実際と体位との関連を考察する。また小児肥満予防を目的とした食育活動の展開とその効果についても考察する。
- ・高齢者施設における栄養管理、経口摂取による栄養改善の方法について考察する。

	担	当	授	業	科	目
栄養教育論Ⅱ(前期)						
栄養教育論実習 I (前期)						
管理栄養士演習IV (前期)						
栄養学概論(前期)						
栄養教育論 I (後期)						
栄養教育論実習Ⅱ(後期)						
管理栄養士演習IX(後期)						
臨床栄養活動論(後期)						
臨地実習Ⅱ(後期)						
卒業だら(通年)						

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 栄養教育論 I·Ⅱ 】

栄養教育の対象となる全てのライフステージ・ライフスタイル・健康度別に、栄養・健康上の特徴と問題点を捉え対処することができるよう、基礎的理論の解説と併せて実際の場面におけるエピソードを交えて講義し、考え判断する力が備わるよう指導した。また、講義開始時には前週の振り返りを行い、終了時には確認テストを行って各自の予習・復習の助けとなるよう工夫した。

### 授業科目名【 栄養教育論実習 I · Ⅱ 】

栄養教育論で学んだ理論がどのように展開されていくのか、単なるコピーペーストではなく、各自がマネジメントサイクルの過程を理解し実践していくことができるよう授業を計画した。また、栄養教育は人を対象とした行為である。模擬指導を行い実施後の振り返りを議論することで、理論の理解を深め他者とのコミュニケーションのとり方について学び、自分の考えを纏めて他者に伝えることができるよう場面を設定した。

#### 授業科目名【 臨床栄養活動論 】

学内の講義及び実習で学習した臨床の場における管理栄養士の活動について、理論と実際を総合的に理解し、 臨地実習に向けて課題発見、解決できる力をつけることを目的に、テーマ別に外部講師を招聘し講義して頂い た。臨地実習の事前学習とすることができるよう、復習として講義後の考察、次週の予習として課題レポート を課した。

# 授業科目名【 臨地実習Ⅱ 】

実習先から課せられた課題について、学内で学んだ理論が実践の場ではどのように応用、展開されていくのか理解できるよう、具体的事例を示して添削指導した。また、実習日程表及び課題を基に説明を加え、今までの学習の振り返りを行い、実践に対応できるよう事前学習の指導した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養改善学会		1973年4月~現在に至る
日本病態栄養学会		2000年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		「又は の年月			発表雑 学会等σ			概		要
(著書) (学術論文)											
(翻訳)											
(学会発表) 1. 幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連(第2報)	共	2016	年9月	学会	: 学術 : リ	日本栄養ンクス	テー	2 3	活るたづ期慣食こた共天習に幼り体の質をは、くの体の質を、同本理が	病の増加され、期間では、期間では、動物では、動物では、動物では、動物では、動物では、動物では、動物では、動物	ぶ成人期の生 いの一はないまでは、 がある。「幼児」 がは、 がない。 がない。 が生活を がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	Ę	<b>事</b> :	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行ス 発表の		-		発表雑詞 学会等の	_ •		概		:	要	
(その他) 地域における食育活動 について ~北九州市乳幼児等 食生活実態調査を通し て~	単	2017.1			关大学 《発表会	大学院	修士		平成214 九州市 3 6年12月 て及性」に、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	乳がおりますがある。	児等を基っ27年1 はから はいまま はいまま はいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	生活に、月に、別の食	実態 平成2 かけ 注 関連 調 調 強
								(20 著書	:発表	1現在 2 19		共単共単共	2) 1 18) 2 2)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
	(1)	共 同 研	开 究						
研 究	題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
				(2)	個 人 码	开 究				
研	究	題	目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考			

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称	<b>犯 啦 友 怂</b>	任期
(内 容)	役職名等 	期間等
第4回北九州市健康づくり活動表彰選	選考審査員	2016年10月18日
考会議		
北九州市立保育所給食調理業務受託	選定委員	2016年11月24・25日
候補者選定検討会		
北九州市小児保健研究会	理事	2013年7月1日~現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事	2013年2月16日~現在に至る
第3回九州保育三団体研究大会	分科会助言者	2016年7月21日
栄養研究グループ栄養相談会	栄養相談(ボランティア)	1990年7月~2016年10月

就職委員会 副委員長

2016年4月1日~2017年3月31日

L.O.D 顧問

2016年4月1日~2017年3月31日

西南女学院大学 · 九州歯科大学連携公開講座

2016年4月1日~2017年3月31日

西南女学院大学生活協同組合 理事 2016年4月1日~2017年3月31日

研 究 分 野	研究内容のキーワード
① メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポ	① 副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノー
リフェノールの探索と有効性の解析	<i>) L</i>
② 高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発	② 介護食器、介護用箸・スプーン・フォーク

#### 研 究 課 題

- ① 「メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析」 生活習慣病においては、精神的なストレスも疾患を誘発する一因となり、メンタルヘルス対策 が重視されている。本研究では、精神鎮静作用やリラックス効果の知られる香草の浸出液(ハー ブティー)に含まれる個々のポリフェノールについて、交感神経系機能へ作用を示すものを細胞 レベルで同定し、細胞系での作用機序等の解析と動物を用いた系で、生体内での影響の関連性を 解析して、最小有効摂取量・許容限界量や作用機序を多角度から検討していくことを目的として いる。
- ② 「高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発」 高齢者施設等における現場のニーズに基づいた介護食器の開発を西日本工業大学と連携し行っている。

#### 担 当 授 業 科 目

栄養学実習(前期)(栄養学科)

総合演習Ⅱ(前期)(栄養学科)

管理栄養士演習IV(前期)(栄養学科)

臨床栄養管理学 (後期)(栄養学科)

臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(栄養学科)

臨地実習Ⅱ(後期)(栄養学科)

管理栄養士演習IX(後期)(栄養学科)

国際栄養論(後期)(栄養学科)

卒業ゼミ (通年 栄養学科)

栄養学(後期)(福祉学科)

健康と栄養(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【栄養学実習】

栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。各実習テーマについては、演習で解説したテーマを可能な限り次週に実体験できるよう実習スケジュールがたてられている。本年度は、創作料理がテーマの実習において、各自が食事の改善を目的に作成した献立から、代表者の献立を班ごとに調理し、試作をしてその感想や更なる献立の改善点についてのまとめと発表が行えるよう実習スケジュールを組んだ。昨年までの実習内容について、より深い理解に繋げることができるよう見直しを行い、実習内容に反映させた。

### 授業科目名【総合演習Ⅱ】

総合演習IIでは、各回に設定されたテーマに沿った症例検討を行った。病態の説明の後に、各自で症例についての考えをまとめ、グループディスカッションに繋げた。グループの意見はホワイトボードにまとめ、学生の相互理解を図った。また、全体討議及び教員による解説を行い、正しく理解し学習内容が定着するよう努めた。

## 授業科目名【管理栄養士演習IV、管理栄養士演習IX】

管理栄養士演習IVでは、関連する国家試験問題を解き、解説を行った。演習の初めに問題を解き、全ての問題について解説を行った。各選択肢については、関連事項も併せて解説し、図・表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。解説後、正しく理解したうえで、各自で正文を作成するよう進めていった。学習ペースに合わせた時間配分を検討した。後期の管理栄養士演習IXでは、受講生が持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫した。演習終了後も正答チェックがしやすいようにし、また理解度に応じ問題の難易度を変化させた。

#### 授業科目名【臨床栄養管理学】

臨床栄養管理学では、テキストに沿ったパワーポイント資料による講義を行った。講義のパワーポイント 資料は予復習が行いやすいよう、冬季休暇などを挟む場合を除き、前の週に配布した。講義の最後には、小テストを行い、学生がポイントを理解しやすいよう確認を行った。正答できていない問題については、次の週の小テスト返却時に解説を行い、理解が深まるよう努めた。

#### 授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】

臨床栄養学実習Ⅱでは、各回に設定されたテーマとなる疾患の病態について解説し、献立の示範をしながら、調理操作におけるポイントの説明を行った。実習ごとのテーマや目的は、板書し明確に示すよう努めた。次週の実習内容については、事前に献立や作り方を配布し、内容等を説明した。グループ実習における、作業の負担割合の差を縮小するため、最初に教員が準備担当者等を割り振った。変更がある場合は、学生同士でよく相談し、変更内容が報告された。実践的な学びが展開できるよう、効果的な実習の進め方については、今後も改善・工夫に努める。

## 授業科目名【臨地実習Ⅱ】

臨地実習IIでは、二週間または三週間の医療施設における実践的な学びに備え、事前オリエンテーション及び直前オリエンテーションが行われた。事前指導では、個々の学生に応じたきめ細やかな指導に努め、実習期間中の学びの明確化を図り、また実習施設からの課題等についても準備を整えた。実習期間は、巡回指導を行い学生の実習態度や実習施設の状況の把握に努めた。実習終了後の報告会では、各医療施設における実習体験や学びの共有を図る。

#### 授業科目名【国際栄養論】

国際栄養論では、我が国の栄養問題また栄養政策について、十分に理解したうえで世界の栄養問題について 理解を深めることができるよう、講義を進めた。本年度も受講生が少人数であったため講義については、学生 の意見を取り入れながら進めていった。図書館やパソコン室の利用、JICA 研修施設における体験学習を通して、世界の食生活や栄養問題について情報収集を行い、まとめの発表を行うことで更なる知識の定着を図った。

### 授業科目名【卒業ゼミ】

高齢者施設等における現場のニーズに基づいた介護食器の開発を検討した。介護食器の開発に関連する情報や論文を収集し、学生は介護食器・箸・スプーンなどのデザインを考案した。それを基に工場に製作を依頼した。完成した試作品は、実際に高齢者施設にてご使用頂き、改善点や感想を頂いた。ゼミの研究活動については、論文形式のレポートにまとめた。

### 授業科目名【栄養学 福祉学科】

福祉学科の「栄養学」では、例年通り、日常生活に関連づけて栄養学をより身近に感じ学習が円滑に進められるよう工夫した。栄養をテーマにしたビデオの視聴では、講義内容と繋がったとの意見が得られた。栄養素は種類が多く、似通った性質のものもあるため、混乱を招きやすい場合は、情報提供を兼ねて講義中に数分間のブレイクタイムを設けた。講義テーマに関連する情報提供を行い、興味をもって講義に臨めるよう工夫した。

#### 授業科目名【健康と栄養 看護学科】

「健康と栄養」は、看護学科の1年生を対象としている。より身近に「栄養」を感じてもらうよう、各回に設定された講義テーマの内容の他に、電子新聞の記事などを用い、関連分野の情報提供も行った。また、講義では、例えば栄養状態の評価のテーマでは、Body Mass Index、理想体重、体重減少率の計算を実際に行い、実践的な学びに繋がるよう工夫した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養・食糧学会		2004 年~現在に至る
日本栄養改善学会		2004 年~現在に至る
日本栄養士会		2005 年~現在に至る
日本薬理学会		2006 年~現在に至る
日本公衆衛生学会		2006 年~現在に至る

2 0 16 年度	研	<u></u>	糸	責 等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は 発表の年月		発行所、 又は発表				概		要
(著書)	共有(/)加	光衣の手が	H	Xに完衣	子云寺の	<b>万石</b> 你				
(都清尺)										
(学会発表) 1. 高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発(第1報)	共	2016年9月 日(水) 9(金) 2016.9.6 表	~	第 63 回 学会 学術 会 場:青	<b></b>	<b>養改善</b>	① ② ③	介護食器報)ではらびに根まとめ幸共著者名	器の共同 は、本研 既要と成 股告を行 名: 坂巻 二, 田川	に基づいた 別開発(第1 究の経緯な 果について った。 路可,中 辰也,浅
2. フラボンであるアピ ゲニンとルテオリンの カテコールアミン動態 に及ぼす影響	共	2016年101月日(土)		第9回卜 一研究会 会場:宮	九州部			とルテス アミン動 ついての 共著者名	ナリンの 効態に及 O報告を ム:豊平	アピゲニン カテコール ぼす影響に 行った。 由美子、坂 希、馬場宏

2 0 16 年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
				佳、李暁佳、吉永有香里、 石兼真、柳原延章
3. Effects of polyphe noic compounds of sil ymarin on catecholami ne and insulin secret ion response	共	2017 年 3 月 15 日 (水) ~ 3月17日(金) 2017.3.15 発 表予定	年会「出島に学ぶ」 会場:長崎	<ul> <li>① ポリフェノール化合物シリマリンのカテコールアミン分泌・生合成及びインシュリン分泌に及ぼす影響についての結果をまとめた報告。</li> <li>② 共著者名:坂巻路可、豊平由美子、吉永有香里、李暁佳、田村和之、石兼真、柳原延章</li> <li>③ 第90回日本薬理学会年会プログラム p281</li> </ul>
4. Effects of aurapte n, citrus coumarin, o n catecholamine secre tion in cultured bovi ne adrenal medullary cell	共	2017 年 3 月 15 日 (水) ~ 3月17日(金) 2017. 3. 16 発 表予定	年会「出島に学ぶ」 会場:長崎	<ul> <li>① 柑橘類クマリン化合物オーラプテンのカテコールアミン分泌に及ぼす影響についての報告。</li> <li>② 共著者名:豊平由美子、坂巻路可、吉永有香里、李暁佳、長友逸朗、石兼真、柳原延章</li> <li>③ 第90回日本薬理学会年会プログラム p291</li> </ul>
				教育研究業績 総数 (2017年 3月7日現在)  著 書 7 (内訳 単 0, 共7)  学術論文 16 (内訳 単0, 共16)  学会発表 31 (内訳 単0, 共31)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1) 共 同 研 究										
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)							
メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有す るポリフェノールの探索と有効性の解析	科学研究費助 成事業(平成 28 年度基盤研究 C (一般)	○坂巻路可 (豊平由美子)	1,400,000							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
		(2)	個 人 可	开 究						
研究	題		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考					

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
産業医科大学訪問研究員	訪問研究員	2004年4月~現在に至る
福岡県研究教育栄養士協議会	運営委員及び連絡委員	2010年4月 ~現在に至る

研究紀要委員 委員 2016年4月~現在に至る

国家試験対策委員 委員 2009年4月~2014年3月31日、2015年4月1

日~現在に至る。

COC+に関わる学内組織

企画運営部門の中に実行部門 (A):連携講義担当者会部門メンバー 2015年1月~現在に至る

氏名 相良かおる 職名 准教授 学位 博士 (工学) 奈良先端科学技術大学院大学

研 究 分 野	研究内容のキーワード				
	自然言語処理 辞書 データベース 医療用語				
	日本語学 語彙調査 語彙分類				

### 研 究 課 題

医療文書の分かち書き用辞書 Come Jisyo を作成し無償公開している。

実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

### 担当授業科目

情報科学演習 I (前期)(栄養学科) A44 B46

現代社会と統計 (前期)(栄養学科) 88

情報科学演習 II (後期)(栄養学科) 30

健康情報処理論 (前期)(栄養学科) A49 B48 健康情報処理実習(後期)(栄養学科) A51 B49

卒業研究演習 (通年)(栄養学科) 1

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 情報科学演習 I】履修生: A クラス 44 名、B クラス 46 名

栄養学科では初年時導入教育を行っていない。そこで、本科目で情報検索を含むレポートの作成法やモル及 び規定濃度等の計算についての授業を行うこととし、オリエンテーション時に履修するようにアナウンスし、 選択科目であるが1年生のほぼ全員が履修している。

上記内容に加え、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングや SNS 等の最新の ICT に関する情報、インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word 及び Excel の基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。また、1年生前期の授業であることから、図書館の協力を得て、図書館の活用法および図書検索の演習を行っている。

### 授業科目名【 情報科学演習 2】履修生:30名

本授業では、Word の演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excel の演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い、情報の加工と表現法を行っている。また地域社会の一員としての貢献について気付き、学ぶために、自分の住む地域の名物料理、名産の食材とそれらの栄養成分、機能等を調べ、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPointを使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。

## 授業科目名 【 現代社会と統計 】 履修生:88名

栄養学科1年前期開講の選択科目であるが、2年次開講の必須科目「健康情報処理論・実習」、「公衆衛生学」 の前提知識となる記述統計学を教えることから、出来るだけ履修するようにオリエンテーション時にアナウン スし、1年生ほぼ全員が履修している。

授業の最初 10 分程を使い、四則演算の簡単な計算や塩分の濃度計算などを行い、分数や少数について学び直している。そして講義 60 分の後、確認のための小テスト 20 分を行い、理解度を確認し次回の授業速度の調整を行っている。

また、記述統計や比率の計算を身近な便利なものと認識できるように、廃棄率・可食部の計算とバラツキ(標準偏差)についての授業を終えた頃に、野菜・果物などの食材を実際に購入して重量を測り、バラツキを観察し、またそれらを調理する過程で食品成分表の廃棄率と実際に測定した廃棄率を比較しレポートにまとめる課題を課している。

## 授業科目名【 健康情報処理論 】 履修生: A クラス 49 名、B クラス 48 名

マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが、適切な教科書がなく、毎回資料を配布して授業を行っている。「フードファディズム(Food faddism)」と「3 た論法(飲んだ、治った、効いた)」については、具体的な事例を紹介し、また身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行っている。

資格取得のため、膨大な知識を暗記する科目が多いことを踏まえ、本授業では、暗記型、一方向型の講義ではなく、学生自身で情報を吟味し、問題を見付け、意思決定する過程を学ぶ「教えない」授業を心掛けている。

## 授業科目名【 健康情報処理実習 】 履修生: A クラス 51 名、B クラス 49 名

本授業は、「現代社会と統計」、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学(栄養学研究)」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材(統計分析やグラフ作成用課題のExcelシート等)を作成している。また、評価においてもグループ評価20%、課題提出20%、授業貢献10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
情報処理学会		1996年
教育工学会		2000年
医療情報学会		2002年
日本看護科学会		2004年
大学女性協会		2008年
日本女性科学者の会		2009年
言語処理学会		2011年
情報知識学会		2014年

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	12	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デ又は の年月			発表雑誌 学会等の			概		要	
(著書)												

2 0 1 6 年 月	要 研	 究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(学術論文) 1. 末尾語にサ変接続 名詞を持つ実践医 療用語の語彙分類	共著	2016年	情報処理学会シンポ ジウム,Vol.2016.No.2, 人文科学とコンピュ ータシンポジウム論 文集 p.183-190.	相良かおる、小野正子、山崎誠
2. 経過記録に含まれ る誤字・誤変換と同 義語・類義語	単著	2016年	看護きろくと看護過程 ケアの根拠が見える記録を効率的に書く! Vol.26. no.3 p.71-75, 日総研出版, 2016.	相良かおる 全頁 経過記録に含まれる 30 種類の
3. 看護師・管理栄養士 国家試験に含まれ る名詞連続語の特 徴	共著	2016年	西南女学院大学紀要, Vol.21 , P.135-143 2017.	全9頁 相良かおる,小野正子,石井愛子 看護師,および管理栄養士国家 試験問題文(2012-2016年) より抽出した名詞連続語と,医 療記録文書に出現する用語の 計量的語彙調査の結果を報告 している.
(都記)				
(学会発表) 4. 看護師・助産師国家 試験に含まれる語 彙の調査	共著	2016.7	第 17 回 日本医療情報学会看護学術大会論文集 p.89-92	全4頁 相良かおる,小野正子,上野惠子 看護師・助産師国家試験問題に含 まれる用語(教育用専門用語)と 実践医療用語の分かち書き用辞 書COme Jisyo V5-1との照合を行い ,語彙・表現の相違について報告 している.

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑ぎ会等の			概		要	
								学は国際学院報覧	論会会となる。 とき の きょう は 要 書 筆 書 待	・参考書 (修士・ 6 2 9	•	†101 3 2

外部資金(科学研究費補助	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
(1)	共 同 码	开 究											
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)										
看護師・助産師・管理栄養士国家試験に含まれる専門用語の語彙調査	学内共同研究	○相良かおる、 小野正子 柏木公一	591,000										

外部	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
	(2)	個 人 矽	开 究									
研究	題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考								

社 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任 期	間	期 等	
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト(特定非営利活動法人 言語資源協会正会員)	代表					2012年	~現在			

- ◆ 図書委員
- ◆ 個人情報保護委員

氏名 天本理恵	職名 准教授	学位 博士 (医学)九州大学 2012 年
---------	--------	-----------------------

研	究	分	野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野				小児栄養、母性栄養、栄養指標(臨床検査)、生活習 慣病(主に癌、加齢性疾患)とミトコンドリア

#### 研 宪 課 題

- 1. 生活習慣病(主に癌や加齢性疾患)とエネルギー代謝(ミトコンドリアを中心に)との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、新しい栄養指標となるような血液中のタンパク質をみつける。
- 2. 戦中、戦後の低栄養の時代の妊婦の栄養素摂取量と現在の生活習慣病との関連や、妊娠前・妊娠中の体位の変化と低出生体重児出生との関連、および極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。
- 3. 幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

			担	当	授	業	科	目
応用栄養学 I	(	2年後期	栄養学科	)				
応用栄養学Ⅱ	(	3年前期	栄養学科	)				
総合演習 I	(	3年前期	栄養学科	)				
総合演習Ⅱ	(	4年前期	栄養学科	)				
応用栄養学実習	(	3年後期	栄養学科	)				
管理栄養士演習Ⅲ	(	4年前期	栄養学科	)				
管理栄養士演習VII	(	4年後期	栄養学科	)				
臨地実習 I	(	3年後期	栄養学科	)				
卒業ゼミ	(	4年通年	栄養学科	)				
栄養学概論	(	1年前期	栄養学科	)				
母子栄養学	(	前期助	産別科 )					

### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名 【 応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概論(講義は1回のみ) 】

- 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
- 2. 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書にて図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。 板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。 スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。
- 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の 講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 小テストの質問や感想には、それに必ず答えて返却した。2016年度応用栄養学Ⅱ受講生は、 応用栄養学Ⅰの時よりもこの小テストに意見や感想、質問を多く書いてきており(応用栄養学Ⅰの受講生 (2年生)は質問する学生が少なかった。)、応用栄養学へ関心をもつ学生が増えたことが伺えた。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に 配慮する。

#### 授業科目名【 応用栄養学実習 】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。この実習を行うために粉ミルクメーカーや食物アレルギー用の食品等(特殊食品)の会社に協力をお願いした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手(教育支援職員)の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。(この実習は講義時間だけでなくその前後に多くの時間を要してしまう実習であるため、この実習が行えるのは助手の先生方が手伝って下さるおかげだと感謝しています。)学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように今後も改善を行っていく。

### 授業科目名【 総合演習 I 、臨地実習 I 】

総合演習 I は、臨地実習 I (小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる 学外実習) と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担 当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外 の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導 を徹底していく。

## 授業科目名【 管理栄養士演習Ⅲ、WI 】

管理栄養士演習(国家試験対策)では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。

その問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し(わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。)一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回のテストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。前期授業評価では、上記の講義形式が学生の理解を促しているとの評価を受けており、今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

#### 授業科目名【 卒業ゼミ 】

福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させている。提供する間食の作製やレシピの作成、ほほえみの会の親子を支援するための教育媒体の作成など、試作、訂正を繰り返しながら、学生たちが主体的に動けるようにそのサポートを行った。また福祉や看護の学生たちと共に企画から実施、評価を行うことで、学生たちに自然と協働の精神が育まれていると考える。

### 授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】

視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。

また調乳については講義だけではなく、実際に学生たちに調理して(調乳して)もらうことで、乳汁栄養に関する理解を促した。さらに母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養士会		2002年4月~現在に至る
日本栄養改善学会		2002年4月~現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002年11月~現在に至る
日本臨床栄養学会		2004年4月~現在に至る
日本癌学会		2010年6月~現在に至る
日本分子生物学会		2012 年 9 月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	12	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別		デスは の年月			発表雑誌学会等の			概		要
(著書) 1. 管理栄養士講座 栄養教育論(第2版)	共	2016.	3	建帛	社			育 て る る ラ 育 2 実 ② 第 2 総 3 B 5 2 B 5 2 B 5 B 5 B 5 B 5 B 5 B 6 B 7 B 7 B 7 B 7 B 7 B 7 B 7 B 7 B 7	事後 5 1 ス 巻 美 6 1 ス 巻 美 6 1 ス 巻 美 1 丁 編 部 2 26-137 26-137 2.278	図論成はデザーのでは、大きをいるでは、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが、大きが	D栄養教育
(学術論文)  1. Serum depletion induced cancer stem cell-like phenotype due to nitric oxide synthesis in oncogenic HRas transformed cells	共	2016.	9	Onece 46	otarge	et, Vol. 7	, No.	(HR 作き かん と M さ 後 ア こ 的 ② U Mika Suich of Donel	Ras) を たい に は に は に に に に に に に に に に に に に	導。ド公こ境吸附長。窒ンっVome性 Making とのでで孵にを獲型らりり、産文あng Mushim Rie ung	に形物であるでは、 でおいては、 でおいては、 でおいては、 でおいては、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行 発表の	で ア ア 年月		.,,	発表雑詞 学会等の	-		概		要
(学会発表) 1. 幼児期の食生活および生活習慣と体位との関連性(第2報)	共	2016.9		善学	会り	日本栄学術総会 ンクス 強 他)	È	のに立頼5生親を②天3	遊資料: 性園 まない と	を保証に 2 と 関 に を 保 に に と 間 に と で に 、 関 に の を の を の ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま	保由紀子 養改善学会
								著書学術論学会発	表 1 (	単 0, 内訳 単 内訳 単	,

外部資金(科学研究費補助	助金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(2
(1)	共 同 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額
如 先 趣 日	文的凹件	○代表者()内は学外者	(単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大	○清末達人、近江雅	797,000
	学共同研究費	代 他栄養学科全	
		教員、他学科各科長	
社会人基礎力養成のための「意図的な	西南女学院大	○上村眞生、小田日	1,008,000
Hidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」	学共同研究費	出子 、橋本久美子	
構築に関する取組		(教務課) 他9名	
「汎用的技能」獲得のための学修支援体制構	西南女学院大	○上村眞生、小田日	274,000
築に関する取組	教育の質向上	出子、橋本久美子	
	支援経費	(教務課)、小川尚	
		(情報システム管	
		理課)他8名	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
					(2)	個	人	研	究				
	研	究	題	目		交付団体			交付決定額 (単位:円)	1	莆	考	
なし													

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	間	期 等
2016年度 教員免許更新講習 講師 「わたしたちの生活と成長を支える食べ物」〜現代の子どもたちの食の現状と成長・発達に必要な栄養素について〜	講師				2016年	三8月 24	日2コ	17
2016 年度第 2 回学院大学・九州歯科 大学連携公開講座 講師 「いつまでも美味しく健やかに〜高 齢期の食事を考える〜」	講師				2016年	三8月27	日	

西南女学院大学·九州歯科大学連携公開講座

実施スタッフ

2014年4月~現在に至る

地域連携室室員

2016年8月~現在に至る

学生募集 委員

2014年4月~現在に至る

ほほえみの会(主担当 福祉学科 野井 准教授)における 栄養相談等の栄養士業務、子供の遊びの支援

2014年4月~現在に至る

チアリーディング部 (ルーシス) 顧問

2002年4月~現在に至る

研 究 分 野	研究内容のキーワード
農芸化学、プロセス工学	応用微生物学 食品科学
	生物機能・バイオプロセス

#### 研 宪 課 題

- ~ 北九州の伝統食の一つである『糠漬け (糠床)』に関する研究とモノ造り ~
- 1. 米糠からオリジナル糠床の作製(モノ造り) ⇒10・20 年先を見据えて各年度の糠床を保存・継承する
- 2. 熟成糠床並びに浸漬野菜に吸着する微生物叢の調査
- 3. 糠床中の生菌数に及ぼす各種の条件検討(水分量、塩分濃度、撹拌頻度 etc)
- 4. 新規に作製した糠床を用いたぬか炊き(さば・いわし)の試作
- 5. 北九州近郊に伝わる 100 年糠床からの有用微生物の分離 (食材への接着性が高い・生残性が高い・特殊な生産物を生産する乳酸菌や酵母 etc)
- 6. 分離した植物性乳酸菌や酵母の糠床への応用(風味改良・減塩糠床の作製 etc)
- 7. 該植物性乳酸菌の他の加工食品への応用

#### 担当授業科目

食品学Ⅱ (前期) (栄養学科) ×2クラス

フードスペシャリスト論 (前期) (栄養学科) ×1 クラス

食品栄養実習 (前期) (栄養学科) ×2クラス

管理栄養±演習Ⅲ(前期)(栄養学科)分担

栄養学問論(前期)(栄養学科)分担

食品学 I 後期 (栄養学科) ×2クラス

食品流通・消費論 (後期) (栄養学科) ×1クラス

食品学実験(後期)(栄養学科)×2クラス

管理栄養土演習VII(後期)(栄養学科)分担

健康と栄養 (後期 (看護学科) 分担

卒業ゼミ(前期・後期)(栄養学科) 12名

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【食品学Ⅱ】

- ①食品学 I とは異なり食品学 II は、実際の食品により近い内容であるため、学生に理解しやすいようにできる限り多くの具体例を挙げて説明することを心掛けた。
- ②同時期に開講する食品栄養実習 (加工食品の製法や特性について学ぶ) での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。
- ③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、 毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
- ④昨年学生から挙がった「配布プリントの記入スペースが小さい」という意見については、スペースを大きくし改善に努めた。
- ⑤講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

#### 授業科目名【フードスペシャリスト論】

- ①フードスペシャリスト論は、フードスペシャリスト資格の導入科目であり、取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講しているが、フードスペシャリスト自体が学生らにとって馴染みのない資格であるため、今年度は1限分をフードスペシャリスト資格についての内容説明(特徴や資格取得のメリット、受験手続等を含める)と学生からの自由な質問を受け付ける時間に充て、資格に対する学生の理解度の向上を図った。
- ②本科目はフードスペシャリスト資格要件科目全般の網羅的な内容であるため、できる限り広範囲に 広く・浅くを心掛けて教授した。
- ③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴 埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
- ④講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。
- ⑤昨年度は図書館やインターネット等の情報を学修に利用した学生が非常に少なかったため、今年度はフードスペシャリスト論全般の内容の中から学生自らがテーマを選択し、それに関する情報を収集してまとめる課題を学生たちに提供した。

#### 授業科目名【食品栄養実習】

- ①同時期開講の食品学Ⅱの内容を、実体験を通して具体的に!より深く!真剣に・楽しく学ぶ!ことに重点を置き、授業に臨んだ。
- ②食品学IIの講義内容を極力リンクさせること、並びにレポートの各項目ごとに課題を与えて自ら調べてまとめる機会を提供することで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。

(昨年度の改善点であったレポート課題の学生への説明については、実技前の解説時に時間を掛けて誤解が生じないように詳細な説明を行った)

- ③実習書や食品学Ⅱの講義でカバーしきれない内容については、適時配布資料を準備し学生に配布した。
- ④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

#### 授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ及び管理栄養士演習Ⅷ】

- ①過去5年分の国家試験及び過去2年分の模試の内容を網羅した参考資料を作成して学生に配布。
- ②参考資料をベースに、知識のすり込みを図るために国家試験問題と模試の解説を繰り返して実施。
- ③食品表示制度などの学生にとって難解なヵ所や、補足説明が必要なヵ所については追加資料を作成して学生に解説。

#### 授業科目名【食品学I】

- ①食品学Ⅱとは異なり食品学Ⅰはかなりサイエンス色が強く、難解な項目も多く含まれる。そのため、国家試験にもよく出題されるような重要なヶ所については時間を多くかけて説明し、それ以外のヵ所については深く掘り下げ過ぎることで学生達が拒絶反応をしめさないように説明することを心掛けた。
- ②また、同時期に開講する食品学実験(食品に含まれる成分の化学特性について理解する)での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。
- ③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
- ④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

#### 授業科目名【食品流通・消費論】

- ①本科目は食品の流通と消費の場面を深く掘り下げた内容で、栄養士養成科目の中でも非常に特異的な科目である。そのため、まず学生らに科目の内容自体への関心度を高めてもらうということ、次に馴染みのない分野の内容を如何に学生らに分かり易く伝えることができるか、というこの2点を心掛け講義に臨んだ。
- ②講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
- ③講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。
- ④食を取り巻く諸問題や最新の話題への学生らの興味・関心を高めるためにレポート課題を課した。

#### 授業科目名【食品学実験】

- ①同時期開講の食品学 I の講義内容を実体験を通して具体的に学ぶ、及び食品学実験は学生らが体験する最初の化学実験であるため、実験の心得や器具・機器の取り扱いの初歩について学ぶ、ことに重点を置き授業に臨んだ。
- ②食品学Iの講義内容を各実験の解説時に極力リンクさせること、並びに学生らの記憶が薄れないよう各項目

毎に適時レポートを提出させることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。

- ③提出されたレポートの実験結果や考察の不備・間違い等に関しては、翌週の実験冒頭で解説を行い、学生らの理解が正しく深まるように努めた。
- ④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

#### 授業科目名【健康と栄養】

①食品にあまり馴染みのない看護学科の学生たちの食品への興味・関心を喚起するために、食品が持つ栄養特性や危険性のみならず、「日頃から食している食物の分類や加工特性等についても楽しく学ぶことができる」ということを心掛けて講義に臨んだ(食品に関する豆知識や雑学的な要素を多く盛り込んだ)。

②講義における学生の集中力と習熟度の向上を図るために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布。

## 授業科目名【卒業ゼミ】

- ①ゼミ生 12名を A~C の 3 グループに分け、グループ毎にゼミ活動を実施(少人数グループ制)。 「今年度のゼミ活動で行った内容は以下の 3 点」
- ・無農薬米糠から各グループオリジナルの熟成糠床の作製(3ヶ月~1年)
- ・作製した糠床を用いたぬか炊き(さば、わし)の試作
- ・熟成糠床への浸漬前後に野菜(きゅうり、なす)に付着する微生物叢の調査
- ②糠床の調製や正確な微生物培養実験など、ゼミ生がほとんど経験したことがない内容に関しては、実際に一緒に操作を行いながら(OJTにて)指導を行い、徐々に技術の育成を図った。
- ③作製したオリジナル糠床の評価やぬか炊きの試作に関しては全ゼミ生で行い、意見交換・情報交換を行った。
- ④就職活動や国家試験対策については個別に対応し、状況に応じて助言・指導を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生物工学会	正会員	1995.4~現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1997.4~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研研	究	 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文) 1. 糠床への浸漬による 野菜に付着する微生物 叢の変化	共著	201	7.3.1		南女学	院大学終 017	<b>己要</b>	成様のである。までは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	末間合ま キ表菌 母物かを あいと 高の ない という はい かい という という という という という という という という という とい	札酸 大糠リ)付く心置った機関を木の着がと換た持にして、	た4種の熟なと酵母が見いりでは、からからでは、からないが、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、いいでは、いいでは

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		で ア ア 年月			発表雑 学会等の			概		要
								期待。② 共田中貴	される 著者名	甲斐達男	利用が今後
(翻訳)											
(学会発表)											
								著書 学術論 学会発	1(単0、 文 13 表 20	総数 共1) (単1、共 (単0、共 8、出願	₹12) ₹20)

	外	部資金	(科学研	开究費補則	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> C)
				(1)	共 同 码	开 究	
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外	部資金(科学研	肝究費補助金	等)導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> C)
		(2)	個 人 7	研 究	
研 究	題目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

- 1. FD 委員
- 2. 学生募集委員
- 3. 入試問題作成業務
- 4. 管理栄養士国家試験対策ブラッシュアップ支援(前期・後期・夏休み・春休み)
- 5. フードスペシャリスト資格認定試験の諸手続き(主担当)
- 6. 「だいすき・にっぽん」への参画(郷土料理の試作、提供)2016.12.17
- 7. 高校での模擬授業の実施(山口県小野田高校) 2016.6.21
- 8. 2015 年度授業表彰(西南女学院大学)2016. 7. 28

氏名   青木 るみ子   職名 講師   学位 修士 (栄養学) (神戸学院大学 200	氏名 -	青木	るみ子	職名	講師	学位	修士	(栄養学)	(神戸学院大学	2004年)	
---	------	----	-----	----	----	----	----	-------	---------	--------	--

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
健康教育学					青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ
栄養学					高齢者・栄養評価・嚥下機能
食教育					幼児期・学童期・食育

#### 研 宪 課 題

- 1.ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討
- 2.青年期の生活習慣と健康および幸福感に関する研究(大学生健康・栄養調査:多大学共同研究)
- 3.幼児期を対象とした食教育の現状調査~保育園と幼稚園における教育者および実施内容の検討~
- 4.児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討
- 5.高齢者福祉施設における非侵襲的栄養評価および嚥下機能評価の検討

#### 担 当 授 業 科 目

栄養学概論(1年前期)

給食計画論(2年前期)

給食経営管理論(2年後期)

給食経営管理実習 I (2年後期)

給食経営管理実習Ⅱ (3年前期)

総合演習 I (3年前期)

臨地実習 I (3年後期)

管理栄養士演習V (4年前期)

管理栄養士演習X(4年後期)

卒業ゼミ (4年通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【給食計画論】2年前期科目

後期開講科目である給食経営管理実習I(以降、実習Iとする)の基盤となる科目である。

本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント、②食事摂取基準2015年版の給食管理における活用、③献立立案、④栄養・食事管理の評価、改善、について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめたPPを活用した。また、実習I(後期)の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Iの資料として活用することとしている。

本講義では、実習 I に必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」、「衛生管理」も詳細に解説している。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習 II (3 年前期:以降、実習 II とする)の給食試食および試食に関するレポート提出を義務付けている。試食の回数としては2回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「献立作成」、「生産・提供管理」の難しさ、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。「衛生管理」については、食中毒発生状況等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を促している。

#### 授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促した。本講義の中では、同時開講となる実習 I の帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC 分析」には、前年度の実習 I の食品の総使用量を使用しており実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3年生後期に控える臨地実習 I の実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。

#### 授業科目名【給食経営管理実習 I 】2 年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Iでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを8班編成とし、4班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。近年の傾向として、調理技術が未熟な学生が多く、食材の取り扱いの基礎から指導の必要性が増している。また、衛生管理に関しても基本的な理解ができておらず、器具の取り扱いから指導を行った。給食施設で備える義務のある帳票などの書類の書き方等についても丁寧に指導した。さらに、本実習では管理栄養士としてリーダーシップ力を身につけることも目的としているため、実習当日に十分な調理現場指導が行えるよう、作業工程の確認と打ち合わせの時間を設け、1班単位で指導を徹底した。

#### 授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習 I に引き続き、1クラス8班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「女子大学生対象給食献立」の立案を「実習 I 」の課題として行い、献立をもとに提供食数 120 食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」~「給食経営管理実習 I 」~「本実習」というように、連動した内容としている。

実習を進めるにあたり、実習 I 同様に、4 班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を通して、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。近年、事業所給食における栄養管理や栄養情報提供の充実や食環境整備が推進されているため、本年度は、栄養情報提供の媒体や食環境を充実させることに力を入れた。各実習班が提供する給食献立に沿った栄養教育媒体を作成し情報提供を行うと同時に、行事や季節、郷土色あふれる食空間のコーディネートも自由に行わせた。ただ作って提供する実習と比較して、準備に必要な労力は多くなったが、学生間のコミュニケーションもあわせて増加し、協働の姿勢が身についてと考える。例年、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行ってはいる。

#### 授業科目【総合演習 I】3年前期科目

3 年後期科目である「臨地実習 I (給食の運営)」のための事前指導を中心とした科目である。学外での最初の実習であるため、一般常識の定着のため外部講師による「マナー講習」を導入している。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関しての講義を行うことで、「臨地実習 I」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。本科目による栄養教育は、同時開講の「栄養教育論実習 I」の進度に合わせて、担当教員同士の協力体制の下で指導を行った。

### 授業科目【臨地実習 I 】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題(献立作成、栄養教育計画等)の指導を個別に実施した。また、事後指導

として、実習先への礼状の指導および臨地実習 I のまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生のため導入教育としての位置づけも持たせている。

## 授業科目名【管理栄養士演習V·X】4年前·後期

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。演習Vでは、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、演習Xでは、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関係する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、特定給食施設衛生管理マニュアル等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は27年度に改定されたため、変更点を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。

### 授業科目名【卒業ゼミ】4年通年

①高齢者や児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。ライフステージの違う料理教室を順次計画させたため、対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力等が養われたと考える。一方で、学生間で計画性や協調性に差が見られることも多く、仕事量が一部の学生に偏ってしまったことが反省点である。料理教室の実施回ごとに反省会による振り返りを行い、学生同士で計画、実施内容、当日の進行等の問題点を抽出し、次回の計画へと反映できたことは、本年度の大きな成果であると考える。

②北九州市に本社を置くスーパーマーケット「ハローディ」と共同し、店舗利用者対象の食育料理教室を企画、実施した。今年度は、株式会社「味の素」協賛の下で、食品ロスに着目したエコクッキングをテーマに計画を進めた。また、企業協賛であることから、取扱い商品のマーケティングも同時に行えるような内容とした。本取組を通して、食品企業と小売業者の関係性や、市場におけるマーケティングの実際を学ぶことが可能となった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4~現在
日本学校保健学会	正会員	2010.4~現在
日本健康教育学会	正会員	2010.4~現在
日本調理科学会	正会員	2012.4~現在
日本栄養士会	正会員	2012.4~現在
日本給食経営管理学会	正会員	2013.9~現在
日本災害食学会	正会員	2016.4~現在

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書) 給食経営管理実習	共著	2016.9.10	医歯薬出版株式会社	①管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠の第10巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。 ②監修 特定非営利活動法人日本栄養改善学会編者 富田教代,神田知子,朝見祐也

2 0 1 6 年 度	研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
				共著者       青木るみ子,他11名         ③担当部分       第3章 6)         p.57~58       第4章 3)~5)         p.68~75
(学術論文) アルギニンによる血管 拡張機能増強効果に対 する抗酸化ビタミンの 影響に関する研究	共著	2016.3.	西南女学院大学紀要 Vol.21.	①若年健康成人におけるアルギニンの前腕血管拡張機能に対して、抗酸化ビタミン (C および E) が血管拡張機能の増強効果に与える影響に関して検討した。 ②共著者名 田川 辰也、青木 るみ子、境田 靖子、石本祐子、近江 雅代
(翻訳) なし				
(学会発表) 給食経営管理実習における使用食品の廃棄量 調査	共著	2016.9	日本栄養改善学会(青森)	①給食施設ではその特性上、各給食施設独自の食品廃棄率を設定することが推奨される。本学給食経営管理実習においても、より実践的な実習とするため、本学独自の食品廃棄率を設定することを目的に使用食品の廃棄量調査を実習項目に取り入れた結果を報告した。 ②共同発表者 青木るみ子、石井愛子
地域密着型公開講座を 基盤とした参加型学生 教育の効果〜食生活お よび学習に対する自己 評価を指標として〜	共著	2016.9	日本栄養改善学会(青森)	①平成26年度より、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした公開講座を開催している。本研究では管理栄養士育成の一環として、参加型学生教育が食生活および学習に対する自己評価に及ぼす影響について、検討した。②共同発表者 近江雅代、青木 るみ子、境田靖子、田川辰也、

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別		アはの年月			発表雑誌 学会等の			概		要
管理栄養士養成施設に おける学生の食品重量 目測能力~第2報:学習 支援による効果~	共著	2016.1	.1		本給食 (大阪)	経営管	理学	て、とは、中し、制力の果る	品重量が 中に身にそこの この たと検討し	を的確な基礎的につける。 学生祭を把握の学習にた。	士業務におい に把握するこ り能力であり、 ることが望ま の食品重量目 量した上で、能 習支援による 雅代、 <u>青木る</u>
高齢者向け食生活支援 の一環としての「高齢者 対象弁当企画」(第一報) 〜地域高齢者の食生活 に対しての意識調査〜	共著	2016.1	11		、 (大阪)	経営管	理学	支援すけ弁当の基礎を実施	けること 省の企画 整資料と 面し、そ	とを目的 画を検言 とするた その成身	地域高齢者を りに高齢者向 けしており、そ ため意識調査 とを報告した。 たるみ子、境田
								(201 <sup>)</sup> 著書 学術論	1 (内 倫文 1	. 6現在 訳 単 0 (内記	) 0 ,共1) 尺単1,共9) 尺単0,共23)

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
		(1)	共 同 7	研 究						
研	究 題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(2) 個 人 研 究									
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考						
平成 28 年度子どもゆめ基金助成金	独立行政法人 国立青少年教 育振興機構	237,000							

社 会	に お け る 活	動 等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人北九州市福祉事業団北九州市社会福祉研修所	平成 28 年度 福祉施設栄養士・管理栄養士 員研修 講師	平成 28 年 7 月 28 日
公益社団法人 日本メディカル給食協会西日本支部	平成 28 年度 第 2 回栄養士委員会研修会 講師	平成 29 年 2 月 10 日
北九州市 井堀市民センター	平成28年度 高齢者対象料理教室 講師	平成 29 年 3 月 10 日

ハラスメント委員会

管理栄養士国家試験対策委員(栄養学科)

周望学舎シニアサマーカレッジ講師

子どもゆめ基金助成事業「大すきにっぽん」食分野担当講師

栄養学科公開講座「給食提供分野」担当

料理研究部顧問

氏名 境田 靖子 職名 講師	学位 修士 (学術)
----------------	------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
公衆栄養					DOHaD 説,低出生体重,生活習慣病,
					食育,青年期,食生活

#### 研 宪 課 題

- ①妊娠前からの体重管理による低出生体重児と将来の生活習慣病予防との関連について
- ②青年期の食生活改善を目指した指導プログラムの開発

## 担 当 授 業 科 目

公衆栄養学I(後期)

公衆栄養学Ⅱ (前期)

地域栄養活動論(後期)

公衆栄養学実習 (後期)

臨地実習Ⅲ(後期)

管理栄養士演習V(前期、分担)

管理栄養士演習X(後期,分担)

卒業ゼミ (通年)

栄養学概論(前期、分担)

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【公衆栄養学Ⅰ, Ⅱ】

- ・指定教科書を重点的に使用し、重要な箇所についてはマーカーで線を引かせていたが、口頭での指示プラス OHC を用いて学生と作業を共有するよう努めた。
- ・教科書にないものについては、必要に応じてパワーポイントの資料を配布し、内容によっては教科書に指定 したページに添付するように指導した。
- ・適時、小テストや課題を実施し、定期試験へ向けての足掛かりとなるように支援した。
- ・国家試験の出題レベルに合わせると授業時間数が不足し、1つ1つの内容が不十分になるため、最低限臨地実 必要な範囲にまとめるように心がけた。
- ・臨地実習の履修要件のため、厳しく指導した。
- ・日本人の食生活の変遷については、ビジュアルでイメージを膨らまし納得できるように DVD を用いて指導した。

#### 授業科目名【地域栄養活動論】

- ・後期の臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)の事前学習となるように、公衆栄養学 I およびⅡの復習をしつ つ、実習先の都道府県または市町村の業務概要についての理解を深めるよう努めた。
- ・訪問介護における栄養改善活動と配食サービスの実態について、テレビ放映された実際の管理栄養士の活動 (NHK プロフェッショナル等) を見ることでイメージがわくように工夫した。

### 授業科目名【公衆栄養学実習】

- ・後期に実施される臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター、病院実習)での課題実践に備えて、実践的な集団指導の手法の取得と事業評価の能力を取得できるように尽力を注いだ。
- ・臨地実習を履修しない学生はモチベーションが下がるため、同じグループ内での相互評価を取り入れることで緊張感を持たせた。

#### 授業科目名【臨地実習Ⅲ】

- ・実習施設ごとの事前課題を指導し、学生が短い実習期間で実習内容を達成できるように指導した。
- ・実習最終日の反省会や学生は発表する日には、なるべく自ら巡回指導を行い、実習施設の指導管理栄養士に直接、学生の学びの様子を伺った。

## 授業科目名【管理栄養士演習V,X】

- ・公衆栄養学ⅠとⅡで網羅できない範囲を管理栄養士演習Vで行った。
- ・演習Xでは模試の正答率を分析し、正答率の低い問題の解説を重点的に行うなど、国家試験の合格へ繋がるよう努めた。

## 授業科目名【卒業ゼミ】

- ・まなびと ESD ステーションでの食事診断会、小倉祇園太鼓での食育コーナーの出展、北九州市保健福祉局の 食育推進事業の企画・運営等、管理栄養士としての実践力が身に付くようにフィールドワークを中心に活動 した。
- ・今年度は、上記活動を3テーマに分け小グループでゼミ報告書の作成をし、取りまとめた。

#### 授業科目名【栄養学概論】

・学科統一の評価法に従い、学生のレポートについてルーブリック評価を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養改善学会		2000 年 4 月~現在に至る
日本公衆衛生学会		2003年6月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業績	等	12	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の <sup>生</sup>			発表雑詞 学会等の			概		要
(著書)										
(学術論文) 1. アルギニンによる血管拡張機能増強効果に対する抗酸化ビタミンの影響に関する研究	共	2017.	' '''	西南女学院大学紀要 VO 1 . 21			①アルギニンを含むアイソカルアルジネートの経口投与による若年健康成人の前腕血管拡張機能の改善作用について、抗酸化ビタミンを含む場合と含まない場合について検討した。 ②共著者名:田川辰也、青木をみ子、境田靖子、石本祐子、流江雅代 ③担当部分:共同研究につき、本人担当部分抽出不可能(p125~134)			
(翻訳)										
(学会発表) 1. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築(第1報) -研究概要と児の栄養方法	共	2016.	学会	学術絲	日本栄養 総会(於 ーショ	\ J	健診の食育を	のデータ 催進体制 見の妊娠	マの利活制の構築	れる乳幼児 5用による 廃を目的と 53歳児健診 と4地区で実

2 0 1 6 年 度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
								年4月 におい 児の労 慣との ②共同 福村智 岩橋明 ③栄剤	から実 ける、生 栄養方法 の関連に 司発表 習恵、辻 明子	施の大 生後1か 去と母が こつい 音名:( 本洋子	では、平成27 下A地区 内時点での 現の生活習 て報告した。 つ由田克士、 <u>境田靖子</u> 、 74, No. 5
2. 乳幼児健診情報等を 活用した母子の健康増 進・食育推進体制の構築 (第2報) -体重増加に 関する知識について	共	20.	16. 9	学会	学術網	日本栄養総会(がいかい)	\ J	る4が調査は1別のと見るとは、2世によりは1別のは1日のでは1日のでは1日のでは1日のでは1日のでは1日のでは1日のでは1日の	月児健 こよる、 好出生体 ついて幸 司発表、 <u>境</u> も大	診受診 妊娠症 間中の 本盤と は は は は は は は は に い は は は は は は は は は は	県B市における 者に対する 前の母親のBM 体重増加量 ついての関 た。 〇岩橋明子、 二、福村智恵、 74, No. 5
3. 乳幼児健診情報等を 活用した母子の健康増 進・食育推進体制の構築 (第3報) -妊娠期間 前・期間中の食生活	共	20:	16. 9	学会	学術網	日本栄養総会(が	<b>y</b>	る4か 調査/ で 2共 に 出 出 は 3 栄養	月児健 こよる好 と児の出 て報告し 司発表 明子、辻 克士	診受診 妊娠前の 出生体 した。 音名:( 本洋子	県C市におけ 渚に対する の母親の食 重の関連に 〇 <u>境田靖子</u> 、 六、福村智恵、 74, No. 5
4. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築(第4報)-1歳6か月児の体格と生活習慣	共	20.	16. 9	学会	学術網	日本栄養総会(於一ショ	<b>y</b>	ける1 対する 習慣 <sup>4</sup> の身体 報告し ②共同 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	歳6かり る調査に や食育に 本状況と した。 司発表者 青子、岩	月児健語 こよる こ対す この 関 音名:( 音橋明	市D地区にお 診受診者に 母親の生活 る知識と児 車について D辻本洋子、 子、福村智恵、 74, No. 5

2 0 1 6 年 度	研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
5. 乳幼児健診情報等を 活用した母子の健康増 進・食育推進体制の構築 (第5報) -妊婦教室参 加者の現状と課題	共	2016. 9	第 63 回日本栄養改善 学会学術総会(於 リ ンクステーションホ ール青森)	①第5報では、大阪市B地区において実施された妊婦教室の参加者に対する調査による、妊娠期間中の体重増加量に対する医療機関による指導内容との関連について報告した。 ②共同発表者名:○福村智恵、辻本洋子、 <u>境田靖子</u> 、岩橋明子、由田克士 ③栄養学雑誌 Vol. 74, No. 5 (p283)
6. 地域密着型公開講座 を基盤とした参加型学 生教育の効果〜食生活 および学習に対する自 己評価を指標として〜	井	2016. 9	第63回日本栄養改善学会学術総会(於 リンクステーションホール青森)	①地域住民の健康増進への貢献を目的として実施している公開講座への参加が、学生の食生活に対する満足度および管理栄養士としての学習態度の形成に寄与しているか検討した。 ②共同発表者名:○近江雅代、青木るみ子、境田靖子、田川辰也 ③栄養学雑誌 Vol. 74, No. 5 (p344)
7. 妊婦の食生活状況と食意識・体型との関連	共	2016. 10	第 75 回日本公衆衛生 学会総会(於 グラン フロント大阪)	①大阪市A地区の母子健康手帳の交付に来た妊婦に対する食生活アンケート調査から、母親の妊娠前BMI別の食習慣と食育に対する関心や食知識の関連について報告した。 ②共同発表者名:〇辻本洋子、福村智恵、 <u>境田靖子</u> 、岩橋明子、由田克士 ③日本公衆衛生雑誌第63巻,第10号特別付録(p321)
8. 高齢者向け食生活支援の一環としての「高齢者対象弁当企画」(第一報) 〜地域高齢者の食生活に対しての意識調査〜	共	2016. 11	第 12 回日本給食経営 管理学会学術総会(於 大手前大学)	①食生活の面から高齢者を支援することを目的とし地域のスーパーマーケットと連携し、高齢者向け弁当の企画・販売を検討している。その基礎資料としるために一般的な惣菜弁当に対する意識と試食による味の評価について報告した。②共同発表者名:○青木るみ子、境田靖子 ③日本給食経営管理学会学術総会プログラム・講演要旨集(

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑 学会等の			概		要	
								p45)				
								(201 著書 学術語 ) 翻訳	开究業績 7. 3. 3 (内 倫文 11 0 養表 54	31現在) 訳 単( (内訳	D, 共 単1,	

外部資金(科学研究費補助	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1)	共 同 码	研 究										
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)									
乳幼児健診を利用した母親の食生活と低出生 体重児の出現の要因の検討	平成 28 年度科 学研究費助成 事業 (学術研究 助成基金助成 金 (基盤研究 (C)	○境田靖子 由田克士 福村智恵 辻本洋子 岩橋明子	4, 420, 000 円									
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	2016 年度西南 女学院大学共 同研究費	○清末達人 岩本テルヨ 浅野嘉延 山根正夫 稲木光晴 谷崎太 栄養学科教員 (日高勝美) (辻澤利行)	797, 000 円									

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(2)	個 人 斫	开 究								
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考							
北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の食育推進」	北九州市 保健福祉局	239, 938 円								

社会	に ま	ંડે	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称	2	几	職名	垈			任		期	
(内 容)	1	又	141 石	寸			期	間	等	
大学間連携共同教育推進事業「まちな	運営委員	₫,	ワーキ	ングメ	シバ		2012年1	0月~	(5年間)	
かESDセンターを核とした実践的人材	<u> </u>									
育成」										

公開講座委員会 (2016月4月1日~現在に至る)

(学科内) 国家試験対策委員(2012年4月1日~現在に至る)

## 2016年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名   銀光     職名   講師     学位   博士(医学) (九州大学 2005 年)
---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究	大腸がん 糖尿病 胃がん 食生活習慣
栄養疫学研究	遺伝子多型 疫学

#### 研 宪 課 題

- 1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究
- 2. アルコール関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究
- 3. コーヒー摂取と胃がんに関する栄養疫学研究
- 4. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究

#### 担 当 授 業 科 目

公衆衛生学 (前期)

健康管理概論 (前期)

栄養疫学 (後期)

管理栄養士演習I(前期)

管理栄養士演習 VI(後期)

栄養学概論 (前期)

衛生学(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【公衆衛生学】

聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かり やすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。

## 授業科目名【 健康管理概論 】

スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。

#### 授業科目名【管理栄養士演習 I VI 】

国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。

#### 授業科目名【栄養疫学】

公衆衛生学では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002年 10月~現在に至る
日本疫学会	会員	2003年 1月~現在に至る
日本癌学会	会員	2003年 10月~現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004年 8月~現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010年 12月~現在に至る

2 0 1 6 年	E 度	<del></del> 研 究	業績等に関	する事項
著書、学術論文等の名 称 (著書) 健康管理概論 第3版	単著・ 共著の 別 共著	発行又は 発表の年 月 2017年2月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称 講談社	概 要 栄養学 NEXT シリース 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文)  1. Associations betwe en Dietary Patterns, A DRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg wit h Regard to Serum Tr iglyceride Levels: J-MI CC Study.	共著	2016年9月	Nutrients. 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	① 日本多施設共同コホート研究においで、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型 $ADR \beta 3$ との関連を検討したものである。食事パターンと中性脂肪との関連は認められなかったが、朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型 $ADR \beta 3$ $Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。② 共著者 Hinako Nanri、Guang Yin、他16名 ③ 役割:データ収集、統計分析、P1-16$
2. ALDH2 polymorp hism is associated wit h fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	Nagoya J Med Sci. 2016 May;78(2):183-93.	① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究においで、ALDH 2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。② 共著者 Guang Yin, Mariko Naitou, 他16名。 ③ 役割:論文作成、データ収集、統計分析 P183-193

2 0 1 6 年	度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発表	テ又は 麦の年 月			所、発表 法学会				概		要
3. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015	5年3月			l Cancer 16(5):20			2 3	が 癌 778 た 一型と 大 Yin G と 大 大 と の 大 と の 大 と の 大 と の と の と の も と の も と の も る ら る る る る る る る る る る る る る	研究に対 音 685 何 の比 が タミン 大腸が / 関連が り 音:Tak 、他 12	収集、論文
4. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015	5年2月	annrh	eumdis	Dis. 2015 -2014-20 heumdis	06191.	doi:	2 3	本名 Genom Study と Genom Study と 著 Yin ( ) は Yin ( ) は doi:10	性痛   性痛	uo H
(翻訳)												
なし												

2 0 1 6 年	度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発表	テ又は 長の年 月			所、発表 養表学会				概		要
(学会発表) 1. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連: 既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016	5年1月		(子コ)			<b>芝術総会</b> イセンタ	本 究 査 4995 日 値 認 ② 光、第	が静かる を を を を を を を を を を を を を	世 同コーた35- た35- らる。こ らけるあ SNPと 生、内藤 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	C Study(日 ーホート研ースライン調ー69歳の男女 の研究で検査 の関連を確 にの関連を確 に実真理子、銀
2. がん罹患歴と PTPN11 遺伝子多型 (rs2301756)の関 連: J-MICC Study 静岡地区	共著	2015	年 10			日本福		<b>乡術総会</b>	本 第 2 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1	が施設は 静岡地 か名で か い れて が れて は た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	共同コーた35 た35 かる。こ 遺伝子多 遺伝子の関 こ、銀光	C Study(日 ーホート研ースライン調ー69歳の男女 の研究では、 5型と女性の 引連が示され た、浜島信之 と術総会抄録
3. ABCG2 dysfunction causes not only renal urate overload hyperuricemia but also renal urate underexcretion hyperuricemia	共著	2015	年1月	第2古屋		学会学	村総会	(於 名	共一方もの子に「変」。	司コーガー イン静 ら、226 つ研究で 機能障 ご影響を は同発表 は同発表	、 一 ト 初地区訓 7名を対 では、A では、A でまさる。 こ できる。 18名 18名 1925	(日本多施設 F究) ベース 野査参加者の 対象とした。 MBCG2 の症 が が は 原際血症をが は 定学術総会抄

2 0 1 6 年	三度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名 称	単著・ 共著の 別	発	行又は 表の年 月			所、発 養妻学会				概		要
									(2	育研究第 2017年3		
									(P	小訳 単		2)
									(F	情論文 内訳 単 会発表	单 0, 5	共 39)
												共 25)

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
					(1)	共 同 研	开究				
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)			
なし											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
(2) 個 人 研 究						
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考			
コーヒー摂取習慣遺伝子多型と2型糖尿病に 関する分子疫学研究	独立行政法人 日本学術振興 会	4.680,000円				

1	土 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名 (内 容)	称		役	職名	等			任期	間	期 等	
なし											

学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、	委員、	学生支援な
- 1	1 1	, _	W O	''	٦	111	75/1	-71		2 Z \	1 11/2/1/2.4

情報システム管理運用委員会 委員 2015年4月1日~2017年3月31日

氏名 山田 志麻 職名 講師	学位 修士
----------------	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域開発歯科学 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学 食品学 食育 嚥下食 咀嚼 低栄養 健康増進

#### 研 究 課 題

- ・在宅高齢者の口腔状態と栄養状態
- ・子供の健康と食育
- ・ソフト和菓子の開発
- ・郷土料理とアレンジレシピの開発
- ・子供のアレルギーとレシピ開発

#### 担 当 授 業 科 目

- · 応用調理学実習
- フードコーディネート論
- · 管理栄養士演習Ⅲ
- 栄養学概論
- 基礎調理学実習
- ・調理学
- · 管理栄養士演習Ⅷ
- 卒業ゼミ

## 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 応用調理学実習 】

1年後期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで 多数の料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へのステップアップのための知識習得の する食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。

#### 授業科目名 【 フードコーディネート論 】

フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。

#### 授業科目名【 調理学 】

調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い(保存や調理加工)、それにともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。最終的には、単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。

## 授業科目名【 基礎調理学実習】

食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理で困らないよう周知徹底させた。

## 授業科目名【 卒業ゼミ 】

10名のゼミ生に対し、本人の意思に任せ、各自でテーマを決め、1人1テーマを研究課題とした。それぞれのペースや内容にあわせ、指導助言を行い最終的に本人の経験や学習につながるようなゼミとなるよう努めた。

## 授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ】

1年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、国家試験問題の基礎固めを行った。

## 授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ】

1年次に履修した調理学から、さらに調理科学、食品学などを含む国家試験の出題率の高い問題を中心に解説し、復習及び確認を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養改善学会		
日本家政学会		
日本食生活学会		
日本口腔衛生学会		
日本調理科学会		

2 0 1 6 年 度	. 研	究 第	Ě	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又/ 発表の年				発表雑詞 全会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)	共著	Article		Geria	trics	&		sense	of Coh	nerence	(前向き姿
Relationships among		accepted	on	Geron	ntolo	gy					栄養状態を
sense of coherence, oral		17 Janu	ary,	Inter	natio	nal			解析を	手法を	使って検討
health status,		2017						した。			
nutritional status, and											
care need level of											
elderly according to path analysis											
paur analysis											
(翻訳)											
(学会発表)											

실 수면 / 소리 쓰스 7 대 소스 프로 노스트	11 V KK/ VX 3 11 / 10		. \				
外部資金(科字研究資補明	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
(1)	共 同 硕	开 究					
江 宏 昭 日	大人国体	研 究 者	交付決定額				
新 究 題 目 	交付団体	○代表者()内は学外者	(単位:円)				
【応募中】	科研	○山田志麻					
基盤研究(C)(一般)(H29~H31)		(九州歯科大学:					
食欲指標 SNAQ を用いた食欲不振者の低栄		安細敏弘他3名)					
養予防に向けた臨床研究							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
(2)	個 人 可	开 究				
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考			
共同研究 2016 年度保健福祉学部附属 研究所研究費	西南女学院大 学	14万7千円				

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
2016 西南大・九歯大 公開講座 2016 グリーンパーク食育事業	実務者	2016年4月~ (年4回)
(地域貢献活動:芋ほり、調理実習) 2016 浅生スポーツセンター栄養相談 (地域貢献活動:栄養相談)	食育担当者、調理指導責任者 栄養相談責任者	2016年11月6日、2017年1月22日 2017年3月末
お茶の赤星園、林兼産業株式会社 共同食品開発事業	食品開発担当者	2016年4月1日~2017年3月31日

- ·公開講座 2016年4月1日~2017年3月31日
- ・ハラスメント委員 2016年4月1日~2017年3月31日
- ·COC+高齢者支援学 委員 2016年4月1日~2017年3月31日
- ・アドバイザー 2016年4月1日~2017年3月31日
- ・高齢者支援学 I Ⅱ担当者(2017年夏期より集中講義を実施)
- ·宗教委員 2016年4月1日~2017年3月31日
- ・スポーツフードアドバイザー (JADP) 取得

氏名 手嶋 英津子 職名 講師 学位 修士 (栄養科学) (中村学園大学 2013 年)

研	究 分	野	研究内容のキーワード
栄養教育			食育 ICT 教育 アプリ 骨密度

#### 研 宪 課 題

- ・ICT を活用した新しい食育の授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発
- ・北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する栄養支援の効果

## 担 当 授 業 科 目

栄養カウンセリング論 (前期)

栄養教育論実習Ⅱ(後期)(分担)

学校栄養指導論 I (前期)

学校栄養指導論Ⅱ (後期)

教育実践研究 (三期) (分担)

教職実践演習(栄養教諭)(後期)(分担)

事前及び事後の指導(三期)(分担)

栄養教育実習 (通年)

栄養学概論(前期)(分担)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【栄養カウンセリング論】

本科目は、人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性や、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解することが目標である。授業は、ワークシートを活用し、テキストとパワーポイントを使用して解説した。パワーポイント資料や、補足資料はプリントして配布した。また、栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付けることができるように、多くの事例を提示し、グループワークやロールプレイを実施した。さらに、ロールプレイによる発表を行い、フィードバックすることで多くの気づき(身だしなみ、姿勢、態度、話し方など)を共有できた。今年度の課題は、学生のコミュニケーションスキルを高めることであったため、学生同士で意見を共有する時間を毎時間設けた。また授業の改善・充実のために、授業の最後に振り返りを行い、学生の理解度や課題を把握するように努めた。

#### 授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】

本実習は、栄養カウンセリング論や栄養教育論で学んだ知識と関連付けて、栄養カウンセリングに必要な技術を修得し、疾病別に対応した栄養教育を実践的に修得することを目標とする。個人栄養支援では、主にロールプレイングを実施し、聞き取りによる食事調査や栄養カウンセリングの実際を体験した。また、栄養教育に使用する媒体として、リーフレットやパワーポイントの作成を行った。提出された媒体は、全員に個別指導を行いながら返却し、訂正を繰り返すことで資料作成能力を高めることができたと考えられる。授業での課題や発表時には、必ずフィードバックをする機会を設け、各自の課題を見つけ改善へと繋がるように工夫した。

#### 授業科目名【学校栄養指導論 I】

本科目は、栄養教諭の使命と役割をよく理解して、児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する課題を解決するための、意識・態度・姿勢を持つことを目標とする。栄養教諭の職務内容や、職務の実態を学ぶ数少ない専門科目である。昨年度は受動的な学習が多かったため、今年度は、グループワークや発表を多く取り入れ、教員として必要である思考力や表現力が身に付くように工夫した。また、ICT機器を活用できる栄養教諭養成のために、電子黒板やタブレット端末等のICT機器を積極的に取り入れた。

#### 授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】

本科目は、学校栄養指導論 I の基礎学習をふまえ、小・中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案を作成し、具体的に指導する実践力を身に付けることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、主にワークシートを中心とし、重要なポイントが明確にわかるようになっている。さらに、小テストを毎回実施することで、重要ポイントが確認でき、知識の定着へと繋がった。授業計画案~模擬授業は、学生の理解度に合わせて個別指導を行った。また、教員としての表現力を高めるために、毎時間、異なる対象者を設定し、食や健康に関連する内容で1分間スピーチを実施した。回を重ねるごとに話し方や態度が変化することで、学生の自信へと繋がり、大変有益であったと実感した。

## 授業科目名【事前及び事後の指導】

本科目は、栄養教育実習の事前・事後指導を実践する科目である。非常勤講師の先生と担当し、栄養教育実習を受けるに当たっての心がまえや、予備知識の確認、食の指導に関わる授業研究についての解説を行った。 食に関する指導については、模擬授業を繰り返し実施、評価することで、教員としての姿勢や取組について意識を高めた。また、授業外においても個別指導を実施し、指導案の作成や課題の添削等、できる限りの指導を行った。実習中には、全ての実習校を訪問し、校長先生や栄養教諭の先生との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善に繋げた。実習後は、実習報告書および発表資料を作成し、実習報告会で発表をした。また、その報告会には3年生も参加し、次年度の栄養教育実習へのモチベーションを高めることに繋げた。

## 授業科目名【教職実践演習(栄養教諭)】

本科目は、教職課程担当者と協力して、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことが必要である。そのために、4年間の学びの振り返りを行い、課題を解決するための授業を実施した。特に、指導力不足に焦点を当て、模擬授業を実施し課題解決に取り組んだ。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識し、学びの集大成となるように工夫した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年4月~2013年3月
		2015年4月~現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2003年4月~2013年3月
		2015年4月~現在に至る
日本病態栄養学会	正会員	2008年4月~現在に至る
日本食育学会	正会員	2015年4月~現在に至る
日本健康教育学会	正会員	2016年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(著書) なし											
(学術論文)なし											
(翻訳) なし											
(学会発表) 地域住民の骨粗鬆症の 現状ならびに骨密度改 善に対する食育推進活 動の展開-2015 年度パ イロット研究-	共	2016	年5月		回日z 学術z	大会	会総	連携がはして2 イベンログ 対れ、	公開講座 する食育 2016年度 ノト「骨 る。そこ ト研究を 者の80°	Mにおい 所推進活 を放りの 密度測 で、20 で、20 %に骨 症の疑	歯科大学とのいて、地域住民活動の一環との新たな食育に上を計画しまりを計画した。その結果といが認めいがあること
食育の授業のためのiPadアプリの開発	共	2016	年9月		3 回 注 学術統	3本栄養 総会	改善	情め学すプだ視模用こ 教(2著テ総学報の生る) 朝覚擬しと 育1書キ説術	ヒアとこの食り受評が ボス1〜にプしと特のに業価令 完3.1内1〜内のリーを見るとは、大きののでは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、	て開望目しわで通よ課 総在:内:内で開ま的てせきしび題 数 単訳単訳単訳	共 1) 単0、共 1)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
共 同 码	开究									
<b>本付団体</b>	研 究 者	交付決定額								
文刊団体	○代表者()内は学外者	(単位:円)								
西南女学院大	○手嶋英津子	1,245,000 円								
学	領木信雄									
	共 同 石 交付団体 西南女学院大	共     同     研     究       交付団体     研     究     者       ○代表者()内は学外者       西南女学院大     ○手嶋英津子								

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
					(2)	個	人	矿	f	究		
	研	究	題	B		交付団体				交付決定額 (単位:円)	備	考
なし												

	社 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 名	) 名称 字)		役」	職名	等			任 期	間	期 等	
・西南女学院大学・九州 公開講座	歯科大学連	<b>携</b> 「骨 <sup>2</sup>	密度測	定」担論			2015年	₹4月~₹	見在に言	Ē3	

- ・教職課程委員会(2015年4月~現在に至る)
- ・平成29年度大学機関別認証評価部会 第2基準部
- · 教員採用試験対策個別指導(一次試験、二次試験)

氏名	石本 祐	子		職名		助手		学位	学士
	研	究	分	野					研究内容のキーワード
<b>-</b>									
					研	究	課	題	

# 担 当 授 業 科 目

・食品衛生学美験(前期:2クラス)
 ・食品栄養実習(前期:2クラス)
 ・応用調理学実習(前期:1クラス)
 ・基礎調理学実習(後期:2クラス)
 ・応用栄養学実習(後期:2クラス)
 ・微生物学美験(後期:1クラス)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 食品衛生学実験 】

実験を行うにあたり対象となる実験サンプルの調製については、操作手順が複雑なものもあるため、手順に 誤りのないよう、特に指導においては留意した。また、細かい操作を慎重に行う必要性が高く、安全に且つ 確実に結果に結びつくことができるよう、抽出操作や展開など各班を回りアドバイスした。

#### 授業科目名【 応用調理学実習 】

1 年次後期に基礎調理学実習を経ての応用実習であり、基礎的な調理技能修得の確認と作業の効率性を併せ 指導にあたった。これから展開される他の調理系実習にも共通する事柄や衛生面等に関しては、特に厳しく指 導を行い、学生の意識向上にも努めた。自発的な質問も多く、学生の理解度に合わせ、個々の実習が有意義な ものとなるようアドバイスした。

#### 授業科目名【 食品栄養実習 】

作業にかかる時間配分や使用する器具類について事前に打ち合わせを行い実施した。実習前講義での実習理論や目的を理解し、要点を押さえながら学生が実習に臨めるよう、各班での実習指導にあたった。この実習は、班ごとに配合をかえたものを交換して製造評価することもあり、比較という観点からもポイントを助言し、市販の加工食品製造への関心が高まるよう指導を行った。また実習項目によっては、使用器具が特殊なものもあり、怪我のないよう留意した。

### 授業科目名【 基礎調理学実習 】

1年次後期、学生にとっては初めての調理系実習である。調理への関心を持ち、それを将来的には職業の中で活かすために、食品自体の特徴について理解し、栄養価計算をはじめとした献立作成等についても進んで取り組めるよう、食材料の取り扱いや調理法による食材料の形態の変化など、一つ一つ修得するよう指導した。また、グループとして一つの献立を調理するにあたり、作業の効率性やチームワーク、声かけなども重要であることを助言した。

# 授業科目名【 応用栄養学実習 】

3 年次後期科目であるこの実習では、学生は、調理作業にも慣れ、作業は比較的容易にこなしているように感じるが、ライフステージ毎の調理形態の工夫や加熱調理の差異についても理解できるようアドバイスを行った。学生がこれまでの調理系実習で得た知識と経験とを生かし、対象者に適した「食作り」ができることを目指して、示範調理をとおして理解を深められるよう心掛けた。

# 授業科目名【 微生物学実習 】

将来的に「食」に携わるものとして、微生物と食のつながりを知り、また、環境中の微生物の存在から調理中の衛生管理や食中毒についても再認識できるよう助言に努めた。実験サンプルや条件の相違により得られる結果から考察が導き出せるよう、滅菌操作や培養上の注意点、また、手順が実験結果に影響しないよう細部にわたって留意するようアドバイスした。グラム染色のデモンストレーション時には、目的と原理についても操作をしながら再度説明をすることで、理解が深められるよう努めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
・日本栄養士会		2006年5月~現在に至る
・日本栄養改善学会		2006年5月~現在に至る
・日本栄養・食糧学会		2014年4月~現在に至る
・日本食品科学工学会		2014年4月~現在に至る
・日本農芸化学会		2016年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は 発表の年月			発表雑 学会等の			概		要
(学術論文) パネットーネに関する 研究動向 IV.抗菌性物質の産生	共著	2016	in V	志	里食品研 No.1、		ルフラ な因一 酸菌が あるれ した。 ②吉野	ライフ 子の中で が産生 亢菌性 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	に関わ で、パン してい 物質に 石本	ロングシェ いるさまざま ネットーネ乳 いる可能性の いついて概説 お子、長藤信
食品成分表の日米比較	共著	2016	iii V	志	里食品研 No.2、		の構成 までの 品成分 するこ 易行へ ②石本	式、活用 の経緯な 分表の ことに。 理解で った。	用方法、 た な 特 り、 る 長藤 に き 長藤 に た の に の に の に に の に に に に に に に に に に に に に	食品成分表作成に至るアメリカの食日本と比較その特性を容ら比較検討ま哉、吉野精

2 0 1 6 年度	更 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
食品成分と医薬品の相 互作用	共著	2016		誌 Vol		₽食品研 No.2、€		薬すての相関した組織した。	薬品の作 や食事の ことが見る現在、 る現在、用に き果を執 素信哉、 甲斐達男	か成分 男らか 医薬品 こつい とこう とこう とう こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうし	その他の医かにより変化かになってき品と食品成分で調査検討た。
古くて新しいパネット ーネ種〜パネットーネ の誕生と変遷〜	共著	2016.5	5			Cakes 05-107,	2016	をる代フとこ名な②哉で組にうしとなると言います。	ろうとった 合が存在 は、シスト に が、南 は、シスト で に が、自 は、 に で に が、自 れ に が、自 は に が、自 れ に が、自 れ に が、自 れ に が、自 が、自 が、自 が、自 が、自 が、自 が、自 が、自	するおというでは、 では、ない、 では、ない、 では、ない、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	は伝統的製法 人たちに 1800 年 米国のサン で 30 米国のサン で 30 米国の は 40 米国の は
古くて新しいパネット ーネ種 パネットーネ菌を知る ~酵母と乳酸菌の共生 関係~	共著	2016.7	7			Cakes 74-76、:	2016	ってい 母と乳 行って 終 らの名 ②吉野	いるのに 乳酸菌で ことで たいとで が 野精一、 甲斐達男	t、パッ があり、 100 st 起こる かいてが 石本社	ネットーネ酵 キットーネ酵 共生発酵を F以上も植え 変化やそれ 述べた。 お子、長藤信
古くて新しいパネット ーネ種 パネットーネ四方山話 〜パネットーネ風味の 秘密〜	共著	2016.9	9			Cakes 73-75、	2016	果離を察される。言	からパッ きなかっ たと たと た。 10 で まがれ ア か 子 を 全 が ア を 全 が ア を を り で り で り で り り り り り り り り り り り り	ネット かたのい の影響 00年 できた 生つい 石本神	されている 一ネ菌を分 は、殺菌成分 であると推 が超える期間 いても報告し お子、長藤信

2 0 1 6 年度	ぜ 研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は 発表の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
古くて新しいパネット ーネ種 中種パネットーネ(技術 編)~パネットーネと 「疑似」パネットーネを 比較~	共著	2016.11	No		Cakes 、46-47 016	`	中心に②吉野哉、甲井美穂	ネの比 に報告し <del>予精一、</del> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	較につ た。 石本神 引、尾間	疑似パネッかいて製法を お子、長藤信 間久美子、松
アルギニンによる血管 拡張機能増強効果に対 する抗酸化ビタミンの 影響に関する研究	共	2017.3	西南	南女学	院大学紀	要	管拡張アルギアルドインドでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	長機能の デニンに ジネー タミンの された。 川辰也、	り増強 こよる。 トに含 の影響 青木、 ・	まりによる血 効果は、主に ものであり、 まれる抗酸 は少ないと るみ子、境田 近江雅代
(学会発表) 製パンに適したパネットーネ酵母と乳酸菌ペアの選抜に関する研究	共	2017.3.17~2		<b>本農芸</b> 度大会	化学会	2017	ネ酵生酵のつ、、ア製た②か母産能中の製産をパンスで製造ので、製産をパンスで	、とは、というと、というと、というと、というと、というと、というと、というと、と	の離離株と対し、期ラセで大きなが、は、関連を対し、関連を対し、関連を対して、関連を対して、対して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	内菓子パン(パから乳酸菌と増殖速度、酸と、パン生地を選抜した。そりません。そりません。そのでは、単価に基づきではないでのもことが判った。長藤信哉、関
食品成分表の国際間比 較研究-日米-	共	2017.3.17~2		本農芸	化学会	2017	構成、 の経緯 表の特 により きるよ	活用方 など、 持徴を日 、その こう比較 に対	法、作アメリー本といっちに対している。	食品成分表の 就に至るまで 力の食品成分 比較すること 容易に理解で を行った。 「里、甲斐達男

2016年月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑 学会等の			概		要	

外部資	<b>登金(科学研究費補助</b>	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(P)
	(1)	共 同 矿	开 究	
研 究 是	Ē E	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域住民の健康増進のため	かの食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○清末達人 栄養学科教員	797,000

	外部	資金	(科学研	究費補助	か金等)	導入状	兄(	本学共同研究費を含む	<u>_</u>	
				(2)	個	人	研	究		
研	究 ;	題	B		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	

学内における活動等(役職、委員、学生支援
----------------------

栄養学科国家試験対策委員

氏名 石井 愛子	職名  助手	学位 医学(博士) (山口大学 2014年)
----------	--------	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子栄養学、食品化学	脂肪細胞分化メカニズム、インスリン

#### 研 究 課 題

- ・PDZRN3 における脂肪細胞分化制御の解析
- ・化合物 A による膵 β 細胞のインスリン分泌能の解析

#### 担 当 授 業 科 目

栄養学実習(前期)

給食経営管理実習Ⅱ(前期)

総合演習 I (前期)

給食経営管理実習 I (後期)

微生物学実験(後期)

臨床栄養学実習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 栄養学実習 】(前期:2クラス)

栄養価計算や食事摂取頻度調査表(FFQ)のソフト、栄養アセスメントキットは学生が初めて使用するため、 使用方法の指導を行った。身体計測、高齢者体験キットの装着時には手伝い、学生全員がスムーズに体験でき 促した。自己献立による創作料理では、作業手順や食器の選択などの質問に対応した。

# 授業科目名【 給食経営管理実習Ⅰ、Ⅱ 】(前期・後期:2クラス)

大量調理の作業で注意する点や、施設・器具の使用方法について、学生が疑問に思うことに対して指導を行った。調理作業については、学生がこれまでの学習の積み重ねを活かし、大量調理に応用できるよう学生自身で考える力を身につけるよう助言した。前日準備では、念入りに打ち合わせをし、当日使用する器具の確認、準備指導を行った。管理栄養士班が、主体的に調理作業の手順や食事提供の順序など指示が出せるように促した。衛生管理については、器具の洗浄、実習室の掃除について細かく指導を行った。

## 授業科目名【 総合演習 I 】(前期:2クラス)

栄養指導の発表では、栄養媒体の片づけや準備を手伝い、進行がスムーズに行くよう促した。臨地実習に必要な物品の準備・購入に関しては、業者と連携し、必要に応じて個別に対応した。栄養媒体に使用する模造紙、画用紙の発注、管理を行った。外部講師による講義では、滞りなく進行するよう応対した。臨地実習の報告会では、タイムキーパーとして進行がスムーズに行くよう努めた。

## 授業科目名【 微生物学実験 】(後期:1クラス)

実験でガスバーナーを使用する際、火傷等がないように注意深く配慮した。顕微鏡の扱い方については、特に質問が多かったため、実際に使いながら個別に指導した。自由研究では、学生の実験計画に合わせて培地・ 器具の滅菌作業、培養の準備を行った。また、実験中に操作ミスがあった場合、改善策を提案した。

# 授業科目名【 臨床栄養学実習Ⅱ 】(後期:1クラス)

経腸栄養管理の実習では、器具の使用方法が複雑であったため、細かく指導を行った。軟・流動食の実習での重湯や全粥作成では、火加減が大事であるため、特に注意を促した。調理実習では、学生に食材の分配をしてもらい、野菜の切り方や食材の計量など、今後の実習に応用できるようサポートした。実技試験の食材重量の目測では、食品交換表の写真と同様に見えるよう、食材の選別や、お皿の置き方を工夫した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本薬理学会		2008年 4月~現在に至る
山口医学会		2011年 12月~現在に至る
栄養学若手研究会		2012 年 4月~現在に至る
日本栄養・食糧学会		2014年 9月~現在に至る
福岡県栄養士会		2015年 4月~現在に至る
日本栄養改善学会		2015年 4月~現在に至る
日本給食経営管理学会		2016年 9月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績等に関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 看護師・管理栄養士国家 試験に含まれる名詞連 続語の特徴	共著	2017.3	西南女学院大学紀要 Vol.21 P135-143	①看護師・管理栄養士の国家試験に含まれる名詞連続語の特徴について比較・分析した。異職種の医療スタッフ間で専門用語に違いがあることが示唆された。 ②相良かおる、小野正子、 石井愛子
(都混尺)				
(学会発表) 給食経営管理実習におけ る使用食品の廃棄量調査	共著	2016.9	第 63 回日本栄養改善 学会 (於リンクステーショ ンホテル青森)	①給食経営管理実習における使用食品の廃棄量を調査し、食品成分表との比較を報告した。 ②青木るみ子、 <u>石井愛子</u>

外部資金(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<b>(2)</b>
(1)	共 同 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額
10月 九 超 日	文门凹件	○代表者 ( ) 内は学外者	(単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大	○田川辰也	1139000
	学共同研究費	近江雅代	
		境田靖子	
		手嶋英津子	
		石井愛子	
		田中貴絵、	
		浅野嘉延	
		高橋甲枝	
		稲木光晴	
		(日高勝美)	
		(辻澤利行)	
部活学生の栄養状態や身体組成の実態調査と	西南女学院大	○山田志麻	1269000
栄養介入後の変化に関する研究	学共同研究費	稲木光晴	
		阿部 弘	
		山本佳代子	
		石井愛子	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(2)	個	人	研	究				
研	究	題	目		交付	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考		

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 容				役	職名	等			任期	間	期 等	
第 6 回日本栄養士会災害 (JDA-DAT)リーダー育成研								2016 年	三9月19	日		

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

後援会学校委員

管理栄養士国家試験対策委員

西南女学院大学·九州歯科大学連携公開講座(受付、給食提供)

氏名 田中 貴絵 職名 助手	学位 博士(医学)(山口大学 2012年)
----------------	-----------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
細胞生物学					細胞内 Ca <sup>2+</sup> 動員機構 インスリン
					ビタミン

#### 研 宪 課 題

- ・ 膵β細胞のインスリン分泌機構
- ・ インスリン分泌機構にビタミンがおよぼす影響

# 担当授業科目

解剖生理学実習(前期)

生化学実習 (前期)

臨床栄養学実習 I (前期)

人体の構造と機能総合演習(後期)

食品学実験(後期)

栄養教育論実習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【解剖生理学実習】(前期) 1クラス

- ・ 学生にとって、初めてレポート提出が課される実習科目であることを考慮し、実習中の態度やレポートの 提出期限の厳守について指導した。
- ・ 身体計測器具や検査機器、顕微鏡などの様々な機器について、使用法を詳細に説明した。特に顕微鏡の使 用頻度が高いので、正しい使用法を繰り返し指導した。

#### 授業科目名【生化学実習】(前期) 2クラス

- ・ 学生にとって、初めての本格的な実験であることを考慮し、実習中にノートをとることや、実習時の服装等について指導した。
- ・ 実験器具の取り扱いを詳細に説明した。特に、禁止事項を行った際に引き起こされる結果や事故について 解説し、安全な器具の取り扱いができるよう指導した。

#### 授業科目名【臨床栄養学実習 I 】(前期) 2 クラス

- ・ 測定の試料として生体試料を取り扱う際に、感染の防止に細心の注意を払い怪我のないよう努めた。
- ・ 生化学、生理学的測定において複数の測定項目がある場合、試料・試薬が混同することがないよう、ラベルによる色分けや配置を工夫した。

#### 授業科目名【人体の構造と機能総合演習】(後期)2クラス

- ・ 分子模型を用いた実習では、正解を示す前に構造式と見比べ、学生自身が間違いに気づき修正できるよう に指導した。
- ・ ラットの解剖ではヒトとマウスの臓器の相違を説明しながら、臓器の形状と働きについて解説した。特に 消化器の内面と心臓の内面については実体顕微鏡などを用いて観察させ、機能の違いが構造の違いに繋が っていることを理解できるよう指導した。

# 授業科目名【食品学実験】(後期) 2 クラス

- ・ 基礎実験と食品成分分析を通して実験の基本操作を身につけ、食品に含まれる成分についての理解を深められるよう形状や特徴について解説・指導した。
- ・ 教員によるデモンストレーション後に、さらに実験書を確認し、実験の流れを理解してから実施するよう 指導した。

# 授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】(後期) 1 クラス

- ・ 媒体作成において、対象者に理解してもらう為の工夫(フォントやレイアウトなど)をアドバイスした。
- ・ 学生個々人にインターネットから得られる情報の取捨選択についてアドバイスした。引用する場合は「出 典先の表記をする」など、著作権を侵害しない方法を指導した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本薬理学会		2007年8月~現在に至る
日本栄養改善学会		2015年4月~現在に至る
山口大学医学会		2015年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月		行所、 は発表				概		要
(著書)											
(学術論文) 1. 糠床への浸漬による野菜に付着する微生物叢の変化	共	2017.3		西南	女学院大	学紀要	Vol.21		糠床に 18 菜)に付え べた。水が 漬野菜の- し、乳酸i	時間浸漬( 管する微生 たいのみの 一般細菌が 菌・酵母は 古田吉史 甲斐達夫	,田中貴絵,
(翻訳)											

2 0 1 6 年 度	研	究	業績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の年		発行所、 (は発表学				概		要
(学会発表)										
							教育研?			017.3.6現在) 単0,共1)

外部資金(科学研究費補助	b金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>[2)</u>
(1)	共 同 石	开 究	
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額
如 先 超 日	父的凹体	○代表者()内は学外者	(単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	一般社団法人	○ 清末達人	797,000
	日本栄養士養	田川辰也	
	成施設協会、お	近江雅代	
	よび西南女学	天本理恵	
	院大学共同研	久保由紀子	
	究費	坂巻路加	
		青木るみ子	
		境田靖子	
		手嶋英津子	
		山田志麻	
		石本祐子	
		石井愛子	
		田中貴絵	
		浅野嘉延	
		稲木光晴	
		(辻澤利行)	
		(日高勝美)	
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展	西南女学院大	○田川辰也	1,139,000
開	学共同研究費	近江雅代	(2017年度、配分予定)
		境田靖子	
		手嶋英津子	
		石井愛子	
		田中貴絵	
		浅野嘉延	
		稲木光晴	
		(辻澤利行)	
		(日高勝美)	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(2)	個	人	研	究				
研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考		

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

学内における活動等(役職、委員、学生支援	子	おりる	古   野   等   (佼職、妥)	貝、子生文援ほどん
----------------------	---	-----	--------------------	-----------

懇親会委員 2015年4月1日~2016年3月31日

# 人 文 学 部

# 英 語 学 科

# 2016年度教育研究活動報告用紙

氏名 阿部 弘 職名 教 授	学位 MA(TESL) (カンザス大学 1976年)
----------------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育における英語音声学	英語教育、音声学、小学校英語

#### 研 宪 課 題

継続的な研究テーマは「英語教育における効果的な音声指導の探究」である。中学校・高等学校の学習指導要領には、「コミュニケーション能力の育成」の重要性が謳われており、その中でもとりわけ音声教育に関しては強調されている。一方、公立小学校においては、2011年度から継続中の小学校5・6年生対象の英語「必修化」は、2020年度開始の次期指導要領では「教科」となり、「外国語活動」は、3・4年生が対象となる。さらに、次期指導要領に円滑に移行できるよう、2018・2019年度が移行措置期間となったため、ますます音声教育の重要性が増してくることになる。しかしながら、現場の指導者は音声指導に関しては不得手な方が多いため、現在取り組んでいる実践的な研究が現場での教育の一助になり得ると確信している。そして最終的には小・中・高・大における音声指導の一貫性が重要な意味を持っていることを提唱したい。

いみじくも、2016年1月6日付の日経朝刊には、文科省が英語教員の「話す・書く」能力強化に2018年度から着手するとあり、その中で、「中学生や高校生の指導に必要な正しい発音、話す力、書く力を養成するには十分とはいえない」(文科省担当者)と書かれており、音声指導の重要性が指摘されている。

担当	授	業科	目
	単位	立数	
科 目 名	必修	選択	
Practical English Phonetics I (前学期)	2		
Practical English phonetics II (後学期)	2		
英語教科教育法V(前学期)	2		
専門演習 I (前学期)(英語学科 3 年)	2		
専門演習Ⅱ(後学期)(英語学科3年)	2		
卒業研究(通年)(英語学科4年)	4		
教育実践研究(不定期)(英語3・4年)	1		
教職実践演習(後学期オムニバス)(英語)	2		
キャリア開発(後学期)		1	
英語Ⅲ(前学期)(看護・栄養学科2年)		1	
英語IV(後学期)(看護・栄養学科2年)		1	

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 Practical English Phonetics I 】

担当しているどの科目も「授業学」ということばを念頭に置いた教育を実施している。Practical English Phonetics I (前学期) は英語学科1年生対象の必修科目である。授業は90分を二分して、前半45分は理論中心の展開の中で全体の practice を行い、後半45分は小グループに分けて、隣室小部屋での Group Lesson と呼んでいる発音の個人矯正指導を実施した。このことにより、英語学習における正しい音声修得の重要性を受講生に認識させた。4月から7月にかけては英国 Winchester 大学から来た4名の学生にも授業を参観させ、課題を探求させながら日本人学生に対して英語のモデルとしての働きを担わせた。

## 授業科目名【 Practical English Phonetics II 】

この科目も英語学科1年生対象の必修科目である。中身は前学期と同様な時間配分での授業になっている。 とりわけ指導上絶対に切り離せないのが、受講生に好評な発音の個人矯正指導である。他にも、前・後学期を 通してテキストの本文を各自録音させ提出課題とし、総合評価の一部とした。

授業評価アンケートの結果によると、ほぼ担当者のねらい通りの結果を得ているので、満足度は高いと言える。しかしながら、予習・復習に時間をかけていない学習者が少数ながら存在したのは残念であり、新年度の対策としたい。

#### 授業科目名【 英語教科教育法V 】

教職課程履修4年生対象の必修科目である。教育実習に行く直前の指導であるため、主として模擬授業を中心に展開させ、それをお互いに批評し合い、教師が最後のコメントを行うという実践的な内容であった。さらに、一人ひとりを対象に、実習直前の発音個人矯正指導も、毎年恒例のことながら、授業時間外に実施した。※受講者9名のうち、1名が福岡県の教員採用試験に合格した。

## 授業科目名【 専門演習 I】

英語学科3年生対象の前学期必修科目である。ゼミのテーマは「英語音声学的見地からの英語力強化と個人総合力強化戦略」である。前学期は次の4点を柱とした授業を展開した。

- 1. リスニングの強制課題→目的:強制的な課題提出によるリスニングカアップ
- 2. 日刊紙筆写(編集手帳、天声人語など)の強制課題→目的: 国内外の情勢の把握、教養力の育成、自己分析・ 面接対策の準備
- 3. 最新新聞記事を利用した就職活動への準備→目的:自己分析の強化
- 4. 時事問題を含めた国内外の諸問題に関する英文記事などの理解→目的:レポート作成やグループディスカッションなどの資料収集

# 授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

英語学科3年生対象の後学期必修科目である。ゼミのテーマは「専門演習 I」と同じものを継承している。 後学期は次の5点を柱とした授業を展開した。

- 1. 日刊紙筆写(選択課題)→目的:さらなるグローバル知識の修得
- 2. 最新新聞記事を利用した就職活動への準備継続→目的:自己分析・人間力強化
- 3. 知的書評合戦「ビブリオバトル」(Bibliobattle)へのチャレンジ→目的:教養力・論理的思考力・プレゼン テーション力などのブラッシュアップ
- 4. 希望就職企業を意識した模擬面接へのチャレンジ→目的:自己分析力・自己表現力などの強化
- 5. 卒業論文作成に関するテキストの一部輪読→目的:卒業論文の書き方(特にテーマとアウトライン)入門

# 授業科目名【 卒業研究 】

英語学科4年生対象の通年必修科目である。3年次で学修したことを一部継承させながら、就職活動の手助けになるような指導を行った。同時に4年次の最終目標は卒業論文を完成させることにあるので、「論文&レポートの書き方」及び「説得する文章力という2冊を輪読しながら、テーマ設定やアウトライン作成に向けた指導を行った。継続的な卒論指導のチェックをしながら、年明けの1月16日(月)に受講生6名中5名(1名は23日に実施)の、ゼミ内発表会を実施した。なお、4年生の卒論発表会は、全員対象の「ポスターセッション」形式にして、1月23日(月)に実施した。ゼミ生の卒論は「2016年度卒業生阿部ゼミ卒業論文集」として冊子にして6名に配布した。

#### 授業科目名【 教職実践演習 】

大学全体の教職課程履修4年生対象の必修科目である。これまでの教職課程での学びと教育実習を振り返りながら、教師としての使命感、保護者や地域社会への責任、信頼される学校づくり等の課題について総合的な理解を深めることで、実践力をさらに伸ばす機会となることを意図して開講されている。オムニバス形式であるため、教職課程に関わる複数の教員による授業となっている。

# 授業科目名【 キャリア開発 】

英語学科1年生対象の選択科目である。授業回数は8回で、初回は北九州市役所職員による講演、2~7回目は「三井住友銀行」の行員が講師となっての指導、最終回は、グループ分けした学生たちによるプレゼンテーションを行った。発表のテーマは「銀行や証券会社の機能を活用して、北九州市に若者を呼び込む方法の考

案」であったが、各グループのユニークな発想が提示され、興味深かった。阿部は、授業評価責任者として、 出欠・レポート・プレゼンテーションなどの総合チェックを行い、受講生の評価につなげた。

#### 授業科目名【 英語Ⅲ 】

看護学科・栄養学科2年生対象の選択科目である。ただし、看護学科の場合は「英語  $I \cdot II \cdot III \cdot II$ 

# 授業科目名【英語IV】

看護学科・栄養学科2年生対象の選択科目である。選択の仕方は、上記「英語Ⅲ」で示した通りである。テキストは前学期使用のものを継続使用し、色々な分野の情報を読み取りながら、「広い教養・基礎的な教養」を念頭に置いて指導する予定であったが、残念ながら両学科からの履修登録者は0名であった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
九州英語教育学会	全国大会事務局長2回、副会長・評議員	昭和 52 年 12 月~現在
外国語教育メディア学会		昭和53年1月~現在
日本児童英語教育学会	九州・沖縄支部長(2010 年4月~2013	平成2年8月~現在
	年3月)	
日本英語音声学会	九州・沖縄・四国支部理事	平成8年12月~現在
	(1996年 12月~現在に至る)	
全国英語教育学会	九州で全国大会開催時に2度事務局長	平成14年4月~現在
	(1992年、1999年)	

研	究 業	績 等	に関する	事 項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					

研	究	<b>養</b>	等に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・共著の短	発行 発表の		発行所、多 (は発表学				概	要
(翻訳)									
(学会発表)									
(その他)									
							教育研 著書	F究業績総	数(2015.1 現在)
							学術論		
							学会発	<b>泛</b>	

	外部	資金	(科学研	充費補助	协金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	·s)
				(1)	共 同 斫	开 究	
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外	部資金	: (科学)	研究費補明	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u></u>	
				(2)	個 人 码	开 究		
研	究	題	目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備	考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の	名称			役	職名	等			任		期	
(内 容)	)				190	.,			期	間	等	
・九州英語教育学科(KAS	ELE)	幹事会	九州	英語教	女育学会語	副会長	:•幹	$2016^{\frac{4}{2}}$	<b>丰4月16</b>	3日(土)		
召集の手配・協力など			事									
<ul><li>英検2次試験面接対策</li><li>象:高校生)</li></ul>	講座①	)(対			営・講師( <議室)	が ウ	エル	2016 <sup>£</sup>	<b>手</b> 6月30	)日(木)		
• 英検2次試験面接対策	講座(2	)(対	企画	i・運営	さ・講師(	於ウ	ェル	2016 <sup>4</sup>	丰10月2	27 日(木)		
象:高校生)			戸畑	18階分	·議室))							

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

- ・学生委員会委員(2007年4月?~現在)
- · 英語学科長(2012 年 4 月~現在)
- ・ウィンチェスター大学教育実習生に「PHONETICS」の講義(2016年5月~6月、9年連続)
- ・ オープンキャンパス 2016 模擬授業 テーマ: 「英語の発音を学ぼう」 ~ あなたはアナログ派? or デジタル派? ~ (2016年7月16日)
- ・北九州市立板櫃中学校・北九州市立思永中学校における、英語学科教職課程履修者 3・4年生による学習支援のコーディネーター(前者は 2014 年 4 月~現在、後者は 2015 年 4 月~現在)
- ・「英検準一級」 一次試験合格者の二次模擬面接個人指導(対象者: 英語学科3年生(I.Y.)) (2016年7月6日(水)) → 結果は「合格」
- 「英検準一級」一次試験合格者の二次模擬面接個人指導(対象者: 英語学科3年生(U.O.)) (2016年7月7日(木)) → 結果は「合格」
- ・福岡県教員採用試験(中学校)一次試験合格者の二次個人模擬面接及び英語模擬面接個人指導(対象者: 英語学科4年生(M.O.)) (2016年8月22日(月)) → 結果は「合格」
- ・「英検準一級」一次試験合格者の二次模擬面接個人指導(対象者: 英語学科 3 年生 R. F.)) (2017 年 2 月 10 日・2 月 15 日→結果は「合格」
- ・高校訪問(2016年6月に宮崎・鹿児島地区で6校、10月17・26の両日に山口地区で9校) 〈部活動・その他〉
- ・ 朝礼司会及びチャペルの司会(チャペルの司会は年間計6回) (2014年度より追加部分)
- ・大学・短期大学部テニス部顧問(2003年4月~現在)(短期大学時代は1987年4月に部昇格以来2003年 3月までテニス部顧問、九州1部リーグに昇格して3年、4年前2部に転落したため、現在チーム再建中)

氏名 マルコム ロス スワンソン 職名 教授 学位 大学教育部大学院修士課程
---

研 究 分 野	研究内容のキーワード					
Active learning	Active learning, student-centered learning, tablet					
2. Technology in the classroom	devices, self-access, presentations					
3. Self-access learning centres						

### 研 宪 課 題

- 1. Language study through active learning
- 2. Digitising language learning
- 3. Use of portable technologies as student resources

# 担 当 授 業 科 目

- Advanced English Discussion I & II
- Area Studies II
- Extensive Reading I, II, III (supervision)
- Media English / English Multimedia
- Media Skills
- Oral English I & II (英語学科、観光文化学科)
- Presentation Skills / English Presentation
- 英会話 I&Ⅱ(栄養学科)
- 欧米文化交流研修
- 専門演習
- 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【Advanced English Discussion I & II】

この授業は、ジッツマン氏と2名で担当している。2016年度はアクティブ・ラーニング及び学生に個人学習を習慣づけさせることに焦点をあてた。授業目的には531教室は大変実用的で2017年度は学生に更なる批判的思考を身につけるための教材や活動を取り入れること、またジッツマン氏と相互評価をすることを予定している。

# 授業科目名【Oral English I & II (英語学科、観光文化学科)】

今年度この科目は、過去数年行っているプログラムを継続している。一方で、学生には CHIeru を使用しての e ラーニング学習をより一層推奨し、その結果プレゼンテーションやディスカッションでは完成され、スキルの向上が明確に示された。今年度から観光文化学科との協同によるカリキュラムが実施された。教科課程を一元管理しているため、人文学部のオーラル・イングリッシュ I & II 、 英会話. I & II はうまく運営されている。

#### 授業科目名【Area Studies II】

今年度のこの授業の目的は、一つの国(カナダ)に焦点をあてながら、他国と比較することで 学生の理解を促すということであった。また、学生には広範囲のテーマを扱った発表を毎週課し たこともとても有効であった。

# 授業科目名【Presentation Skills / English Presentation】

この授業で初めて531 教室(アクティブ・ラーニングスペース)を使用した。この教室を使用することで、学生は多種多様のコンピュータ・フォーマット、IPads、電子白板を使用し、広範囲のプレゼンテーションが完成でき、大変有効であった。

# 授業科目名【欧米文化交流研修】

夏期休暇中の英国及び仏国における3週間の文化交流研修は成功の中で終了することができた。テロの心配がなされたが、全行程はスムーズに実施され、参加者は欧州の文化を直に体験し、多くのことを学ぶことができた。

通常授業以外に、英語学科の学生のために以下の特別行事を行なった。

- 俳句・花見イベント (Haiku & Hanami Event)
- 英語講義6回シリーズ (English lectures (6x))
- フレッシュ・キャンプ (English Camp)
- シオン英語スピーチ・コンテスト (Zion Cup English Contest)
- クリスマス・インテンシブ (Christmas Intensive)
- ムービー・ウィーク (Movie Month)
- Chieru を使用しての e-Learning 学習
- 高校生を対象とした英語検定2次対策講座・ワークショップ (7月・11月)

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員	1996年~現在に至る
	第 41 全国語学教育学会 大会研究発表 記録集編集長	2016年10月
	Website 編集委員	2010年5月~現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2005年5月〜現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事
				項						
著書、学術論文等の名称	単著・	発行又			、発表雑			概		要
(歩争)	共著の別	発表の生	干月	又は発表	マ子云寺(	の名か				
(著書)										
(学術論文)										

2 0 1 6 年度	研	 究 業		等	に		す	る	事
		, – , , ,	項	•					·
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、 又は発表	発表報 学会等(			概		要
(翻訳)				· · · · ·					
(学会発表)	))/+t-			~~~	•	1.=7/2-	1 (مر	₩I	- /-la []] ] . w
Beyond PowerPoint: Extending the	単著	2016年5月	JALT Pa Okinawa		2016,		をでは、 として、	-	が使用する
Presentation Format			Okiilaw	и			-		プレゼ
									トの使用
						方法は	こ焦点を	とあて幸	報告した。
Tailoring Presentation	単著	2016年11	JALT20	16, Na	goya	本ワー	ークショ	ョップ~	では、
Skills to Student Needs		月							実際指導
								-	ンョン技
						術に <sup>・</sup>   た。	ついて参	≶川省(	こ紹介し
Mobile Technologies for	単著	2017年2月	SUTLF	2017, S	ojo	. –0	長では、	授業の	の中で
Active Learning			Universi	,		学生に	こどのよ	こうに	モバイル
			Kumam	oto			_ , .,	とせてい	ハるか説
						明を行	うった。		

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
			(1)	共 同	研 究		
研	究	題	目	交付団体	研究者 ○代表者()內は学外者	交付決定額 (単位:円)	

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
			(2)	個 人	研 究			
研	究	題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備	考	

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等
梅光学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2016年7月2日
西南学院大学ドージアスピー チ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2016年6月29日
下関市大学ドージアスピーチ・コ ンテスト	ESS Contest 審査員	2016年6月18日
キャンベル杯ディベート&スピ ーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディ ベート&スピーチ・コン テスト審査員	2017年3月12日

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

# 教育経費予算配分委員

英語学科の予算委員を担当し、2014年度委員長となる。

# 情報システム管理運用委員

531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについて取り組んだ。

オープンキャンパス、英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、ZIONCUP(スピーチコンテスト)の委員となって企画、運営を行う。

# 英語学科ウェブサイトの管理

英語学科のウェブサイト情報をアップデイトするための委員会の責任者となる。

# 英語学科フレッシュ・キャンプ委員

プログラムの企画検討を行う。 (行き先:大分県住吉浜リゾートホテル)

#### 教育の質保証プロジェクト会議

531 教室を使用してのアクティブ・ラーニングについて、意見交換を行った。

# 東峰村エコツーリズム・プロジェクト

春期 英語学科学生とフィールドトリップに参加し、ローカルツーリズムにおける農業について体験学習を行った。

#### 地域貢献活動「だいすきにっぽん」プログラムの参加

たプログラムの講師となり、ニュージーランドのマオリの文化について小学生を対象の体験 学習を行った。英語学科学生にもプログラムに参加してもらっている。

#### 模擬授業の実施

北九州市・大分市内の高校生向けに模擬授業の講師を担当した。

授業及び本学の英語使用空間 "Chatterbox Language Lounge"においてどのようにアクティブ・ラーニングを行っているか高校生に紹介した。

また、学生が使用できるように教室を設置し、英会話のイベントを行った。

#### 大学祭での3年生ゼミの出店

毎年ゼミでは大学祭において出店している。	

 氏名
 横 溝 紳 一 郎
 職名
 教授
 学位 博士 (ハワイ大学大学院 1997 年)

研究 分野 研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割 連携(アーティキュレーション)、学習意欲(モティベーション)、アクション・リサーチ

#### 研 宪 課 題

小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、協働的アクション・リサーチを通じて調査・分析している。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。

#### 担 当 授 業 科 目

#### 日本語教育実習(通年)

卒業研究 (通年)

事前及び事後の指導(通年:教職課程)

教育実習Ⅱ(通年:教職課程)

異文化間コミュニケーションI(前期)

世界の中の日本語(前期)

日本語教育方法論I(前期)

日本語教育方法論演習 I(前期)

専門演習 I (前期)

英語教科教育法 II (前期: 教職課程)

異文化間コミュニケーションⅡ(後期)

日本語学概論 (後期)

日本語教育方法論 II (後期)

日本語教育方法論演習 Ⅱ (後期)

専門演習 II(後期)

英語教科教育法 III(後期:教職課程) 教育実践演習(後期:教職課程)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【日本語教育実習】

教育実習の教壇実習授業として、(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州 YMCA での授業と、2 度実施した。昨年同様の実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。

#### 授業科目名【卒業研究】

卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。

## 授業科目名【事前及び事後の指導:教職課程:集中】

教育実習の前後に、英語の教え方に関する具体的なアドバイスを与えた。

#### 授業科目名【教育実習Ⅱ: 教職課程】

教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。

# 授業科目名【異文化間コミュニケーション I】

この分野についての専門的な知識をほとんど持っていない学生対象の授業であるため、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。また、集中力の維持をめざして、(1) 教科書の使い方の工夫、(2) 画像や映像教材の多用、(3) ふり返りの時間の確保、(4) わたしメッセージの発信、(5) 座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。

#### 授業科目名【世界の中の日本語】

「外国人に対して日本語文法の説明を英語でどのように行うべきか」に関する知識を得るために、(1)日本語授業の実体験、(2)媒介語使用の質と量に関する講義、の二本立てで授業をデザイン・運営した。

#### 授業科目名【日本語教育方法論I】

日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。また、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

#### 授業科目名【日本語教育方法論演習 I】

1年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業なので、すでに得た知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

#### 授業科目名【専門演習 I】

『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力(一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力)」「考え抜く力(疑問を持ち、考え抜く力)」「チームで働く力(多様な人とともに、目標に向けて協力する力)」の3つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。

#### 授業科目名【英語教科教育法II】

教師の役割、読む・聞く・話す・書くことの教え方、読む・聞く・話す・書くことを統合した教え方等、英語の教え方について、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、英語の学び方も学べる環境を整えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

# 授業科目名【異文化間コミュニケーションⅡ・ことばと文化】

日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

# 授業科目名【日本語学概論】

日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、 予習→授業での解説→日本語教育能力検定試験の問題回答、という流れで進めた。

#### 授業科目名【日本語教育方法論II】

日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

#### 授業科目名【日本語教育方法論演習 II】

次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業の DVD を作成し、各授業担当者にその日のうち

# に手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。

#### 授業科目名【専門演習 II】

ロジカル・ライティングの能力向上をめざして、演習形式で授業を進めた。

# 授業科目名【英語教科教育法 III: 教職課程】

発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション(連携)の作り方など、英語科教育法 II でカバーしなかった内容に焦点を当て解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。その結果、英語科教育法 II と英語科教育法 III を受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

# 授業科目名【教育実践研究: 教職課程:集中】

他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本語教育学会	評議員(2001年7月~2007年6月)	1988年8月~現在に至る
	研究集会委員(2006年7月~2011年6月)	
	理事(2007年7月~2013年6月)	
	言語系学会連合運営委員会委員(2013年7	
	月~現在に至る)	
	授賞候補選考委員会(2016年7月~現在	
	に至る)	
	地域ブロック運営委員会委員(2016年7	
	月~現在に至る)	
	代議員選挙管理委員会委員(2016年7月	
	~現在に至る)	
九州日本語連絡協議会	事務局長(2007年4月~2011年3月)	2005年10月~現在に至る
日本教師教育学会		2004年4月~現在に至る
日本教育アクション・リサー	副代表(2010年 10月~現在に至る)	2010年 10月~現在に至る
チ・ネットワーク		

2 0 1 6 4	下 度	研 穷	主業	績	等	に	関す	- る	事	項
著書、学術論文等の名 称	単 著・ 共著 の別	発行又は 発表の年 月	記 又は発え	発表雑 等 表学会等 名称			概		要	
(著書) 1.東アフリカ日本語 教育 2	共	2016.8	ケニヤI 師会 JA	日本語教 ALTAK	(1) (2) (3) (4)	開催され 育会議の 編集者名 共著者名	た第二回 内容を っケニュ ー 里見 コ ー 「教師	回・第三 まとめた ヤ日本語 文、中村	回東アシ 本である 教師会 勝司 (	JALTAK

2 0 1 6 4	F 度	研 第	記 業 績	等に関する事項	
著書、学術論文等の名 称	単 著・ 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表雑 誌等 又は発表学会等 の名称	概    要	
(学術論文) 特になし					
(翻訳) 特になし					
(学会発表)  1. 日本語教師養成課程の中で受講生はどのように変容するのかー三年間の歩みを追うー	単	2016.4	2016 年度日本 語教育学会研究 集会九州・沖縄 地区(佐賀)	した全ての必修科目で提出したレポートに	
2. 教材から教案を考 える	共同	2016.8	2016 年度九州 日本語教育連絡 協議会夏季研修 会	る具体的方法に関する提言を行った。	す
				教育研究業績 総数 (2017.3.31 現在)	
				著書       26       (内訳 単 3 , 共 23         学術論文       38       (内訳 単 30 , 共 8         翻訳       1       (内訳 単 0 , 共 1         学会発表       64       (内訳 単 31 , 共 33	)
				(その他)       視聴覚教材     3     (内訳 単 2 , 共 1       書 評     1     (内訳 単 1 , 共 0       科研成果報告書     4     (内訳 単 0 , 共 4       事 典     1     (内訳 単 0 , 共 1       文化庁委嘱     2     (内訳 単 0 , 共 2	) )
				事業報告書 その他の報告書等 11 (内訳 単 0 , 共 11	

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
(1)	共 同 斫	开 究					
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
教師教育者・メンターの成長に関する研究-	日本学術振興	〇 (柳瀬陽介)	1.000,000				
熟達者と新人の情感性と身体性に着目して一	会	(樫葉みつ子)					
		(今井浩之)					
		(玉井健)					
		(山本玲子)					
		(長嶺寿)					
		(田尻悟郎)					
		(吉田達弘)					
		横溝紳一郎					

外部資金(科学研究費補助	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>(</u> 2)
(2)	個 人 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考
小学校高学年における英語の読み書き指導に 関する衝動的アクション・リサーチ	日本学術振興 会	1,100,000	

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称	彸	職名	垒			任		期
(内 容)	TX.	机石	4			期	間	等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長				$2007^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	<b></b> 喜る
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員				$2007^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	<b>E</b> る
福岡市国際教育礎プラン運営指導委	委員				$2015^{4}$	年4月~	現在に3	Eる
員会								
福岡市国際教育懇話会	座長				$2015^{4}$	年4月~	現在にヨ	<b></b> 喜る
福岡県立香住丘高等学校スーパーサ	委員				$2011^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在に至	<b>三</b> る
イエンス・ハイスクール事業運営指導								
委員会								
福岡県立香椎高等学校スーパープロ	委員				$2015^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	<b>E</b> る
フェッショナル・ハイスクール事業運								
営指導委員会								
福岡市教育センターG研(グループ研	研究指導和	旨			$2015^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	<b></b> 喜る
修)								
福岡市中学英語教育研究会主催	コーディス	ネーター			$2012^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	<b>E</b> る
Yoko-Yoko Network								
公益財団法人日本英語検定協会講師	講師				$2012^{\frac{1}{2}}$	年4月~	現在にヨ	きる
派遣								

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

国際交流委員会 委員長 2016年4月1日~2017年3月31日 学生募集委員会 委員 2013年4月1日~2017年3月31日 教職委員会 副委員長 2015年4月1日~2017年3月31日 外部資金導入プロジェクト 委員 2015年4月1日~2017年3月31日

22.6.6.1

氏名	村橋	素行			職名	教授	学位 フランス語学士(西南学院大学)
		研	究	分	野		研究内容のキーワード

#### 研 宪 課 題

ナサニエル・ホーソーンが「緋文字」において表明した文学者としての宣言について、作品に埋め込まれた コードを解き明かすことを通じ、より明確に再定義する。

# 担 当 授 業 科 目

前期: Intensive Reading I, TOEIC 演習 A, 現代ビジネス人材論(旧カリキュラム)

well to

後期: Intensive Reading II, TOEIC 演習 B, 現代ビジネス人材論(新カリキュラム), インターンシップ

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【Intensive Reading I, Intensive Reading II】

- ・ 高校までの文法・語法・構文についての学修内容を再確認し、その知識基づく英文解釈。
- 教材の客観的理解と、視点を提示することによるクリティカルシンキングの支援。
- 規範文法では説明できない生きた英語への対応力養成。
- 習熟度別クラス編成において、下級クラスでは基本事項の確認に時間を傾斜配分。

## 授業科目名【TOEIC網A TOEIC網B TOEIC網C, TOEIC網D】

- ・ 欧米におけるビジネスや社会生活のしくみや実例紹介を通じた、実社会で必要とされる英語情報の処理技能向上につながる学修。
- ・ 個人別の弱点分野の把握に努め、添削や研究室で個別指導。

# 授業科目名【現代ビジネス人材論】

- ・ 社会人基礎力の概念と、その各能力要素について自律的な向上を図る手順をパワーポイントで提示。
- ・ ビジネス実務で不可欠な状況分析手法、口頭・文書による各種コミュニケーション、企業会計知識、マナーなど、即戦力として必要な基本技能を整理して提供し、演習を実施。
- ・ 英語・日本語による各種実務書類の作成演習において、個人別添削でフィードバック。

# 授業科目名【インターンシップ】

- ・ インターンシップで当面必要とされる職場における基本動作、基本知識の獲得と自主的な業界研究の支援。
- ・ 社会の動向に関心を持ち、自らの視点で意見をまとめて発表するための手法養成と、丁寧な文章表現、謙 虚な話法の定着化。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本アメリカ文学会		2014年5月
九州アメリカ文学会		同上
北九州アメリカ文学研究会	編集委員	2014年9月
北九州アメリカ文学研究会	編集委員	2014年9月

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(老小≒口)											
(翻訳)											
(学会発表)											
(1,2)=20											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
	(1) 共	同 荷	开 究					
研 究 題 目	ダ	で付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況(オ	本学共同研究費を含	む)	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	B		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)

氏名 大谷 浩 職名 教授 学位 EFL修士
------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育、第2言語習得	英語教育改革、英語力向上

#### 研 宪 課 題

日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

#### 担 当 科 目

英語学概論 I 、英語学概論 II、Extensive Reading III, Paragraph Writing, Creative Writing , Academic Writing 専門演習、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【英語学概論 I】

教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかり やすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて 確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を 振り返る時間を取った。

#### 授業科目名【 英語学概論 II 】

英語学概論Ⅰに同じ。

## 授業科目名【 Academic Writing 】

Paragraph Writing の復習から始め、Essay への拡張のしかた、そして、文献引用や、文献リスト作成の約束事などを指導し、4年生受講者については、自らの卒論テーマと重なるようなテーマを選ばせて、作品をひとつ仕上げた。

## 授業科目名【 Extensive Reading III 】

学生のレベルを考慮し、難しすぎない教材を選出した。読むだけでなく、内容が把握できているか、の 確認を行えるようにした。授業前半は時間を計って読ませ、後半は市販ソフトを利用した上で、効率的な内容 確認作業を各自のスピードで行えるようにした。また1人1人に単語帳を作成させた。

#### 授業科目名【 Paragraph Writing 】

クラス全体への説明では理解できない学生が多いので、個人指導の時間を必要に応じて多めに取った。

# 授業科目名【 Creative Writing 】

選挙権、夫婦別姓、お客様は神様という接客の仕方、など、社会的なテーマを選び、それらについて調べ させ、意見交換をしたうえで、英文でまとめさせた。

# 授業科目名【 専門演習 】

具体的な、英語力向上の勉強方法の紹介や、全てが英語で進行する学会へ授業時間外に参加したり、TEAPを博多まで受験に行かせたり、英語の達人と呼ばれる人達が表した本の Book レポートを書かせたり、外国人留学生が日本で就活するうえで必要な知識を英文で読むことにより、自分たち自身の就活の心構えを促したり、多種多様な活動を行った。

# 授業科目名【 卒業研究 】

3名のうち2名が、出席日数ぎりぎりのような参加状態で大変苦労した。12月には保護者と頻繁に連絡を取ったり、対応に追われた。本人の心に寄り添うきめ細やかな対応を行ったが、2名のうち1名は、卒論不合格にせざるを得なかった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
全国英語教育学会		1995年
九州英語教育学会	役員(常任)、幹事(常任)、事務局長 (2001-2002)	1994年

研	究 業	績 等 に 関	する事項
単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
			性事明度 ナル N. V. 1
			時事問題を the New York Times から選び、単語や用例な
			どを、上級読者向けに解説する
単著			コラムの執筆。他に2名担当者
	担当	(朝日新聞社)	あり。
	単著・共著の別	単著・ 発行又は 発表の年月	単著・ 共著の別 発表の年月 発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称 単著 2 ヶ月に一度 朝日 Weekly

2 0 1 6 年度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(学会発表)											

		外	部資金	(科学)	研究費補明	力金等)	導入状	况	(本学共同	司研究費を含む	<u>'c</u> )
					(1)	共	同	矿	チ 究		
	研	究	題	目		交	付団体		研 ○代表者	究 者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし											

外部資金(科学研究費補助	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> c)
(2)	個 人 码	开究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
全学的英語力向上を目指した体制作りについ		1,120,000	共同研究者 八尋春
ての調査・研究			海 マルコム・スワン
			ソン

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称			役	職名	等			任		期	
(内 容)								期	間	等	
なし											

入試委員会委員、学生募集委員会委員、教学マネージメントWGメンバー、入試問題作成委員、高校への出前 授業担当、英検2次面接対策講座担当(英語学科で実施)、

氏名   塚本 美紀   職名   准教授   学位 修士 (教育学) (テンプル大	ル大学 2005年)
--	------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
英語教育学					CLT (Communicative Language Teaching), TETE (Teaching English Through English), ELF (English as a Lingua Franca)

#### 研 宪 課 題

英語教育学について、コミュニケーション能力を育成する指導方法について中心に考察する。また、現代の国際社会において、英語が事実上の国際語であるという視点から英語教育をとらえ考察を深めたい。

# 担当授業科目

# Grammar & Composition I (A)、(B) (前期)

小学校英語教育入門(前期)

英検演習E(前期)

専門演習I(前期)

Grammar & Composition II (A)、(B) (後期)

小学校英語教育研究(後期)

英語教科教育法 I (後期)

英語教科教育法 IV(後期)

専門演習 Ⅱ (後期)

卒業研究(通年)

事前及び事後の指導(通年)(英語学科)

教育実習Ⅱ(通年)(英語学科)

教職実践演習(中・高)(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【Grammar & Composition I】

重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、 授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるように工夫した。

# 授業科目名【小学校英語教育入門】

グループ討議やプレゼンテーションがしやすい教室を使用し、学生が討議を通して自らの理解を深め、プレゼンテーションの機会を増やすことによって自らの考えをまとめて言語化する力がつくように工夫した。

#### 授業科目名【英検演習 E】

学生の動機付けを高め、予習や復習に取り組みやすくするために、習得すべき語彙や文法項目などについて、 毎回の授業での目標を明確に設定した。

## 授業科目名【専門演習 I】

国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を 読んだり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会が持てるようにした。

# 授業科目名【Grammar & Composition II】

授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、身の回りのことや自分が考えていることなどについて、 さまざまなテーマで英文エッセーを書く機会を設けた。

#### 授業科目名【小学校英語教育研究】

授業で学んだ学習の理論やメソッドについての理解を深めることができるように、実際の授業のビデオや指導案を見て討論したり、全員に模擬授業をさせたりした。

#### 授業科目名【英語教科教育法I】

学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげな がら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理 解を深めるようにした。

#### 授業科目名【英語教科教育法IV】

これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生が実施する模擬授業を録画し、それを見ながら振り返りを行った。

#### 授業科目名【専門演習 II】

来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。

#### 授業科目名【卒業研究】

計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。

#### 授業科目名【事前及び事後の指導】

英語教科教育法 IV で行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。 このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと 思う。

## 授業科目名【教育実習 II】

教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。

# 授業科目名【教職実践演習】

学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを 用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」	副代表理事(2016年8月~現在に 至る)	1990年9月~現在に至る

2 0 1 6 年度	ぜ 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(学術論文)											
(都清尺)											
(学会発表) 1. Developing Intercultural Competence of Japanese Students through Study Abroad	共	2017.2	2	Cor (方 Tec: Car	nferen \ Ins hnolog nbodi	stitute (	of om	の育成述べた	<b>戈と留</b> 学	学との関	の異文化能力 関係について 井川好二 塚本美紀
				著書学術		業績 糸 1 9 7	総数(2 (内記 (内記 (内記	沢単	0、± 6、±	共 1) 共 3)	

3	小部資金(科	学研究費補助	1金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	[s]
		(1)	共 同 碛	开 究	
研 究	題目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

(2)     個     人     研究       研究     題目     交付団体     交付決定額 (単位:円)     備     考		外部資金	(科学研究費補助	助金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(c)
			(2)	個 人 石	开 究	
	研	究 題	目	交付団体		備  考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International(世界の女性の地 位向上を目指す国際的奉仕団体)	面接委員 会員 アドボカシー・奉仕委員会 副委員長	1993年7月~現在に至る 2010年4月~現在に至る 2016年6月~現在に至る

教務委員会 副委員長(2014年4月1日~2017年3月31日)

キャンパスハラスメント相談員(2014年4月1日~2016年3月31日)

ゴールデン Z クラブ 顧問 (2014年4月1日~2016年3月31日)

教職員懇親会 委員(2016年4月1日~2017年3月31日)

点検評価改善会議大学機関別認証評価部会総括担当教員(2016年10月6日~2017年3月31日)

氏名 ブラウン馬本 鈴子 職名 講師 学位 文学博士
----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レッシング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、
	シェンター、イヤリス、 

#### 研 宪 課 題

主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。

来年の具体的な研究課題は、授業でも取り扱っている文学作品を扱った映画に関する研究を進めることである。

## 担 当 授 業 科 目

#### 前期

英検演習 A、英米文学入門 I、英検演習 C、英米文学研究、基礎演習 II、専門演習 I

## 後期

英米文学特殊講義、英語資格演習 V、基礎演習 I、英語文学入門 II、英検演習 D、TOEIC 演習 E、専門演習 II

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名 【 英語文学入門 I・II 】

英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学 I」から「英語文学 II」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である The Tale of Peter Rabbit を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料 (DVD) を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。

## 授業科目名【 基礎演習 I・II

大学での学習に必要なスタディ・スキルの基本を身につけることを目標としたこの講義では、盗用などの研究倫理指導を行い、要約の仕方からレポートの書き方に到るまでの基礎技術を日本語と英語の両面で学習させた。

パソコン室を利用する週を設け、パソコンを使ったプレゼンやレポートを課し、パソコン技術を向上できるようにした。そしてプレゼンテーションが自信を持って行えるように、その心構えや効果的な発表の仕方を学べるようにした。最終的に学生たちは、「基礎演習 I」においては日本語で、「基礎演習 II」においては英語で、パワーポイントによるプレゼンを各自が決めたテーマで行った。

#### 授業科目名【英米文学特殊講義】

小林章夫書作の『イギリスの詩を読んでみよう』(NHK 出版)の本が絶版になったので、学生に好評であったその本に書かれていた詩をベースに、技法説明や、詩の紹介などの内容は更に発展させ、詩の技法や鑑賞法を学習していくことができる書き込み式の学習教材を作成し、毎回の授業で配布した。更に、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習用のプリントも作成し、毎回配布した。学期後半にはいくつかの有名な詩を暗唱するテストを個別に行い、リズムや発音の指導も行った。

#### 授業科目名 【 英米文学研究 】

人文学部英語学科の3、4年生に開講されるこの文学の演習では、Oxford Bookworms Library Stage 4のややハイレベルな英文を使用し、ジェイン・オースティンの Persuasion を読解した。毎回の進む量も宿題のレポートも多く、学生にとってはかなりハードな内容となったが、日本語訳の個別添削指導や、文化的背景の補足説明、映像資料を用いて、授業を行った。特に評価の高かった項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(18名中「まあまあそうだと思う」8名、「わりにそうだと思う」9

名、「かなりそうだと思う」1名)であった。また、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」は8名の学生が6回以上、6名の学生が4,5回以上と回答している。自由記述では、「レポートは、ほぼ毎時間あり、私にとっては難しかったです。しかし、その分とても勉強になりました。」「授業で一通り読んだ後に、映画を見たのでわかりやすかったし、レポートに細部まで目を通し、赤ペンでチェックされていたので、正しい訳し方もわかりました」「レポートは最初はとても時間がかかっていたけど慣れてくると最初よりは短時間で書けるようになり、訳の練習になったと思います」「洋書を読む難しさと楽しさを学んだ」など、苦労しながらレポートを続けるうちに実力がついていった様子が窺える内容だった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本英文学会九州支部	支部評議員(なし)	2001年10月~現在に至る
映画英語教育学会(ATEM)九		2006年10月~現在に至る
州支部		
日本オースティン協会		2015年 11月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月						行所、発表雑誌等 は発表学会等の名称					概		要
(学術論文) オースティン作品の女 友 達 : Northanger Abbey を中心に	単著		29 年 3	西南 Vol.		院大学系	读	本稿 North Cather Isabel 友情を登場さしてオ 女性同	anger A ine Mod la Thor 中心に、 せる意 一ステー	J期の rland pe やTi 作品の 作品の に 大ン作品 すン作品 またはフ	作品である 分女主人公 とその友人 Iney 兄妹との 中で女友達を おかた。そ い中における パエミニズムの ぶあるという結				
(研究ノート) A Comparative Study of Doris Lessing's "The Grandmothers" and Anne Fontain's "Adore"	単著		29 年 3 (印刷中)	АТІ	EΜ			ドリス ドマザ 配役・ こ と 多少 化、 理	ーズ』の 視点・糸 、映画の 違ってい での愛、も	の原作と 計末から の内容や いても、 セクシュ 映画がど	短編『グラン 映画版を舞台、 比較研究した。 セリフが原作 原作のテーマ アリテー、老 のように引き にした。				

外部資金	(科学研究費補助	加金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> c)
	(1)	共 同 研	开 究	
研 究 題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

特になし		

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
特になし											

i	生 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名 (内 容)	称		役	職名	等			任 期	間	期 等	
特になし											

倫理審査委員副委員長 ハラスメント委員

FD 委員

# 観 光 文 化 学 科

氏名	須藤 秀夫	職名	教授	学位	修士(経営学)
八石	須膝 汚入	和(人口	4以又		(米国ペンシルバニア大学ウォートン校 1978年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
国際金融、 国際経済、 国際ビジネス	金融危機、企業統治、 金融資本主義
	企業の社会的責任(CSR) ESG 投資

#### 研 宪 課 題

- ・金融危機および通貨危機を発生させる要因(企業統治、米国金融規制緩和など)について考察する。
- ・企業の社会的責任(CSR)、CSR を基準にする投資(SRI、または ESG 投資) について、欧米と日本での動向を考察する。

担当	授	業科	目
科     目     名	単位	立 数	授業評価ポイント
科   目   名	必 修	選択	※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
国際経済入門(2学科合同)(前期)		2	
国際ビジネス論(2 学科合同)(前期)		2	
基礎演習 A(前期)	1		
専門演習 II (前期・後期)	2		
卒業研究 (前期・後期)	4		
多国籍企業論 (後期)		2	
ビジネス・ファイナンス (後期)		2	
経済学入門(後期 英語学科)		2	

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【国際経済入門(前期)】(観光文化学科と英語学科学生向け2学科合同)

- ・学生の疑問・質問を「出席票(兼)質問票・感想票」に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を 把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。
- ・複雑な事象(例えば、通貨危機、世界的金融危機等)の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し、学生の興味を引き出すことに努めた。
- ・最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項(輸出とアベノミクス、自由貿易協定 FTA/EPA、英国の EU 離脱等)が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。
- ・学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。
- ・覚えてほしい語句は、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

# 授業科目名【国際ビジネス論 (前期)(英語学科学生および観光文化学科学生向け合同】

- ・学生からの質問を「出席票(兼)質問票・感想票」の形で受け付け、学生にとって分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させること、積極的な受講態度を引き出すことに努めた。
- ・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。
- ・国際ビジネスの現場の状況、考え方を知り、理解してもらうために、商社の中国ビジネスの歴史的事例、多くの学生が関心をもつ日本航空の中国人マーケットでの文化的摩擦の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。
- ・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっている事例と関係していること、また就職事情にも関係することが理解できるように努めた。
- ・覚えてほしい語句(タックス・ヘイブンなど)は、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

## 授業科目名【基礎演習 A (前期)】

・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。 そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。

論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。

・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加 意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。

## 授業科目名【多国籍企業論(後期)】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのは どういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
- ・学生にとって馴染みのある企業(ネスレ、Disney等)の経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。
- ・写真やビデオを用いて、CSR、企業戦略などに関する事例(ナイキ等)を紹介し、書物だけではわかりにくい 現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。
- ・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の中核的生産活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである
- ・馴染んでもらいたい重要な語句(CSR、BoP ビジネス等)を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、 学生の注意喚起を促した。

# 授業科目名【ビジネス・ファイナンス(後期)】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのは どういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し、学生の理解の改善に努めた。また、一方通行 にならないように、学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。
- ・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。
- ・財務分析を理解させ、前向きの受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ同業2社が実際に発表している数字を比較分析する課題を与えた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。
- ・EXCEL を十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCEL の表計算を使った収支 計画の課題を与え、EXCEL の知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。
- ・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題(営業黒字、損益分岐点比率、格付けなど)が今日 的な経済問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた。
- ・利回り計算、為替差損益などは、金融界に就職すると求められる資格である外務員(金融商品)の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

# 授業科目名【経済学入門(後期 英語学科)】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのは どういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
- ・馴染んでもらいたい重要な語句を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。 また、語句(ハイパーインフレ、直接金融・間接金融など)の説明などでは、図や写真を多用した。
- ・経済情勢、日本経済・財政事情の動向等について、最新のデータを使って解説し、今日的な経済社会問題と して学生が身近に感じることを狙った。
- ・経済事象がこうなると次にこうなる(例:需要が増えると物価が上昇する、金利が低下すると企業は借入を 増やして投資を増やす、など)という理屈を理解してもらい、経済に馴染んでもらうことを狙った。
- ・学生の経済に対する関心・意識を向上させ、経済記事に目が向くようになることを狙いとして、新聞・雑誌 の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。

## 授業科目名 【専門演習 II (前期・後期)】

- ・実際の為替相場を使った模擬外為ディーリングで利益を挙げる競争を行わせ、どのように為替取引が利益・ 損失につながるのか、どのような要因が相場の変動につながるのか等の理解を深めさせることに努めた。
- ・日本の経済社会(少子高齢化、農業、移民政策、コンビニ業界など)に関する文献(『これからの日本の論点』、『2016年の日本の論点 100』)を輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。
- ・こうした議論、発表に際しては、学生のコミュニケーション能力向上を狙って、自分はこう考える、どうしてそう考えるのかを言うように指導した。
- ・グループワークその1として、ある商品を外国一国で作って売るための海外進出に際して必要な情報を自分 たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。
- ・グループワークその2として、自分たちで選んだテーマ「同性婚」について賛成・反対の立場のチームに分かれて討論させ、自分の意見を言い他人と議論する面白さを認識させることを狙った。また、こうなったら、次に社会はこうなる、次にこうなると考える・予想することが大事であり、数字や事例・事実で裏付けを示すことが主張を強める大事な要素であることを強調して、気づきを促した。
- ・就職対策として、自分が関心をもつ企業の研究を取り上げた。企業の社会的責任(CSR)にどう取り組んでいるか、サプライチェーン(何をどこから調達して、何を作り、誰にどのように提供するのか)はどうなっているかを発表させ、議論し深掘りを試みた。

# 授業科目名【卒業研究(前期・後期)】

・考察・論述の枠組みが筋道立っていてしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを 通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確に すること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
国際ビジネス研究学会	会員	2002年10月~現在に至る
日本金融学会	会員	2012年 5月~現在に至る

2016年度	研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の年		発行所 又は発		雑誌等 等の名称		概		要	

2016年度	研	究 業 績	事 に 関っ	する 事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 「日本における ESG 投資の進展―公的年金資金が新しい流れを作るか」	単著	2017年2月	『西南女学院大学紀要』 Vol.21, 2017	世界のE(環境)S(社会)G(ガバナンス)投資の市場が拡大を続ける中、日本の市場は停滞していたが、ESG投資について最近日本の投資家の意識が高まり進展する動きが出てきた。その進展の要因として、第一に、ESG投資を唱える国連責任投資原則に、世界最大の機関投資家である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が署名したこと、第二に、ESG投資を躊躇させる一つの要因であった米国エリザ法の解釈について同法はESG投資を妨げないと米国政府が明確な解釈を示したこと、第三に、連合を初めとする労働組合にESG投資に対する前向きな姿勢が出てきたことを挙げ、論考した。
(翻訳)				
(学会発表)				let begree de ville teles et il ville
				教育研究業績 総数 (2017年3月31日現在) 著書 なし 学術論文 17 (内訳 単15 共2) 翻訳 なし 学会発表 なし

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(2) 個 人 研 究									
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考						

社 会	に お け る 活 動	動 等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
株式会社ジェイコム九州 北九州局	テレビ放送審議委員	2012年12月~2013年11月 2013年12月~2014年11月 2014年12月~2015年11月 2015年12月~2017年3月

- · 人文学部長
- ・観光文化学科の社会貢献グループ WILL の顧問 (高橋先生と共同で顧問)

WILL は、若松地区の地域活性化事業(「とっとこ ~素敵な瞬間を若松で~」というロゲイニング・ゲーム(注)ほか)(若松区役所との連携)、市内・県内・県外向け色刷りパンフレット「北九州を楽しむ。オトナ女子旅」の制作(北九州市役所観光課との連携)、福岡県や北九州市主催のイベント(県知事、北九州市長、地元財界人などが出席)での北九州の魅力に関する学生の発表など、幅広く活動した。

注)ロゲイニング・ゲームとは、参加者が地図(スマホ使用)を片手にあらかじめ設定された チェックポイントを制限時間内に多く回って写真を撮り得点を競うもの。参加者には、ゲーム終了後、撮った写真を SNS で発信することを要望した。

次の1つのWILL活動案件に補助金を獲得することが決定した。 「近代化産業遺産(世界遺産)のマンガ教材第2編の制作」 (2017年6月完成予定) 北九州活性化協議会からの補助金 100,000円

・バドミントン部顧問

氏名	八尋春海			職名	教授	学位 修士
	研	究	分	野		研究内容のキーワード
観光学						阿蘇市、観光、地域振興

研 宪 課 題

阿蘇市における観光による地域振興

担 当 授 業 科 目

漸燃霧

朝鴻習Ⅱ

基礎網A

Intensive Reading II

菜等院

朝耀IA

映画で学ぶ世界遺産

映画で学ぶ欧米文化

ホテル・ブライダル論

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 海外旅行実務 】

国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者がほとんどいないという前提で、国内実務の基礎をまず、指導した。 他方、国際旅行実務管理者試験に合格した学生については、授業外に総合旅行業務取扱管理者試験対策の個別 指導を行った。

# 授業科目名【 映画で学ぶ欧米文化 】

多くの学生は一般受けする映画を見たいと希望していたが、あくまでも授業内容優先で映画を選定した。 一見、つまらなそうに見える映画の奥の深いところを解説して、興味を持たせるように工夫した。

# 授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

友原ゼミから移って来た学生については、前期で学んだことを活かせるような内容とした。 元々の八尋ゼミの学生については、前期に学んだことを実践で生かせるように、阿蘇の観光振興に取り組んだ。

## 授業科目名【 映画で学ぶ世界遺産 】

地図を活用するようにした。ただの暗記にならないように、地図を開いて注意して見るべき点を詳しく解説をした。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本比較文化学会	理事 2006 年~、	1996年
日本比較文化学会九州支部	支部長 2010 年~	1996年
余暇ツーリズム学会	九州支部事務局長 2009 年~	2005年

2 0 1 6 年度		 究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書)				
(学術論文) 阿蘇市におけるグリー	単	2016 年4月	『比較文化研究 121	
ン・ツーリズムについて	<del>- 1</del>	2010 平4万	号』	
(翻訳)				
(学会発表) フィールドワークによ	共	2016 年 5 月	日本比較文化学会第	
る比較文化研究		2010   071	30 回国際学術大会(於	
『比較文化の方法論』			弘前学院大学)	
阿蘇市内の農産物直売	単	2016 年10月	2016年度余暇・ツー	
所による地産地消の取り組み			リズム学会九州支部 大会 (於 都久志会	
			館)	
阿蘇市におけるコンテ	単	2016 年 10	映画英語教育学会第	
ンツツーリズムについて		月	18 回九州支部大会(於福岡大学)	
			I四IPIJノ <b>、</b> 寸一/	
L	<u> </u>	<u> </u>		1

2 0 1 6 年 度	研研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑 会等の			概		要	
日本の大学における観光系科目の組み入れについて	共	2016 <sup>‡</sup>	年12月	文会会院	を会国 (台湾 輔仁) 輔仁力 (主催)	治湾日際学術 日本語 大学外 大学日本	検討 文学 語学 語文					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1) 共 同 研 究										
研究題目 交付団体 の代表者()内は学外者 (単位:円)										
阿蘇市における地域食材の活用について	西南女学院大学共同研究費	〇八尋春海 天本理恵	644,000							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
	(2)	個 人 4	研 究						
研 究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考					

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

学生部長

キャンパスハラスメント防止対策委員会委員長

教育経費予算委員

氏名 林裕二 職名 教授 学位 修士(文学) (西南学院大学 1993年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

#### 研 究 課 題

英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩 英語俳句等にも取り組む。

# 担 当 授 業 科 目

総合人間学概論 (前期) (英語学科 観光文化学科)

Extensive Reading I (前期)(観光文化学科)

基礎演習A (前期) (観光文化学科)

英文講読 [ (前期) (観光文化学科)

ビジネス英語入門(前期)(英語学科)

ビジネス英語入門(後期)(英語学科 観光文化学科)

Extensive Reading II (後期) (観光文化学科)

専門演習Ⅱ (通年) (観光文化学科)

卒業研究 (通年) (観光文化学科)

# 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習 演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【給人間欄】全8回中の1回を、人文学部の両学科長で担当する。学生側からすれば、大学教育の基礎の根幹をなす学部共通の最初の授業である。従って、人文学部のどちらの学科の学生でもこの時点で押さえておくべき基本的なポイントに焦点を当て、PPTを使い講義をした。シラバスについては評価について入念に説明した。

## 授業科目名【Extensive Reading I】

E-Learning の CHI eru (チエル) を使うマルチメデイア教室での必修科目。高校の必修授業「情報」で、PC の使い方の基本ができている学生もいる。但しタッチタイピングの習熟度には大きな差がある。問題を解く際にタッチタイピングの練習もすることになった。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また、学習時間を担保できるように、毎回課題を出し、達成度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、目標(2.500マイルの達成)を持たせて計画的に取り組めるようにした。

## 授業科目名【擬鰡A】

必修科目(演習研究科目)。大学の授業を受けるために必要なノートの取り方などのスキルを少人数の授業で学ばせた。また入学時に友人ができないという孤独感に陥らないようにするため、友人グループへの帰属意識を持たせ、教員との信頼関係の第一歩を持たせるようにした。そのためにも、学生のペア作業、共同作業を多く取り入れた。ディベートを学年全体の取り組んだ二年目の年である。学年大会の前に、クラスで準備をさせて、クラス内でディベート練習をさせて、クラス内で目標を定め役割を決めて本大会に臨ませた。能動的に全員が関わるということで、active learning の体験を持った。

## 授業科目名【英文講読Ⅱ】

選択科目で、受講者は2年生だった。二冊(日本事象の英文テキスト、読解テキスト)を使い、日本事象テキストでは、発音・読み等を調べて提出させ、それを配布してペア、全体で読みあわせをして、語彙レベルについての底上げはできるようにした。読解テキストではリーディングスキルを上達させるために、テキストの答え合わせだけでなく、その根拠を求めることで深い内容理解につながるようにさせた。その過程で議論が展開されるようにした。

## 授業科目名【ビジネス英語入門】

英語学科の選択科目で、4年生のみが受講した。10名程度の授業であるが、TOEIC 840 以上から基礎レベルまで非常に英語力の幅が広かった。発音・読み等を調べて提出させ、それを配布してペア、全体で読みあわせをさせた。留学経験者で英語力が高い層にとってもビジネスの実務は初めて学ぶことであり、丁寧に説明をした。

# 授業科目名【ビジネス英語入門】

人文学部合同で 2,3年生(70名程度)が受講。全体を 4 グループに分け、グループ毎に語彙調べを提出させ、それを印刷して、何度も読み合わせをさせることで、12 月半ばにはかなりの慣れを学生自身が実感できた。 E-Learning の CHI eru (チエル) から、ビジネスの場面を使い、基本的な音読のトレーニングまでをした。そのようにして学生が英語に接する量が多くなるようにした。

## 授業科目名【Extensive Reading II】

E-Learning の CHI eru (チエル) を使うマルチメデイア教室での必修科目。教材は、CHI eru と英語の発音のテキストである。既に前期に CHI eru に慣れており、後期はそれを生かして、質的充実と練習量増を目指した。しかしながら慣れることで手抜きのテクニックを覚え始めて、問題解決の場面で、「考える」という最も重要な活動をせずに、単に答え合わせに終始する学生も出てきた。それを防ぐためにも、確実に自分で考えざるを得ない状況を増やすようにするために、正解の根拠を述べることを求めた。目標(2.500 マイルの達成)は厳守させた。

#### 授業科目名【朝鰡![】

「卒業研究」で卒論を仕上げる前の年度として、研究の仕方の基礎が理解できているかを確認をし、積み重ねを行った。知識注入型の講義ではなく、問題発見解決ができるように、いくつもの場面を提示した。その一つが新聞の読者の声の欄への投稿である。当初は自分で主題そのものを考えて、文章を書くこと自体に抵抗があったが、次第に採用者が出てくるにつれて、ゼミ全体の意識が高まった。知識の枠組みを広げて、論理的な文の構成を体得するために、新聞の社説をペンで手写しすることを繰り返した。これに加えて、英語の多読もさせたので、授業外の負担が大きいと感じる学生もいた。映画「ローマの休日」の脚本(英語)を分担して輪読させた。司会も学生にさせて、甘くなり過ぎない限り、学生の自主性に任せるようにした。

# 授業科目名【卒業院】

3年次の専門演習IIに続く鈴木孝夫の「ことばと文化」(1973)の英訳を輪読した。基礎的な積み上げ(特に、文法、語彙強化)がこの学年でも必要だった。新聞の投稿も夏までは継続した。卒論については、既に3年次に卒論製作のタイムテーブルを提示していたが、就職活動の日程も影響してか、なかなかうまく運ばなかった。後期の最初から、時間配分を卒論作成へと比重を増やしていった。原則として11月以降は全体指導の授業を月一回として、残りは個別の卒論指導とした。質的研究を取り入れた卒論の構成を理解するために、1年次の基礎演習 Aのテキスト(知へのステップ)を再読した。しかしながら、最も大切な卒論の知的な深みについては、文献を安易にWebから利用することで、論考が深まらないままの学生もいた。卒論作成が本格的になる後期の後半でも、個別にあるいは少人数で、文献検索と文献の使い方を再度学ばせて、理解を深めることが必要だった。

		1
	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
国際ビジネスコミュニケーショ	九州 山口支部会長 (2010年2月~現	1993年6月〜現在に至る
ン学会(旧日本商業英語学会)	在に至る)	
	本部理事 (2015 年 11 月~現在に至	
	る)	
映画英語教育学会	九州支部会計監査 (2006年1月~2011	1994 年 2 月〜現在に至る
	年12月)	
	紀要査読委員(2010 年 4 月~2012 年 3	
	月)	
	九州支部運営委員(2012年1月~現在	
	に至る)	
日本コミュニケーション学会	九州支部副支部長(2008 年 10 月~2011	1994年12月~2015年3月
	年10月)	
	九州支部紀要編集委員(2011年9月~	
	2015年6月)	
日本人類言語学会		2002年10月~2004年3月
英語コーパス学会		2003年4月~2009年3月
日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月~現在に	2010年2月〜現在に至る
	至る)	
万葉学会		2014年2月〜現在に至る

2 0 1 6年度	研	究 業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書) 1. 詩 田中六助 その時代	共	2016.8	非戦を貫く三〇〇人 詩集 (コールサック社)	<ul><li>① 政治家田中六助の悲惨な戦争体験から非戦の訴えをした。</li><li>②編者 鈴木比佐雄/佐相憲一</li><li>② 頁1 (p298)総頁数432</li></ul>
2. 詩 喫水線	単	2016. 11	産経新聞の詩の詩	<ul><li>① 船の喫水線を人の心に例えた。</li><li>② 「朝の詩」選者 新川和江</li><li>③ 2016年11月12日</li></ul>

2 0 1 6年度	研	究 業	績 等 に 関	す	3	事	項
著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称		概		要
(学術論文)							
 (学会発表)			日本比較文化学会第				
1. 万葉集の三種類の英 語訳の比較・考察	単	2016. 5	38 回国際学術大会 (於:弘前学院大学)	1	の三種類	阿英訓	炊集「万葉集」 Rを比較・考
					祭するこ	.とをF	目的とする。
	—————————————————————————————————————	2016. 8	2016年第2回国際ビジ	1	 思考力を	 :問うた	とめに記述式
希望者学力評価テスト			ネスコミュニケーシ ョン学会九州・山口支				いたり、外部 なりざたされ
(2020 年度予定) と英語			部研究会		ている。	それら	っが、高校・
教育」			(於:久留米大学 福岡サテライト)				どのような変 こになるかを
3. 「日の名残り」にお	· 単	2016. 10	映画英語教育学会	2	考察した		(1993) は、
ける言語スタイルの切	<del>T</del>	2010. 10	第18回九州支部大会	4		_	(1993) (よ、) の同名の小
り替え			(於:福岡大学)				画化したもこと誤解され
					た主人公	が、幸	<b>対事が主人に</b>
							話へと切り 5る。ここで
					の言語ス	スタイル	つの切り替え
					を考察す	<del>-</del> る。	

2 0 1 6年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著 共著の別		F又は の年月			発表雑 学会等の			概		要	
4. 村上春樹「ノルウェイ の森」の英訳の呼称につ いて	単	2017. 3	}	第2	29 回九	州支部		Rubir せ英を使教総著学翻 が新書に	の英語 呼称が の呼び 語のBil 分析 一 (201 2 (内 合 ) (内	R (20 C ついける D er. D 責 7. 3. 単 京 訳 内 単	(1987) と対 (1987) と対 て考察す 表現の豊 .他(1999 7現在) 単1、共1 単1、共1	照る。 かを り) 上) り)
								テムス		r (1.1H	,, <del>,, 1</del> ,	/\V/

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
				(1)	共 同	研 究	
研	究	題	目		交付団体	研究者 〇代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交价	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	슺	に	お	け	る	活	動	等			
団体 委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	
財団法人 日本英語検定協会		英語	検定	試験二心	欠試験	面接	1995 年	≦8月~₹	見在に至	3	

学内における活動等(役職、委員、学生支援など) 観光文化学科長 卓球部 顧問

# 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 神崎 明坤 職名 教授 学位 修士 教育学 九州大学 1995 年
--------------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

#### 研 宪 課 題

- ① 中国の明清時代における中国文人の道徳修養に関する研究
- ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究
- ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

	担 当	授	業科	目
4) F 5		単位	立数	授業評価ポイント
		必修	選択	※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
入門中国語会話(前期)			0	
中級中国語(前期)			$\circ$	
アジア文化交流研修A(前期)			$\circ$	
中国の社会と文化(前期)			$\circ$	
基礎演習 A(前期)		$\circ$		
専門演習Ⅱ(通年)		$\circ$		
卒業研究 (通年)		$\circ$		
専門演習 I B (後期)		$\circ$		
初級中国語会話 (後期)			$\circ$	
上級中国語(後期〕			$\circ$	

# 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 入門中国語会話、初級中国語会話 】

- 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の 低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を 行った。
- 5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫 を行った。

## 再発見したこと

- 中国語を学ぶと同時に、中国文化なども学ぶことができました。
- 中国語検定に合格したいと思うようになった。
- 中国に興味を持った。
- もっと中国語や中国の文化について勉強したいと思いました。
- 中国語がとても分かった。

# 担当教員への意見

教科書だけの勉強ではなく、積極的に中国語での会話練習もしてくださるので、難しかったけれど、勉強 になりました。

中国語検定を4級合格しました。丁寧に中国語を教えてくれて有難うございました。

毎回、丁寧に分かりやすく教えてくださったので、すごく自分のためになりました。後期の授業もとても楽しかったです。有難うございました。

## 授業科目名【 中級中国語・上級中国語 】

- 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を 行った。
- 5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫 を行った。

#### 再発見したこと

書き取りだけでなくて、中国語を話せるようになりたいと思いました。

中国語検定に落ちたが、また受けて合格しようと決めた。勉強して行くことが楽しいと思うことができる授業検定試験に取り組むことができた。

中国の文化・歴史についても学べ、検定も取得できた。

#### 担当教員への意見

説明がとても分かりやすくて、勉強しやすかったです。

先生の授業が分かりやすくて、大好きです。

中国語を勉強していて、楽しいと思うことができるようになった。英語よりも私は中国語をがんばりたい。もう一度検定を受けて3級に合格したい。

検定試験前には、授業時間以外で勉強を指導してもらってたすかりました。

## 授業科目名【 アジア文化交流研修A 】

学習者の日本と中国との一層の相互理解のために二千年に亘る文化交流史を振り替えて勉強することは 正に現代的養成に答えるものである。新たな文化交流の使者を培うことがこの授業の狙いである。 そのために広い視野で中国の文化と日本の文化の性格と特徴を掴んで学んだ。例えば日中両国の制度、思想、文学、芸術、民俗、習慣などの違いを理解し、日中両国の多角的な視点と物の考え方を学んだことである。

- 1・授業にテレビ等の補助教材の活用、質問技法の授業法を交え、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業 参加を促す工夫を行った。
- 2・指定した書物を読ませて、レポートを提出し、授業のときにその感想を言わせ、意見を発表し自己評価をさせた。
- 3・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を 行った。

#### 再発見したこと

- 1、アジア文化に関する勉強への意識を高めった。
- 2、アジア文化特に中国文化、社会にもっと学習したく、関心などを持つようになった。
- 3、異文化コミュニケーションに積極的に取り組んで表現力を高めることができた。
- 4、中国の大学生との積極的な交流を通して良い友達となった。

## 授業科目名【 中国の社会と文化 】

グローバリゼーションの時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなり うるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国一中国のことを幅広く学び、考えながら異なる 社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。

- 1・講義ならびにテレビ、DVD などの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2・学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導 を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
- 3・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 4 ・中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

#### 再発見したこと:

- 1、中国の社会と文化の勉強を通して、視野が広がり、異文化を理解する視点や考え方を得ることができた。
- 2、この授業により、知識を増え、専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた。
- 3、特に中国の儒教、仏教、道教という思想に関心を持つようになった。
- 4、中国人の物の考え方に関心を持つことができた。

#### 授業科目名 【基礎演習A】

本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び 一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、 新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身についていることがこの授業の旨である。

- 1、 講義並びにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味 向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指 極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、 学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

# 再発見したこと

- 1、学生同士や教員とのコミュニケーションはうまくできた。
- 2、 学ぶ意欲、専門分野に好奇心が高くなるようにできた。
- 3、さまざまな課題を検討する力を得ることができた。

# 授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってる。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

- 1・この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでも その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
- 2 ・日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての 画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
- 3・実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表 作成の方法に必要能力を身に付けさせる工夫を行った。

# 授業科目名 【 卒業研究 】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域はる学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

- 1 ・上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関 館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
- 2・それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員とのコミュニケーションを 繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
- 3・仮説を論文として展開する力等を養い、学生自分らしい論文をかくことを心がけてもらい、最終的に論文を せる工夫を行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月~現在に至る
九州中国学会	会員	1998年5月~現在に至る
九州教育学会	会員	1994年 ~現在に至る
日本比較文化学会	会員	2011年 ~現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月~現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月~現在に至る

2 0 1 5年度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・	発行又は	発行所、発表雑誌等	概	<b></b>
者青、子州	共著の別	発表の年月	又は発表学会等の名称	彻	要

2 0 1 5年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		万又は の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(都語尺)											
報告: 中国の大学のカリキュラ、に関する考察 一教養教育を中心として-	単著	2017 · 24 日	年 2 月			学院紀 <b>3</b> . 2017		リに学質てか育スへるリのに半進生(増おみでをのうき質点	ュカの質が深び図方体ュウ点の質が深い区の向研ラ変を引きる。 おいり かいり かんしょう おいり かんしょう おいり かんしょう かんかん かんしょう かんかん かんしょう かんしゃ かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ	女で内育の養身リ典の周をでがる。能重い育教門キレ目査カで、	回の高等教育的 高にな趣成とない。 高にな趣成とをできたいたない。 一個ではないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、まないでは、大きないでは、たいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(1) 共 同 研 究									
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額						
	文的凹件	○代表者()内は学外者	(単位:円)						
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研	西南女学院大	○神崎明坤	911,000						
究	学	古川敬康							
〜教養教育を中心として〜		(林楽常、呉雲珠、							
		張暁鵬)							

	外部資金	(科学研究費補助	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	·s)
		(2)	個 人 斫	开 究	
研	究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 (内	の名称 容)			役	職名	等			任期	間	期 等	

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)
○ 宗教主事補										

			博士(経営学)〔立命館大学 2011 年〕
氏名	劉明	職名 准教授	学位
			修士(観光学)〔桜美林大学 1996 年〕)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティ
	の相違

# 研 宪 課 題

- 1. アジア観光・特に日中韓の観光交流について
- 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光・中国人の訪日旅行について
- 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について
- 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

	担 当 授 業 科 目
観光学入門	(前期) × 2
中国語通訳ガイド演習Ⅲ	(前期)
観光中国語	(前期)
ツーリズム中国語	(前期) × 2
アジア観光文化交流論	(前期)
基礎演習A	(前期)
アジア観光文化地理	(前期)
アジアの歴史と文化	(後期)
アジア観光文化地理	(後期)
中国語通訳ガイド演習IV	(後期)
専門演習Ⅱ	(通年)
卒業研究	(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【観光学入門】

「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。

さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光 産業 (旅行業、宿泊産業、交通運輸業など)の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加してい ただけるように、工夫を行った。

## 授業科目名【中国語通訳ガイド演習Ⅲ、Ⅳ】

「中国語通訳ガイド演習Ⅲ、IV」では、中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には、中国語ガイド通訳案内業試験年度別問題集、解答例を分析し、中国語の単語・文法・諺や中国語⇔日本語の翻訳のノーハウを学ぶ。また、日本の地理・歴史・一般常識などを勉強する。さらに学生たちに関心のある日中両国の観光文化の相違を学んでいただけるように尽力した。

#### 授業科目名【観光中国語】

近年、留学・研修・仕事で中国を旅する日本人のニーズに応えるため、観光中国語の授業では、日本人留学生が中国人の学生に案内され、名所旧跡を旅する場面を設定し、観光用の中国語会話を習得する。また、映像を通して、中国の観光文化や中国的持て成し方を勉強する。さらに観光中国語の表現練習を行い、観光中国語の基礎作りをすることが出来るように工夫した。

# 授業科目名【ツーリズム中国語】

日本を旅する外国人が大幅に増加されている。特に隣の中国からの観光客が多い。訪日中国人観光客のニーズに応えるため、この授業では、中国人観光客が日本人に案内され、旅館・ホテル利用案内の場面や観光地を旅する場面を設定し、ツーリズム中国語会話を習得する。また、映像を通して中国的ホスピタリティを理解し中国人観光客のおもてなしに必須の知識を勉強することができるように工夫した。

# 授業科目名【アジア観光文化交流論】

日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等ついて論じ、インバウンド観光産業の中核である旅行業、宿泊業、交通業をはじめ、土産品業、テーマパーク及びアジア諸国・地域の観光客との文化交流についても具体的な事例をおりこみ、観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

# 授業科目名【基礎演習A】

「基礎演習A」では、学科共通テキスト「知へのステップ」を使って、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を大学の学習で必要とされるレベルまで高める授業を行い、大学生として必要な基礎力を養成することができる工夫を行った。

# 授業科目名【アジア観光文化地理】

「アジア観光文化地理」の授業では、学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。

また、JTB 能力開発株式会社の教材とテスト問題集の活用により、学生の「旅行地理検定試験」や「旅行業務取扱管理者」の資格取得が有利になるように工夫した。

# 授業科目名【アジアの歴史と文化】

「アジアの歴史と文化」の授業では、アジア特に東アジアの地理・歴史・政治・経済・文化を踏まえた上で、日中韓の関係や観光交流の現状及び文化の中心である食文化の相違について考察を行う。また、東アジア特に日中韓に流れる歴史や文化の共有に対する理解を深めると同時に、異文化交流のあり方を認め、相互に尊重しあえる考え方を育むことができるように工夫した。

#### 授業科目名【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】

「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

	学会における活動			
	子云にわりる伯男			
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期		
上海旅遊(観光)学会入会		2004年05月-現在に至る		
中国通訳者協会入会		1988 年 10 月-現在に至る		
日本観光学会入会		1990 年 04 月-現在に至る		
日本ホスピタリティ・マネジメ	評議員(2011年4月-現在に至る)	1994年 09 月-現在に至る		
ント学会入会				
京都観光アカデミー入会		1996年03月-現在に至る		
中国留日同学会入会	理事 (2000年8月-現在に至る)	2000年 08月 - 現在に至る		
日本観光研究学会入会		2001年01月-現在に至る		
京都国際観光活性化協議会入会		2001年07月-現在に至る		
京のアジェンダ 21 フォーラム		2001年 08月 - 現在に至る		
ワーキンググループ入会				
ツーリズム学会(現在の余暇ツ		2007年12月-現在に至る		
ーリズム学会) 入会				
観光学術学会		2012年 02月 - 現在に至る		

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		万又は の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文) 九州におけるインバウンド観光のあり方 ーマーケティングの視 点から	単		17年 1日	余暇ツーリズム 学会誌 第4号			本研究では、マーケティの視点から、受入側の九月出し側の上海における中に九州旅行誘致の目標達成にけた具体的なマーケティ、戦略を考察し、双方の認いがあることを明らかにまた、九州におけるインバード観光のあり方を明らかにてみる。			りの九州と送ける中国人 標達成に向 デティング 所の認識にズ っかにする。 っインバウン	
(鄱宗)											
(学会発表)											

	外	部資金	(科学研	究費補助	加金等) 導入状	· 沈(本学共	同研究費を含む	te)
				(1)	共 同	研 究	1	
研	究	題	目		交付団体		発 者 新 ( ) 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
					(2)	個	人	研	究		
石	开	究	題	目		交仆	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
JR 西日本上海事務所設置と 中国人観光客誘致のために相談役と して JR 西日本に情報を提供	相談役	(2003 年 06 月-現在に至る)
京都府政策立案メンバーとして京都産業活性化プラン策定に係る政策検討会議に参加	政策立案会議メンバー	(2003 年 07 月-現在に至る)
九州観光推進機構上海九州観光交流促進のために相談役として九州観光推進機構に情報提供	相談役	(2006 年 07 月-現在に至る)
国家試験通訳案内士試験委員	中国語面接官(口頭試問試験委員)	(2010 年 12 月-現在に至る)

学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、	委員、	学生支援など)

- 1. 入試会議委員
- 2. 国際交流委員
- 3. 懇親会委員

氏名: 木沢 誠名 職名: 准教授 学位: 修士(都市政策)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光事業論、観光まちづくり、国際観光	観光まちづくり、地域活性化、観光事業

## 研 究 課 題

- ・ 観光の力を活用した地域活性化の事例研究と実践
- ・ 地域活性化への観光事業者の関与の研究
- ・ 国際観光 (インバウンド、観光開発)

担	. 当 拉	受業	科	目
1N D D		単 位	数数	授業評価ポイント
科 目 名	业	ど 修	選択	※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
■新カリキュラム				
国内旅行実務(国家試験対策) 前期 2	クラス		2	
観光関連法規(国家試験対策) 前期 2	クラス		2	
専門演習Ⅱ 前後期		4		
卒業研究 前後期		4		
基礎演習A 前期		1		
専門演習1B 後期		1		
旅行商品企画論    後期			2	
観光産業論 後期			2	
旅行産業論後期			2	
航空産業論後期			2	
航空ビジネス研究(英語学科) 前期			2	

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【旅行商品企画論】

学生が、自分が企画するツアー商品の行き先へのフィールドワークを必須として課した。 近年はインターネット情報に過剰に頼り、旅行商品企画に限らず一度も当事者からヒアリングすることもな く、足を運ぶこともなく報告書や論文を仕上げる学生が目立つ。一次情報の重要さを理解させるため、現地で 実際に一次情報(自己撮影写真、パンレット入手、ヒアリングなど)を得ることを課した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本国際観光学会		2003年7月より現在に至る
旅行ビジネス研究学会		2003年9月より現在に至る
日本観光研究学会		2004年8月より現在に至る
東北亜観光学会(国際学会)		2006年8月より現在に至る
観光学術学会		2012年4月より現在に至る

2 0 1 6	年度	研	 究  業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の 名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年 月	発行所、発 誌等 又は発表を 等の名称	学会			概	E		要	
(著書)											
(学術論文) 「体験型プログラ ム開発によるグ リーンツーリズ ムの魅力の向上 〜長野県飯田から 学ぶ」	単	2016 年 10 月	日本観光 学会	研究	ンツー 発や情 研究を	リズム 報発信 行った。 おいて	体験学 、観光 。先進 、東峰	習をべ 客誘致 地でも	ースに のあり ある長	こ、地域 ) 方につ 長野県の	おけるグリー の観光資源開 いて実証的な 飯田地域との その独自性に
(鄱清尺)											

外部資金(科学研究費補助	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(1)	共 同	研 究									
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額								
如 九 烟 日	文刊団体	○代表者()内は学外者	(単位:円)								
「学生の力を活用した、民学協働のインバウ	本学	木沢誠名○	1,042,000 円								
ンド誘致の試み」		神崎明坤									
		マルコム・スワンソン									
		樋口真己									
		(若菜啓孝)									

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
	(2)	個 人 矽	· 究							
研 究 題 目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考						

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

(意見)「社会における活動」を、このように委員を務めたかどうかで評価する方式は、日本社会全体が個人、 法人を問わずその社会貢献を重視し、大学人も例外ではない近年においては、まことに時代錯誤と思料する。 広く、社会貢献する活動を率直に評価するような記述形式に改めるべきである。

(注) 大学が示した「記入要領」: 社会における活動 … 団体・委員会等の名称、内容、役職名、任期等を記載。

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

■学内委員会等

①就職委員会委員 2016年4月~17年3月(2010年4月より7年連続継続中))

②紀要委員会2016年4月~17年3月③学生委員会2016年4月~17年3月

- ■学内外活動への学生引率、指導(担当ゼミ・授業以外の学科全体の自主活動)
  - 1. 門司港レトロ地区活性化活動指導
    - 1) 「れとろこまち」運営 2016年4月~11月 北九州市門司港(7-9月を除くほぼ毎週末)
    - 2) 「関門女子旅」実施 2016年5-6月(約10日間)北九州市,下関市と協力
  - 2. 「ゲストハウス利用者のまちへの周遊性向上プラン"キタコレナビ"」造成 2016 年 4 月  $\sim$  17 年 3 月 北九州市と協力
  - 3. 「東峰村マップ」制作 2016年4月~6月 (15年度より継続) 東峰村と協力

氏名 高橋幸夫 職名 准教授	学位 修士(経済学) 京都大学 2005年
----------------	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
	マーケティング・コミュニケーション
デザインマネジメント	デザイン・インスパイアド・マネジメント

#### 研 宪 課 題

- ・ IMC(integrated marketing communication)の今日的課題研究
- 石炭流通における小倉商人(中原嘉左右)の研究
- ・ デザイン重視の経営研究 (デザインマネジメント研究)
- 大学における地域活性化活動

## 担 当 授 業 科 目

基礎演習 A (前期)

基礎演習 B (後期 2コマ)

専門演習Ⅱ(前期·後期)

卒業研究(前期・後期)

マーケティング入門(前期)

消費者行動論(前期)

イベント・テーマパーク論(後期)

インターンシップ(前期)

地域総合研究・キャリアデザイン論(前期)

広告宣伝論(前期)

ブランド戦略論(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【基礎演習 A(前期)】

・ 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的 プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。

# 授業科目名【基礎演習 B (後期)】

- ・ 基礎演習 B では、学生生活で必須とされるレポートの必要性と書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。
- ・ 基礎演習 A のステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。
- ・ さらに、新聞記事に親しむ事を目的に「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。

## 授業科目名【専門演習Ⅱ(前期·後期)】

- ・ マーケティング論及びブランド論の基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理 的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。
- ・ さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。
- ・ 西日本工業大学デザイン学部建築学科との課外活動「京築ヒノキと暮らすプロジェクト」では商品開発・マーケティング活動を担当、実践的な学びの機会を提供した。

## 授業科目名【卒業研究(前期・後期)】

・ 卒論作成にあたり、論理的構成の重要性のほか、特に論理性を裏付ける「データの収集と取り扱い」の重要性について指導した。

## 授業科目名【マーケティング入門(前期)】

- ・ マーケティング初学者以前に経営学初学者という認識のもと、「企業経営とはなにか」という初歩的段階 から解説することにより「企業経営に欠かせないマーケティングの重要性」の修得に努めた。
- ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。

## 授業科目名【消費者行動論(前期)】

- 消費社会、消費者行動論の初学者に対して学生の身近な事例説明を中心に理論修得に努めた。
- ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、消費者行動論に欠かせない専門用語を楽しみながら理解することを促した。

## 授業科目名【イベント・テーマパーク論(後期)】

- ・ マーケティング戦略の4Pのプロモーション領域における「イベント」の基礎理論を一般企業のみならず、 地域における展開の理解(ゲスト講師の招聘)とともに「テーマパーク」を「イベント」の常設型と捉え、 その基礎的理解と地域活性化との関連把握に努めた。
- ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。 また、地域活性化のためのイベントプランニングをグループワークとして行ない、グループプレゼンテーションを行い、学生間での評価を取り入れる事によって興味の醸成につなげた。

#### 授業科目名【インターンシップ(前期)】

・ 社会や企業活動の仕組みを知り、学生自身の適性、将来の進路方向性を考える上で必要な座学および就業体験で構成した。座学では、「なぜ働くのか、企業・企業活動とは何か」、「社会人としてのマナー、ルール」等を PPT、演習問題を活用し理解促進に努めた。また、就業体験では極力学生の希望を叶えられるよう受入先選定、交渉を行なった。

#### 授業科目名【地域総合研究・キャリアデザイン論(前期)】

- 本年度より北九州市総務局女性活躍推進課と連携協定を締結し、授業内容、講師選定など協働した。
- ・ 毎回北九州地域で活躍する社会人を中心に講師を依頼、地域活性化とキャリアデザインを中心に講義を展開した。また、学科卒業生にも講師として参加を依頼し、本学学科での学びとキャリアについて深く学ぶ機会を与えた。毎回講師向けコメントカードと担当教員向けカード(気づきなど)を提出、理解レベルを確認した。

#### 授業科目名【広告宣伝論(前期)】

- ・ マーケティング戦略の4Pのプロモーション領域における「広告宣伝」の基礎理論を一般企業のみならず、 公的企業における広告展開の基礎的理解の把握に努めた。
- ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。
- ・ 地元広告業のゲスト講師を招聘し、広告プランニングをグループワークとして行ない、グループプゼンテーションを行い、学生間での評価を取り入れる事によって興味の醸成につなげた。

## 授業科目名【ブランド戦略論(前期)】

- ・ 企業戦略・ブランド戦略の初学者に対して学生の身近な事例説明を中心に理論修得に努めた。
- ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、ブランド戦略論に欠かせない専門用語を楽しみながら理解することを促した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
<ul><li>商品開発・管理学会</li></ul>		2005年4月から現在
• 日本商業学会		2006年4月から現在
• 産業学会		2006年4月から現在

2 0 1 6年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑 学会等0			概		要	
(著書)												
(学術論文)												
(翻訳)												
(学会発表)												

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1) 共 同 研 究											
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)								

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	B		交	付団体		交付決策 (単位:		備	考
平成 28 年度 10	000 人の	夢寄金	<u> </u>		北九州協議会	活性化		100,000			EPR活動 に対して)

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	

- 2016年度学生募集委員
- 2016 年度情報システム委員
- 2016年度人文学部保護者懇談会担当
- ・ 2016年度学科ハラスメント相談員
- 2016年度地域、企業との協働事業(課外活動)における学生指導(WILL)

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
観光地理学、	ドイツ	語圏観	光研究、	女性と観光の研究	観光、地理、ドイツ、女性

#### 研 宪 課 題

目下、女性と観光について研究している。特に社会のリーダー的存在となる高学歴女性が観光に何を求めているのか、観光がこうした女性達にどのような役割を果たすことができるのかについて海外渡航のケースを中心に研究している。

## 担 当 授 業 科 目

- ・前期:「専門演習Ⅱ」、「専門演習IA」、「欧米観光文化地理I」、「基礎演習A」、「観光社会学」、「比較文化論」
- ・後期:「基礎演習B」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「観光フィールドワーク」、「観光社会学」
- ・前期、後期:「卒業研究」

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

四年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、興味を持った文献について発表もしてもらった。また、研究を始める上で最も重要である研究テーマの設定についても多角的にアドバイスした。

## 授業科目名【 専門演習 I A 】

本科目は1クラス30人規模の二年次の演習で、2クラス共通で質的研究がテーマであり、教科書も共通のものを用いた。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。

#### 授業科目名【 欧米観光文化地理 [ ]

西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を 行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回の ペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

#### 授業科目名【 基礎演習 A 】

本科目は1クラス7~8人規模の一年次の演習で、8クラス共通でレポートの書き方などをテーマとしており、教科書も共通のものを用いた。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。

## 授業科目名【 観光社会学 】

教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。 定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

## 授業科目名【 比較文化論 】

ドイツの文化に触れるべく、その内容の教科書を用いて講義を行なったが、加えて、簡単なドイツ語が理解できるよう、文法についても指導した。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

## 授業科目名【 基礎演習 B 】

本科目は1クラス30人規模の一年次の演習で、2クラス共通でキャリアの考察をテーマとしていた。担当したクラスでは教科書ではなく、レジュメや新聞記事などを用いた。当初は主に論理的な思考のトレーニングを行なっていたが、中盤からキャリアそのもの、特に女性のキャリアについて全員で考察した。

## 授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】

東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を 行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回の ペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

## 授業科目名【 観光フィールドワーク 】

山口県長門市を対象地として観光フィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ2~3人のグループで口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークを通して各人が興味を持った観光のテーマについて文献を紹介してもらった。

## 授業科目名【 卒業研究 】

卒業論文の執筆・完成を最終目標とし、これに関連する内容について通年取り組んだ。主として前期は 夏季休暇中の集中研究が首尾よく果たせるよう、テーマ設定や先行研究の理解など準備についてサポート した。後期は夏季休暇における研究の成果を発表してもらい、論文を執筆する上での助言を行なった。

学会における活動	
役職名等(任期)	加入時期
	2008年4月~現在に至る。
	2008年7月~現在に至る。
	2012年7月~現在に至る。

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デヌは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
(学術論文)											
(鄱泥尺)											
(学会発表)											
(1 - 1/2 - 1/											
									开究業績 7年3月	責総数 5日現在	E)
								著書	0 (	内訳:	単0、共0)
											単12、共0) 単0、共0)
											: 単8、共0)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
(1)	共 同 研	开 究					
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
「女性と観光に関する総合的研究」	日本学術振興	○友原嘉彦	800,000				
	会	(庄子真岐)					
		(鈴木洋子)					
		(高田晴美)					
		(新名阿津子)					
		(丸山奈穂)					
「女性と観光に関する研究会」(分科会)	日本観光研究	○友原嘉彦	100,000				
	学会	(遠藤英樹)					
		(加藤佳奈)					
		(中子富貴子)					

:	外部資金	(科学研究費補助	助金等)	導入状	況(本	学共同研究費を含む)	
		(2)	個	人	研	究	

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任 期 期 間 等

公開講座委員会 副委員長 2016 年 4 月 1 日 $\sim$ 2017 年 3 月 31 日 図書委員会 副委員長 2016 年 4 月 1 日 $\sim$ 2017 年 3 月 31 日

# 助 産 別 科

氏名 笹山 雪子 職名 教授 学位 看護学修士 愛知県立看護大学大学院 2009 経営情報学修士 中部大学大学院 2000

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
助産師教育					助産師学生 分娩介助技術習得
看護管理					性教育
					組織のチーム力

研 宪 課 題

助産師学生の分娩介助技術習得課程に関する研究 看護管理学における組織内チーム力に関する研究

思春期教育における母親と本人のニーズと教育効果について

## 担 当 授 業 科 目

#### 【助産別科】

総合看護学(前期)

基礎助産学 I (前期)

女性の健康支援論(前期)

子育て支援論(前期)

助産診断・ケア学VII(助産過程演習)(通年)

助産管理学(通年)

助産学研究演習(通年)

キリスト教と生命倫理 (通年)

助産学実習(基礎・助産学実習1・2・3)

## 【看護学科】

母性看護概論(後期)

ウィメンズヘルス看護論(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【総合看護学】

4月の入学時からの講義科目である。助産過程の展開に関連する基礎的な看護過程の展開において事例の情報収集力やアセスメント力を引き出せるよう、教員が分担して個々の学生とかかわりながら婦人科疾患を持つ事例の展開を行った。助産過程の展開に繋げる科目として目標は達成した。

## 授業科目名【基礎助産学I】

周産期医療を取り巻く環境の変化や性と生殖に関するニーズの多様化する中で、助産の基本的概念や理論、助産師の責務と法的位置づけについて事例を用いて個々の学生の理解度を確認しながら講義を行った。お産の歴史・文化については学生の主体的な学びや気づきになるようレポート課題とし、全学生がプレゼンテーション技術の修得と自己学習の成果をレポート提出した。助産師の果たすべき役割や課題について短時間のディスカッションを各講義の中に取り入れ助産の基礎知識を修得するよう努めた。到達目標は達成した。

## 授業科目名【女性の健康支援論】

女性のライフサイクル各期における健康問題とケアについて学び、女性の生涯にわたる健康支援者としての助産師の役割を理解し、現代女性の支援を要する DV、不妊、性感染症の問題を理解し支援の必要性を理解できるよう講義テーマに沿って講義、一部ディスカッションを行った。諸外国における女性への支援については外部講師による実際の活動について講義を依頼した。講義が中心であったため、主体的に調べたりディスカッションする中で学びを深められるようさらに工夫が必要であった。

#### 授業科目名【子育て支援論】

妊婦および夫が「親になる」ために適応・成長していく過程を理解し、父親・母親の親力、育児力向上にむけた親教育の多様な支援のあり方について解説した。また学生間で「親になる」ことについて他科目の学習をふまえてディスカッションし、多様な価値観や世代の背景などについて理解を深めた。また子どもの心を育み育児不安の軽減をはかる助産師の役割について育児不安や虐待など子どもの心や親子関係の視点からも踏まえてディスカッションしまとめた。講義、実習でかかわった母子や家族から子育ての現状や課題が理解でき、さらに全体で共有することでさらに様々な事例から学びを深めることができた。

#### 授業科目名【助産診断・ケア学VII(助産過程演習)】

助産診断の基本的原理を理解し、助産の実践に必要な助産過程の展開について解説し演習を行った。助産診断を行うための情報収集と記録物作成に時間がかかり、アセスメント力をつけることが不足した前年度の振り返りから①記録物の簡素化 ②教員の受持ち制を導入を行った。記録物が簡素化し、個々の学生に対応を行うことで母子の全体像の理解につながったが、まだ充分な時間確保ができず課題として残った。

#### 授業科目名【 助産管理 】

本科目は、病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身につけるため、助産管理の基本概念と管理のプロセス、病院と助産所における助産業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の助産ケア等について講義を行った。助産管理の基礎的概念や助産業務の法的範囲等、実習や卒後の業務を行う上で重要な科目であるため、個々の学生の理解度を確認しながら進めていった。基礎実習を挟んでの科目であるため、病院・助産所等の業務管理・運営に関して実習で学んだ内容をガイドラインから再度確認し学習を深めた。基礎実習終了後に実習で学んだ助産管理の実際と課題について学生が積極的にプレゼンテーションを行い、助産管理に関する知識を深め、関心意欲も高まるよう努めた。8月、10月~12月に行う施設の管理実習でさらに病院や助産院の特徴や管理方法を学ばせ最後にこれからの助産師活動についてグループ学習を行い助産師の役割を考察させた。目標は概ね達成できたが筆記による試験が評価点が低かった。国試試験を前であり知識・理解の確認になった。

#### 授業科目名【助産学研究演習】

助産学領域で適用される理論や根拠に基づいた助産実践を実証するための研究方法を解説し、助産学研究論 文を検討する能力を養い、助産実践上の問題を明確にして研究課題として発展させ助産実践に役立てるための 基礎的な研究能力を養うよう授業計画を立案した。卒後の研究実施に発展できるよう、研究とは、質的・量的 研究の方法、外部講師による統計による研究方法、研究倫理、文献検索(文献カード作成)研究計画書の一連 を学習した。実習で実際にケアを行った事例を展開し事例レポートを作成し全員がプレゼンテーションを行い 学会発表等に活かすことができるようにした。事例から理論を用いた実際のケアや文献考察することが十分で きない学生もいたが、一定の成果を得た。

#### 授業科目名【キリスト教と生命倫理】

生命科学と医療技術は急速に進歩し、生殖医療や人工妊娠中絶等ひとの生命が人間によって操作されるようになり、助産師は、医師、妊産婦、家族との人間関係、地域、仕事上の問題など倫理的問題にかかわることが多い。性と生殖に関する倫理問題のアセスメントを行うために必要な知識について学び、生殖医療の専門家による講義を行った。まとめとして実習で学んだ倫理的ジレンマについてレポートし、ディスカッションを行った。週1回のチャペル授業もあり、学生は多くの学びを得た。

#### 授業科目名【助産学実習(基礎・助産学実習1・2・3】

助産学実習では基礎実習 4 施設、助産学実習 I (正常)6 施設、助産学実習 II (正常逸脱)4 施設、助産管理実習 4 施設の合計 18 施設で実習を行っている。24 時間体制での実習も含むため、きめ細やかな実習調整が必要である。助産学実習 I (正常)における分娩介助は実習内に 10 例介助できず延長実習を依頼した。病欠による補習実習も含め2月までの実習となった。概ね実習目標は達成した。

## 授業科目名【 ウィメンズヘルスケア論 】看護学科3年生

女性の健康を、医学だけでなく、経済、政治、文化なども含めて包括的に捉え、生涯(思春期・成熟期・更年期・老年期)にわたる女性の健康の向上、および女性の QOL の向上をめざす看護援助方法を学習するために学生が興味関心のある女性の健康に関する課題を選択とした。個人ワークとし教員が個別に面接しながら学習を深めさせた。最終回で5名の学生にプレゼンテーションを行ってもらい共有化することで個々の学びを深めることに繋がった。ほぼ全員の学生が目標を達成した。女性のライフサイクルにおける課題と援助について深く考察する機会となった。共有し質疑応答に終わってしまいディスカッションする時間が少なかったため、次年度課題として発表と共有に時間を確保していく必要がある。

#### 授業科目名【母性看護学概論】看護学科2年生

母性および母性看護の特性を理解するために必要な概念を多角的な視点で学習できるように解説した。またリプロダクティブ・ヘルスの考えをもとに思春期から老年期の女性ライフサイクル各期におけるセクシュアリティの健康問題・ヘルスサービスや健康教育について理解を深められるよう講義に視聴覚教材を小テストを学生の「母性は苦手」意識を減らし、興味を持ってもらう工夫として DVD などの視聴覚教材を講義の中で短時間織り込みながら説明した。「自分のからだのことに興味がでた」「楽しく講義がきけた」などのコメントであった。学生の知識理解を確認するために小テスト(5分間)を5回導入した。講義の後に小テストの解答確認を行うことでより予習・復習を行う学生が増えた。また、授業終了時に質問や意見を記入し提出させることで次回の講義時に質問に細かく対応し説明した。講義の最終日には、全体のまとめ及び国家試験対策を取り入れた。母性看護の特徴や自己の母性・女性観を考える機会として興味深く取り組む姿勢が見られた。

学会における活動							
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期					
日本看護協会会員		1980年4月 現在に至る					
日本看護管理学会会員		2009年 現在に至る					
愛知県母性衛生学会		2000年4月~2015年まで					
日本母性衛生学会		2013年12月~2015年まで					
日本助産学会会員		2013年12月~2016年12月					
日本助産師会会員		1993年5月 現在に至る					
日本母乳の会会員		2006年4月~2015年まで					
ISLIS 国際生命情報学会員		2010年2月~2016年12月					
日本母性看護学会会員		2014年3月~2014年12月まで					
日本看護科学学会会員		2014年5月~2016年12月まで					
産業・組織心理学会会員		2014年4月~2014年12月まで					
認定看護管理者会		2010年4月~2016年12月まで					

2 0 1 6 年度	研研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					
(翻訳)					
(学会発表)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(1) 共 同 研 究								
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称	役	職名	等			任		期
(内 容)	仅	4敗 一口	4			期	間	等
• 西南女学院大学認定看護管理者教育	委員・教	受			2013年	三4月~	2017年	3月
課程教育運営委員会委員								
• 助産別科教育講演会開催	助産別科長	<b>曼</b>			2016年	三2月22	2日201	7年2月24日
・福岡県看護協会看護の進路・進学支	委員				2016年	三4月~	2017年	3月
援委員会委員								
• 西南女学院大学認定看護管理者教育					2016年	三7月23	3日3時	間1コマ
課程ファーストレベル講義								

助産別科長として助産別科の運営全般、講義・演習・実習調整

看護学科母性看護領域の講義

大学運営会議委員

教育運営委員会委員およびファーストレベル講師

入学試験会議委員

氏名 竹内 玉緒	職名講師	学位 修士 (医科学)
----------	------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード			
母性看護学・助産学	思春期・更年期・教育			

#### 研 宪 課 題

若者の性意識を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた方法を考察する。

## 担 当 授 業 科 目

#### 助産別科)

助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)、助産診断・ケア学Ⅳ(新生児期・乳幼児期)

助産診断・ケア学VI(健康教育演習)、助産診断・ケア学VII

助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産管理実習

看護学科)、助産学研究演習、女性の健康支援論

母性看護方法論、母性看護学演習、ウエルネス看護学、母性看護学実習

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名 【 助産診断・ケア学Ⅲ・IV】

助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やDVD教材を使用し立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。 さらに、実践に活用できるために演習や技術試験に時間を昨年に引き続き時間をかけた。

## 授業科目名【助産診断・ケア学VI・VII】

指導案・企画書の作成から健康教育実施までの方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを 目標に、指導案の作成、教材の作成、実施、評価の作業を段階的に行った。助産過程や健康教育演習では少人 数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。

#### 授業科目名【助産学実習(基礎・I・Ⅱ・管理)】

学生が系統的にアセスメントし対象を理解できることを目的に記録用紙の見直しを行った。また、指導計画を立案し、実習指導に取り組んだ。実習中は記録の確認や学生の姿勢をふまえて各個人の実習の進捗状況を把握したうえで臨床指導者と適宜意見交換を行い指導方法の共通理解に務めた。

#### 授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習】

看護学科2年生、3年生を担当し、周産期における女性(胎児・新生児を含む)の生理的変化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程の理解を目的に映像やポイントを押さえた講義や、実習における活用を意識した看護過程の演習を取り入れた。

# 授業科目名【母性看護学実習】

適宜指導者と相談しながら実習計画を実施した。また、教員間でも定期的に情報交換を行い指導内容を評価しながら効果的な実習指導を心がけた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本母性衛生学会		2007年4月~現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月~現在に至る
日本あかちゃん学会		2011 年 4 月~現在に至る
日本助産学会		2011年5月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績等に関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書) 無					
(学術論文) 無					
(翻訳) 無					
(学会発表) 無					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(1)	共	同	研	究		
	研	究	題	目		交	寸団体	(		究 者 ()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
無											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(2) 個 人 研 究											
矽	f 3	芒	題	目		交付	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
無							•				

,	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名 (内 容)	3称			役	職名	等			任期	間	期 等	
無												

周望学舎シニアカレッジにおいて、企画・運営。

助産別科ホームページの運営

特別講演の調整・運営

入試委員会・学生募集委員会

氏名 穴田 和子 職名 講師 学位 修士 (学術) (奈良女子大学 2003年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学 母性看護学 ジェンダー	助産教育 実習指導 ジェンダー 専門職

研 宪 課 題

・助産学生の分娩介助技術向上に関する研究

## 担 当 授 業 科 目

#### [助産別科]

助産診断・ケア学 I (妊娠期) (前期)

助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)(前期)

助案診断・ケア学V (周産期のハイリスク) (前期 2コマ)

助産診断・ケア学VI(健康教育演習)(通年)

助産学基礎実習 (前期)

助産学実習 I (後期)

助産学実習Ⅱ (後期)

[看護学科]

母性看護方法論 (後期)

母性看護学演習 (前期)

母性看護学実習(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名 【 助産診断・ケア学 I (妊娠期) 助産診断・ケア学 II (分娩期) 】

実習を視野に入れ、知識と技術ができるだけ統合するよう演習前の課題の提示や資料配布を行い、準備した。 妊娠期については、まず対象者把握のため、妊婦ジャケットを装着し模擬妊婦体験を行い、日常生活や妊婦体 験して感じたことなど各自でまとめ、発表することで共有の時間を設け学習効果を図った。

また、模擬助産師外来では、教員が妊婦役、学生が助産師役となり、ロールプレイを取り入れた妊婦健康診査の演習を行った。演習終了後は、自己評価や教員評価だけでなく、第3者の評価として参加した学生にも気づいた点を述べてもらい、学びが深められるよう心掛けた。

分娩期の演習では、特に分娩介助技術演習においてデモストレーションを行う際、1つ1つの動作については 根拠を強調しながら説明するように努めた。また、昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びつ いておらず、実践を想定した演習方法が課題だったため、分娩介助技術を単なる手順として覚えないように事 例を用い、いくつかの場面を設定し、どのような支援が必要か学生に考えさせる時間を取り入れた。その際、 実習で使用する記録用紙を用い、必要な記入項目など記入方法も学習し、実習で応用できるよう努めた。

## 授業科目名 【 助産診断・ケア学(周産期のハイリスク) 】

ハイリスク妊産褥婦のケアについて担当した。

実習を想定して症例を選択し、助産計画が立案できるように努めた。さらに、今後は演習の時間を確保し、事例について考える時間を確保することや実際に使用する物品などを説明し、より実践的な工夫が必要と考える。

## 授業科目名 【助産診断・ケア学VI(健康教育演習)

健康教育、企画書・指導案作成について解説し、実習で行う妊婦や褥婦への保健指導につなげられるよう心掛けた。演習では、担当学生の企画書や指導案や媒体の工夫について適宜助言した。実施・評価においても、実習で受け持つ対象者を想定して助言した。

## 授業科目名【 助産学基礎実習 助産学実習 I 助産学実習 I 】

大学での学習・演習で得た技術・知識を臨地実習で実践できるよう支援することを心がけた。施設によって環境(使用する物品・設備など)が異なっても基本は同じであり、根拠を踏まえてケアすることを助言した。また、学生の実習が効果的に行えるように実習指導者と相談しながら連携を取った。

学生が注意されたことや疑問点はその都度解決するように努めた。実習前に事前学習を取り入れたが、対象者を受け持って改めて学習することもあった。実習で指導された学習の不足に関して知識を補うよう学生に助言したが、限られた実習期間の中で目標達成させるため、学生の指導方法や実習時間を効果的に学習できるよう今後も工夫が必要である。

## 授業科目名【 母性看護方法論 】

産褥期・新生児期について解説した。

ただ単に知識を習得するのではなく、看護につなげられるよう事例も用い説明した。DVD 視聴やパワーポイントに写真や図を多用し、重要な個所は文字の色を変えるなど工夫した。

また、3 年次の実習を想定し、実際の実習場面を提示しながら説明した。得られた知識がどのように活かされるのか関連付けられるよう努めた。

#### 授業科目名 【 母性看護学演習 母性看護学実習 】

看護学科3年生の技術演習を担当した。

産褥の診察、育児技術、授乳について演習を担当し、基本的な母性看護技術が習得できるように模型を使用し 説明・実施した。演習する際には産褥の退行性変化・進行性変化を理解した上で、正しい方法で診察した情報 からアセスメントすること、新生児の身体的特徴を考慮し実施することなどを助言した。

実習で行うことがある沐浴の技術習得については、演習で実施した上で、各自時間を確保し練習をしてから技術チェックに臨むよう努めた。その間、わからない点は必ず教員に質問し、技術習得できるよう配慮した。また、ウェルネス看護診断について、事例の情報から関連図作成し、診断・看護計画立案するまでの過程で、不足していることや不明な点について助言した。

実習では母体の生理的変化だけではなく心理的側面・社会的側面もアセスメントしていくこと、母・児一体でアセスメント・ケアする視点を持つことなど学生に助言した。

また、ウェルネスの視点でアセスメントできているか否か学生と共にフィードバックし、看護計画に反映できるよう助言した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		2008年12月~現在に至る
母性衛生学会会員		2008年4月~現在に至る
日本助産学会会員		2009年3月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研 研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					
(都記)					
(かく 4ペキ)					
(学会発表)					

外部資金	(科学研究費補助	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>(</u> 2)
	(1)	共 同 研	开 究	
研 究 題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外	部資金	(科学)	研究費補則	力金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含	ts)	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	目		交付	団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社	会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称			役	職名	等			任		期
(内 容)			1又	141 石	寸			期	間	等

1	i e e e e e e e e e e e e e e e e e e e	

- ·教務委員会 委員 (2016年4月~2017年3月)
- ・看護学科 カリキュラム検討委員会 委員 (2016年6月~2017年3月) 2016年7月16日 助産別科オープンキャンパスを担当
- ・シニアサマーカレッジ (助産別科) 2016年9月2日 担当教員の一員として参加

氏名 山田 恵	職名助教	学位 学士 (教養)
---------	------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア	寄り添うケア、五感、主体性、助産学生
女性の健康支援	予防行動 セルフチェック 母親
性教育	思春期 母子関係

#### 研 宪 課 題

「寄り添うケア」は、単に「そばにいる」というのではなく言語的・非言語的手法を用いて意図的に介入するかどうかを決定していくことが重要であるため、学生の「寄り添う感覚」と産婦の「満足いく出産体験」との関連について質的研究を用いて考察する。

子育て中の女性の、自己の健康に関する意識や予防行動の実際を調査し、健康増進のために必要な支援を行う。またその効果を考察していく。

## 担 当 授 業 科 目

#### <助翻料>

総合看護学(前期)

#### 助產学研究演習(通年)

キリスト教と生命倫理(通年)

助産が、ケア学Ⅰ(妊娠期、助産が、ケア学Ⅱ(分娩期)、助産が、ケア学Ⅲ(産機期((前期)

助産場・ケア学VI 健康教育演習 (通年)、産場・ケア学VII (助産過程演習) (前期)

助産学基礎実習(前期)、助産学実習Ⅰ (正常)、助産学実習Ⅱ (正常)組)、助産管理実習(後期)

**<**翻斜>

母性看護学演習(前期)、母性看護学実習(後期)、ウイメンズヘルス看護論(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 総合看護学 】

学生の入学前の学修状況をアンケートで把握し、学生全員が一定レベルの知識をもって課題に取り組めるよう講義資料の工夫や文献紹介をした。また、学生の成果物の成果(良い気づきなど)を学生全体の中で披露した。

## 授業科目名【 キリスト教と生命倫理 】

不妊治療や子どもを亡くした親など体験者の声を聴けるよう DVD 教材を選定し、講義内で学生が対象の立場を思い図れるよう工夫した。また、生命倫理に関する症例を提示し、助産活動の実状を具体的に説明した。

#### 授業科目名【 助産診断・ケア学 I (妊娠期) Ⅱ (分娩期) Ⅲ (産褥期) 】

各科目とも教員が模擬患者役となりシュミレーション演習を行った。随時学生の意見を発表させながら、根拠をふまえたアセスメントをもとに行動できるよう意識づけをした。

## 授業科目名【助産診断・ケア学VI(健康教育演習)

1年を通じて段階的に健康教育の技法が習得できるよう計画した。また、最終段階の高校生生に向けた思春期健康教育実施にあたり、学生と高校の連携を図り、健康教育活動が円滑に行えるよう支援した。

## 授業科目名 【 助産診断・ケア学VII (助産過程演習) 】

担当学生の進捗状況に合わせた支援を心がけた。

## 授業科目名【 助産学研究演習 】

実習中より研究テーマにつながるような体験や気づきができた際、積極的に文献などを収集し記録するよう促した。できるだけ主体的な研究活動となるよう心がけた。

## 授業科目名【 助産学実習(基礎)(正常 I)(正常逸脱 II)(管理) ?

複数の実習施設を担当し、施設の状況に応じた調整を適宜行った。また、精神的に不安定な学生に対しては学内の心理カウンセラーと連携し対応法を確認、学生の状態に応じた支援を行うようにした。また、臨床指導者にも配慮してもらえるよう、随時調整した。保護者への状況説明や支援依頼を別科長を通じて行った。

分娩介助実習では学生に過度の負担を与えないよう、健康管理に留意し指導を行った。24 時間体制で実習時の対応ができるように教員の待機表など作成した。

## 授業科目名【 母性看護学演習 】

看護過程は個別ワークで進行していたため、進捗状況には差がみられた。わからない部分への説明や教科書の活用の仕方などその都度個々の学生に合わせて指導した。

## 授業科目名【 母性看護学実習 】

実習施設の学習環境に差があるため、限られた対象からグループ全員が学びを共有できるよう空き時間中の臨床講義などを行った。実習病棟では専任の指導者が配置されていないため、指導者との調整や橋渡し役など行い、実習がスムーズに進行するよう心がけた。

## 授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】

助産師希望や母性に興味がある、単位取得のため選択した等、受講生の志望動機にばらつきがみられたため、 個々の目標を立て指導した。課題達成のための学習計画を学生と共にたて、目標到達できるよう支援した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月~現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月~現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月~現在
日本思春期学会	会員	2005年1月~現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月~現在

2 0 1 6 年 度	研	究	業績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行ス 発表の:		発行所、 スは発表				概		要	
(著書)											

2016年度     研究業績等に関する事項       著書、学術論文等の名称     単著・ 共著の別 発表の年月     発行刀は 発表の年月     現は発表学会等の名称     概     要       (学術論文)     (学術論文)     (学会発表)     (学会発表)     (学会発表)     (学会発表)
著書、字術論文等の名称
(番門記尺)
(学会発表)

	外	部資金	(科学研	研究費補則	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(2
				(1)	共 同 码	开 究	
研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

	外部資金	(科学研	开究費補則	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>(a)</u>
			(2)	個 人	研 究	
研	究 題	目		交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称	5		役	職名	等			任		期	
(内 容)			1文	職名	寸			期	間	等	

- ・看護学科や他学科学生の女性の健康相談を、看護学科教員や保健室職員を通じて受け入れ、関連する病院の紹介や連絡調整を行った。
- ・しおん祭では助産別科教員主催の「助産師のひろば」と題し初出展し、来訪者に子宮がん・乳がん予防の啓蒙活動を行った。また、別科学生の参加も促し、学生がアロママッサージを提供することで助産別科の存在を地域に広める活動とした。

氏名 前田幸 職名 助教	学位 助産修士 (天使大学大学院 2006 年)
--------------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、バースレビュー、子育て支援、保健指導、 助産師学生、分娩介助

#### 研 宪 課 題

- ・分娩体験におけるバーレビューの意義や役割に関して考察する
- ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着形成に与える影響について考察する
- ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する

## 担 当 授 業 科 目

母性看護学演習

母性看護学実習

ウィメンズヘルス看護論

女性の健康支援

助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ(演習)

助産学基礎実習

雕学網Ⅰ·Ⅱ·髀

助産学研究演習

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【母性看護学演習・実習】

演習では、実習を念頭において看護技術習得が行えるように関わっていった。実習に関しては、看護過程の 展開を通し、学生個々に合わせたフィードバックを行うことで実習目標の到達できるように関わっていった。 またケアの実施の際には、根拠を考えていくことの必要性を伝えていった。実習を通して学生が自身の女性 観・母性観について考えることができるような支援を行った。

## 授業科目名【助産診断・ケア学】

助産診断・ケア学では、各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように関わるとともに、より実習をイメージした演習ができるように各ガイドラインなどを意識しながら、工夫して関わっていった。

特に助産診断・ケア学II(分娩期)では、状況を設定した演習を多く取り入れ、学生自身に自ら考え行動できるような工夫をし、支援を行っていった。

## 授業科目名【助産学基礎実習】

実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行っていった。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、科学的根拠に基づいたケアを提供できるように関わった。学生個々の価値観やバックグラウンドを考えながら、臨床指導者や他の教員と意見交換し、フィールドバックを行っていった。

#### 授業科目名【助産学実習 I · Ⅱ】

実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるように、学生の支援を行っていった。特に助産学実習 I・Ⅱでは学生が対象者を多角的に捉え、気付き、対象者に寄り添ったケアを提供できるように支援を行っていった。また倫理的視点を常に持ち、考えて関わっていけるように関わった。臨床指導者や他の教員と密に連携をとるとともに意見交換し、フィールドバックを行っていった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会		2003年4月~現在に至る
日本助産学会		2017年3月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書) 無					
(学術論文) 無					
(翻訳) 無					
(学会発表) 無					

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
(1) 共 同 研 究							
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
無							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
(2) 個 人 研 究										
	研	究	題	目		交付	寸団体	交付決定額 (単位:円)	備	考
無										

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等 <i>の</i> (内 名	D名称 字)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
無												

周望学舎 シニアサマーカレッジ 2016年 担当教員の一員として参加





 氏名
 加來卯子
 職名教授
 学位博士(芸術工学)(九州大学 2011年)

研 究 分 野	研究内容のキーワード		
被服学、色彩学	衣生活、被服製作、色彩、デザイン、高齢者		

## 研 宪 課 題

家庭で行われてきた被服分野における 'ものづくり'は、現在、あまり行われなくなり、一般学生の製作への意識が変化しつつある。そこで、学生および一般市民を対象に、セミナー等を通じて、楽しみながら、人間の根源的な活動の一つである 'つくること'の重要性を周知する。

## 担 当 授 業 科 目

ファッショと生活(前期)

服飾基礎 I (前期)

服飾基礎Ⅱ (後期)

服飾創造実習I(前期)

服飾創造実習Ⅱ(後期)

衣生活論(後期)

ボランティア論演習(前・後期)

生活創造演習(前・後期)

生活創造論(後期)

地域の技と文化(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【服飾基礎I】

本授業は、衣生活を営む上で必要な、被服に関する知識および技能を修得することを目的としている。 ここ数年、入学前までに被服分野の実習経験が少ない学生が多い傾向にある。 本授業は初年次における授業 (実習)であるため、全体への説明の後、常に机間巡視を行い、学生が不安を感じることのないよう、マンツ 一マン体制で授業を進めた。教材として、刺しゅう作品(基礎・応用)、子供服(衣服の構成および縫製技術、デザインの修得)を設定した。毎時、学生の進捗状況を確認し、アドバイスを行うとともに、製作が遅れている学生については、教育支援職員の協力のもと、時間外の個人指導により対応した。

#### 授業科目名【生活創造演習】

学生の感性を表現する教材として、西洋におけるドレスデザインをもとにした服飾作品 (1/2大) を選定した。服飾の時代背景、被服材料や構成等について概説し、現代の衣服との相違点について学生への理解を促した。学生同士が助け合いながら協力し取り組めるよう、二人一組で製作を進めた。不織布および木綿布で構造を仮確認し、型紙を修正した後、試行錯誤を繰り返しながら本縫製および装飾を行った。各々のデザインとも教育支援職員の協力・対応のもと授業を進めた。授業時間内に課題をこなすことは難しいため、作品製作は時間外も実施した。

#### 授業科目名【ファッションと生活】

導入時にテーマに関する身近な事例をもとに問題提起し、問答を通して学生の関心を集めたうえで本論へ展開し、内容の理解を促した。視聴覚教材および文献資料を提示し、学生が授業内容を把握できるよう配慮した。 毎時、授業の最後に、内容および感想、質問等について記述させ、授業に対する学生の意識、理解度等を把握し、次回の授業へ反映させた。

# 授業科目名【ボランティア論演習】

北九州市で開催される「手づくり市場 in 北九州」(11 月)において、一般市民を対象に編み物支援(ニットアウトボランティア)に臨む。 $4\sim10$  月、支援のための練習を行い、ポスター制作、材料準備、会場設営等、学生各々が分担し、地元企業の協力を経て実施する。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本家政学会		1990年4月~現在に至る
日本家政学会被服心理学研究分	九州地区委員(2003年4月~現在に至	1989年4月~現在に至る
科会	る)	
日本繊維機械学会		1989年4月~現在に至る
繊維製品消費科学会		1989年4月~現在に至る
ファッションビジネス学会		2001年11月~現在に至る
日本色彩学会		2002年9月~現在に至る
日本生理人類学会		2008年4月~現在に至る
人間-生活環境系学会		2008年4月~現在に至る
日本衣服学会		2012年1月~現在に至る

2 0 1 6 年度	. 研	究 業	績 等 に 関	する	事 項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
(学術論文)					
(翻訳)					

(				
(学会発表) 暖色と寒色の異なるスタイルの介護服に対して要介護者が抱く印象	共	2016. 6	日本繊維製品消費科学会(東京家政大学)	①自宅での介護を望む高齢者も多いことから、介護施設では自宅にいるような雰囲気が求められる。 そこで、対人関係の内容やあり方についての情報を伝達する機能をもつ介護服に着目し、暖色と寒色の違い、ならびにスタイルの違いにより介護服が高齢者にどのような印象を与えるか調査を行った。 ②庄山茂子、青柳絵理、加來卯子
暖色系の花柄と無地の 介護服に対して要介護 者が抱く印象	共	2016. 6	日本繊維製品消費科学会(東京家政大学)	①介護者と要介護者間でより良い対人関係を築く方法の一つとして、非言語コミュニケーションの媒体である介護服に着目した。先行研究より、介護服に花柄を採用することで、高齢者の精神的負荷を軽減できるのではないかと考えられる。そこで、高齢者介護施設において暖色系の花柄と無地の介護服に対して要介護者が抱く印象について調査を行い、要介護者に求められる介護服について明らかにすることを目的とした。 ②庄山茂子、鶴林春穂、加來卯子
安全性や景観の印象からみた路面のカラー舗装について	共	2016. 10	日本家政学会九州支部第 62 回大会 (鹿児島大学)	①市民の景観形成に対する関心が高まる中、近年、運転者への注意喚起を促し、交通事故を防ぐ対策として全国で路面のカラー舗装が施されている。そこで、本研究では安全性やより良い景観づくりという2つの視点から異なる色のカラー舗装について印象を調査し、今後求められる望ましい道路景観を考察することを目的とした。②片山徹也、永田理紗、加來卯子、庄山茂子

	外	部資金	(科学)	研究費補助	力金等)	導入状	况(本	学共同	]研究費を含む	(م_
				(1)	共	同	研	究		
研	究	題	目		交付団体				究 者 ()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)										
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	B		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	に	お	け	÷	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職	名	等			任期	間	期 等
手づくり市場 in 北九州 まちなか ESD センター運営委員会 北九州市都心集客推進委員会 たんたんマルシェ 親子で小物づくり担当	実行: 委員 委員	委員					2012年 2016年	E 4 月~野 E 10 月~ E 4 月~野 E 9 月 24	現在に至	至る
ESD 講座 刺繍ミシンを使用した作品制作(講師 およびコーディネーター)							2016 年	E 11∼12	月	
北九州市民カレッジ講座 すっきり暮らしたい"モノ"との向き 合い方 ~環境にも家計にも優しい 人づくり「ファッションに彩りを添え る一布を折る、巻く、結ぶ一」							2016 年	三12月2	1日	

学 内	に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
入学試験会議委員	2016年4月1日~2017年3月31日
点検評価改善会議委員	2016年4月1日~2017年3月31日
運営会議委員	2016年4月1日~2017年3月31日
人事委員会委員	2016年4月1日~2017年3月31日
学生募集委員会委員	2016年4月1日~2017年3月31日
学生委員会委員	2016年4月1日~2017年3月31日

就職委員会委員 2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日 公開講座委員会委員 2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日 学生個人情報保護委員会委員 2016 年 4 月 1 日~2017 年 3 月 31 日

生活創造学科2年クラス アドバイザー (学生支援)

氏名 中島 俊介	職名 教授	学位 博士 (学術)
----------	-------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス 心理教育 地域精神保健

#### 研 究 課 題

平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築

## 担 当 授 業 科 目

心理学 コミュニケーション基礎 教育心理学 行動科学 コミュニケーション展開

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 心理学 】

学生の講義に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて毎年苦慮する。

今年度は「映像を講義中を必ず入れる」は実行できた。「質疑を活発にする」はなかなか困難であったができるだけ発問をして意欲を喚起した。

## 授業科目名【教育心理学 】

教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の定期試験の内容も採用試験を意識した内容とした。

#### 授業科目名【 行動科学 】

受講人数が多く。いかに講義中の学生の集中力が途切れないようにするかに留意した。大教室のために後方の学生に注意を喚起するために課題を与えて机間巡視を時々試みた。次年度この点により工夫を加えたい。

#### 授業科目名【コミュニケーション基礎】

少人数なので演習中心の講義となった。そのために学生の成果の返し方に工夫と努力した。学生の書いたものを次回の講義までに、パソコンに入力し、プリントアウトして教材とした。これはかなりの負担となったが成果は大きかった、「聞く力・書く力・話す力」が向上したと自負している。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本教育心理学会		1982年4月加入
日本人間性心理学会		1998年4月加入

2 0 1 6 年 度	研研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) なし										
(学術論文) (報告) お菓子の家の創作授業 を通じた食育、人材育 成、地域連携の取り組み	共著	2017年3月		vol.21.	学院大 pp191-2		①	義と効果 木村久江	につい	作発表の意 て論じた。 卯子 谷崎
(都記)										
(学会発表) 平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の研究 3	共著	2016年8月		会場;	生心理学 九州産			化的平和 いて発表 井完児	した。	重要性につ

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1) 共 同 研 究												
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
なし												

		外	部資金	: (科学	研究費補具	助金等) 導入状治	况(本	学共同研究費を含む	<u>'</u> 2)	
					(2)	個 人	研	究		
	研	究	題	I		交付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし										

社 会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任期	間	期 等
北九州市 保健福祉局 同和対策部 人権啓発映画 制作委員	現在	委員長	į.			1994 <sup>£</sup>	Fから現	生に至る	3
北九州市人権施策審議会委員(第一 期・二期・三期、現在に至る)	委員					2003年	Eから 20	017年€	3月まで

	学	内	に	お	け	る	活	動	等	(役職、委員、学生支援など)
なし										

	<b>対</b> 授 学位 経営学修士
--	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
会計学	統合的企業会計、財務報告の変革、
管理会計論	管理会計情報の公開可能性

研 究 課 題

企業会計統合論

~管理会計情報の公開可能性~

# 担 当 授 業 科 目

キャリアデザイン I (1年前期)

コンピュータリテラシー I (1年前期)

キャリアデザインⅡ (1年後期)

コンピュータリテラシーⅡ (1年後期)

コンピュータ総合演習(2年前期)

原価計算論(2年前期)

管理会計論(2年後期)

生活創造演習(2年通年)

生活創造論(2年後期)

ボランティア演習(2年通年)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【キャリアデザイン I / キャリアデザインII】

- トピックにマッチした外部講師を依頼し、学生の関心を喚起して学修の刺激とした。
- 自己分析等にかかる各種資料を作成することを促し、学修のアウトプットに務めた。

# 授業科目名【コンピュータリテラシー I / コンピュータリテラシー II 】

- 報告書、議事録、企画書等の多様な文書の作成を想定したに対応したワードプロセッサ及び関連アプリケーションの基礎的操作技法、並びにデジタルデータの取扱を前提とした仕事環境において備えておくべき基礎知識の両面をバランス良く習得させるべく授業展開を図った。
- スプレッドシートの基礎的構造の理解と操作技法の習得を主眼とし、関数の使用、グラフの作成、シートの修飾・編集について基礎的なものから応用的なものに至る過程で漸進的に展開した、また、予め学習目標に即した教材を配布しておくことで意識の高い学生の学習意欲に応えるよう工夫した。

# 授業科目名【原価計算論/管理会計論】

- 製品原価の計算技法では、細分化された多くの項目について多様な計算技法を適用させる場面が多い ため、集計表を提示したうえで、段階を踏んで学生のペースに合わせながら進めた。
- 計算する項目が多い場合は適宜、表計算ソフトを用いて集計表を作成させ、計算項目相互間の関係を 理解しやすいよう説明した。

# 授業科目名【コンピュータ総合演習】

- Word、Excel、PowerPoint を統合的に使用してより高度な文書作成が行えるようになることを主眼として展開した。
- 特にアプリケーション間のデータ連係については、テキスト、html、bmp、jpg、メタファイル、音声、動画等を柔軟に組み合わせることを通じて理解が深まるように配慮した。

# 授業科目名【生活創造演習】

- 企業の開示情報を多面的に見ることを促し、一定のまとめとなるレポートの作成を指導した。
- 非財務情報を解釈する一助として、テキスト・マイニングの効果を探る初歩的なデータ処理を行った。
- 会計情報に関する知識と、コンピュータリテラシーの統合的学修を提供することに務めた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本簿記学会		1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会	監事(2000年~現在に至る)	1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会	中四国支部幹事(2001年~2003年)	1998年4月
広島大学マネジメント学会		2000年12月
経営行動研究学会		2008年8月

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テヌは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
なし											
(学術論文)											
なし											
(\$T1≥0)											
(翻訳)											
なし											
, d C											
(学会発表)											
なし											

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(1)	共	同	矽	千 究			
	研	究	題	目		交	付団体			究 者 ()内は学外者	交付決定額 (単位:円)	
なし												

		外	部資金	(科学	研究費補明	协金等) 導入状況	兄(本	学共同研究費を含む	(s)	
					(2)	個 人	研	究		
	研	究	題	目		交付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし										

	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の (内 名	)名称 系)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
職業能力開発協会 CS 検	定		主任	試験官				(2015	年4月~	~2017 <sup>£</sup>	下3月)	

教務委員(2016年4月~2017年3月)

就職委員(2016年4月~2017年3月)

大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員 (2016年4月~2017年3月)

入学試験委員(2016年4月~2017年3月)

学生募集委員(2016年4月~2017年3月)

教育経費予算配分委員(2016年4月~2017年3月)

情報システム管理運用委員 (2016年4月~2017年3月)

大学短期大学部一般教育課程委員(2016年4月~2017年3月)

氏名 領木 信雄	職名 准教授 :	学位 博士 (情報工学)
----------	----------	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
情報教育の手法(プログラミング教育) 教育の情報化	Scratch・食育の情報化

## 研 究 課 題

- ・小学生を対象とした情報 (プログラミング) 教育の手法を開発する
- ・小学生を対象とした食育の情報化のための教材を開発する

# 担 当 授 業 科 目

コンピュータサイエンス I(前期)

コンピュータサイエンス Ⅱ(前期)

マルチメディア基礎(後期)

生活創造演習 (通年)

生活創造論(後期)

ボランティア演習 (通年)

コンピュータサイエンス I (前期) (保育科 2 コマ/週)

コンピュータサイエンス II (前期) (保育科)

教育方法とメディア (後期)(保育科 2 コマ/週 × 8 週担当)

# 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【コンピュータサイエンス I】

実際に販売されている製品の紹介文・サービスの案内文・事件を扱ったニュースなどを導入にして、パソコンやスマートフォンを利用するにあたって、利用者として知っておくべき事柄について解説した。また、それらの知識が必要とされる検定試験の知識問題を紹介した。

# 授業科目名【生活創造演習】

子どもやシニアを対象としたプログラミング教室のサポートや展示会での作品の実演など、授業で扱ったことを学外で活かせるよう積極的にイベントに参加した。

#### 授業科目名【コンピュータサイエンス I(保育科)】

園だよりや園児名簿などを題材として、保育の分野で必要となるパソコン操作について基本から解説した。 また、それらの書類を作成するときに必要となるフリー素材 (写真・イラスト) の探し方や、利用にあたって の注意点についても説明した。

# 授業科目名【教育方法とメディア】

幼児向けのアプリについては、どのようなものがあるのかという紹介だけにとどまらず、それらがどのように 設計されているかという視点からも解説を行った。また、幼稚園児が対象年齢に含まれるプログラミング環境 についても紹介し、簡単なアニメーションの作成を演習で扱った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
電子情報通信学会		2000年~現在に至る
日本栄養改善学会		2016年~現在に至る

2 0 1 6 年度	. 研	究 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書)										
(学術論文)										
(都狺尺)										
(学会発表) 食育の授業のための iPad アプリの開発	共著	2016年9	学		日本栄養 総会 - 発表)		た授美 しい草 をあっ	美用アフ 明食を選 てた内容	プリを閉 選択する ぶとした	月を目的とし 開発した。望 らことに焦点 こ。発表では て解説を行っ

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(1) 共 同 研 究									
研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額						
	人门固件	○代表者()内は学外者	(単位:円)						
ICTを活用した新しい食育の授業デザインの	本学共同研究	○手嶋 英津子	1,245,000 円						
構築とタブレット端末用教材アプリの開発	費								

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況(	本学共同研究費を含む	ts)	
				(2)	個	人	研	究		
研	究	題	Ħ		交价	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考

社 会	にお	ける活	<b>新</b> 等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名等	任 期 期 間 等
まちなか ESD センター運営委員会 夏休み! 子どもデジタル教室 北九州市立年長者研修大学校 穴生学 舎	運営委員 講師 講師		2013年7月~ 2016年8月24日·25日 2016年9月15日

- 学外活動への学生引率
- ・夏休み! 子どもデジタル教室 2016年8月24日・25日
- ・北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 地域ふれあいコース 講義 2016年9月15日
- ・手づくり市場 in 北九州 2016年11月5日
- ・Kitakyushu MONOCAFE 2016 (展示会) 2016年11月5日・6日
- 西南女学院大学 生活協同組合 監事

氏名 木村久江 職名 講師	学位 家政学士
---------------	---------

石	开 ダ	宅	分	野	研究内容のキーワード
調理学					ジンジャーブレッドハウス (お菓子の家)、食育、 人材育成、地域連携、アクティブラーニング

#### 研 宪 課 題

菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考察する。 欧米の伝統的な菓子(ジンジャーブレッドハウス)を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考える。

生活創造演習としての観点からは、学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導していくことが課題であり、同時に意義があるものと思料する。

	担	当	授	業	科	目
①基本の調理 I	(前期)					
②調理学	(前期)					
③基本の調理Ⅱ		(後期)				
④食品加工実習		(後期)				
⑤生活創造演習	(前期	•後期)				
⑥生活創造論		(後期)				
⑦ボランティア演習	(前期	•後期)				

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 基本の調理 I ・基本の調理 II 】

学生の安全確保を第一に心がけ、実習の役割分担を決め学生全員が調理に携わるように工夫した。 示範や説明を詳しく行い、レシピにも写真を加えるなど分かり易く工夫した。調理実習の復習のため、実習で 学んだメニューを自宅で調理し、家族に感謝されることを経験することにより、料理することの楽しさを実践 させた。

# 授業科目名【 調理学 】

調理により食品の材料が食物になって料理として喫食者に提供されるが、食品の材料名など文字にかかれていても、実際にはその材料を見たことが無い人や分からない人が多いのが実情である。授業においては、写真や実物をできるだけ使い、実生活との距離感を縮められるように工夫した。

# 授業科目名【 食品加工実習 】

日本の伝統的な食品(ex.味噌、豆腐)を中心とした、様々な加工食品を実際に自分で作ることができるように、製造原理、加工方法などを詳しく説明して理解させることに努めた。また、実際に手を動かして実践させることにも注力した。

# 授業科目名【生活創造演習】

菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考え、欧米の伝統的な菓子(ジンジャーブレッドハウス)を学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導した。社会交流として学外展示に対応できるように日頃からの礼儀作法に重きを置いた。

# 授業科目名【生活創造論】

欧米の伝統的な菓子(ジンジャーブレッドハウス)を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考えた。

# 授業科目名【ボランティア演習】

配食サービスボランティアは、地域の高齢者に減塩でバランスのとれた手造り弁当を作製し、自宅まで配達をした。このボランティアを通して高齢者とふれあい、今後どのようなサポートが必要で大切なのかを考えさせた。また、「お菓子の家」の展示活動にあたっては8施設(小倉城・株式会社井筒屋・福岡銀行北九州営業所・北九州市水環境館・北九州市立医療センター・北九州市立八幡病院・健和会大手町病院・高齢者複合施設ふれあいの里とばた)での地域交流・貢献することの大切さを考えさせた。更に、「お菓子の家」のイベントではこども達とのふれあい交流を目的とした食育・知育・情操教育の大切さを考えさせた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本調理科学会		1984年4月~1991年3月
		2012年4月~現在に至る
日本家政学会		1984年4月~1991年3月

2 0 1 6 年度	. 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		了又は の年月			発表雑 学会等の			概		要	
(著書)												
())								F		T		
(学術論文) 【報告】									•		ジンジャーブ 制作作品を、	
お菓子の家の創作授業	共著	2017	年3月	西南	女学	完大学系	要				て学外で展	
を通じた食育、人材育				Vol.	21,20	17		示発表	を会め	制作講	習会を行う	
成、地域連携の取り組み				(垄	読あり	9)					は連携を実践	
											体験型学習	
											ニング)におしと地域貢献	
								の成果を報告する。この一道 取り組みは地域の自治体や				
											行ったもの	
								であり	)、企画	ゴした新	巻表会の一部	
								が北カ	九州市	の地域	活性化の取	

2 0 1 6 年 度	研	究	 業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑詞 学会等の			概		要
								ちづく とし <sup>*</sup> の貢献 共著者	くりスラ ても認え 者名 るの先生	デップア Eされ、 かられた <u>木木</u> 加球 中島	式 28 年度ま ア 事業 ・ 地域社会へ ・ 大
(番雅尺)											
(学会発表)											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)												
		(1)	共 同 矿	开 究								
研 究	題目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)							

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(2	2) 個 人	研 究									
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考								
夢と創造の世界を	北九州市	170,000 円	H28 まちづくりステ								
~お菓子の家づくりで異文化を知ろう~			ップアップ事業 認定事業								

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
<ul> <li>・平成28年度</li> <li>まちづくりステップアップ事業</li> <li>(認定事業)</li> <li>「お菓子の家」展示及びイベント講座</li> <li>①小倉城</li> <li>②小倉 井筒屋</li> <li>③福岡銀行 北九州営業部</li> <li>④北九州市 水環境館</li> <li>⑤北九州市立医療センター</li> </ul>	認定事業担当	2016年4月8日~2017年3月24日 2016年5月8日~6月4日 2016年12月7日~12日 2016年12月14日~22日 2016年12月23日~2017年1月16日 2017年1月31日~2月13日
<ul><li>⑥健和会 大手町病院</li><li>・夏休み南丘プレイキッズ講座 「ペーパークラフトお菓子の家づくり」 於:小倉南区南丘市民センター</li></ul>	講師	2017年1月31日~3月24日 2016年8月8日
・高齢社会を良くする北九州女性の会 配食サービス活動 (5 年継続) 於:戸畑区一枝市民センター	支援ボランティア	2016年11月~12月
<ul><li>・生き生きこども講座 「クリスマスの文化を楽しむ」 於:戸畑区三六市民センター</li></ul>	講師、支援ボランティア	2016年11月19日
・タンタンマルシェ講座 食講座 「大福もちに挑戦」	講師	2016年11月26日

- ・第 64 回福岡県統計グラフコンクール応募にかかる学生指導 (2016 年 4 月 ~ 9 月) 成果: 受賞 佳作 1 作品 (5 名) 「4 年連続」 (2016 年 11 月 18 日)
- ・第64回福岡県統計グラフコンクール協力校表彰 受賞「4年連続」(2016年11月18日)学生支援 (学生の統計グラフ作品の指導に取り組み、統計教育の普及に寄与した業績に対し福岡県知事より表 彰された)
- ・「お菓子の家」の展示及びイベント講座 学生支援
  - 小倉城
  - ②小倉 井筒屋
  - ③福岡銀行 北九州営業部
  - ④北九州市 水環境館
  - ⑤北九州市立医療センター
  - ⑥健和会 大手町病院
- ①~⑥は北九州市まちづくりステップアップ事業 認定事業
- ⑦北九州市立八幡病院
- ⑧老人複合施設 「ふれあいの里 とばた」
- ・地域貢献活動交流会 分科会「お菓子の家」発表 学生支援 (2017年3月16日)

# 保育科

氏名   戸田 由美   職名   教授   学位 文学修士 (関西学院大学大学院)
--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石文芸・東洋的見地・見立て・意外性

#### 研 宪 課 題

夏目漱石文芸における「不思議さの究極にあるもの」あるいは、「意外性」についてその本質的意義を解明するものである。漱石文学の構成、並びに文学的手法を分析することによって、人間の根本的課題が『心と言葉』に凌駕するものであることを、論理的に説明することを目的としている。

# 担 当 授 業 科 目

#### 文学 I · Ⅱ (生活創造学科·保育科)

児童文学(保育科)

日本語表現法(生活創造学科・保育科・大学)

キャリア講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(保育科)

地域の技と文化(生活創造学科)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 文学 I · Ⅱ 】

文学という講義の存在理由、文学を学ばなければならない理由、その目的、そういったことをまず理解させ、 上質な文学作品、ベストセラー小説の意義を考えさせる。この社会学的考察は、人の心、背景、時代、言葉、表現といったすべての事柄を含むので、おのずと学生自身が自分自身と照らし合わせながら考察するようになの段階まで成長させることを念頭に、絶えず工夫して取り組んでいる。

# 授業科目名【日本語表現法 】

シラバスにも記載しているが、学生自ら、考え、まとめ、書くという行為を何度も体験し、自身の弱点をつかむこと、そして訂正すること、こういったことを、なるべくマンツーマンで、分かりやすく丁寧に、根気よく指導した。随分、実力はアップしているようである。また読み書きに自信が持てたという学生もあったのでいささかでも役に立っているかな?と思う。

# 授業科目名【 児童文学 】

保育の専門科目をベースに踏まえて、子どもの成長に適った絵本の紹介説明、様々な児童文学における登場 人物の意味、こどもの心がどの様な点で、育まれていくのかなど、事例を挙げながら、また、実際の本も掲げ ながら講義することに、工夫をこらしている。

## 授業科目名【 ゼミ 】

ファンタジー文学ゼミであるが、保育のプロフェッショナルを目指す学生ならば、一度は、考察しなければならぬ門としてファンタジーがある。その意義を解明するために、座学、映画鑑賞、プリント、絵画構成等々あらゆる視点からやわらかな能力で考察出来る様なテーマを出しつつ、学ばせることに力を入れている。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本文芸学会		1983~
日本キリスト教文学会		1983~
日本近代文学会		1985~
谷﨑潤一郎文学会		1995~

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
(著書) なし												
(学術論文) なし												
(翻訳) なし												
(学会発表) なし												
5. 2												
				<u> </u>								

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
(1) 共 同 研 究												
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
なし												

		外	部資金	:(科学	研究費補具	助金等) 導入状	況(	本学共同研究費を含む	(z)	
					(2)	個人	研	究		
	研	究	題	目		交付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし										

;	社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名 (内 容)	3称			役	職名	等			任 期	間	期 等	
北九州市・認定こども園部	会		非九專門		-ども・-	子育て	会議					

人事委員

保育科学科長

短期大学部学部長

# 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 下山祥子	職名	特別契約	٢٠٠٠ المراب
		第三種 教授	学位

研 究 分 野	研究内容のキーワード
	<ul><li>幼稚園教育</li><li>・保育所保育・保育者の資質向上</li><li>幼児期の言葉</li><li>・保育実践</li></ul>

# 研 宪 課 題

- 1. 幼児期の保育・教育専門職として、資質向上に向けた保育の在り方保育の歴史を振り返り、保育思想家の考え方、各時期の保育の在り方等を考察し、現在の保育者の資質向上について検討する。
- 2. 幼児期にことばを育てる児童文化財の在り方 幼児の発達と言葉との関係、ことばを育てる児童文化財の在り方について考察する。

			担	当	授	業	科	目
指導法の研究	(前期)							
保育原理	(後期)							
保育内容の研究	・言葉	(後期)						
保育·教職実践	演習	(後期)						
教育実習指導	1年生	(通年)						
教育実習指導	2年生	(通年)						

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 指導法の研究 】

- ・ 現場で必要な各年齢の発達の理解、その発達にそった環境構成の在り方、教師の援助の仕方など、教材研究の在り方について視聴覚教材と事例を通して理解を図っていった。また実習に行った場面や事例を通してグループ協議を行ったことは、保育の在り方を知るうえで勉強になったと思われる。
- ・ 保育現場で実践力を育てるために、保育場面で欠かせない遊びや教材作りについて、幼児の発達と季節を 考慮し、身近にある素材を活用した内容について知らせたことは楽しかったようである。

# 授業科目名【 保育原理 】

- ・ 保育に関する基本的事柄について、保育の歴史から見た保育思想家の考え方、保育目標・保育方法の在り 方について学ぶ機会を設けた。また保育制度の現状と課題、子育てに関する課題点を知り、保育現場での今 後の在り方について改めて見直す場を作ったことは、保育の場で働く学生にとっては勉強になったのではな いかと考える。
- ・ 保育の意義や社会的役割について、視聴覚教材や事例を通して授業を行ったことは、より具体的に理解できたのではないかと考える。

#### 授業科目名【 保育内容の研究・言葉 】

- ・ 幼稚園実習前の教材準備として絵本読みを各自全体の前で行った。絵本を選択した意図、実践する時の留意点などを記入し、発表させたことは教材準備をするうえで意識が明確になってよかったと思われる。
- ・ 言葉の領域として、想像力を広げて話せる保育者になって欲しいと考え、一場面の絵や字のない絵本から イメージを広げて話作りを試みた。またその話を紹介することで、イメージの広げ方や話の作り方について 学んだのではないかと考える。

・ 幼稚園教育指導要領、保育所保育指針で「言葉」のねらいをおさえ、幼児の発達と言葉との関係及び保育の内容と方法について視聴覚教材と事例を通しておさえていった。さらにグループでの教材作りを行い、役割分担をする中で協力することの必要性、グループで実演する時の留意点や幼児に興味を持つための語りかけなど、保育者として必要なことを協議した上で実演したことは今後の参考になったのではないかと考える。

# 授業科目名【 保育・教職実践演習 】

- ・ 実践演習の一つ、「模擬保育」を指導案作りから準備、実践、実践後の協議までを学生がすべて進めていったことは、各自が自主的に考え行動していくことを学ぶよい機会であったと思われる。
- ・ 現場で必要とされる「保護者とのコミュニケーションの在り方ー学級だよりー」についてパワーポイント や資料を通して行った。さらに自分が担任だと想定して、「学級だより」を作ったことは今後保育者となった ときの参考になったと考える。

# 授業科目名【 教育実習指導 1年生 】

- ・ 1年生の教育実習指導においては、最初の実習でもあり、観察実習の見方と観察日誌の書き方に重点を置いて授業を行った。また日誌の記述後、各自への添削のみでなく互いに記録を見せ合って協議を行ったことはより勉強になったと思われる。
- ・ 後期の実習指導では、指導案の書き方について授業を行った。指導案は初めての経験であるため、2回書 く機会を与えた。その際、1回書いた後一人ひとりに対して添削を行い、それをもとに書き直しを行ったことは指導案の書き方についてより深く学ぶことができたと思われる。

# 授業科目名【 教育実習指導 2年生 】

- ・ 2年生の教育実習指導においては、基本的なことは1年生で行っているので、記録の書き方の中で実習目標の立て方、環境構成の書き方、考察の書き方に視点を置いて授業を行った。全体の授業の中のみでは理解が不十分であると思われたので、一人ひとりの実習後の面談において具体的に指導を行った。一人ひとりの学生にそった個人指導は、質問も多く出てより具体的に理解ができたのではないかと思われる。
- ・ 前期・後期ともに実習先での査定保育が行われることを想定して、各年齢にそった半日の指導案作りを行った。1年生での基礎的なことを行っていたので、指導案の書き方については書き馴れてきているように感じた。さらに今後は教材準備の在り方について押さえていく必要があると感じた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
なし		

2016年	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テ又は の年月			発表雑誌 学会等の			概		要	
(著書) なし												
(学術論文) なし												
(翻訳) なし												
(学会発表) なし												

	外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
	(1) 共 同 研 究									
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)		
なし										

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし											

社 会	にお	け	る	活	動	等	
団体・委員会等の名称 (内 容)	役	職名	等			任 期	期 間 等
北九州市福祉事業団 児童福祉施設保育士研修会	講師				201	6年 9	月 7日
全国幼児教育研究協会	特別名誉	会員			200	8年5月	〜現在に至る

西南女学院同窓会保育科部会役員

2008年度~現在に至る

氏名 岩田 美穂子 職名 特別契約教員Ⅱ種教授	学位 教育学修士
-------------------------	----------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
幼児教育					キリスト教保育
環境教育					幼児期からの環境教育
保育者養成					体験的教育

研 宪 課 題

幼児期からの環境教育の目的と方法

保育者養成におけるキリスト教保育の教授方法

担 当 授 業 科 目

保育者論

保育内容「環境」

教育実習指導

教育実習Ⅰ、Ⅱ

保育·教育実践演習(幼稚園)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 保育者論 】

1年生前期の開講であるため、まず自分の幼児期に出会った保育者の思い出から、保育者像の探求を行った。 入学当初の緊張が強い時期であったが、一人ひとりの学生が自分の幼児期の思い出と保育者への思いを生き 生きと語り、聞く立場の学生達と共有できたことが、望ましい学習意欲に繋がったと思う。また、キリスト 教保育を理解するために、フレーベルやマザーテレサ他、過去の偉大な人物のグループ研究を行い、教育的 成果を上げることができた。

#### 授業科目名【 保育内容「環境」 】

学生の身近な環境への関わりから、理解を深めるためにグループに分かれ、キャンパス内の自然環境観察を目的とした散歩保育の演習を行った。このことをきっかけに、季節の移り変わりの中で、自然環境や人々の暮らしの変化を考えるようにした。さらに、採集した自然物を使った製作や秋植え球根の栽培など、保育の場で行うことが多い実践的活動を通して、理解が深まるように指導を行った。

#### 授業科目名【 教育実習指導 】

1 年生については、観察の方法と記録の書き方をまず指導し、繰り返し添削を行う中で適切な観察と記録の書き方が身に着くように指導を行った。さらに、保育指導案の立案についても繰り返し添削を行い、指導案の基本的な立案の心構えと作成の方法を個別に指導した。2 年生ではその中で、子どもの見方及び保育活動に関する基本的な考え方を理解できるように指導を行った。

# 授業科目名【 教育実習Ⅰ (1年生)、教育実習Ⅰ (2年生) 教育実習Ⅱ 】

1 年生後期の教育実習 I では、初めての学外実習のためキリスト教保育の幼稚園を選んで配属している。その中で本学が大切に考えているキリスト教保育の理念と方法を体験的に経験し身に着けられるよう、園の先生方との話し合いを持ち、指導をお願いしている。巡回指導で学生の様子を把握し、適切なアドバイスを行う。2 年生の教育実習 I 及びⅡでは、同じ園に行くため、より深い実習体験が持てるように巡回指導で話合いを持つ。

	学会における活動					
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期				
日本保育学会		1984年4月 (現在に至る)				
日本乳幼児保育学会	1994年4月 (現在に至る)					

2 0 1 6 年月	度 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テヌは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
(著書) なし												
(学術論文) なし												
(翻訳) なし												
(学会発表) なし												

		外	部資金	(科学研	研究費補則	协金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	(2)
					(1)	共 同 矿	开 究	
	研	究	題	目		交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし								

		外	部資金	:(科学	研究費補助	助金等)	導入狀	況(	本学共同研究	に費を含む	?)		
					(2)	個	人	研	究				
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定 (単位:		備	考	
なし													

社	会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等	
学校法人小野田めぐみ学園小野田めぐみ幼稚園理事		理事					2007年	₹4月(	現在に当	ĒS)	

西南女学院同窓会常任幹事 保育科同窓会 要の会顧問

氏名 末成 妙子 鵈	職名   特任教授  学	
------------	--------------	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
•音楽教育学	・聴覚障害教育(器楽合奏教育)
• 特別支援教育学	・こども音楽療育
• 幼児教育学	・表現(身体・音楽、言葉、)

#### 研 宪 課 題

こども音楽療育に関して、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え考察し音楽面の実践力をつける方法を研究する。美しく、しかしピアノ技法的には決して高度ではない保育者にとって演奏しやすい効果的な楽曲を作曲し、実際の保育の場面で生かし検証する。

# 担 当 授 業 科 目

保育内容の研究・表現(前期)

音楽の基礎 (前期)

保育総合表現(後期)

こども音楽療育概論(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 保育内容の研究 表現 】

後期の総合表現につなげるために音楽を用いた身体表現、言葉と音楽をリンクさせての表現、絵本と音楽表現など幼児の表現遊びをより豊かにするには音楽をどのように用いていくのが良いかを実体験するように構成した。ピアノ以外の楽器の効果を知り、幼稚園・保育園で使われる身近な楽器の効果的な扱いを学べるように、 末成自作のペンタトニック音階に着目した多くの合奏曲を用いて、不協和音を生まない、西洋音楽とは異なる和声的な響きを体感した。

# 授業科目名【 音楽の基礎 】

発達段階にふさわしいこどもの歌を選び、楽譜を見てその音楽を再現し、練習し、こどもに正しく伝えることができるために身につけておきたい楽典的なことを教授した。その際、実際に楽譜を見てその音楽が再現できるために、毎回フロアードラムを使ってのリズム打ち、こどもの歌の一節を用いての上下2度以内への移調、ハーモニーの基音を探し出しての簡易伴奏の方法など、保育の場面で必ず役立つ実技を踏まえた講義を行った。ピアノに苦手意識を持つ学生も多く、そのために余裕を持った保育ができないことは大変残念なので、歌う力も並行して身に着けてもらうために毎回4~5曲の季節の歌を学び、こどもに安心感を持ってもらい、なおかつ表情豊かで明るい歌声を目指すように指導した。

# 授業科目名【 こども音楽療育概論 】

新規に開設された科目なので緊張感を持って臨んだ。30名の受講生はまじめで向学心を持っているが、地域の 障がい者施設、音楽の多様な力を持ってする療育的保育ということになじみが薄いので、発達障がいを含めた 多様な障がいの実態、障がいのあるこどもへの実際の音楽的働きかけの末成の行ってきた映像、そのこどもら の音楽の演奏などを映像で見てもらいながら、音楽の力と障がいを持つこどもへの理解を深めさせた。

# 授業科目名【 保育総合表現 】

後期の授業でありながら、そのまとめとして2017年1月28日北九州芸術劇場にて保育科の集大成ともいうべき学生の脚本、演出による発表会を開催した。200余りの座席はほぼ満席になり多くの親子でにぎわい、学生は表現する充実感を存分に味わうことができた。舞台に立った演技者はもちろん、大道具、小道具、衣装、音響とそれぞれの力を結集し、北九州芸術劇場のそうした舞台を作る裏方のプロの方々とも通算4時間に及ぶ打ち合わせを2日間にわたり行い、計画、準備、協力、の大切さを体験することができた。本年度で3回目ということもあり教員間の共通認識も高まり、またプログラム・整理券の発行、当日の集客、会の流れ、すべてにおいて目標に掲げた学生各々が自覚を持って取り組むということが、実に順調に行われた。商業施設での開催ということで受け付けの方法などに若干の反省点があるものの、大道具の運搬などの力仕事にも積極的に取り組む学生の心意気が頼もしかった。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		アンは の年月			発表雑 学会等の			概		要
(著書) なし											
(学術論文)なし											
(翻訳) なし											
(学会発表) 「こども音楽療育士」育成への取り組み(障がいを持つ幼児に寄り添った音遊びの視点から)	単	2016.	10. 8	第4	17 回乡	樂 教 育 全国大会 浜国立力		がいるとした。からでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	nあるこう が新行り が新合 で かかな 来 り を かな 来 し の か る で の る の か る の り る り る り る し る し る し る し る し る し る し る	どもたとにから「ことになった」にからいかできませる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	でどの子でない子も ででない子も ででない子も ででない子も でない子も でない子も でない子も でない子も でない子も でないても考

		外	部資金	(科学研	肝究費補助	加金等)	導入狀	兄(才		司研究費を含む	<u>-</u> 2)
					(1)	共	同	研	究		
	研	究	題	目		交价	寸団体	(		<ul><li>究 者</li><li>() 内は学外者</li></ul>	交付決定額 (単位:円)
なし											

		外	部資金	(科学研	开究費補明	力金等)	導入状	況(本	マ学共同研究費を含む	(c)	
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	目		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし											

社 会	に	お		る	 活	動	 等		
団体・委員会等の名称		•	 職 名			291	任		期
(内 容)		仅	4敗 1	4			期	間	等
・混声合唱団 「コーロチェレステ」 指導	指導者	Á				2016年 奏 ェジグた於ル 補足:	催:末成 テ姫物語 「ゴンぎ で会場の 関市勝山 この音楽	1 日結成 作曲ミ 香」、大 でつね」 ) 300 ) 以 民館 ホール	は 30 周年記念演 ュージカル「チ 型紙芝居ミュー 他、多彩なプロ 席が満席になっ 音楽専用ホー 設立に関しては こ市行政に根気
<ul><li>・キリスト教保育連盟北九州地区保育 者研修会講師</li></ul>	講師					強く側 成を記 を開催 10月2	iきかけた L念してデ 。 20日 愛	た。2014 末成妙 なの園保	4 年完成し、落子ピアノ演奏会 育園にて実施。 よく使う小さな
						打楽器 打楽器 ばと音 を使っ 園の楽	を持参し 遊び、身 楽を融合 た日常の 経器を有効 、保育の	てもら 体表現 したあ 保育で めに使い	い、わらべ歌、 音楽遊び、こと そびなど、音楽 楽しめ、そして いこなす楽曲を 学び合うことが
・井堀市民センター音楽会「小さな森 の音楽会」	ピアノ	演	奏			ノによ の音楽	る地域の	カタ、 た。な	イオリン、ピア 子どもさん向け じみのあるクラ 、後半では本校

短期大学部の保育科の学生も加わっ
て市民センターのお料理器具を打楽
器に見立て使った参加型プログラム
も演奏した。「シンコペイティッド・
クロック」は会場も大いにわく大喝采
の出来栄えになった。
以上

8月21日 オープンキャンパス 模擬授業担当「みんなで楽しく音遊び」

~歌と小さな楽器を使った導入の工夫~

9月23日 シニアサマーカレッジ担当 「みんなで歌いましょう~心も弾ませて~」

氏名 阿南 寿美子 職名 准教授 学位 修士 (教育学)
------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード					
幼児心理 幼児教育	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ 保育観 異年齢保育					

#### 研 宪 課 題

幼児期の対人交渉場面において、年齢別保育または異年齢保育の幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。

保育者養成校の学生が、2 年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。

# 担 当 授 業 科 目

- ・保育の心理学 I (前期)
- ・保育の心理学Ⅱ (後期)
- ・乳幼児の発達理解と遊び(複数担当教員)(前期)
- ·教育実習指導(複数担当教員)(2年間通年)
- ・教育実習 I (複数担当教員) (通年・学外)
- ·教育実習Ⅱ(複数担当教員)(前期·学外)
- ·教育実習Ⅲ(複数担当教員)(後期·学外)
- ·保育·教職実践演習(幼稚園)(複数担当教員)(後期)
- ・子ども学基礎演習(通年)
- キャリア講座Ⅲ(前期)
- ・発達心理学(前期;看護)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【保育の心理学 I】

「保育の心理学 I」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。

# 授業科目名【保育の心理学Ⅱ】

「保育の心理学II」では、より実践的な子ども理解と保育者の配慮について講義及び、学生同士のグループワークを中心に授業を展開した。講義の際はスライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるようにした。また、実習日誌を活用しながら事例を取り上げ、各々や保育者の働きかけを学生同士のディスカッションを通して検討することにより、個々の子ども達の思いや多様な援助方法があることを理解できるように配慮した。

# 授業科目名【乳幼児の発達理解と遊び】

協同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に参加する際、保育者としての視点を持ちながら取組み、子どもの思いへの理解を深めた計画を立てることができるように配慮した。また、他者の指導案を添削することで、自身への気付きが持てるように授業を展開した。

# 授業科目名【教育実習指導】

事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。

報告会は 1、2 年生合同で行い、2 年生よるポスター発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
九州心理学会	会員	1998年~
日本保育学会	会員	2012年~

2 0 1 5 年 度	研研	究	業	績	争	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又 発表の <sup>生</sup>		発行所 又は発					概		要
(著書) 実習の日誌と指導案 サポートブック	共著	2016年(	6月	ナツメ	社			成する に体 し、作 した。 担当部	日誌や打 をした学 ・成のポッ	音導案に 生の記録 イント等	実習で必ず作 ついて、実際 禄を基に改善 について解説
								の姿と案、日	ねらい、 誌	部分•	歳児の子ども 責任実習指導 L状の書き方
(学術論文) なし											
(翻訳) なし											
(学会発表) なし											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
		(1)	共 同 码	开 究				
研	究 題	目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)			
なし								

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)											
					(2)	個	人	研	究		
	研	究	題	B		交付	寸団体		交付決定額 (単位:円)	備	考
なし											

社 会	に お け る 活	動等			
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等			
九州保育団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員	2012年4月〜現在に至る 2016年9月3日~4日			
光沢寺保育園「地球っこあつまれ!」 ボランティア		2016年10月22日			
北九州市第三者評価事業 北九州市立保育所講演会	専門委員 講師	2016年4月~2017年3月 2016年7月27日			

教職課程委員会 副委員長(2013年4月~2017年3月)

学生募集委員会 副委員長 (2014年4月~2017年3月) (ガイダンス4回 他)

入学試験会議委員(2014年4月~2016年3月)

大学点検評価改善会議 FD 部門委員(2016 年 4 月~2017 年 3 月)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員(2016年4月~2017年3月)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園教職員研修会講師(2016年8月22日)

西南女学院評議員(2016年4月~2017年3月)

教員免許状更新講習コーディネーター (2014年4月~2017年3月) ・講座担当 (2016年8月23日)

だいすきにっぽん講座担当 (2016年12月17日)

平成 28 年度第三者評価 ALO(2016 年-9 月 14 日~15 日)

氏名 命婦 恭子 職名 准教授 学位
--------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード				
臨床心理学					学校臨床ソーシャバ		ストレス	メンタル・ヘルス	

#### 研 宪 課 題

研究課題は大きく二つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、 実施することである。もう一つは、中学生の学校ストレスの現状とその支援策につて、数量的データを用いて 検討することである。さらに、今年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質 の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

	担 当 授 業 科 目	
こどもの臨床心理 (前期) 障がい児保育 I (後期) 障害児保育 II (前期) 保育相談支援(後期) 保育カウンセリング(後期) 保育・教職実践演習(後期)	こども学基礎演習(通年) キャリア講座Ⅲ(通年) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年)	施設実習 I 施設実習 II

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【 こどもの臨床心理 】

心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取て授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を目指にとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。

# 授業科目名【 保育カウンセリング 】

カウンセリング技法について、実践的に学ぶためのワークを多く取り入れた。選択科目であり、受講者数は少ないが、意欲が高いことから、身体活動を伴うワークを複数回実施することができた。また、充分な活動スペースを確保するために、講義とワークでは教室を変更するなど柔軟な対応を行った。

# 授業科目名【 障がい児保育 [ ]

小グループをつくり、それぞれにトピックスを割り当て、学生が調べた内容をプレゼンテーションしたものに教員が解説を加える方法で授業を行った。担当した学生がそのトピックスに興味を持ち、理解を深めることができることを目指した。

## 授業科目名【 保育・教職実践演習 】

保護者支援をテーマに、オリジナルの事例を用いて保育者として保護者の相談にのるロールプレイを実施した。ロールプレイ後、イメージできる母親像について複数の側面からの解説を行い、具体的なイメージができるよう支援し、実践的学びができるように工夫した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本健康心理学会		1997年4月~現在
日本心理臨床学会		1998年4月~現在
日本心理学会		2000年4月~現在
日本行動医学会		2001年4月~現在
日本ストレスマネジメント学会		2002年4月~現在
日本こども健康科学会		2009年4月~現在
日本健康支援学会		2010年4月~現在
日本保育学会		2014年4月~現在

2 0 1 6 年度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行: 発表の				発表雑 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(翻訳)											
(											
(学会発表) 状況的学習を用いた子		2016年	三5月	日本	保育	学会		本研	开究でに	t、コミ	ュニケーショ
育て支援				第6	89 回大	会					場への参加を
											SSを学習する ている。それ
											市場の中にプ
											り、その中で
											る活動を組み 場でのコミュ
											がなくとも自
											である。その
									D様子と W告した		ラム内容を検
								,,,,,,			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)									
(1) 共 同 研 究									
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)						
状況的学習をもちいたソーシャルスキル向上 プログラムの提案と効果検証	平成 28 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究)(区))	〇 命婦 恭子 (竹川 大介)	1,430,000						
状況的学習によるソーシャルスキル向上プログラムにおけるセッション内容の検討	私立大学等経 常費補助金	〇 命婦 恭子 (竹川 大介)	693,000						

(2) 個 人 研 究	
研 究 題 目 交付団体	

社	会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称 (内 容)			役	職名	等			任 期	間	期 等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員 中間市子ども・子育で会議委員							2002 <sup>在</sup> 在	F4月~₹ F~2007 F10月~	年、20	)14 年 4 月~現

教務委員

研究紀要委員

図書委員

教務総合人間科学小委員会委員

地域連携室室員

教育の質保証プロジェクト

外部資金導入促進プロジェクト

キャンパスハラスメント相談員

氏名 藤田 稔子 職名 准教授 学位 修士 (看護学) (神戸市看護大	学 2005 年)
-------------------------------------	-----------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
小児看護					感染症(感染症対策、予防接種) 小児ぜんそく

#### 研 究 課 題

## 【現在取り組んでいる研究課題】

・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す) ことば」について調査する。

#### 【継続していきたい研究課題】

- ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。
- ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、 スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

# 担 当 授 業 科 目

こども学基礎演習(保育科1年前期・後期)

保育内容・健康(保育科1年 前期)

子どもの保健 Ib (保育科2年 前期)

キャリア講座Ⅲ(保育科2年 前期)

こどもの保健 I (保育科1年 後期)

子どもの保健Ⅱ(保育科2年 後期)

医療保育概論(保育科2年 後期)

病児保育演習(保育科2年 後期)

看護臨床実習(福祉学科4年 前期)

女性と健康(生活創造学科1年 前期)

看護臨床実習(福祉学科3年 後期)

女性と健康(生活創造学科2年 後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

## 授業科目名【キャリア講座Ⅲ】

毎年、ゼミ活動である本科目は、「実践力を高める」ことを目的にしています。今年度は、毎月1回、0・1・2・3歳を対象とした子育で支援の場が得られ、昨年度と比較し更に充実した活動となりました。実践の場においては、私自身が子どもや保護者と積極的に接することにより、ゼミ生達も同様に接するようになりました。また、毎回必ずリハーサルをおこないその内容について助言をしました。結果、当日は些細な反省点はあるものの、大きな失敗をすることなく、毎回参加者の満足度も高く、ゼミ生達の達成感、成長ぶりは目を見張るものとなりました。

# 授業科目名【医療保育概論・病児保育演習】

両科目は、私が保育科に異動になってから開講し今年度を持って終わりとなる科目です。開講後、医療保育士として小児病棟や病児保育室に就職した卒業生もおります。今年度は、両科目共に、卒業生が活躍している様子を中心に現場の話しを多くし、また病児の理解や病児にあったあそびを実践・体験的に学べるようにしました。例年、医療保育概論では、小児がんの子どもの理解を深めるために白血病の子どもが主人公のドラマを見てアセスメントを進めることしていましたが、今年度はさらに、病児保育演習で「生と死」をじっくりと考

察できるように子どもの突然の病気と死、に関する映画を鑑賞し、シェアリングをしました。結果、命の尊さとそれを護る保育者の役割について考えるきっかけとなりました。

## 授業科目名【看護臨床実習】

3年前期の「基礎看護技術」で実技試験を入れた結果、病院実習での実技は例年になくスムーズに行えました。昨年度作成したワッペンが院内で定着し、看護学生ではなく養護教諭を目指している学生であることの認知が進み、実習が有意義に行えるようになりました。今年度の3年生は、不安が強く、課題に対しても時間外に指導を求めてくることが多く、現在も実習記録のアセスメントの指導が連日入ってきています。看護過程は、保健室においては養護診断するうえで重要な基礎的技術であるため、十分身につけて欲しいと思っているため時間を惜しまず学生の質問に対応しています。

## 授業科目名【女性と健康】

1年生と2年生に同一科目を担当しましたが、関心の持ち方が異なり、基本的には学生達の興味関心に即した内容になるように工夫しながら講義しました。本科目で心がけたことは、「自分自身を大切にすること」です。女性であること、将来子どもを産み育てる身体であること、このことは、受講生全員に伝わったとレポートから読み取ることができました。授業では、ただ講義するだけでなく、必ず実践的なことを毎回組み込みました。例えば、女性の皮膚についての回では、洗顔料の泡立ての仕方を実践する、等受講生達は、毎回の実践コーナーを楽しみにしてくれていました。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本小児救急医学会		2000年4月~現在に至る
日本小児保健学会		2000年4月~現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月~現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月~現在に至る
日本学校保健学会		2009年4月~現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月~現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月~現在に至る

2 0 1 6 年度	研	究業	績 等 に 関	する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概    要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				
				教育研究業績総数 (2017.3.6現在)著書3 (単0 共3)学術論文3 (単1 共2)学会発表11 (単1 共10)その他8 (単0 共8)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
(1) 共 同 研 究							
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)				
だいすき にっぽん―子どもたちに伝えたい 「食」と「あそび」―	子どもゆめ基金	○谷川弘治 稲木光晴 青木るみ子 藤田稔子 林田正雄	237,000				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
(2)	個 人 研 究							
研 究 題 目	交付団体 交付決定額 備 考							

社 会	に	お	け	る	活	動	等			
団体・委員会等の名称 (内 容)		役	職名	等			任 期	間	期 等	
北九州市開発審査会	委員				·	2013年	三11月~	現在に	至る	

# 委員会

倫理委員会 副委員長 2010年4月1日~2017年3月31日 就職委員会 副委員長 2016年4月1日~2017年3月31日 教育経費予算配分委員会 2016年4月1日~2017年3月31日 職員研修懇談会委員 2016年4月1日~2017年3月31日

- S. D. C 顧問
- アドバイザー関連 保育科1年ゼミ アドバイザー 保育科2年ゼミ アドバイザー
- 学生募集関連

併設校、高大連携講座

2016年6月13日

・附属シオン山幼稚園

運動会救護担当 2016年10月10日

・地域貢献

井堀市民センター「いきいきチャレンジキッズ」の開催

2016年12月17日 2016年11月26日

「音楽会」の開催

「だいすき にっぽん」 2016年6月25日

8月24日

11月19日

12月17日

2017年2月25日

氏名 篠木 賢一 職名 講師	学位 修士(体育学 鹿屋体育大学 2001年)
----------------	-------------------------

	研	究	分	野	研究内容のキーワード
体育方法学					幼児の運動能力 バレーボールの戦術

## 研 究 課 題

子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

# 担 当 授 業 科 目

こどもの運動かそび、スポーツ科学実技、スポーツ・健康科学概論、子ども学基礎演習、キャリア講座Ⅲ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

# 授業科目名【 子どもの運動あそび 】

運動発達について理解するために、子どもたちの運動あそびを実際に行いながら、運動の発達や展開を 説明した。

# 授業科目名【 スポーツ・健康科学概論 】

現代社会における健康問題や生活習慣病などを理解してもらうために、学生の興味のあるダイエットを中心に、健康・体力を増進するための運動プログラム等の説明を行った。

# 授業科目名【 こども学基礎演習 】

2年間の保育科での学習の流れが把握でき、自身の目標を立てることができるように、グループワークや 自主的活動を多く取り入れた。

# 授業科目名【 スポーツ科学実技 】

年度当初はコミュニケーションを多くとれるように集団競技を行い、運動の楽しさを味わえるように ルールの理解やスキル向上のためのトレーニング等を取り入れた。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
九州・体育スポーツ学会		1997年4月~現在に至る
日本保育学会		2012年4月~現在に至る
日本バレーボール学会		2013年12月~現在に至る

2 0 1 6 年 度	研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書)											
(学術論文)											
(1 k11 Hill) ~ /											
(翻訳)											
(冷久水土)											
(学会発表)											

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)						
	(1)	共 同 矿	开 究			
研 究 題	1	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)		

	外	部資金	(科学	研究費補明	力金等)	導入状	況 (2	*学共同研究費を含	む)		
				(2)	個	人	研	究			
研	究	題	B		交	付団体		交付決定額 (単位:円)	備	İ	考

社 会	にお	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称	犯	職名	垒			任		期
(内 容)	仅	相联 一口	4			期	間	等
九州大学バレーボール連盟	競技委員				2003年	₣4月~	2013年3	月まで
	女子強化	委員			2006年	₣4月~	現在に至る	3
附属シオン山幼稚園	講師				2013 년	₣6月~		
「運動あそび」						毎月	1回程度	
第17回西日本大学バレーボール5学	コーチ				2016年	₣12月2	23 日~	
連女子選抜対抗戦						12月	24 日	
九州大学バレーボール連盟	競技委員語	副委員長			2013年	₣4月~	現在に至る	3
第 11 回北九州市精神障害者バレーボ	競技委員				2016年	₹9月		
ール大会								

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

学生委員 副委員長 2012年4月〜現在に至る 幼稚園運営委員会 2012年4月〜現在に至る バレーボール部 監督

### 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9(2016))

八石	氏名	東彩子	職名講師	学位 修士 (宣教学) (フラー神学校 2006年
----	----	-----	------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
①「神秘劇」の起源と、現代イギリスにおける宣教	宣教、中世、礼拝、芸術、表現
②キリスト教音楽を用いたエクササイズ「SARA」	宣教、伝道、トータルヘルス
(Stretch And Relaxation, Agape)の開発と展開	

#### 研 宪 課 題

①クリスマス礼拝の企画・演出を深めるため「宗教」と「演劇」の両者を融合したテーマに辿り着き、「神秘劇」の研究を昨年スタートさせた。今年度は、この神秘劇の復興の現状についてイギリスのヨークで視察を行った。神秘劇が、現代イギリスにおける宣教にどのような影響を与え続けているか、宣教学の視点から論文にまとめる予定である。

また、この演劇という手法による宣教が、キリスト教女子教育やキリスト教保育において、どのような効果をもつか、研究を始める予定である。

②Pilates を土台とした、キリスト教音楽に合わせて行うエクササイズ「SARA」の展開については、一昨年、昨年に引き続き、シニアサマーカレッジにて高齢者むけ、また、シオン山幼稚園「保護者講演会」にて保護者むけのプログラムをしたが、論文にまとめるには至っていない。

### 担 当 授 業 科 目

### <保育>

キリスト教学 I (1年前期)

キリスト教学Ⅱ (2年後期)

キリスト教保育(1年後期)

保育総合表現(2年後期)

こども学基礎演習(1年通年)

こども学特別演習(2年通年)

<生活創造>

キリスト教学 I (1年前期)

キリスト教学Ⅱ (2年後期)

<両学科共通>

人間と文化 I (1年前期)

人間と文化Ⅱ (2年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【 キリスト教学Ⅰ・Ⅱ 】

アクティブラーニング型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・ 絵本読みなどに参加した。また、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。 今年初めての試みとしては、毎回のチャペルの応答カードをBible Note に添付し、通年でチャペルの振り 返りが行えるようにしたことである。

#### 授業科目名【 キリスト教保育 】

今年度もキリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業をおこなった。 「世界の子ども」の発表では、世界で恵まれない環境に置かれている子どもたちについて調べ、グループ ごとに発表することにより、世界のこどもたちの現状の理解を深め、自分たちに何ができるのかを 探る機会となった。この学びを生かしたいとの学生の声を踏まえ、来年度からはゼミで 「世界のこどもたち」をテーマに活動する予定である。

## 授業科目名【 保育総合表現 】

今年度より後期30コマの科目となり、スケジュールの問題をクリアすることが課題であったが、 学期末に北九州芸術劇場小ホールにて表現の発表をすることを目標とし、テーマ決めからシナリオ作成、 上演までの全てを学生自らが企画し実施した。学年をランダムに2つのグループにわけ、各グループに 監督をおき、リーダーシップが発揮できるようサポートした。普段交流のない学生の間に関係性が 構築できたことも今年の成果といえよう。今年もチームワークに細心の注意を払い、学年皆で監督を 支えて行けるシステム創りを工夫した。

## 授業科目名【 人間と文化 I 】

今年度はじめて担当した科目であったが、体験的・実践的な授業を目指し、世界の神話を調べることによって、その源流となっている思想に触れ、様々な文化の違いを知るきっかけとなる学びとなった。主な文化の冠婚葬祭についての個人での調査も学生たちは大変意欲的であり、それぞれ知らなかった異文化の慣習に興味をもち、最後には異文化のティーセレモニーを実際に行ってみる事によって体験的な学習ができた。今後は、これらの内容を深める課題を出すなどで授業を発展させていきたい。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年9月~現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月~現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年9月~現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年4月~

2 0 1 6 年度	研 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑ぎ 会等の			概		要	
(著書)												
(学術論文)												
(翻張尺)												
(学会発表)												

外部資金(科学研究費補	助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>-</u> c)
(1)	共 同 石	研 究	
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科	科学研究費補助金等)導入状況	(本学共同研究費を含む	·)
	(2) 個 人 斫	开 究	
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会	に お け る 活	動等
団体・委員会等の名称	役職名等	任 期
(内     容)       日本バプテスト小倉キリスト教会	教会学校青年科担当教師	期 間 等 2016年4月1日~ 現在
シオン山幼稚園保護者会講演会	保護者講演会講師	2016年6月13日
日吉台キリスト教会特別伝道集会	特別伝道集会講師	2016年6月19日
日本バプテスト連盟壮年大会委員 ワールド・ビジョン・ジャパン	「女性プログラム」責任者 会員・チャイルドスポンサー	2016年8月20日 2010年7月~現在
東京YWCA	会員	2010年7月~現在

学内における活動	等(役職、委員、学生支援など)
西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園園長	2016年4月1日~現在
大学短期大学部宗教主事補	2014年4月1日~現在(2013年度を除く)
キリスト教センター運営委員	2010年4月1日~現在(2013年度を除く)
キリスト教教育研究会委員	2010年4月1日~現在(2013年度を除く)
大学宗教委員会副委員長	2010年4月1日~現在(2013年度を除く)
クリスマス礼拝総監督	2010年4月1日~現在(2013年度を除く)
西南女学院月報巻頭言執筆	2010年4月1日~現在(2013年度を除く)
新任オリエンテーション聖書学課講師・奨励	2016年4月4日
保育科同窓会「要の会」礼拝司式	2016年7月18日
シニアサマーカレッジ講師	2016年8月26日
シオン山幼稚園敬老礼拝奨励	2016年9月16日
キリスト教センター活動	
「Seijo Bible Cafe」主催	2016年4月~現在
西南女学院大学・大学短期大学部	
ハンドベルクワイヤー副顧問	2016年4月~現在
大学・大学短期大学部チャペル奨励	2016年4月20日
	2016年4月21日
	2016年11月30日
地域貢献懇談会礼拝司式	2017年3月16日

### 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9(2016))

氏名 植村 和彦 曜村	職名 講師	学位 修士 (教育学)	(福岡教育大学 2005年)
-------------	-------	-------------	----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	歌曲伴奏、室内楽、アンサンブル、幼児の音楽表現

#### 研 宪 課 題

- 1. 主に弦楽器、管楽器との共演において、作品の背景や演奏編成を踏まえたピアノ演奏の在り方や役割について実践的に研究し、ピアノによる様々な演奏表現の可能性について探求する。
- 2. 声楽(独唱)や合唱との共演において、作品中での歌詞と音楽の関係性や各声部とピアニストの役割を分析しつつ、歌唱表現や詩的内容と一体となったピアノ演奏表現について実践的に探究する。
- 3. 保育現場において求められる保育者のピアノ実技力を踏まえた演奏の指導法について検討する。

### 担当授業科目

こどものためのピアノ I (1年前期)(保育科)

こどものためのピアノⅡ (1年後期)(保育科)

ピアノ奏法 c (2 年前期) (保育科)

ピアノ奏法 d (2 年後期) (保育科)

保育総合表現 (2年後期)(保育科)

こども学基礎演習 (1年通年)(保育科)

キャリア講座Ⅲ (2年通年)(保育科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

#### 授業科目名【 こどものためのピアノ [ ]

1クラスに対して6名の教員体制の中で、各グループの所属学生については各自のピアノの経験値や能力に 大きな格差が生じないように配慮して編成を行った上で、特に経験の浅い初心者の心的なケアに配慮した。教 材についてはバイエルピアノ教則本および数曲のマーチを基盤とし、初心者から経験者まで各自の進度に合わ せた選曲と演奏面での助言が出来る体制で授業を行った。

## 授業科目名【 こどものためのピアノⅡ 】

前期の「こどものためのピアノI」の延長線上にある科目であるため、担当教員と所属学生の編成については変更せず、各自の前期終了時の課題曲の進度や単位修得状況に応じた個別指導が出来る体制を維持した。教材については身近な幼児唱歌を基盤とし、弾き歌いの実践力を身につけていくことを重視しながらも、前期中にバイエルピアノ教則本を未修了の学生に対しては補足を行い、基礎的な実技力の向上を支援した。

### 授業科目名【 ピアノ奏法 c 】

新たにグループ編成をし、専任教員は固定メンバーを担当せず週替わりによるローテーション制により、受講者全員の学習状況を確認できる体制をとった。また、担当教員変更に伴い、1年次終了時点での各自の課題曲の進度や単位修得状況等の情報を確実に引き継いだ上で、最終学年を迎えての希望進路を踏まえたピアノの個別指導が出来る体制をとった。教材については季節や行事に合わせた子どもの歌や幼児さんびか、マーチを基盤とし、並行して実習先でのピアノ演奏へ向けた準備の支援も個別に行った。

### 授業科目名【 ピアノ奏法d 】

特に全受講者の2年次前期までのピアノ奏法関連単位修得状況に配慮し、不足がある学生については保育士 資格・幼稚園教諭免許取得要件単位を当科目にて確実に修得出来るような支援体制をとった。学生個人の実習 先や就職の希望等に合わせて各教員が幅広く教材を選定し、現場での選曲や演奏時の簡易伴奏付けなど応用力 が身につけられるよう柔軟な指導を展開した。「ピアノ奏法c」より導入したローテーション制も継続した。

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本保育学会		2011 年~現在に至る
九州公私立大学音楽学会		2011 年~現在に至る

2016年度	研 研	究	業	績	等	に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		テスは の年月			発表雑詞 学会等の			概		要	
(著書)												
(学術論文)												
(翻訳)												
(学会発表)												

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)				
	(1) 共 同 石	研 究		
研 究 題 目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)	

外部資金	(科学研究費補助	力金等) 導入状況	(本学共同研究費を含む	<u>s)</u>
	(2)	個 人 可	开 究	
研 究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考

社会における活動等   団体・委員会等の名称 (内容)   役職名等   任期									1
(内 容) 後職名等 期間等  (所属団体等) ・西南シャントゥール ・西日本ポペラ協会 ・修政館月―合唱団 ・グアニスト ・修政館月―合唱団 ・グアニスト ・ブアニスト ・ボール ・ブアニスト ・ブロー ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブアニスト ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブアニスト ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー ・ブロー	社 会	にお	け	る	活	動	等		
<ul> <li>(内 容)</li> <li>・ 西南トネイラ協会</li> <li>・ 佐谷館館月一合唱団</li> <li>・ クロイタル等)</li> <li>・ 俊館館月一合唱団</li> <li>・ クロイタル等)</li> <li>・ 『中嶋克彦と加未徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・ 『第35回くにたちコンサート』出演</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『加未徹 バリトンリサイタル 2016 に加未徹 バリトンリサイタル 2016 年8月20日 共演: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール・</li> <li>・ 『加未徹 バリトンリサイタル 2016 に加未徹 バリトンリサイタル 2016 年8月20日 共演: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール・</li> <li>・ 『加未徹 バリトンリサイタル 2016 に加未徹 バリトンリサイタル 2016 年8月25日 共演: 加未徹 (バリトン) / 会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 回立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・ 『加未徹 バリトンリサイタル 2016 ビアニスト</li> <li>・ 『加未徹 バリトンリサイタル 2016 ビアニスト</li> <li>・ 『加未徹 (バリトン) / 会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加未徹リサイタル実行委員会</li> <li>・ 『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』 ビアニスト</li> <li>・ 『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』 ビアニスト</li> <li>・ 『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』 ビアニスト</li> <li>2016 年9月17日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メソプラノ) 会場: 諫早文化</li> </ul>	団体・委員会等の名称	犯	<b>融</b> 夕	竺			任		期
<ul> <li>・西南シャントゥール</li> <li>・西日本オペラ協会</li> <li>・修館館用一合唱団</li> <li>・久留米音協合唱団</li> <li>・プニスト</li> <li>・少の留来音協合唱団</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『中嶋克彦&amp;加耒徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・『正上田貴子 メゾソブラノリサイタル</li> <li>・『第35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『かート』出演</li> <li>・『第35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>・ピアニスト</li> <li>・ピアニスト</li> <li>2006 年2 月~現在に至る</li> <li>2015 年9 月~現在に至る</li> <li>2016 年7 月 20 日 共演: 中嶋克彦 (テノール)、加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール</li> <li>・『第35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・ピアニスト</li> <li>2016 年8 月 20 日 共演: 國友あや (ソブラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016 年8 月 25 日 共演: 加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会</li> <li>・『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016 年9 月 17 日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀寺子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化</li> </ul>	(内 容)	仅	400 /口	4			期	間	等
<ul> <li>・ 西日本オペラ協会</li> <li>・ 修猷館月一合唱団</li> <li>・ 人留米音協合唱団</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『リサイタル等)</li> <li>・ 『中嶋克彦&amp;加来徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>2016年7月20日 共演:中嶋克彦 (テノール)、加未徹 (バリトン) /会場:福岡市男女共同 参画推進センター アミカス ホール</li> <li>・ 『上田貴子 メゾソブラノリサイタル</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『第35回くにたちコンサート』出演</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『第35回くにたちコンサート』出演</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『加来徹 バリトンリサイタル 2016 に福岡」出演</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『加来徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加来徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加来徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加来徹リサイタル実行委員会</li> <li>・ 『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>・ 『フ・ボルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>・ 『アニスト</li> <li>2016年9月17日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メソソプラノ) /会場:練早文化</li> </ul>	(所属団体等)								
・修御飲館月一合唱団 ・久留米音協合唱団  ピアニスト  (リサイタル等) ・『中嶋克彦&加未徹ジョイントコン サート』出演  ピアニスト  2016 年7月 20 日 共演:中嶋克彦 (テノール)、加未徹 (バリトン) /会場:福岡市男女共同 参画推進センター アミカス ホール  とでアニスト  2016 年8月 12 日 共演:上田貴子 (メゾソブラノ) /会場 諸岡市健康づくりセンター あいれふホール  ・『第35 回くにたちコンサート』出演  ピアニスト  2016 年8月 20 日 共演: 國友あや (ソブラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ピアニスト  2016 年8月 25 日 共演:加未徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加未徹 (リアン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加未徹 (リアン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加未徹 (リアン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれるホール/主催:加未徹 (パリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれるホール/主催:加来徹 (パリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれるホール/主催:加来徹 (パリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれるホール/主催:加来徹 (パリトン) /会場:福岡市健康づくりをファール (アースト) / 会場:福岡市健康では、100円では、1							-		
<ul> <li>・久留米音協合唱団</li> <li>ピアニスト</li> <li>2015年9月へ現在に至る</li> <li>(リサイタル等)</li> <li>・『中嶋克彦&amp;加来徹ジョイントコン サート』出演</li> <li>・『上田貴子 メブソブラノリサイタル</li> <li>・『上田貴子 メブソブラノリサイタル</li> <li>Vol. 4』出演</li> <li>・『第35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『第35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・『加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加東徹 (バリトン) /会場: 本福 岡市健康では、100円 (ローロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー</li></ul>							-		
(リサイタル等) ・『中嶋克彦&加未徹ジョイントコン サート』出演 ・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル Vol. 4』出演 ・『第 35 回くにたちコンサート』出演 ・『第 35 回くにたちコンサート』出演 ・『加未徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演 ・『加未徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演 ・『アニスト  2016 年8月20日 共演: 國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部 ・『加未徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演 ・『アニスト  2016 年8月25日 共演: 加末徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加末徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加末徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加未徹リサイタル実行委員会 ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』 出演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化							-		
<ul> <li>・『中嶋克彦&amp;加耒徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル</li> <li>Vol. 4』出演</li> <li>・『第 35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『カ・ポルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>ピアニスト</li> <li>とアニスト</li> <li>2016年8月12日 共演:上田貴子 (メゾソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016年8月20日 共演:國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016年8月25日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市伊藤 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりとフィール・「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	· 久留米音協合唱団 	ピアニス				2015 年	- 9 月~5	紀在に全	25 
<ul> <li>・『中嶋克彦&amp;加耒徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル</li> <li>Vol. 4』出演</li> <li>・『第 35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『カ・ポルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>ピアニスト</li> <li>とアニスト</li> <li>2016年8月12日 共演:上田貴子 (メゾソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016年8月20日 共演:國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016年8月25日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市伊藤 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加非徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりとフィール・「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>									
<ul> <li>・『中嶋克彦&amp;加耒徹ジョイントコンサート』出演</li> <li>・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル</li> <li>Vol. 4』出演</li> <li>・『第 35 回くにたちコンサート』出演</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>・『カ・ポルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>ビアニスト</li> <li>ビアニスト</li> <li>2016年8月20日 共演:上田貴子 (メゾソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール 2016年8月20日 共演:國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部</li> <li>・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演</li> <li>・『アニスト</li> <li>2016年8月25日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会</li> <li>・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』</li> <li>ビアニスト</li> <li>2016年9月17日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化</li> </ul>	(11 井 / 夕 1/空)								
サート』出演  ・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル  Vol. 4』出演  ・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  ・『アニスト  とアニスト  2016 年8 月 12 日  共演: 上田貴子 (メゾソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  ・『アニスト  2016 年8 月 25 日  共演: 加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年9 月 17 日  共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化		ピアニス	<b>k</b>			2016 年	三7 日 20	Ħ	
・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル Vol. 4』出演								•	ール)加耒衛
・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル Vol. 4』出演  ・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  ・『カ・ボルタ 葡萄の房コンサート』 出演  ・『アニスト  参画推進センター アミカス ホール  2016 年8月12 日 共演: 上田貴子 (メゾソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール  2016 年8月20 日 共演: 國友あや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  2016 年8月25 日 共演: 加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ボルタ 葡萄の房コンサート』  世アニスト  2016 年9月17 日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化									
Vol. 4』出演  2016 年 8 月 12 日 共演:上田貴子 (メゾソプラノ) /会 場:福岡市健康づくりセンター あい れふホール  2016 年 8 月 20 日 共演:國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふ ホール/主催:国立音楽大学福岡県同 調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in福岡』出演  ピアニスト  2016 年 8 月 25 日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (パリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年 9 月 17 日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化									
共演:上田貴子 (メゾソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール  2016年8月20日 共演:國友あや (ソプラノ) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  ピアニスト  2016年8月25日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹 (バリトン) /会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016年9月17日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化	・『上田貴子 メゾソプラノリサイタル	ピアニス	<b>\</b>						
#: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール  2016 年8月20日  共演: 國友かや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  2016 年8月25日  共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年9月17日  共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化	Vol. 4』出演					2016年	8月12	日	
・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ピアニスト  2016 年 8 月 20 日 共演: 國友あや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016  in 福岡』出演  ピアニスト  2016 年 8 月 25 日 共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年 9 月 17 日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化						共演:	上田貴子	- (メゾ	ソプラノ)/会
・『第 35 回くにたちコンサート』出演  ピアニスト  2016 年 8 月 20 日  共演: 國友あや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  ・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016  in 福岡』出演  ピアニスト  2016 年 8 月 25 日  共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年 9 月 17 日  共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化						場:福	岡市健康	きづくり	センター あい
共演: 國友あや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  セアニスト  in 福岡』出演  2016 年 8 月 25 日  共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年 9 月 17 日  共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化						れふホ	ール		
共演: 國友あや (ソプラノ) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  セアニスト  in 福岡』出演  2016 年 8 月 25 日  共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016 年 9 月 17 日  共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化		. 0						_	
福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:国立音楽大学福岡県同調会福岡支部  2016年8月25日 共演:加耒徹(バリトン)/会場:福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』  ピアニスト  2016年9月17日 共演:牧野由美(ソプラノ)、古賀玲子(メゾソプラノ)/会場:諫早文化	・  第 35 回くにたちコンサート   出演 	ピアニス							三 ) / / / / / / / / / / / / / / / / / /
・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  2016 年 8 月 25 日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福 岡市健康づくりセンター あいれふホ ール/主催:加耒徹リサイタル実行委 員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』 出演  2016 年 9 月 17 日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲 子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化									
・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 in 福岡』出演  2016 年 8 月 25 日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福 岡市健康づくりセンター あいれふホ ール/主催:加耒徹リサイタル実行委 員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』 出演  2016 年 9 月 17 日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲 子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化									
・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016 ピアニスト 2016 年 8 月 25 日 共演:加耒徹 (バリトン) /会場:福 岡市健康づくりセンター あいれふホ ール/主催:加耒徹リサイタル実行委 員会 2016 年 9 月 17 日 共演:牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲 子 (メゾソプラノ) /会場:諫早文化								四二日:	米八子個岡州的
in 福岡』出演 共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会 2016 年 9 月 17 日						おむち日	HHV.c.i		
in 福岡』出演 共演: 加耒徹 (バリトン) /会場: 福岡市健康づくりセンター あいれふホール/主催: 加耒徹リサイタル実行委員会 2016 年 9 月 17 日 出演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化	・『加耒徹 バリトンリサイタル 2016	ピアニス	<b>,</b>			2016年	■8月25	日	
-ル/主催:加耒徹リサイタル実行委員会  ・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』 出演  2016 年 9 月 17 日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化	in 福岡』出演								ン) /会場 : 福
・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』       ピアニスト       2016 年 9 月 17 日         出演       共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化						岡市健	康づくり	センタ	ーあいれふホ
・『ラ・ポルタ 葡萄の房コンサート』 出演 出演 とアニスト 2016 年 9 月 17 日 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲 子 (メゾソプラノ) /会場: 諫早文化						ール/	主催:加	未徹り	サイタル実行委
世演 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) / 会場: 諫早文化						員会			
世演 共演: 牧野由美 (ソプラノ)、古賀玲子 (メゾソプラノ) / 会場: 諫早文化		0.7				_	🗕	_	
子(メゾソプラノ)/会場:諫早文化		ピアニス							0 \\ 1. <del>-1.0</del> \
会館 中ホール/主催 : La Porta ラ・						. ,			
云暗 ヤホールノ 主催・La Foi ta ノ・ ポルタ								工作.	La I UI ta / '
						.,,,,,			

・『松永かおる ソプラノリサイタル	ピアニスト	2016年9月18日
~うたの夕べ~ Vol. 4』出演		共演: 松永かおる (ソプラノ) /会場:
		アルカス SASEBO 中ホール/主催:ピ
		ィノ・エテルノ音楽教室
		17 一//10/日来秋王
・『森野由み ソプラノリサイタル ~	ピアニスト	2016年12月3日
詞心~』出演		共演: 森野由み (ソプラノ)、杉野貴
		恵子(ヴィオラ)、村岡慈子(打楽器)
		/ 会場:戸畑市民会館 中ホール/主
		催:森野由みさんを支援する会
		惟:林野田からんを又抜りる云
   ・『第 70 回全日本学生音楽コンクール	ピアニスト	2017年1月8日
北九州大会受賞記念演奏会~若き演		共演: 徳永愛里香 (フルート) / 会場:
奏家たちのNew Year Concert~』出演		北九州市立響ホール/主催:毎日新
奏象に列列ew rear concert 』 国旗		間社
(合唱団関連演奏会)		
・『福岡県合唱連盟北九州支部「第70	ピアニスト	2016年6月5日
回記念北九州合唱祭」』出演		共演:女声合同合唱団(指揮:竹田享
		司) /会場:北九州市立 響ホール/
		主催:福岡県合唱連盟北九州支部、朝
		日新聞社
		H // [[41] ] T
・『福岡県合唱連盟福岡支部「創立 70	ピアニスト	2016年6月12日
周年記念合唱祭」』出演		共演:久留米音協合唱団(指揮:森時
		達行) /会場:石橋文化ホール/主
		催:福岡県合唱連盟福岡支部、朝日新
		聞社
・『ロビーコンサート』出演	ピアニスト	2016年7月9日
		共演:修猷館月一合唱団(指揮:堀ミ
		ナ子) /会場:福岡山王病院 エント
		ランスホール/主催:福岡山王病院
・『日本・スウェーデン親善「合唱の	ピアニスト	2016年7月23日
タベ」』出演		共演:久留米音協合唱団(指揮:森時
		達行) /会場:久留米シティプラザ
		ザ・グランドホール/主催: 久留米信
		愛女学院中学校・高等学校合唱部
	1.0-7 1	0010 / 10   11   1
・『久留米音協合唱団「第 47 回定期演	ピアニスト	2016年12月11日
奏会」』出演		共演:久留米音協合唱団(指揮:森時
		達行、堤真宏)/会場: 久留米シティ
		プラザ ザ・グランドホール
- 『電売力学院十学 - 同帰畑十学如人	レ゜アーフト	2016年12月12日
・『西南女学院大学・同短期大学部合	レノーヘド	2016年12月18日
唱部クール・ベルフィーユ「第37回		共演:クール・ベルフィーユ(指揮:
定期演奏会」〜熊本地震義援金募金コ		竹田享司) / 会場:北九州市立戸畑市
ンサート~』出演		民会館 中ホール

・『西南学院大学グリークラブ「第60 ピアニスト 2016年12月23日 回定期演奏会」』出演 共演:西南学院大学グリークラブ(指 揮:泉昂史郎) /会場:西南コミュニ ティセンター ホール/主催:西南学 院大学グリークラブ ・『ふじの郷クリスマス 2016 久留米音 | ピアニスト 2016年12月25日 協合唱団コンサート』出演 共演: 久留米音協合唱団(指揮: 森時 達行) /会場: 高齢者生活支援ハウス ふじの郷/主催:社会福祉法人 ひび きの杜 (訪問演奏等) ・文化庁主催『平成28年度 文化芸術 ピアニスト 2016年6月14日 による子供の育成事業(芸術家の派遣 共演:中西弾(ヴァイオリン)/会場: 事業)』出演 西条市立国安小学校体育館 ・『デイサービスららら「コンサート」』 ピアニスト 2016年12月9日 共演: 永渕邦佳 (ソプラノ) /会場: 出演 デイサービスららら/主催:デイサー ビスららら ・『のばらコンサート』出演 ピアニスト 2017年2月21日 共演: 永渕邦佳 (ソプラノ)、中西弾 (ヴァイオリン) /会場:エミール保 育園/主催:エミール保育園 •『保育園訪問演奏』参加 ピアニスト 2017年3月2日 共演:中西弾(ヴァイオリン)/会場: 西条市立国安幼稚園ホール/主催:西 条市立国安幼稚園 (西南女学院大学・大学短期大学部ハ ンドベルクワイヤー関連演奏会) ・『日本ハンドベル連盟九州支部 第21 指揮者 2016年9月19日 回九州ハンドベルフェスティバル in 共演:西南女学院大学·大学短期大学 唐津玄海』出演(指揮) 部ハンドベルクワイヤー/会場:佐賀 県玄海町町民会館文化ホール/主 催: NPO法人 日本ハンドベル連盟 九州支部 ・『特別養護老人ホーム 宏和苑「訪問」指揮者 2016年10月23日 共演:西南女学院大学·大学短期大学 コンサート」』出演(指揮) 部ハンドベルクワイヤー/会場:特別 養護老人ホーム 宏和苑 地域・交流ス ペース/主催:特別養護老人ホーム 宏和苑

・『リバーウォーク北九州 クリスマス|指揮者 2016年11月3日 ツリー点灯式』出演(指揮) 共演:西南女学院大学·大学短期大学 部ハンドベルクワイヤー/会場:リバ ーウォーク北九州/主催:リバーウォ ーク北九州 『小倉ロータリークラブ「クリスマー」 指揮者 2016年12月15日 ス例会」』出演(指揮) 共演:西南女学院大学·大学短期大学 部ハンドベルクワイヤー/会場:リー ガロイヤルホテル リーガトップ/主 催:小倉ロータリークラブ ・『西南女学院大学・大学短期大学部 指揮者・ピアニスト 2016年12月17日 ハンドベルクワイヤー「第33回定期 共演:西南女学院大学·大学短期大学 演奏会」』出演(指揮・ピアノ) 部ハンドベルクワイヤー/会場:西南 女学院大学 マロリーホール/主 催:西南女学院大学·大学短期大学部 ハンドベルクワイヤー ・『ケアハウス好日苑 クリスマス会』 指揮者 2016年12月24日 出演(指揮) 共演:西南女学院大学・大学短期大学 部ハンドベルクワイヤー/会場:ケア ハウス 好日苑/主催:社会福祉法人 春秋会 ・『北九州復興教会 クリスマスイブ礼 | 指揮者 2016年12月24日 共演:西南女学院大学·大学短期大学 拝』出演(指揮) 部ハンドベルクワイヤー/会場:北九 州復興教会/主催:日本基督教団 北 九州復興教会

#### 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

- ・公開講座委員会 副委員長(2016年4月1日~現在に至る)
- ・学生個人情報保護委員会 委員 (2016年4月1日~現在に至る)
- ・キャンパス・ハラスメント相談員(2016年4月1日~現在に至る)
- ・西南女学院大学キリスト教センター 音楽ディレクター (2016年4月1日~現在に至る)
- ・後援会学校委員 学年部(2016年4月1日~現在に至る)
- 「2016年度入学式」奏楽・指揮担当(2016年4月5日)
- ・「クリスマス礼拝」音楽監督兼奏楽・指揮担当(2016年12月15日)
- ・西南女学院大学チャペルアワー 奏楽担当 (2016年度 毎週木曜日 2 限目)
- ・西南女学院大学短期大学部チャペルアワー 奏楽担当 (2016年度 毎週水曜日2限目)
- ・西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイヤー 顧問(2016年4月1日~現在に至る)
- ・西南女学院大学・同短期大学部合唱部「クール・ベルフィーユ」 顧問(2016年4月1日~現在に至る)
- · 2017 年度新入生対象「春休みの事前対策ピアノレッスン」 講師 (2016 年 3 月 7 日~3 月 17 日)

## 2016 年度教育研究活動報告用紙(様式9(2016))

氏名 笠 修 彰	職名 講師	学位 修士 (健康福祉学) (西九州大学	2007年)
----------	-------	----------------------	--------

研	究	分	野	研究内容のキーワード
社会福祉学				障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

#### 研 宪 課 題

- ・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究
- ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究
- ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

## 担 当 授 業 科 目

児童家庭福祉(前期)

社会的養護 (前期)

社会的養護内容(後期)

社会福祉 (後期)

相談援助(前期)

保育実習指導 I (通年)

保育実習指導Ⅲ (通年)

キャリア講座Ⅲ (通年)

こども学基礎演習(通年)

#### 授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

### 授業科目名【 社会福祉 社会的養護 】

専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。

### 授業科目名【 相談援助 社会的養護内容 】

具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ 実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主 体的に学習できるよう支援した。

1
1

	学会における活動	
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会	会員	2008年7月
日本看護福祉学会	会員	2013年4月
日本保育学会	会員	2016年9月

2016年度		究	業	績	等	に	関	す	る	事	項 ————
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別		デスは の年月			発表雑誌 学会等の			概		要
(著書) 1.社会福祉士国家試験模 擬問題集 2017	共著	2016.7	7	中步	<b>央法規</b>	出版		向ける ②編 機成 ③担 模 福 (P7 解 経 社 、 解 社 、 解 社 、 の に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	D模擬問集 社団法, 交協会 当部分 問題共近 8,P81,I	現題集。 人日本 <b>5</b> 科目 <b>2</b> 147,) 冊)「現	試験受験者 社会福祉士 「現代社会と は代社会と福
(学術論文) 1.離島地域におけるうつ病高齢者の社会的背景 〜外来診療録を使った後方視調査から〜	共著	定)	3 (予	和哥	吹山大	学紀要		調高考でら健神し②今川③川の場合は、東京のでは、東のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではでは、東京のではではでは、東京のではでは、東京のではではでは、東京のではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは	を者ら対を独建 三 告央い、うるとは、世世 二 告中 は 一	離島地の社会を基場が、猪修り、おきない。これでは、猪ののは、これでは、猪ののは、これでは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、おきないのは、	っ域誘背たて、つ、介宮に経発景調、今て 本路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路、大路
(都清尺)											

2 0 1 6 年度	研研	究 業	績	等 に	関	す	る	事	項	
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月		「、発表雑 表学会等の			概		要	
(学会発表)										

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)							
	(1)	共 同 斫	开究				
研 究	題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)								
	(2)	個 人 斫	开 究					
研 究 題	目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備  考				

社 会	に	お	け	る	活	動	等		
団体・委員会等の名称		役	職名	等			任		期
(内 容)		17	111 石	寸			期	間	等
公益社団法人日本精神保健福祉士協	会員					2008年	₣4月~	現在に3	ES
会									
一般社団法人福岡県精神保健福祉士		理事			2009年6月~現在に至る				
協会									
北九州地区精神保健福祉士協会						2015年	₣4月~	現在に3	<b></b> Eる
公益社団法人日本精神保健福祉士協		代議員			2016年4月~現在に至る				
<b>会</b>									
『保育福祉小六法』(株)みらい	編集	委員				2016年	₣4月~	現在に3	ES

# 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

国際交流委員会 副委員長 2016年4月1日~2017年3月31日 学生募集委員会 委員(進学ガイダンス5回) 2016年4月1日~2017年3月31日 学生個人情報保護委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日 情報システム管理運用委員会 委員 2016年4月1日~2017年3月31日 教員免許状更新講習 講師 2016年8月23日